

平成 25 年度

沖縄県商工労働部雇用政策課委託事業
沖縄振興特別推進交付金活用事業

沖縄型産学官・地域連携グッジョブ事業 沖縄型ジョブシャドウイング事業

実 施 報 告 書

— 平成 25 年度 —



グッジョブおきなわ推進事業局

CONTENTS



Contents

SECTION 1 事業概要

1 本事業の経緯と背景	3
① 沖縄県の雇用状況と課題	3
② 沖縄県におけるキャリア形成支援充実の必要性	5
③ 沖縄型ジョブシャドウイングの説明	5
2 沖縄型ジョブシャドウイング事業の特徴	10
① 本事業の基本的な考え方	10
② 本事業のスキームと協議会の目的	10
3 平成25年度の実績	13
① 組織体制と拠点地区の設置	13
② 本年度の実績	14
③ その他の実績	14

SECTION 2 事業総括

1 前期拠点地区の取組から	21
① 前期拠点地区の本年度における活動結果（総括）	21
② コーディネーターの役割について	24
③ グジョブおきなわ推進事業局の役割について	25
④ 様々な関係者による地域連携の可能性について	25

SECTION 3 平成25年度 拠点地区活動報告

本年度の実施概要（地図）	31
1 沖縄地区	32
2 北中城地区	55
3 与那原地区	71
4 石垣地区	92
5 久米島地区	114

SECTION 4 平成25年度 直接実施区（モデル地区）活動報告

1 興南中学校	139
2 八重山商工高等学校	153
3 沖縄女子短期大学	165

SECTION 5 資料（アンケート集計）

1 児童生徒アンケート集計	183
2 企業アンケート集計	194

SECTION

1

事業概要



1

本事業の経緯と背景

グッジョブおきなわ推進事業局（以下「本事業局」という）は、平成23年度に沖縄県の委託を受け、「沖縄型産学官・地域連携グッジョブ事業」の一部である「沖縄型ジョブシャドウイング事業（以下、「本事業」という）」を開始した。

この事業は事業期間を4年とし、本年が3年目となる。本事業は「産学官・地域家庭の連携体制のもと、沖縄型ジョブシャドウイングをツールとして地域人材の育成について課題を話し合い、また就業意識の向上を目指す」ことを目的に活動を展開してきた。

本事業概要を説明するにあたり、まず沖縄県の雇用の現状について触れるものとする。

1 沖縄県の雇用状況と課題

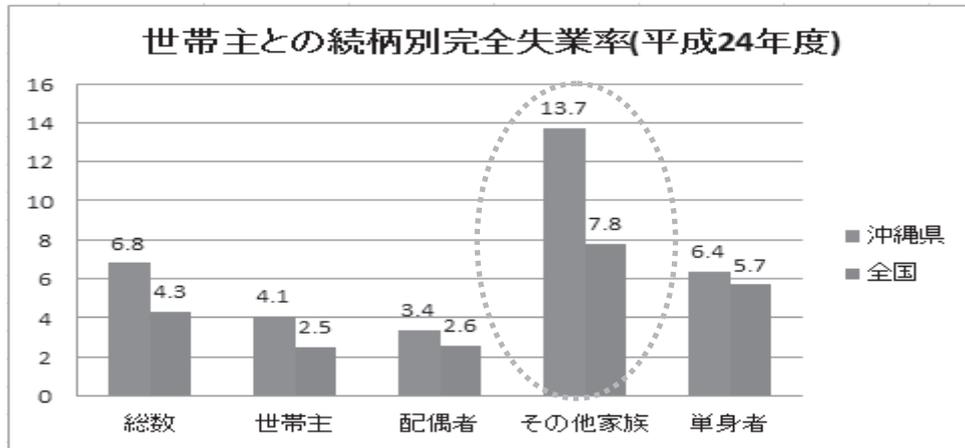
沖縄県における平成26年1月現在の完全失業率は、全国平均3.7%に対し本県は4.8%となっており、昨年よりやや好転してきているものの、依然として全国平均と比較して1.1ポイント高い数字を示している。また完全失業率を年齢別にみると、平成26年1月現在における年齢30歳未満（15～29歳）の若年者完全失業率は、全国平均5.9%に対して、本県は6.5%と依然として高水準で推移している。

沖縄県の労働市場の特色として、求人数の絶対的不足や恒常的な失業率の高さだけでなく、景気の如何に関わらない若年者の自発的な離職率の高さが指摘されている。そのため、「雇用の場の拡大」「求人と求職のミスマッチの減少」「若年者の就業意識の向上」に向けた取組みとして沖縄県産業・雇用拡大県民運動「みんなでグッジョブ運動」（以下、「グッジョブ運動」という）が平成19年から展開されている。

○若年者の雇用問題

前述した通り、沖縄県における若年者の完全失業率は全国平均に対し高い数値を示している（下図参照）。これは、全国と比較して経済的自立や精神的自立が難しいことから就労の機会が遅れ就職できない状況があることと、家庭環境もその要因のひとつと言われている。非正規労働者が増加している現在の雇用情勢において、正規雇用でなければ卒業後も無業であることを自ら選択し、扶養家族として親元に長くとどまる傾向が見られる。このような理由からも沖縄県における若年者の完全失業率は押し上げられており、また、この傾向は日本に限らず多くの先進国で共通の課題となっており、こうした若者のなかにはニート（Not in Education, Employment or Training = NEET、学生と専業主婦を除く就職活動をしていない無業者に属するもの。以下、ニートという。）と呼ばれる社会とのつながりを失った若者も多く含まれている。

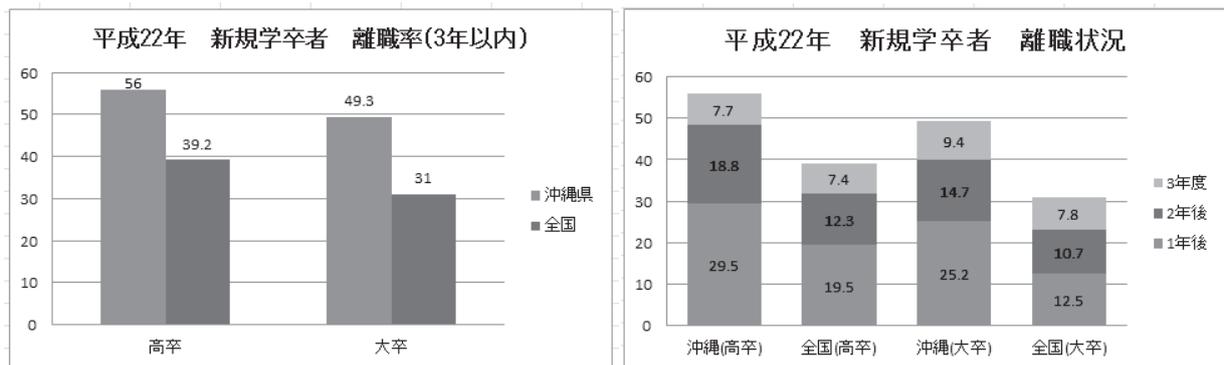
平成24年の沖縄県における世帯主との続柄別完全失業率では「その他の家族」とされる扶養家族にあたる者の完全失業率は全国平均7.8%に対して13.7%と高い。特に15歳～29歳までの割合を見ると、平成24年の調査では全国7.2%となっているが、本県においては11.5%となっており若者を取巻く就業状況の厳しいことが推測される。



<図 世帯主との続柄別 完全失業率>

出展：総務省「労働力調査」および沖縄県企画部統計課「沖縄県 労働力調査」

また平成22年卒業者における新規学卒者の離職状況では、就職3年以内の離職率が高卒で全国39.2%、大卒31.0%となっている。しかし、本県においては高卒が56.0%、大卒が49.3%と全国と比較しても早期離職者が多いことが分かる。



<図 新規学卒者の離職状況>

資料出所：厚生労働省「新規高等学校卒業就職者の都道府県別離職状況」

また、新規学卒者の無業者比率についても、平成24年の調査で、全国では高卒者で4.9%、大卒者で15.5%に対し、本県は高卒者18.2%、大卒者は29.0%と比率がかなり大きくなっている。このことから見ても若年者の早期離職率が高く、就業率の低さの要因として若年者自身が働くことへのネガティブなイメージが払拭できず、仕事に就くことへの意欲の減退が生じているのではないかと推測される。そのために、就業の機会をなくし職場定着が進まない、就職しても社会人生活に馴染めず、すぐに離職をしてしまうという悪循環が繰り返されている現状がある。

かつて、日本は終身雇用制と年功序列賃金といった労働環境が堅固されると信じられ、一定の価値観や人生観の均一性があった。しかし、その常識が崩壊しライフスタイルが多様化したことで、個々の価値観や勤労観にも相違が生じ、生活基準や仕事をするに対する価値観にも変化が出てきている。このような時代背景において若年層の就職がますます厳しくなり、また一方で価値観の多様化した社会で育った若年層に対する雇用する側の見方の変化に伴い、雇用自体が厳しくなっていることも顕著である。また雇用形態においても正規雇用としての採用が減り、学卒後も非正規雇用で就労した場合、その後の年収にまで影響を及ぼしてることが推測される。

こうした不安定な雇用形態が初職となった場合、個々の能力形成の機会が失われるだけでなく、社会の人的資本蓄積の阻害要因ともなり、社会保障の基盤形成に大きな影響を及ぼしかねない。そればかりでなく、若年者の安定した雇用の確保のため、学卒時の就職活動から就職への安定的な移行を確実なものとするための対策を講じる必要性が求められる。

このように、本県では全国と比較しても特に若年層の離職率及び無業者率が高いことを踏まえ、県民一人ひとりが意識し改善するための取組みに積極的に関わっていくこととして、平成19年度からスタートした沖縄県産業・雇用拡大県民運動のグッジョブ運動を、まさに県民総出で課題解決に喫緊の取組みとして展開している。

② 沖縄県におけるキャリア形成支援充実の必要性

急激に変容する社会の仕組みの中で、子ども達は将来に不安を感じ、学校での学習がどのように社会と繋がっているのかなどが見えづらく、学習への意義が見出せずにいる。また、社会の構造的な変化が進行する昨今において、将来の自分の姿を描くことは容易ではない。キャリア教育の必要性については以前から叫ばれているが、実際その視点をどのように実践していくかが課題となっている。また、キャリア教育は学校のみならず取組んでいかなければならないとの声が大きくなり、様々な関係機関でキャリア教育の実践が試みられてきている。国や自治体でも様々な施策をもってキャリア教育を推奨しており、中でも本県における、職場体験実施率は小中高ともに日本一を誇るほどのキャリア教育先進県といえる。しかしながら、若年者の早期離職やニート数などの増加は否めない。今、社会では「何をすべきか」を考え、自ら選択・行動できる人材が求められている。そのためにも、学校生活の中で成長し続ける「自立した社会人」として「生きる力」を身につけ、将来へ向けて就労観や職業観を形成し、課題に立ち向かう能力や、またそれに対し柔軟かつたくましく対応する力を高めることが重要となる。ひいては本県の雇用問題の改善に向けた長期的な展望に立った人材育成の取組みと考える。

③ 沖縄型ジョブシャドウイングの説明

本県の完全失業率は、全国ワースト1位であり、この雇用情勢を全国並みに改善することを目的とし、平成19年度にグッジョブ運動の取組みの中において沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業をスタートさせ、今年で7年目を迎えた。初年度から4年間は沖縄県キャリアセンターにおいてモデル的に事業を展開しながら、平成20年に沖縄型ジョブシャドウイングの普及・拡大を検討するために有識者らを委員とした検討委員会を立ち上げた。米国において活発に行われている「ジョブシャドウイング」のモデル事例を検証しながら、沖縄に即した内容になるよう、沖縄型ジョブシャドウイングとして定義づけを行った。

体験
職場体験・インターンシップ
観察

仕事の経験を積む 3日～5日 実際に体験するため、制限あり 必要あり (企業ごとに要作成) 指導担当者に対し、複数の児童生徒	目 的	仕事に取り組む姿勢を見る 半日～1日程度 “見る” だけなので、職種・役職制限なし 必要なし メンター1人に対し、児童生徒は1～2人
	実施期間	
	対象職種	
	カリキュラム	
	受入担当	

<図 ジョブシャドウイングとは～職場体験・インターンシップとの相違と特徴～>

体験型の手法である職場体験やインターンシップなどでは、その仕事を体感することで、仕事の楽しさや大変さを体得していく学びとなるが、観察型といわれているジョブシャドウイングでは、仕事内容に焦点をあてるのではなく、働く大人を1対1で観察し、「仕事をする大人がどのような思いでこの仕事に取り組んでいるのか」また「この仕事を選んだきっかけや、続ける理由はどこにあるのか」などと、働く人の内面にフォーカスした取り組みとして行っている。併せてメンターとのコミュニケーションを通して、同じ職場内においても、働く人それぞれが感じていることや思いの相違に気づきを得ることも目的としている。

○沖縄型ジョブシャドウイングの流れ

ジョブシャドウイングプログラムは①事前学習、②ジョブシャドウイング実施当日（観察と質問を通して気づきを得る）、③気づきをクラスで共有し学びを深める事後学習、④学んだことを発表しプレゼン力を高める発表会の4つの体系的な構成からなる。

1) 事前学習

事前学習では、①動機づけ、②情報収集能力、③思考力を意識した学習を行う。

動機づけでは、「仕事内容」を見るだけではなく、「職業を選択する理由」や「働く上で大切にしているもの」など仕事に携わる人の内面に着眼させるため、メンターを観察するポイントを重点的に学習を進める。事前学習を補完する目的で、マナー学習や地域の職業人による講話を取入れている。マナー学習は実施のためだけでなく、「挨拶の大切さ」に気づかせる工夫をし、学校生活でも役に立てることを視野に入れて行う。

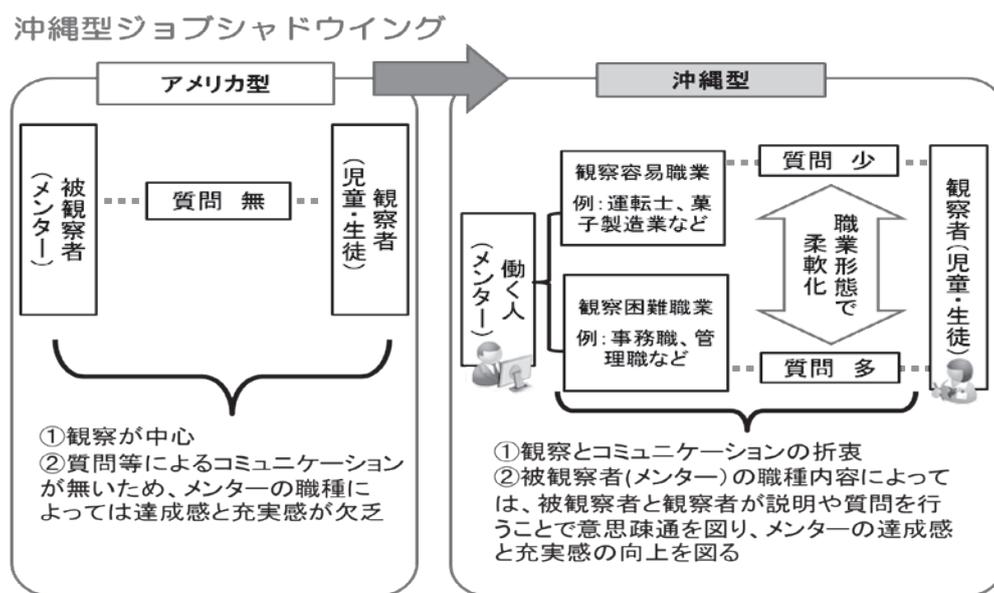
情報収集能力を育む学習としては、インターネットや本、企業パンフレットなどを活用して、受入企業や関連業界についての調べ学習を行う。これは他の体験学習でも垣間見られることだが、児童生徒の興味関心のない業種、職種での実施になる場合にでも、調べ学習を通して視野を広げることで興味関心につなげる。

思考力をつけることを意識した学習としては、事前にメンターによる自己紹介シートを児童生徒に配付している。このシートを基に、調べ学習や職業人講話などを通して、当日出会うメンターを思い描くこと、観察中の個別質問を考えることで思考力を培う。重ねて、児童生徒が想像したメンターや仕事内容等が、当日経験することとのズレを体験させることで、学びを深め、ひいては仮説を立てる力につなげていくことも視野に入れて行う。

前述のような事前学習を経て、ジョブシャドウイング当日を迎える。

2) 実施当日

実施当日は、短時間（半日～1日）のプログラムであるが、事前学習で学んだ心構えや体得したコミュニケーション力を存分に発揮し、メンターとの時間を過ごす。実施中は、観察に重きをおきつつも様々な質問をメンターに行う。「仕事をしていて嬉しかったことはなんですか」「今まで仕事で課題に直面したことはありますか。それをどのように乗り越えましたか」「子どもの頃の夢はなんですか。その夢が叶わなかったとき、どのようにして今に至るのですか」など、メンター自身の内面に迫る質問を投げかけ、メンターはそれに答える。児童生徒が直接メンターへ質問を行う事を積極的に推奨しているのも沖縄型の特徴といえる。



＜図 沖縄型ジョブシャドウイングの特徴＞

1対1で行うジョブシャドウイングでは、対象が30人いれば30人の子どもそれぞれが違った働く想いに気づき、観察を通して見つけたものを持ち帰る。この個々に違う気づきがあることがジョブシャドウイングの学びが深まる要となる部分であり、全体で共有する事後学習へと繋がる。

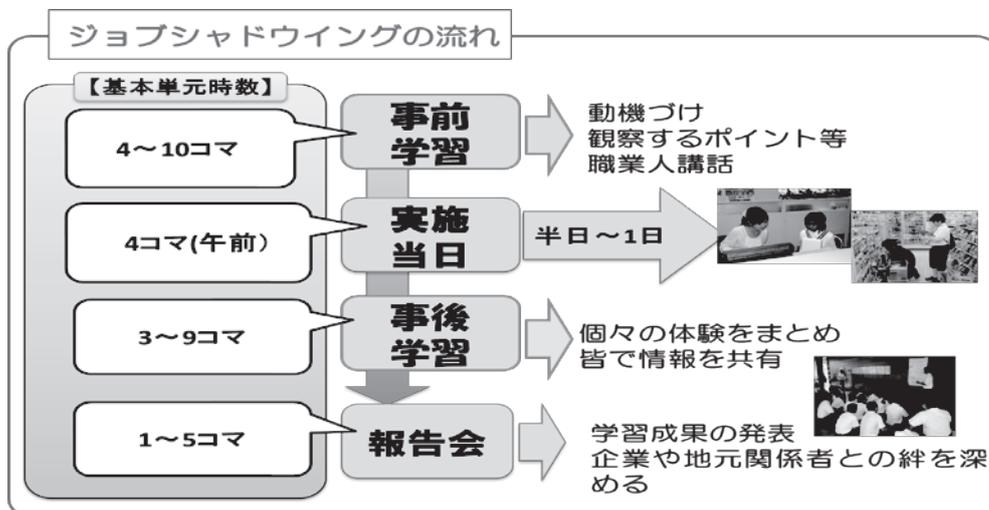
3) 事後学習

事後学習では、実施当日に気づいたことや、メンターとの交流を通して得たものを、ペアやグループまたはクラス全体で共有する。それぞれが観察したもの、メンターから教わったことを伝え合うことで、自らも振り返りながら、様々な働き方・働く想いがあることを知る。そこから成果発表会に向け、学んだ事を整理しアウトプットする力をつけるための学習を行う。

手法として、個人ワークとしては振り返りシートや感想文、グループワークとしては意見交換やファシリテーションを用いて進めていく。その後、個人またはチームで新聞、スライドプレゼンテーションソフトを活用して、学んだ事をアウトプットするツールとしながらも、次のステップであるプレゼンテーションする力をつける学習でのツールとしても活用する。

4) 成果発表

成果発表会では、児童生徒が学んだ事をプレゼンテーションする力を育成することを目的に行う。手法として①作文やスライド資料を用いた体験発表、②ポスターセッション、③劇を活用して行う。発表内容は仕事内容紹介ではなく働く人の想いを紹介することを通して、働くこととは何かを自らの言葉で発表していく。



<図 沖縄型ジョブシャドウイングプログラムの流れ>

発表会の別の側面として、受入企業やメンター、保護者、地域住民に参観を促すことで、地域人材育成に貢献している意識を高めるとともに、子ども達にとっても憧れのメンターが見てくれることでより一層発表にも力が入る。発表会という場で、受入企業や保護者、地域の方々とはジョブシャドウイングの成果を共有することで、家庭や学校のみならず地域社会全体で取組んでいくことに繋がるプログラムとして、各実施校が工夫をこらし開催していることも沖縄型ジョブシャドウイングの大きな特徴といえる。

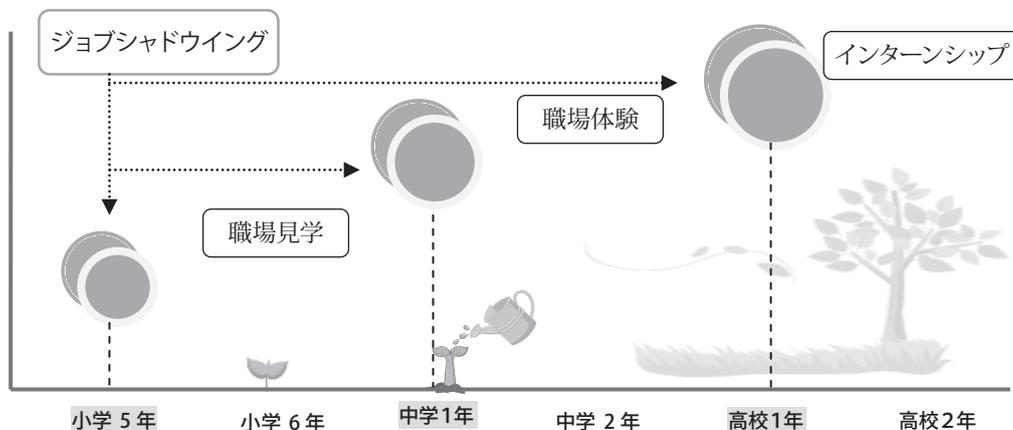
その求心力となるもののひとつに、メンターや保護者説明会の実施がある。本事業の目的を沖縄の雇用情勢から紐解き、「児童生徒に対して『働く大人』の姿勢を見せること」が、児童生徒の就業観を育成する目的になる旨を周知・啓蒙するために行っている。

このように予め説明会を実施することで、児童生徒のキャリア形成に関わる大人に、本事業の目的や到達イメージを共有することが可能となる。その結果として、地域で育むキャリア形成支援の輪が広がり、沖縄型ジョブシャドウイングの目的と効果を最大限に活かすことが出来る。

○発達段階に応じたジョブシャドウイングの目的

ジョブシャドウイングを行うにあたっては、発達段階に応じて目的を設定し、沖縄県キャリア教育推進プランとの連携を考慮・加味している。キャリア教育の体系的な取組み事例として推進し、その手法の一つとして活用できるよう事業推進を図っている。

	小学校	中学校	高校
沖縄県キャリア教育推進プラン	6年生	2年生	2年生
	職場見学	職場体験	インターンシップ
	夢と希望を育む	生き方の自覚を深める	進路選択・決定
	身近な人の働く姿を見学する	地域の職場で職場体験する	地域の職場で就業体験する
沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業	5年生	1年生	1年生
	ジョブシャドウイング	ジョブシャドウイング	ジョブシャドウイング
	他者理解。夢と希望を育むための仕事についての観察軸をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> 仕事のしくみを知る 仕事って楽しそうと感じられる 	生き方の自覚を深めるために、仕事と自分を結びつける。 (自分の生き方と仕事について考える) <ul style="list-style-type: none"> 一生懸命働く大人をみる 働いている自分をイメージできる 今の自分がわかる(自己理解) 自分の魅力(良いところ)に気づく 自己を客観的にみつめる 自分に足りないモノに気づく 前向きな思考で、理想に向かっていける 	具体的な進路選択に活かす。閉じた社会にいる生徒にチャンスを開ける。 <ul style="list-style-type: none"> 世の中には努力すれば、「自分の居場所がある」、「自分が活躍できる場所がある」ということに気づく 身近な「師」を知る 急にはなれない、変われないが、日々の努力と目標を見失わなければ近づくことができる



< 表 各発達段階におけるジョブシャドウイングの目的と特徴 >

2

沖縄型ジョブシャドウイング事業の特徴

平成23年度から平成26年度までの4年間の事業スキームで行われる本事業の特徴や基本的な考え方について概観する。

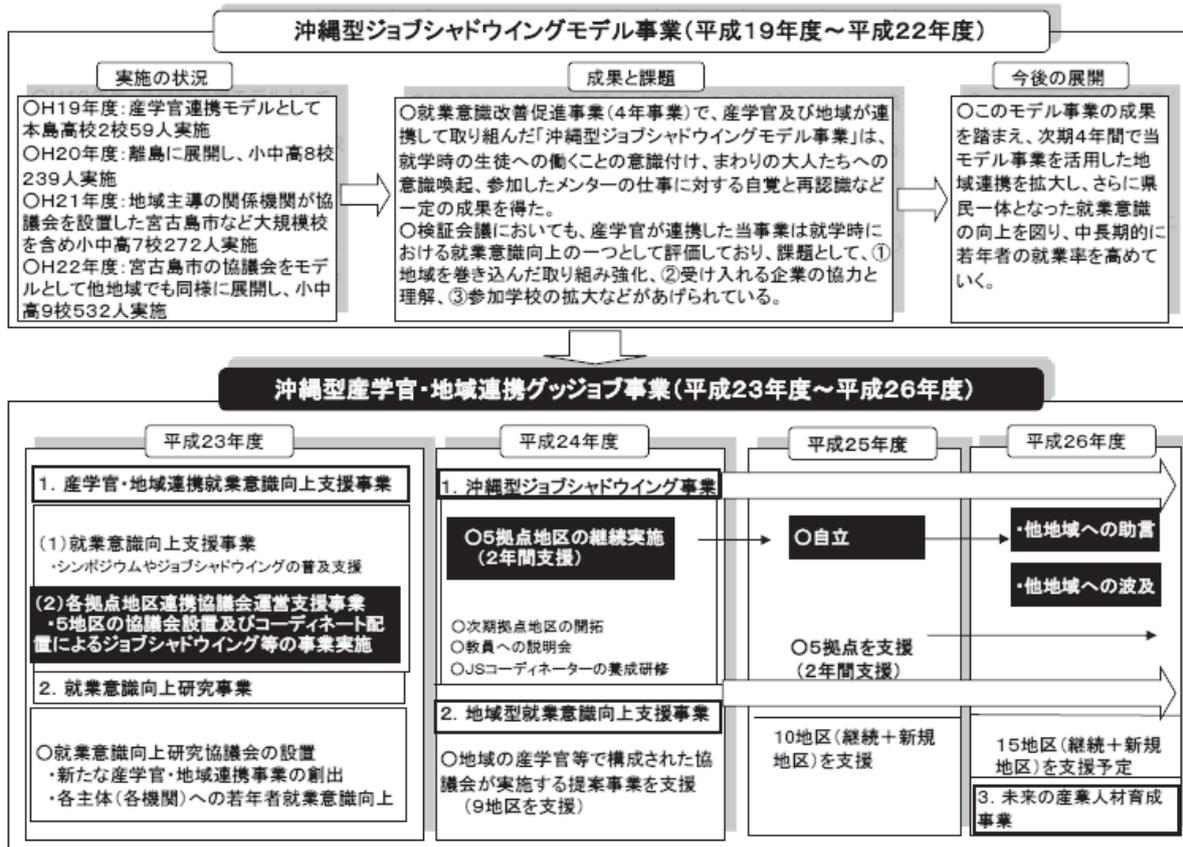
1 本事業の基本的な考え方

本事業は平成19年～22年度までに実施されたモデル事業で培われた手法や、検討委員会で示された考え方を基本とし、①「沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業」を活用する、②産学官・地域・家庭が連携する仕組みづくり、③市町村、地域での取組みを強化・支援する、の3つの方向性を踏まえて産学官ならびに地域と家庭が連携した人材育成の基盤や仕組みを、地域が主体性を持って構築するための支援事業とする。

2 本事業のスキームと協議会の目的

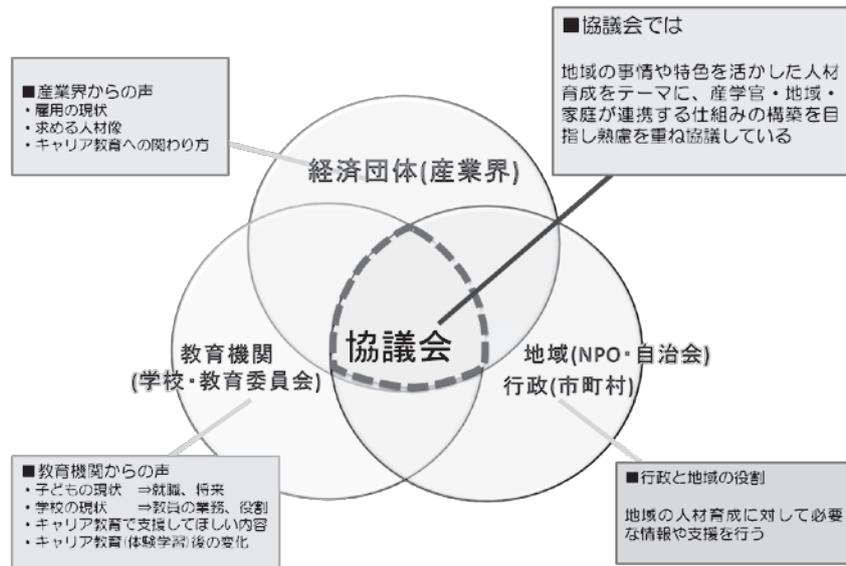
本事業は平成23年度からの4年間を事業年度とし、前半2年で5地区、後半2年に5地区を拠点地区に設定し、4年間で10地区の支援を行う。

拠点地区は産学官で構成される協議会を設置しており、コーディネーターを配置して主体的なジョブシャドウイングの実施を通して産学官・地域連携の仕組みを構築することを目的としている。



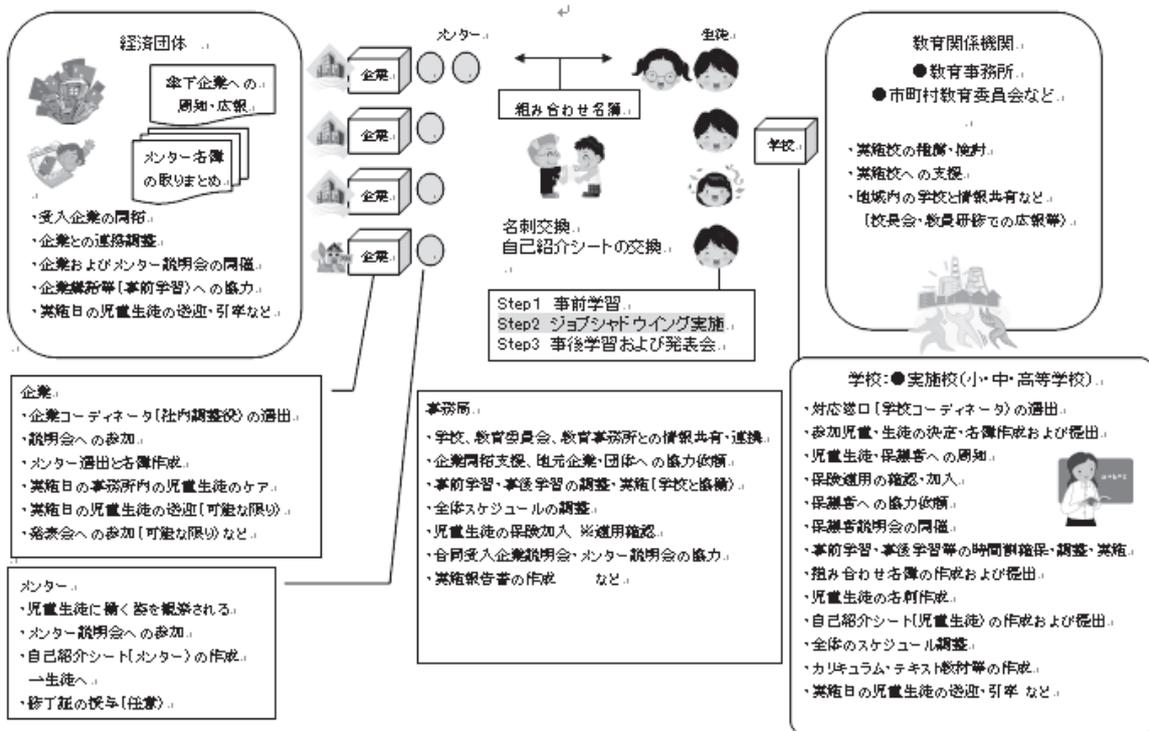
< 図 モデル事業と本事業の年度別スキーム >

また協議会は、地域の雇用やキャリア教育等に関する情報の共有と、課題解決に向けた熟議を重ねる場を提供する目的を併せ持っている。



< 図 協議会の役割分担 >

沖縄型ジョブシャドウイング事業 各機関における具体的な役割(例)



○地域連携による人材育成の意義

本事業が目指す地域連携による人材育成は、本県の地理的・文化的特色や産業経済環境などの地域的立地条件やその特性を活かし、地域全体で「課題」を共有し、地域発展のために将来的に地域に貢献する人材を育てることを目的とする。

地域で育まれた子どもたちが地域に対して愛着と誇りを持ち、将来的に地域の一員として産業経済を支える、あるいは産業を創出する人材、伝統文化を受継ぐ人材、県外または海外において経験や実績を重ねた後に、地元の産業界をリードする人材へと自立する。

また、アジア圏のハブとしての位置づけとなる立地の有用性を踏まえ、今後は国際的に活躍できる高度グローバル人材の育成も視野に入れつつ、こうして支えられた側がやがて支える側へ移行する、このような人材の還流を起こしていくことで、本県が抱える若年者層の雇用問題を解決する突破口とする。またこのような取組みを見聞することで、働く自分を具体的にイメージすることへ繋がっていくものと考えられる。こうした取組みが県内の様々な地域で実践を重ね、県内全域に広がることで、本県が抱える雇用問題の長期的な戦略と解決につながると思われる。



<図 人材の還流～地域の人材育成～>

○地域連携によるキャリア教育・職業教育等の教育方策

キャリア教育・職業教育を展開するに当たり、「連携」の重要性が様々な角度から示されている。文部科学省の審議会「中央教育審議会答申（平成23年1月）」（以下、中教審答申）の中で、今後目指すべきキャリア教育の新たな方向性が示された。

1) キャリア教育における多様な連携

中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の中で、学校がキャリア教育を進めるうえで、より幅広いリソースを「地域・社会、産業界など、学校種間、家庭・保護者、行政機関との連携」に求めるようにと示している。教育委員会や産業界等と協議会を設置し、連携の要となる調整を図るコーディネーターの配置をするなど、キャリア教育を支えるために多様な連携が必要となる。

2) キャリア教育の視点を踏まえた学力向上のための連携

沖縄県教育委員会では、平成24年度からキャリア教育の視点を踏まえた「確かな学力」の向上を積極的に取組むため「沖縄県学力向上主要施策『夢・にぬふぁ星プランⅢ』」をスタートさせている。これは、児童生徒一人ひとりに、「なりたい自分」と「なれる自分」を広げることのできる学習を行い、進路選択の幅を広げる力を身に付けることを目的としている。つまり、児童生徒一人ひとりに「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させるとともに、「学習意欲」を

向上させるための具体的な取組みが求められている。それにより地域人材や教育施設等の「地域教育資源」を活用して、どの単元で授業への参画が可能となるのか位置づけを行い、「学校での学び」と「実社会」との連携を構築することで「確かな学力」の向上が求められているのである。

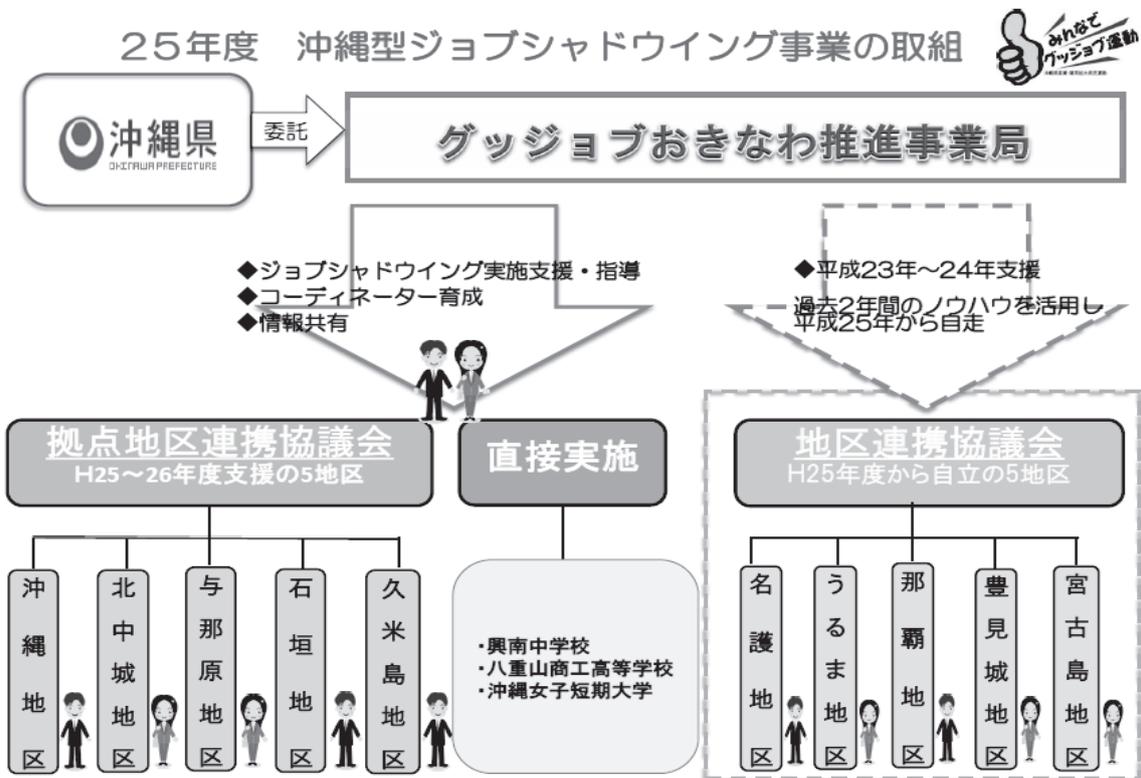
3 平成25年度の取組

本事業の開始3年目となる平成25年度の取組みと組織体制の紹介をする。

1 組織体制と拠点地区設置

事業局には教育指導担当者1名と、3人のコーディネーターを配置し、各拠点地区に対する実施支援並びに指導、拠点地区コーディネーターの育成を行う。本年度は平成23年度から拠点地区だった5地区（名護地区、うるま地区、那覇地区、豊見城地区、宮古島地区）が2年間の実施期間を経て自立に至った。これら5地区は本年度から各協議会を中心に2年間で築き上げた特色ある地域連携の取組みを力強く展開している。

また、平成24年度から拠点地区に向けて準備を進めていた沖縄地区、与那原地区、北中城地区、石垣地区、久米島地区の5地区が本年度から拠点地区の位置づけとなり、本格的に事業展開を進める。各地区に1人のコーディネーターを配置して協議会運営および各地域の特色を活かした産学官・地域連携の取組みを行っている。



<図 平成25年度組織体制>

2 本年度実績

本年度は拠点5地区における実施に加え、事業局による直接実施の3学校モデル事例で、30校1,770名の児童生徒学生に対してジョブシャドウイングの実施を行うことが出来た。

	地 区	ジョブシャドウイング		受入事業所数 (延数)
		実施校	参加人数	
拠点地区	沖 縄 地 区	5 校	746	248
	与 那 原 地 区	3 校	422	137
	北 中 城 地 区	2 校	176	90
	石 垣 地 区	10 校	126	81
	久 米 島 地 区	7 校	146	121
直接実施	学 校 モ デ ル ① (沖縄県立八重山商工高等学校)	1 校	13	7
	学 校 モ デ ル ② (学校法人興南学園興南中学校)	1 校	100	40
	学 校 モ デ ル ③ (沖 縄 女 子 短 期 大 学)	1 校	43	30
	合 計	30 校 (1,772 人)		754

<表 25年度の実績>

3 その他の実績

本事業の目指す地域連携を構築するには、調整役を担うコーディネーターの存在は必要不可欠となる。コーディネーター育成を目的とした研修会と、地域間の情報共有を目的とした全体会議を開催した。

またジョブシャドウイングの周知を目的に、各地区において児童生徒が作成したジョブシャドウイングの成果物の展示会も行った。

1) コーディネーター研修会

コーディネーターが活動するにあたり必要な知識やスキルの取得を目的に、年度初めに3日間の研修会を行った。

◆平成25年度 コーディネーター研修会

日 時：平成25年4月22日（月）～24日（水） 10時～17時

場 所：沖縄県立博物館・美術館

○コーディネーターに求められる知識と能力の理解と修得を目指す

- 1) キャリア教育の知識
- 2) ファシリテーション能力
- 3) 地域・関係者を巻き込むための調整力
- 4) 情報収集力ならびに発信力

H25年度 グッジョブおきなわ推進事業局研修会カリキュラム

4月22日(月)			4月23日(火)			4月24日(水)		
時間	カリキュラム	講師/進行	時間	カリキュラム	講師/進行	時間	カリキュラム	講師/進行
10:00	全体集合		10:00	全体集合		10:00	全体集合	
10:15	閉式セミナー ・スタッフ紹介 ・各地区コーディネーター自己紹介	事業局	10:15	学校の現状 ・教員の業務 ・教育委員会 ・「学校」の一年間の流れ (5月:総合的な学習の見直し月間など) ・学校の仕組み(校内研修会・校長、教頭の役割)	事業局	10:15	4月度全体会議 ・今年度の各地区コーディネーターの役割 ・実施校と現在までの決定事項の報告 ・企業関係についての状況報告 ・業務日程について	事業局
10:45	沖縄県の取り組み	沖縄県道工労働部雇用政策課						
			12:00	お昼休憩		12:00	お昼休憩	
13:00	事業概要① ・平成25年度事業概要と組織体制について ・予算について(配布物確認)	事業局	13:00	事業概要② ・コーディネーターの役割 ・年報を基にした業務の流れについて ・進捗管理表(ガントチャート・工程表)	事業局	13:00	「備前人講話」実施カリキュラム ・プレゼンテーション ・ディスカッション	事業局
14:00	休憩		14:00	休憩			休憩	
14:10	沖縄県におけるキャリア教育	沖縄県教育庁県立学校教育課	14:10	事業概要③ シンポジウム/ワーキングとは ・事前学習 ・実施当日 ・事後学習 ・発表会 H25活用資料について ・改善点説明 ・自己紹介シート ・観察シート ・各種アンケート	事業局			
15:30	事業概要② ・地域連携型キャリア教育について ・座学型地域連携の仕組み構築とは 協議会とは 協議会設立の意味 各機関の役割 コーディネーターの役割	事業局	16:10	地域連携に必要なスキルアップ研修 ・ビジネスマナー ・名刺交換 ・メールでのマナー	事業局	16:00	振り返りシート記入・提出	
17:00	振り返りシート記入・提出		17:00	振り返りシート記入・提出		16:30	閉式セミナー ・激励のあいさつ ・集合写真	事業局
17:15	終了		17:15	終了		17:15	終了	

< 表 研修会日程とカリキュラム >

2) 全体会議

コーディネーターを対象とした全体会議は、合計8回開催された。それぞれの拠点地区の成果や課題を共有することによって、担当地区へのフィードバックや自立化に向けた地域展開、他地区の動向から効果的な地域連携の手掛かりが得られる等の効果を期待している。

< コーディネーター会議 日程表 >

	日時	場所	オブザーバー参加
第1回	4月24日	那覇市天久ダイオキビル	県 担当者
第2回	6月14日	沖縄県立博物館・美術館	県 担当者
第3回	7月12日	沖縄県立博物館・美術館	県 担当者
第4回	9月13日	沖縄県立博物館・美術館	県 担当者、沖縄市 担当者 学校支援地域本部事業担当者
第5回	12月19日	沖縄県立博物館・美術館	県 担当者、与那原町 主任
第6回	1月23日	沖縄県立博物館・美術館	県 担当者、与那原町 主任
第7回	2月14日	沖縄県立博物館・美術館	県 担当者、与那原町 主任
第8回	3月12日	沖縄県立博物館・美術館	県 担当者、与那原町 主任

3) 教職員・保護者向け等研修会

教職員、保護者向けに、本事業の趣旨とその背景にある沖縄県の雇用に関する課題の周知啓蒙を目的に校内研修会や講話を実施している。また児童生徒の進路決定に影響力の高い保護者に対しては、雇用課題の周知に合わせて、キャリア教育における家庭が担う役割についても触れている。

本年度は、実施校以外に教職員や保護者を対象とした講演会や、児童生徒向けの進路講演会、更に実施地区以外の地域や団体に対しての講演会を行った。昨年度は30ヶ所で1,100名近くの実施だったが、今年度は45ヶ所、2,990名と、昨年度の実施人数の3倍に近い実施となった。

【平成25年度 研修会・講話等実施一覧】

25年度_教員向け研修会			
	研修名	主催者	対象
1	八重山地区 初任者研修会	八重山教育事務所	八重山地区初任者
2	与那国地区教員研修会	与那国教育委員会	与那国町全教員
3	石垣市北部地区4校合同研修会	石垣市北部4校	北部地区小学校全教員
4	竹富町地区校長・教頭研修会	竹富町教育委員会	竹富町校長並びに教頭
5	清水小学校 校内研修会	久米島町立清水小学校	校内全教員
6	石垣小学校 校内研修会	石垣市立石垣小学校	校内全教員
7	中頭地区公立幼稚園教員総会	中頭地区公立幼稚園	中頭地区幼稚園全教員
8	仲里小学校 校内研修会	久米島町立仲里小学校	校内全教員
9	識名小学校 キャリア教育研修会	那覇市立識名小学校	校内全教員
10	与儀小学校 校内研修会	那覇市立与儀小学校	校内全教員
11	北玉小学校 校内研修会	北谷町北玉小学校	校内全教員
12	大原中学校 校内研修会	竹富町大原中学校	校内全教員
13	那覇教育事務所 10年経験者研修会	那覇教育事務所	那覇地区10年経験者
14	那覇市 10年経験者研修会	那覇市教育研究所	那覇市10年経験者
15	首里中学校 校内研修会	那覇市立首里中学校	校内全教員
16	中城小学校 校内研修会	中城村立中城小学校	校内全教員
17	中部地区 中学・高校キャリア担当者研修会	沖縄県教育庁	中部地区 中学校・高等学校キャリア担当者
18	南部地区 中学・高校キャリア担当者研修会	沖縄県教育庁	南部地区 中学校・高等学校キャリア担当者
19	仲井真中学校 校内研修会	那覇市立仲井真中学校	校内全教員
20	小浜小中学校 校内研修会	竹富町立小浜小中学校	校内全教員
21	比屋定小学校 校内研修会	久米島町立比屋定小学校	校内全教員
22	沖縄東中学校 学年研修会	沖縄市立東中学校	1学年教諭全員
23	那覇市立曙小学校 校内研修会	那覇市立曙小学校	教員・全6年生
24	宮古島市立佐良浜中学校 校内研修会	宮古島市立佐良浜中学校	校内全教員
		教員向け研修会 合計	641
25年度_保護者向け等研修会			
1	コザ小学校 保護者講演会	沖縄市立コザ小学校	全保護者向け
2	石垣市立西部地区合同 保護者講演会	石垣市西部地区小学校	全保護者向け
3	比屋根小学校 教育講演会	沖縄市立比屋根小学校	全保護者向け
4	喜瀬武原中学校 教育講演会	恩納村立喜瀬武原小中学校	全教員・保護者向け・全中学生
5	南風原中学校 教育講演会	南風原町立南風原中学校	全教員・保護者向け・全校生徒
6	黒島地域 教育講演会	竹富町立黒島小中学校	全教員・保護者向け
7	沖縄東中学校 進路講話会	沖縄市立沖縄東中学校	中学1年生・教員・保護者
8	大原中学校 講話会	竹富町立大原中学校	保護者・教員・全生徒
9	伊江村2校合同 講話会	伊江村立教育委員会	保護者・村内全6年生
10	小浜中学校 進路講話会	竹富町立小浜小中学校	保護者・全中学生
11	美東中学校PTA教育講演会	沖縄市立美東中学校	PTA
12	那覇市立天久小学校 講話会	那覇市立天久小学校	教員・全6年生
13	女性教職員の会	沖縄教職員組合 島尻地区	沖縄教職員組合 島尻地区対象
14	女性教職員の会	沖縄教職員組合 中部支部	沖縄教職員組合 中部支部対象
15	沖縄県立陽明高等学校1学年進路講話	陽明高等学校	教員・1学年生徒向け
16	沖縄県立那覇西高等学校進路講話会	那覇西高等学校	教員・保護者・生徒向け
17	沖縄市立美東中学校 進路講話会	沖縄市立美東中学校	教員・全生徒向け
18	浦添市教育委員会 浦添市立教育研究所 適応指導教室「いまあじ」	浦添市適応指導教室「いまあじ」	教員・児童生徒向け
19	那覇市立曙小学校講話会	那覇市立曙小学校	教員・全6年生
20	沖縄県教育庁生涯学習推進本部 連絡実務者会議	沖縄県教育庁生涯学習課	沖縄県各課班長・県担当者
21	佐良浜中学校教育講演会	宮古島市立佐良浜中学校	保護者・全6年生、全中学生
		保護者等向け講演会 合計	2,349
		総合計	2,990

4) その他（周知広報・交流会）

◆地域連携グッジョブ交流会

本年度は、様々な視点から地域連携を考えていくことを目指し、初の試みとして交流会を開催した。交流会では、学校支援地域本部事業での産学官・地域連携の在り方を学ぶことをねらいとして、まずは沖縄県教育庁生涯学習課から事業概要を講話頂いたのち、学校支援地域本部事業の取組みが盛んな南風原町のコーディネーターより活動報告を行っていただいた。その後は情報交換を行い、多様な地域連携の形の在り方について共有を深めた。

交流会には平成23、24年度拠点の5地区からも参加者を募り、過去2年間での事業展開を経て本年度からどのような展開を始めたのかなどの情報共有も行った。他事業や、自立地区との交流は実に有意義なものであり、沖縄県における地域連携の取組みの広がりを考えていく有効な手立てとなった。今後も交流会、勉強会の開催を積極的に行い、前期・後期拠点地区との情報交換や、学校支援地域本部事業との連携の模索、地域連携における好事例の共有することを通して、地域連携事例の蓄積を目指す。

◇地域連携グッジョブ交流会 プログラム ～学校支援地域本部事業について学ぶ～

【第一部】学校と地域の連携について

- ・学校支援地域本部事業について：沖縄県教育庁生涯学習振興課
- ・学校支援地域本部コーディネーターの活動：南風原町教育委員会

学校支援地域本部事業コーディネーター

【第二部】情報共有交流会

平成23、24年度拠点地区と現拠点地区での取組み、学校支援地域本部事業での取組みについて互いに情報交換をし、共有を深めた。

■交流会参加者 計45人

	参加団体	役職
1	うるま市企業立地雇用推進課	主事
2	うるま市グッジョブ連携協議会	コーディネーター
3	宮古島市教育委員会生涯学習振興課	係長
4	宮古島市地域雇用創造協議会	コーディネーター
5	宮古島市地域雇用創造協議会	コーディネーター
6	久米島町産業振興課	主任
7	豊見城市教育委員会 生涯学習振興課	
8	豊見城市教育委員会 生涯学習振興課	学校支援市域本部事業コーディネーター
9	与那原町産業振興課	主任
10	与那原町産業振興課	

11	与那原町教育委員会	学校支援コーディネーター
12	那覇市企業立地雇用対策室	主任
13	沖縄市グッジョブ連携協議会	コーディネーター
14	沖縄市グッジョブ連携協議会	コーディネーター
15	沖縄市グッジョブ連携協議会	コーディネーター
16	名護市グッジョブ連携協議会	
17	豊見城市教育委員会 学校教育課	指導係長
18	沖縄県雇用政策課	主査
19	沖縄県教育庁	主査
20	南風原町教育委員会生涯学習文化課	主査
21	南風原町教育委員会生涯学習文化課	学校支援地域本部コーディネーター
22	沖縄県キャリアセンター	チーフキャリアコーチ
23	沖縄市立諸見小学校	学校支援コーディネーター
24	石垣市グッジョブ連携協議会	コーディネーター
25	久米島町グッジョブ連携協議会	コーディネーター
26	北中城村グッジョブ連携協議会	コーディネーター

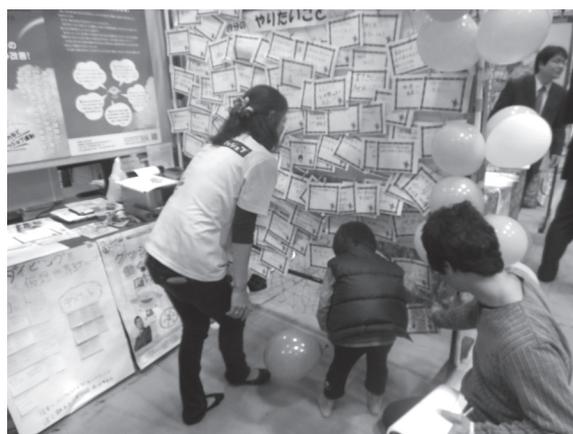
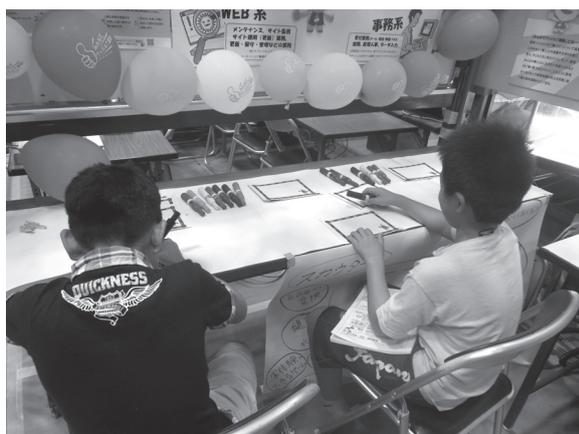
※グッジョブおきなわ推進事業局18人参加

◆ IT津梁まつり2014 ブース出展

①日 時：平成26年1月31日（金）～1日（土）

場 所：沖縄コンベンションセンター

内 容：沖縄型ジョブシャドウイング事業についての取組みを説明するとともに、来場者向けに「ITで叶えたい将来の夢や、ITの技術でやってみたいこと、作ってみたいもの」についてA5サイズの用紙に記載頂いた。



<IT津梁まつりブース出展 様子>

SECTION

2

事業総括



1 前期拠点地区の取組から

本事業は平成23年度からの4年間で事業年度とし、前半2年で5地区、後半2年に新たな5地区を拠点地区に設定し、4年間で10地区の支援を行う。平成24年度で前半2年の拠点5地区の支援が終了となり、各地区が自立をし地域に根差した事業を展開している。本事業のここまでの成果を踏まえて、前期拠点地区が本年度から地域で展開した活動概要と、後期拠点地区の活動について検証する。

1 前期拠点地区の本年度における活動結果（総括）

本事業は、①「沖縄型ジョブシャドウイング」を活用する、②キャリア教育や人材育成を支える仕組みづくり、③地域の特色に応じた人材育成の方策を模索する、の3つの方向性を踏まえて、地域が主体性を持って実施されてきた。平成23年度から支援してきた5地区（名護、うるま、那覇、豊見城、宮古島）が、いよいよ本年度から地域が主体となり本格的な展開を広げる。次項では各地区の本年度の取組みを述べる。また後期拠点地区の本年度における活動成果については第3章でふれるものとする。

<前期拠点地区>

■名護地区

名護地区は、協議会が地域の課題を共有し、議論する場として機能している模範的な地区である。「地域型就業意識向上支援事業 ※1」を活用した取組みの2年目を迎える本年度は、地域のプラットフォームとしての機能を発揮し、小学校12校と中学校2校に対するジョブシャドウイングを含む就業体験に関する事務作業の窓口一本化の仕組みができつつあり、市内全域にて継続安定した就業体験の実施が可能となった。また、地域連携の研究会を開催し、キャリア教育について熟議を重ね、名護市における人材育成、キャリア教育の体系化や指標を示すことに努めている。このような名護市での地域連携の取組みが、平成23年度に文部科学省と経済産業省によって共同で創設された表彰制度「キャリア教育推進連携表彰」の受賞を果たした。この受賞は、地域連携を進める各地区の励みとなった。



■うるま地区

うるま地区は、県が国内外の情報通信関連産業の一大拠点形成を目指して整備を進めているIT津梁パークや、県内の製造業誘致の柱として位置づけられる国際物流拠点産業集積地域を有する地域である。今後の地域産業の活性化に向けて、早期から地域産業に目を向けながらも広い視野を持った人材の育成を行うため、産業界が主体性を持った展開を行っている。

昨年度「地域型就業意識向上支援事業」を活用し地域連携のベースを構築し、本年度からは市町村配分の沖縄振興特別推進交付金を活用し、平成33年へ向けての長期計画を基に、事業の本格始動と展望へのブラッシュアップを図っている。具体的な取組みとしては、教育支援としてジョブシャドウイング事業を市内小学校11校856名実施、中学生職場体験の支援を行っている。また若年者に対する就業意識向上の啓発を目的とした就活フォーラムや講演会、企業訪問などの取組みを、うるま市に立地する企業や業界とともにやっている。



■那覇地区

今年、我が国における大都市制度の2番に位置する中核都市に移行した那覇市。名実ともに都市部となった那覇地区は、モデル事業から7年に亘る学校現場や教育委員会との関わりを強みに、学校教育内で行われるキャリア教育に対する支援を「地域型就業意識向上支援事業」を活用してやっている。

2年目となった本年度の取組みは、ジョブシャドウイングにおいては学校区単位、且つ、学校が主体となって取組める体制を構築し、公民館や自治会も参画する地域連携の在り方が実践されている。また市内小中学校ならびに大学生を対象に、社会人講話型キャリア教育支援や、市内小中学校教員向けに筑波大学教授を講師に迎え「キャリア教育勉強会」を委員会と共同で開催を行っている。



■豊見城地区

市政施行11年目を迎えた豊見城市は、①市民の平均年齢が30代、②人口増加率が県内トップクラスにある若く勢いのある地域である。それに相まって、地先開発の豊崎地区への企業誘致に力を入れ、地域経済の活性化と雇用機会の創出のための具体的な取組みに注力している。

豊見城地区は、本事業による前期拠点地区として支援、そして「地域型就業意識向上支援事業」を活用した1年間のキャリア教育支援を展開した後、小中学校に対するキャリア教育支援はひとまず区切りをつけ、地域の産業が求める人材像を明確にした上で、その手法と導入方法の検討を目的に、豊見城市地域雇用創造推進協議会の中に「ジョブシャドウイング部会」を残したまま、今年度はその部会の活動を一時休止した。しかし、協議会の構成員である市が若年者に対する人材育成事業や、市内高校3校に対する就職に向けた職業人講話の実施など、

地域で活躍する人材確保を展開している。また、PTAを中心とする協議会が「グッジョブ☆とよみわくわくワーク」を実施し、地域のキャリア教育の育成を図った。

過去2年間の小中学校に対するキャリア教育支援は、学校現場から好評価であり要望も高いため、「未来の産業人材育成モデル事業 ※2）」の中で、市内2校（豊崎、長嶺）の小学校に対するキャリア教育支援を本事業局が行い、近い将来、市が取組む小中学生も含めた長期的な人材育成に繋げるための取組みを行った。



■宮古島地区

宮古島地区においては、行政がイニシアチブを発揮した形の「地域主体型キャリア教育」という、本事業の地域連携ロールモデルとして先駆的な取組みを行っている。宮古地区は、高校卒業後の進学は島外に出る選択が余儀なくされ、就職においても企業数が多くないため沖縄本島や県外に出たまま、島に残る生徒は多くないのが実情である。その背景を踏まえて地域の魅力を伝え、将来、経験とスキルを身に付けて地域で活躍する人材の育成を図ることが喫緊の課題であった。

その課題を解決すべく、「地域型就業意識向上支援事業」を活用した取組みが本年度は2年目を迎える。高校生を対象に①実践型キャリア教育と②県外企業訪問を行っている。

1つ目の実践型キャリア教育は、高校生が自分たちで立案し、土日祝日のみオープンする「んまがぬ家」というカフェの開業のために地元商工会議所の協力のもと、会計や経営のノウハウを学び、地元パティシエからは菓子作りの技術を学ぶなど、立案から開業まで実践的な体験学習としてカリキュラムが始動した。2つ目は、島内の高校から選抜制で生徒を選定し、島内では関われない職種や経営規模の企業へ訪問する活動を行っている。

これらの取組みは地域主体型キャリア教育の確立した先駆地域がゆえに実現できると思われる、モデル事業から続くジョブシャドウイングの取組みも併せながら、中長期的な人材育成を軸に、島内の全体的な就業意識向上のため様々な展開がなされている。



※1) 地域型就業意識向上支援事業

沖縄型産学官・地域連携グッジョブ事業の中で展開されている事業で沖縄型ジョブシャドウイングの発展系として創出された事業。ジョブシャドウイングの手法に限定せず、地域の産学官が地域のニーズにあった取組みを実施する際にその取組みに対して補助を行う。（最長3年）

※2) 未来の産業人材育成モデル事業

緊急雇用創出事業を活用し、本島中南部の小中学生を対象に雇用の課題をかかえる5業界に関する理解と興味関心を引き出し、未来の産業人材とつなげるための業界に対する憧憬を促すための事業。（25年度のみ実施）

2 コーディネーターの役割について

ジョブシャドウイングをツールとして地域連携を図るため、本事業では支援する地区に1名ずつコーディネーターの配置を行っている。コーディネーターは、地元精通し、地元の要望に迅速に対応できる人材、地域で活躍できる人材として位置付けられており、学校と産業、地域を結びつける結節点としての役割を果たすために欠かせないものとなっている。コーディネーターは以下の役割を担っており、活動内容は多岐に渡っている。

① ジョブシャドウイング実施に関する活動	
学校・保護者向け	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング実施のため関係機関（学校、行政等）との各種調整 ・事前、事後学習の調整（時期、内容、手法など）、実施およびサポート ・ジョブシャドウイング実施のための準備 （教員・保護者向け事業説明会の実施、ルート表作成、必要資料作成・提供、実施にかかる人・モノ等の手配、注意事項等確認、出発式調整など） ・ジョブシャドウイング当日の運営、サポート （出発式サポート、保護者・サポーター向け説明、マスコミ等対応の実施など） ・学校向け実施報告、アンケート・ヒアリングの実施
企業・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・経済団体等への周知、協力要請 ・受入企業開拓、とりまとめ ・ジョブシャドウイング実施終了後のフォロー （企業へのお礼、アンケートの配布・回収・集計、関係機関へのヒアリング実施など） ・地元自治会等への周知、協力要請
広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング周知・広報に関すること （イベント等への出展、広報・マスコミ対応、関係者向け事業説明会の開催など）
② 協議会運営に関する事項	
協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の開催日程調整、招集連絡 ・会場設営、機材等手配、設置 ・資料の作成、印刷 ・その他庶務活動
記録	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録の作成 ・活動報告書の作成 ・日報の作成

こうした活動は、地域が一丸となって就業意識の向上を実現するためのものであるため、単にジョブシャドウイングの実施・運用だけでなく、地域の特性に合わせた地域連携の仕組みを構築する軸として、そのノウハウを地域に確実に根付かせていくための役割をコーディネーターが担っている。

コーディネート業務を円滑に進めるためには、地域実情に即し、関係団体との調整役として機能するための関係構築が欠かせない作業となる。本年度ジョブシャドウイングの実施が問題なくすべて終了したことからも、全地区においてコーディネーターが各関係者と良好な関係を構築することが出来たと言える。

3 グッジョブおきなわ推進事業局の役割について

グッジョブおきなわ推進事業局（以下「事業局」という）は、こうしたコーディネーターの活動を支援するため、コーディネーターとしての基礎的な知識や技能の育成、活動全般に関するサポートを行っている。研修会の他、OJTやOFF-JTを通してコーディネーターの育成を図り、各地区の事例を集約し蓄積することで地域連携の在り方についての事例提供を行っている。本年度は、新たな拠点として設定された5拠点地区の支援において、協議会発足が出来たことと、モデル事例の実施支援が実現できたことが成果と言える。

事業局はジョブシャドウイング実施のための基本的な方針をコーディネーターに繰返し伝え、各拠点の活動が円滑に進むようサポートする役割に徹している。そうすることで、コーディネーターの自立を支援すると共に、地域の特性を活かした地域連携活動を行うための仕組みづくりのノウハウを提供、サポートしている。

また、現在まで支援している全ての拠点地区の事例で活用できるものは、随時積極的に提供している。各地区個別の支援の他、各地区の事例を提供、共有する場として、全地区のコーディネーターが参加する全体会議を毎月1回程度開催している。全体会議の内容は、各地区の事例報告を聞くことと、活動事例からディスカッションを行い活発な意見交換を行うなど、各地域での取組みをより充実させ地域にあった取組みとして活かすための視座を得ることを目的としている。

4 様々な関係者による地域連携の可能性について

全地域共通の課題としては、1点目はキャリア教育の手法であるジョブシャドウイングをどのように周知し、関係者の理解を深めていくか、2点目は、学校の中で取組まれているジョブシャドウイング以外のキャリア教育手法との関連づけと、体系立ったキャリア教育カリキュラムの構築の必要性、3点目は、地域の特色ある産業を就業の受け皿として育成していくため、学校教育の中にどのようにして地域の産業人材育成の視点を盛り込むか、の3点があげられる。

1点目に関しては、メディアや市町村広報誌、学校からの配布物を利用した周知、協議会構成団体の事業説明会実施など、様々な機会や媒体を利用して丁寧な活動を行っていく必要がある。

2点目のキャリア教育カリキュラムと体系づけることについては、沖縄地区における職場体験とジョブシャドウイングを組み合わせた事例と八重山商工高等学校のインターンシップ後の業界限定型のジョブシャドウイングが示唆を与えてくれる。

また、3点目の地域産業人材育成の視点については、うるま市が平成25年度以降に行っている取組みなどが先駆的な事例となり得るだろう。

そのほか、特筆すべき取組みとしては、北中城地区をはじめとする一部の地区において、文部科学省が設置を進めている学校支援地域本部コーディネーターや市町村独自で配置しているキャリアコーディネーターといった人たちとの連携を模索する動きがある。

こうした様々な関係者が一堂に会して熟議する場としての協議会の役割が、今後ますます重要になってくるものと考えられる。

【本事業における各機関との連携に関する基本的な考え方】

本事業は、沖縄県が推進する「みんなでグッジョブ運動」で提唱する「雇用情勢の全国並み改善」という目標を達成するための事業である。それを踏まえて、産・学・官・地域・家庭が連携する仕組みづくりのための基本的な考え方をまとめると以下の通りとなる。また、連携事例については、今後の実施を通してさらなる蓄積が期待される。

① 保護者/家庭	
位置づけ (役割)	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校と家庭とで連続したキャリア教育を実施することで、子ども達の学びを深める ● 子どもと将来の夢や働く事の意義について話し合う場をつくる ● 子どものキャリア形成における学校や地域社会との関わりを知る ● 雇用情勢や職業、職種について知る
連携事例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送迎サポーターとして参加 2. 出発式の運営サポート 3. 保護者連絡用メール（例：じんじんメール）を活用した周知・実施連絡
② 実施校/教育関係機関	
位置づけ (役割)	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリア教育を充実させるための一例としてジョブシャドウイングを活用する ● 児童・生徒の中長期的、「多角的視野」を育成し、就業観や職業観を高めるよう働きかける ● 学年間、学校間、異校間の連続性を視野に入れたキャリア教育を体系化する
連携事例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域内の実施校担当者向け研修会、もしくは校内委員会を対象とした校内研修会の実施 2. PTA や保護者説明会の開催 3. キャリア教育に関する講演会の開催 4. 校長会・教頭会での事業説明会 5. 次年度実施校の公募のとりまとめ 6. 実施校以外への周知（実施中や発表会見学等の呼びかけ） 7. 学校支援地域本部コーディネーターを活用した保護者サポーターのフォローや実施に関わる支援 8. 社会教育主事を活用した企業開拓 9. 出発式への教育委員会の出席
③ 地域コミュニティー	
位置づけ (役割)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域人材の活用などでキャリア教育に積極的に関わる事で、子ども達が地域に根差した生き方、働き方といった視野を広げられるよう働きかける

連携事例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自治会役員会等への事業説明会 2. 公民会等でのジョブシャドウイング新聞展 3. 自治会イベント（祭り）でのジョブシャドウイング広報展 4. 送迎サポーターとして参加 5. 事前学習の講師における動機づけ学習や職業人講話等の講師 6. 地域サポーター（地域内に住む学生や社会人、地域内の事業所に勤務する社会人等）による送迎 7. コミュニティーFM やコミュニティー新聞での周知広報
④ 行政	
位置づけ （役割）	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の人材育成に関して必要な情報提供または発信や支援を行う ● 雇用に関する諸問題を解決するための課題や問題を政策に反映させる ● 市町村部局と教育委員会が協力して経済団体、地場産業団体に対する働きかけの共有化
連携事例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報誌等でのジョブシャドウイング記事の掲載 2. 市役所（役場）ロビー等でのジョブシャドウイングの取組み広報展 3. 部長会議等を活用した事業説明 4. 出発式での首長等のあいさつ 5. 記者クラブ等を活用しての取材依頼
⑤ 経済団体	
位置づけ （役割）	<ul style="list-style-type: none"> ● 中長期的な人材育成に協力する事で、業界・業種・企業求人のおそ野を広げる ● 「働く大人」としてのロールモデルを示す ● 産業界が求める人材像を学校教育現場に活かせるように協議会の場で情報発信する
連携事例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期総会や定例会での事業説明 2. 各団体の傘下企業を対象とした合同企業説明会や合同メンター説明会の開催 3. 団体に運営している HP での事業周知 4. 経済団体主催の講話
⑥ 協議会	
期待する 役割	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の特性に合わせ、特色ある人材育成のため、構成団体の熟議の場としての役割を果たす
連携事例	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業部会・事務連絡会議の開催 2. 実施校合同会議の開催 3. 周知・広報を目的としたジョブシャドウイング通信等の発行 4. 企業合同説明会の開催 5. 合同メンター説明会の実施

【平成25年度 地域連携成果事例一覧】

	事 例
産業界との連携	<p>【うるま地区】 市内に立地する企業や業界と共に就活フォーラムや講演会、企業訪問等を開催</p> <p>【宮古島地区】 高校生対象に地域にない職種企業への訪問と体験学習の実施</p> <p>【沖縄地区】 ジョブシャドウイング事業を効果的に実施するための受入企業交流会の開催</p>
学校・保護者・教育機関との連携	<p>【宮古島地区】 高校生カフェによる実践型キャリア教育の実施</p> <p>【那覇地区】 市内小中学校教員向けに筑波大学教授による「キャリア教育勉強会」の開催</p> <p>【沖縄地区】 ①送迎サポーターへ感謝状の贈呈を行った ②中学校でのジョブシャドウイングの観察の視点を加えた職場体験の実施</p> <p>【北中城地区】 ①村教育委員会生涯学習課が協議会へ参加 ②効果的な実施に向けたワーキングチームの発足への動きが出ている</p> <p>【久米島地区】 ①実施校以外でのマナー講座の実施 ②久米島高校就職コーディネーターとの意見交換を行った</p>
地域との連携	<p>【名護地区】 ジョブシャドウイングや職場体験に関する事務調整の窓口を一本化した地域プラットフォーム作り</p> <p>【久米島地区】 久米島青年団協議会へ巡回スタッフの協力依頼</p> <p>【石垣地区】 八重山記者クラブを利用し、各マスコミへの取材依頼</p> <p>【与那原地区】 ①商工会議所主催イベントでブースを設置し、地域への周知広報を行った ②自治会長の定例会において事業説明会と送迎サポートを依頼</p> <p>【北中城地区】 島袋公民館での成果新聞のパネル展開催</p>
行政との連携	<p>【与那原地区】 役場庁舎内ロビーへ成果物の新聞展示を行い、活動の周知を実施</p> <p>【久米島地区】 久米島産業まつりにてグッジョブブースの設置</p> <p>【石垣地区】 北海道室蘭市議会行政視察研修団の来島の際に、事業説明を行った</p>

SECTION

3

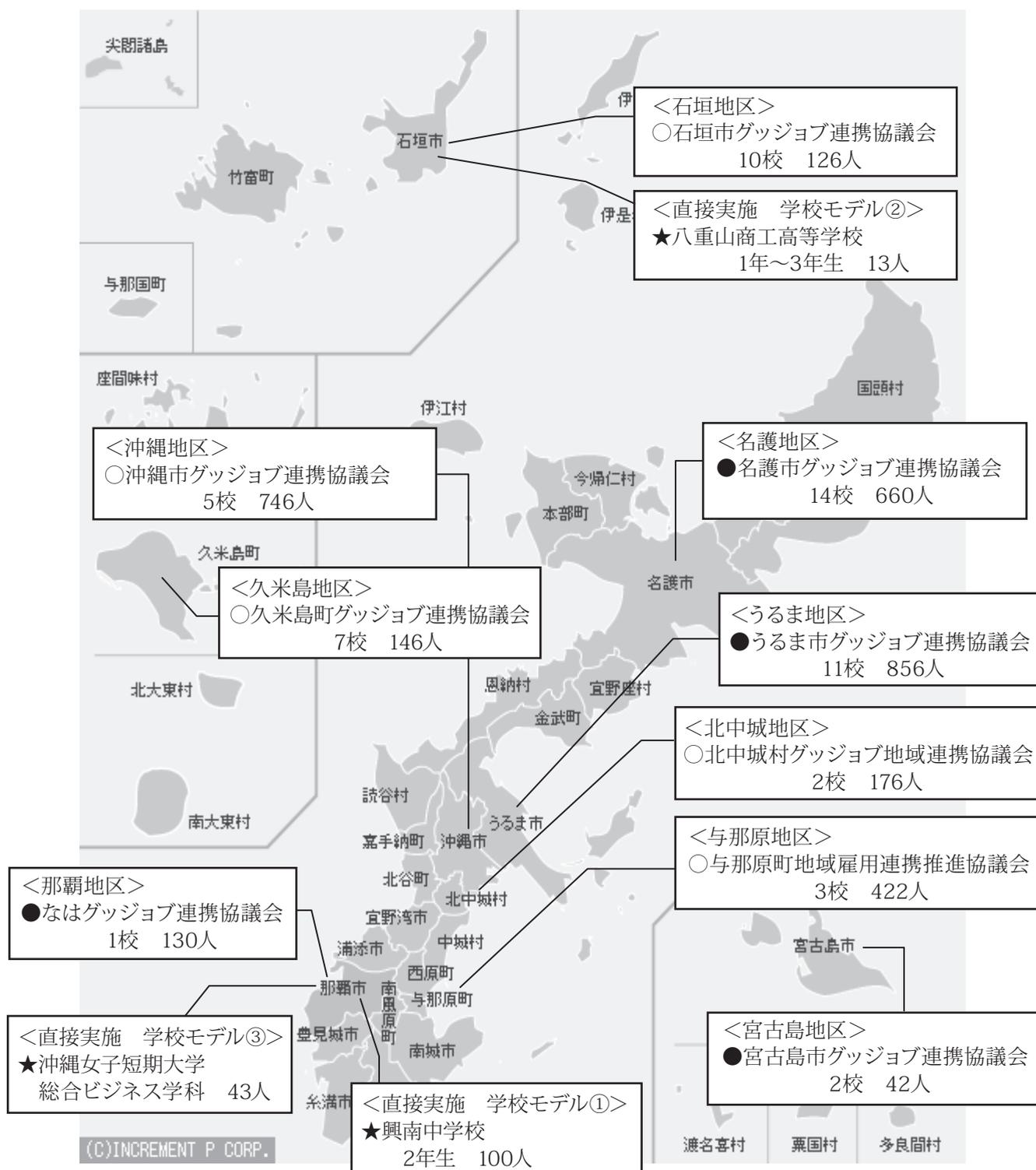
平成25年度 拠点地区活動報告



本年度の実施概要

各地区の報告書のとりまとめにあたり、沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業を活用して、産学官・地域・家庭でどのような連携事例が見られたのかに焦点をあてるよう心掛けた。また、児童生徒を受入れた企業の分類については、日本産業標準分類に準拠して行っている。

なお、本年度の参加地区は前期拠点4地区（下図●）、後期拠点5地区（下図○）となり、直接実施学校モデル3校（下図★）を加えた参加学校数は全54校となっている。



(C) INCREMENT P CORP.

1 沖縄地区

平成25年 沖縄市グッジョブ連携協議会

1 平成24年度 活動概況

(1) 連絡調整会議発足の背景

本市における児童生徒を対象とした沖縄型ジョブシャドウイング事業の実施主体として本会を設置した。厳しい雇用情勢を踏まえ、平成18年度より独自で就労支援施設を開設し、きめ細かな就労相談や講座実施などの雇用対策に取り組んできた。そうした中、本市の完全失業率は14.5%で、その内15歳から34歳までの若年者層では18.3%と高い水準となっていることが明らかとなり、若年者を対象とした重点的な就労支援が必要であると考えられる。そのような背景から、幼いうちから職業観を育てるキャリア教育の充実を目的とした同事業を実施することで、児童生徒及び保護者が、将来の生き方や進路を考える契機となるよう、職業観の形成において効果的な事業の実施を担うものとする。

(2) 平成24年度活動概況

島袋小学校は、従来からキャリア教育に熱心に取り組んでおり、また、小規模校で6年生担当教諭が学校のキャリア教育担当を兼ねていることから、沖縄地区小中学校のモデル校として選定し実施した。

美里高等学校は、沖縄市における高校モデルの確立を目指し、1年次ジョブシャドウイング、2年次インターンシップを実施するキャリア教育のプログラムの安定化を進めることを目的として実施した。

(3) 平成25年度への展望

	課題	改善策
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の実施 生徒が主体的に取り組める仕組み作り 保護者への働きかけ 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修等でのジョブシャドウイングの周知とキャリア教育の必要性を周知する PTAとの連携を図る
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> 学校との連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援地域本部コーディネーターとの連携強化 教育委員会指導課との連携を図る
地域 コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 地元自治会との連携と地域住民への周知 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会でのパネル展の開催 地域住民へのグッジョブ運動の周知を図る
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> ジョブシャドウイングの理解度を高める必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ジョブシャドウイングへの更なる理解を得る
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 協議会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の実施を目指す

2 平成25年度の活動概要

平成22年国勢調査によると、本市の完全失業率は14.5%で、その内15歳から34歳までの若年者層では18.3%と高い水準となっていることから、若年者を対象とした重点的な就労支援が必要とされている。そのような背景から、幼いうちから職業観を育てるキャリア教育の充実を目的とした事業を実施し、産学官・地域及び家庭が連携した効果的な事業の実施を担うことを目的に、沖縄市グッジョブ連携協議会を発足させた。

(1) 協議会について

協議会発足元年として、協議会会員の連携のもと、ジョブシャドウイングの円滑な実施、地域住民への周知活動、市内小中高等学校連携推進、以上の3つを重点的に取組むことを目指した。

協議会名称	沖縄市グッジョブ連携協議会		
所在地	沖縄市比屋根 6 丁目 1 番 6 号（一般社団法人沖縄 SUN 内）		
活動目的(理念)	本協議会は、産学官・地域及び家庭が連携し、地域が一体となった具体的な取り組みを実施することにより、将来の沖縄市の担い手となる児童生徒の勤労観・職業観の醸成を図るとともに、地域の雇用問題の解決や地域全体の就業意識の向上を図ることを目的とする。		
■構成表			
沖縄市グッジョブ連携協議会	会 長	沖縄市経済文化部	部長
同	副会長	沖縄商工会議所	総務部長
同	監事	沖縄県中小企業家同友会中部支部	副支部長
同	監事	沖縄市経済文化部	次長
同	事務局	一般社団法人沖縄 SUN	

■構成団体名簿		
No.	団体名	役職
1	沖縄市経済文化部	部長
2	沖縄市経済文化部	次長
3	沖縄市経済文化部雇用対策課	課長
4	沖縄市教育委員会指導部指導課	課長
5	沖縄市立島袋小学校	校長
6	沖縄県立美里高等学校	校長
7	沖縄市立諸見小学校	校長
8	沖縄商工会議所	総務部長
9	社団法人沖縄市観光協会	事務局長
10	沖縄県中小企業家同友会中部支部	副支部長
11	社団法人沖縄青年会議所	副理事長
12	NPO法人こども家庭リソースセンター沖縄	理事長
13	特定非営利活動法人キャリア教育推進協議会	部長

(2) 事業計画（実績）報告

昨年度のモデル実施の課題を踏まえ、今年度は、保護者や受入企業がジョブシャドウイングへの理解を深めることができるよう、PTA及び保護者向け説明会、受入企業交流会を計画し、また、学校間においては縦の連携を図るキャリア教育研修会を計画した。また、生徒の在籍数が多い中学校においては、職場体験学習にジョブシャドウイングの観察の視点を導入した取組みを計画し、さらなる職場体験学習の充実に向けて円滑な実施を目指した。

月	実績
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・実施校調整 ・事業局の研修参加 ・第1回 協議会開催
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・島袋小学校訪問・美里高等学校訪問 調整 ・島袋小学校 PTA 役員会向け説明会 ・第2回 協議会開催 ・諸見小学校保護者向け説明会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・受入企業交流会 ・美東中学校 担当教諭打ち合わせ ・受入企業開拓
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・美東中学校事前学習 ・美東中学校職場体験 ・諸見小学校校内研修

8月	<ul style="list-style-type: none"> ・島袋小学校校内研修 ・教育委員会指導課 指導主事打ち合わせ ・受入企業開拓、調整
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研修会 ・受入企業開拓、調整
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・島袋小学校 保護者向け説明会 ・美里高等学校 第1回事前学習 第2回事前学習 第3回事前学習 ・諸見小学校 第1回事前学習
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・メンター説明会 ・<u>美里高等学校ジョブシャドウイング実施</u> ・美里高等学校 事後学習 ・諸見小学校 第2回事前学習 ・諸見小学校 第3回事前学習 ・<u>諸見小学校ジョブシャドウイング実施</u> ・諸見小学校 事後学習 ・島袋小学校 第1回事前学習 ・島袋小学校 第2回事前学習 ・島袋小学校保護者向けキャリア教育講演会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・美里高等学校成果発表会 ・<u>島袋小学校ジョブシャドウイング実施</u> ・島袋小学校 事後学習 ・美里高等学校ヒアリング
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・島袋小学校発表会 ・諸見小学校発表会 ・宮里中学校 事前学習 ・宮里中学校職場体験学習 ・島袋小学校ヒアリング ・諸見小学校ヒアリング
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けての調整 ・第3回 協議会開催
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けての調整 ・島袋小学校パネル展 ・諸見小学校パネル展 ・第4回 協議会開催

(3) 【受入企業リスト】

沖縄市グッジョブ連携協議会会員の協力のもと、受入企業開拓を行った。地域連携というテーマから学校所在地域の企業を中心に開拓を行った。また、学校から多くの企業で学ぶことを目指したいという要望があり、より多くの企業に向けて開拓を行った。

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	松田整骨院	医療業	3	協議会
2	フラワースタジオ 春らんまん	その他の小売業	2	協議会
3	有限会社ラミネックスセンターコザ店	印刷・同連関連事業	2	同友会
4	沖縄電力株式会社 お客様本部うるま支店	電気業	3	事業局
5	株式会社サンエーメインセンター	各種商品小売業	8	事業局
6	有限会社浦崎金物店	その他の小売業	6	商工会議所
7	株式会社ももやま	その他の小売業	3	同友会
8	株式会社仲本工業	総合工事業	1	同友会
9	ハウス産業株式会社	総合工事業	1	同友会
10	ファミリーマート沖縄こどもの国前店	飲食料品小売業	4	協議会
11	株式会社サンニン	総合工事業	1	同友会
12	株式会社川畑自動車学校	その他の教育、学習支援業	6	商工会議所
13	東京第一ホテル オキナワグランメールリゾート	宿泊業	4	観光協会
14	株式会社ワールドツーリスト	その他の生活関連サービス業	4	商工会議所
15	ペットメディカルセンター・エイル	技術サービス業	5	協議会
16	美容室 LOOP	美容業	1	島袋小本部
17	沖縄市立図書館	その他の教育、学習支援業	4	協議会
18	沖縄商工会議所	経済団体	1	商工会議所
19	NPO 法人子ども家庭リソースセンター沖縄	社会保険・社会福祉・介護事業	2	リソース
20	菓子工房ソレイユ	飲食品製造業	2	協議会
21	キングラン沖縄株式会社	洗濯業	2	同友会
22	Cake&pie なつのや製菓	飲食品製造業	1	協議会
23	株式会社アメニティ だいこんの花美里店	飲食店	2	協議会
24	デイゴホテル	宿泊業	6	観光協会
25	医療法人ちゅうざん会 ちゅうざん病院	医療業	5	協議会
26	生活協同くみあい コープおきなわ 美里店	各種商品小売業	2	リソース
27	生活協同くみあい コープおきなわ 山内店	各種商品小売業	4	リソース
28	専門学校日経ビジネス	学校教育	2	商工会議所

29	公益財団法人沖縄こどもの国	その他の教育、学習支援業	6	協議会
30	NPO 法人エンジェル工房 島人 factory	社会保険・社会福祉・介護事業	3	リソース
31	株式会社ミュージックウェーブ	娯楽業	1	観光協会
32	琉球開発株式会社	職別工事業	3	事業局
33	琉球道路株式会社	職別工事業	1	事業局
34	ピザハウス jr Maxvalue 泡瀬店	飲食店	2	協議会
35	心躍心笑	その他の生活関連サービス業	1	協議会
36	有限会社まあさんど (我部祖河食堂)	飲食品製造業	1	リソース
37	株式会社 FM コザ	放送業	6	商工会議所
38	リーダーズ幼児学園	社会保険・社会福祉・介護事業	7	協議会
39	沖縄郵便局	郵便局	6	協議会
40	沖縄市国際交流協会	生活関連サービス業	2	リソース
41	沖縄市立学校教育センター 諸見調理場	地方公務	3	協議会
42	沖縄市立学校教育センター 第1調理場	地方公務	2	協議会
43	有限会社フラワースタジオひるがお ゴヤ店	その他の小売業	3	同友会
44	有限会社オブジェ	その他の事業・サービス業	4	商工会議所
45	株式会社アロエース	飲食品製造業	2	商工会議所
46	ロープス株式会社	情報サービス業	6	雇用対策課
47	沖縄市消防本部	地方公務	6	協議会
48	沖縄医療生活協同組合 中部協同病院	医療業	7	協議会
49	インビレッジネイル泡瀬店	洗濯・美容・理容・浴場業	4	商工会議所
50	公益社団法人沖縄市シルバー人材センター	その他の事業サービス業	2	協議会
51	学校法人胡屋バプテスト学園 愛星幼稚園	学校教育	2	協議会
52	美容室やまうち	美容業	2	諸見小本部
53	株式会社プラザハウス ロージャース	各種商品小売業	5	同友会
54	有限会社太陽光沖縄	設備工事業	1	青年会議所
55	沖縄市就労支援センター	地方公務	1	雇用対策課
56	NPO 法人サポートセンターゆめさき	その他の教育、学習支援業	1	雇用対策課
		合計	177	

(注) 取りまとめ窓口の正式名称は以下の通り。

雇用対策課：沖縄市雇用対策課／商工会議所：沖縄商工会議所／観光協会：沖縄市観光協会／
同友会：沖縄県中小企業家同友会中部支部／青年会議所：沖縄青年会議所／
リソース：こども家庭リソースセンター沖縄／事業局：グッジョブおきなわ推進事業局／
島袋小本部：島袋小学校学校支援地域本部／諸見小本部：諸見小学校学校支援地域本部／
協議会：沖縄市グッジョブ連携協議会事務局

3 実施校 活動報告

※ JS：ジョブシャドウイングの略

※ コマ数（1校時）：小学校45分、中学校、高校50分、大学90分を指す

1. 沖縄市立諸見小学校（新規）

1	学校情報	校 長：新垣 孝哉				
		住 所：〒904-0021 沖縄市胡屋2丁目3番1号				
		電 話：098-933-3400	FAX：098-932-6874			
	実施概略	対象学年： 6年生 3クラス 109人（内 実施107人）				
		担 当：比嘉史子（1組担任）、金城寿（2組担任）、豊嶋晴美（3組担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成25年10月31日 平成25年11月7日 平成25年11月14日		10コマ	2コマ 2コマ 2コマ	16コマ
	JS実施：平成25年11月21日			4コマ	4コマ	
	事後学習：平成25年11月29日			2コマ		
	発表会：平成26年1月26日		10コマ		12コマ	
実施の ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイングの実施を6年生の総合的な学習時間のカリキュラムに組み入れ、児童へジョブシャドウイングに対する動機づけを効果的に行い、今後、学校で継続して取り組むためのジョブシャドウイングプログラムの安定化をすすめる。 ・ジョブシャドウイングプログラムを通して、働くことへの気付きを促す。 ・社会人としての規律、礼儀、言葉づかいの大切さを知る機会とする。 ・将来の生き方を考え、進路の選択に生かせるような機会とする。 ・活発な自治会活動と地域人材の協力の下に学校運営が行われている。協力団体や地域人材との協働を図り、沖縄型産官学・地域連携グッジョブ事業の目指す地域の人材育成の型づくりを行う第一歩の取り組みとする。 					
事前学習 内容	<p>事前学習は、先生方と子ども達の様子を確認し、「夢と希望を持っている児童が少ない」、ということから、夢と希望を持つために必要なこと、働くことに興味を持つことができる内容にした。また、ジョブシャドウイングを行うためマナーの習得を目指した内容を盛り込んだ。</p> <p>・事前学習1（動機づけ） 働いている大人について、見たことや聞いたことを中心に働くことに意識を向けるようにした。 「大人になるとなぜ働くのか」と問うた際に、多くの児童が「お金のため」と答えたため、その「お金」で何ができるのかを考えた。 お金は衣食住を満たすために必要なものではあると同時に、お金で人助け、ボランティアもできるし、学校や病院、公園や道路など社会を作ることにもできる、お金は社会に役立つことができるものだということを学んだ。 また、ジョブシャドウイングのDVDを視聴し、ジョブシャドウイングの取り組みについて学んだ。 最後に児童に将来の夢を書いてもらい、その夢を二人ペアで発表しあう、「夢発表会」を行った。</p>					

	<p>・事前学習2 (マナー講座)</p> <p>事前学習はマナー講座を行った。働く現場で実践されているマナーを児童に伝えたいと考え、講師の選定を行った。</p> <p>講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋俊博氏 東京第一ホテルオキナワグランメールリゾート バンケット・飲料予約 マネージャー <p>ホテルの説明、プロフェッショナルとアマチュアの違いについてのお話。</p> <p>ホテルマンとしての高橋氏は、世界一楽しく幸せな仕事を「生業(なりわい)」とし、仕事は人生をかけて取り組むこと、と伝えた。</p> <p>ここからは、実際にロールプレイングを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接客の基本 ・接遇の5原則 ・あいさつの仕方 ・立ち振る舞い(接遇の姿勢、礼の仕方) <p>このロールプレイングは、ホテルで実際に行っている方法を用いた。特に笑顔、声のトーンに気をつけた。</p> <p>最後に、名刺を使用しての挨拶の練習では、友達と一緒に名刺交換を行った。</p> <p>当初、子ども達は緊張の様子であったが、講師は親しみやすく、次第に緊張が和らぎ、笑顔での取り組みとなった。あいさつや礼は担任も驚くほど、素晴らしい立ち振る舞いであった。</p>
<p>事後学習内容</p>	<p>事後学習は、ジョブシャドウイングで学んだことの振り返りと新聞の作り方について説明を行った。</p> <p>振り返りは、ワークシートを使い、一つ一つ記入をしていった。ワークシートの内容は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞づくりの目的 ・受入企業と仕事内容について ・メンターさんに質問したこと ・メンターさんのすごいところ ・ジョブシャドウイングで学んだこと ・すぐにできること、これから活かしていきたいこと ・ジョブシャドウイングを体験してみんなに伝えたいこと <p>新聞の作り方は、新聞づくりマニュアルを配布し、新聞づくりの基礎を学べるようにした。内容は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レイアウト基本の三種類 ・見出しの書き方
<p>発表会</p>	<p>発表会は、学校行事である学習発表会を活用して行った。</p> <p>演技名「What do you want to be?」</p> <p>ねらい「将来の夢やビジョンを描くきっかけとして、調べたことを様々な形態で伝えることができる。」</p> <p>発表会の構成として、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語を使つての挨拶 2. ジョブシャドウイングの説明

	<p>3. 事前学習の説明 職業人講話で学んだこと マナー講座で学んだこと</p> <p>4. 事後学習の説明 お礼状作成 新聞づくり</p> <p>5. ジョブシャドウイングで学んだこと の流れで行われた。 発表会の企画は子ども達が行い、様々な工夫がされていた。 職業人講話で学んだことを、保護者参加型のクイズを行い、また、マナー講座で学んだ座り方、名刺交換についての良い例と悪い例を実践し、その違いについて説明を行った。 受入企業の紹介を兼ねて、学んだことの発表を行った。 子ども達の思いが詰まった発表会で、参加者の感動を誘う素晴らしい内容であった。 ＜参加企業＞ ・東京第一ホテル・ちゅうざん病院・NPO 法人エンジェル工房 ・株式会社アロエース</p>
<p>職業人 講話</p>	<p>今回の職業人講話は、社会で活躍している職業人の過去、現在、未来についての講話を依頼した。</p> <p>講師が子どもの頃に何を思い、何に取り組んできたか、現在ほどのような仕事に組み、どのような思いで働いているのか、そして将来はどのような取り組みをしていきたいか、夢はどのようなことかについて聞くことで子ども達が将来活躍するために必要なことは何かを考えるきっかけとなり、将来に夢と希望を持てる時間になることを目指した。</p> <p>講師 ・江口真樹氏 インビレッジネイル代表 ・曾根史郎氏 中部徳洲会病院看護師長</p> <p>江口氏は社会人になり、趣味でネイルを始め、そこからより専門的な知識を身に付ける為にスクールに通った後、起業し2店舗の代表となった。スクールで勉強を始め、学生時代に学ぶべき基礎基本の大事さを痛感し、学びなおした。今の私が存在していることを児童に伝えた。また、好きなことを見つけるために、いろんなことにチャレンジして欲しいと話した。</p> <p>曾根氏は手術室の看護師長として、生死を分ける手術を行ってきた。その経験から、仕事というのは責任のあるもの、そして感謝されるものと児童に伝えた。</p> <p>看護師という職業はハードルが高く、勉強もたくさんしなければならないが、患者やその家族からは「ありがとう」とお礼を頂ける、とてもありがたい仕事というお話があった。</p> <p>児童は講師の話に熱心に耳を傾け、メモを取っていた。 質問も多く、とても盛り上がり、江口氏に社長として部下をまとめるのは大変ではないか、など質問があった。曾根氏には手術の実例、将来の夢についての質問が多くあった。</p>
<p>保護者・ 地域</p>	<p>地域の園田交通安全友の会が登校時の交通安全指導を行っているなど、地域と密接な連携のもと学校運営が行われている。</p> <p>受入企業開拓では、学校支援地域本部コーディネーター岸本幸子氏に協力を仰いだ。</p>

	<p>保護者向けの説明会は、PTA総会に時間を設け、多くの保護者にジョブシャドウイングと送迎サポーターの協力について伝えることができた。</p> <p>当日の送迎サポーターは、学校から保護者へ文書を発送し、募集した。保護者19人の協力を得ることができた。</p> <p>また、保護者自身の児童の送迎ができなくても、快く引受けてもらうことで、送迎もとてもスムーズに行うことができた。</p>
その他	<p>学校での取組みとして、ジョブシャドウイング当日は、雨天の場合なども考慮し、児童は全員カバンにタオルと着替えを準備した。</p> <p>先生より、出発式終了後から出発するまでの時間に、引率サポーターと子ども達のコミュニケーションを図るため、名刺交換をさせてはどうだろうかという意見があり、これまでは自己紹介のみであったが、今回は練習を兼ねて名刺交換をしながらの自己紹介を行った。</p>

2. 沖縄市立島袋小学校（継続校）

2	学校情報	校 長：伊波 シゲミ				
		住 所：〒904-0023 沖縄市久保田2丁目21番1号				
		電 話：098-933-3365	FAX：098-932-6872			
	実施概略	対象学年：6年生2クラス 41人（内 実施41人）				
		担 当：稲福正（1組担任）、幸喜知子（2組担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成25年11月20日 平成25年11月26日		10コマ	2コマ 2コマ	14コマ
		J S実施：平成25年12月13日			4コマ	4コマ
		事後学習：平成25年12月17日 発表会：平成26年1月24日		4コマ 2コマ		6コマ
	実施の ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ジョブシャドウイングの実施を6年生の総合的な学習時間のカリキュラムに組入れ、児童へジョブシャドウイングに対する動機づけを効果的に行い、今後、学校で継続して取り組むためのジョブシャドウイングプログラムの安定化をすすめる。 ジョブシャドウイングプログラムを通して、働くことへの気づきを促す。 社会人としての規律、礼儀、言葉づかいの大切さを知る機会とする。 将来の生き方を考え、進路の選択に活かせるような機会とする。 活発な自治会活動と地域人材の協力のもとに学校運営が行われている。昨年度は、協力団体や地域人材の協力を得ることで、円滑に実施することができた。今年度は更なる連携、協力を図り、沖縄型産学官・地域グッジョブ事業の目指す地域の人材育成の型づくりを行う。 				
事前学習 内容	<p>事前学習は、子ども達が積極的に取り組めるよう、動機づけを中心にした内容で、また、ジョブシャドウイングを行うためマナーの習得を目指した内容を盛り込んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前学習1（動機づけ） <p>働いている大人について、見たことや聞いたことを中心に働くことについて意識を向けるようにした。身近な大人や身近な仕事から、働いている人の表情や動き、服装などを思い出し、仕事によって表情や動き、服装などが違うことを理解した。</p> <p>「大人になるとなぜ働くのか」と問うた際に、多くの児童が「お金のため」と答えたため、その「お金」で何ができるのかを考えた。</p>					

		<p>お金は衣食住を満たすために必要なものではあると同時に、お金で人助け、ボランティアもできるし、学校や病院、公園や道路など社会を作ることにもできる、お金は社会に役立つことができるものだということを学んだ。</p> <p>また、ジョブシャドウイングのDVDを視聴し、ジョブシャドウイングの取組みについて学んだ。</p> <p>最後に児童に将来の夢を書いてもらい、その夢を二人ペアで発表しあう、「夢発表会」を行った。</p> <p>・事前学習2（マナー講座）</p> <p>事前学習はマナー講座を行った。働く現場で実践されているマナーを児童に伝えたいと考え、講師の選定を行った。</p> <p>講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋俊博氏 東京第一ホテルオキナワグランメールリゾート バンケット・飲料予約 マネージャー <p>ホテルの説明、プロフェッショナルとアマチュアの違いについてのお話。</p> <p>ホテルマンとしての高橋氏は、世界一楽しく幸せな仕事を「生業（なりわい）」とし、仕事は人生をかけて取り組むこと、と伝えた。</p> <p>ここからは、実際にロールプレイングを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接客の基本 ・接遇の5原則 ・あいさつの仕方 ・立ち振る舞い（接遇の姿勢、礼の仕方） <p>このロールプレイングは、ホテルで実際に行っている方法を用いた。特に笑顔、声のトーンに気をつけた。</p> <p>最後に、名刺での挨拶の練習では、友達と一緒に名刺の交換の練習を行った。</p> <p>元気いっぱいの子も達で、当初はおしゃべりなども見受けられたが、徐々に引き締まった表情になり、あいさつや礼などを行うときは、真剣に取り組むことができた。</p>
事後学習内容		<p>事後学習は、学校単独実施で、以下の通り取組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お礼状作成 ・壁新聞作成
発表会		<p>授業参観日に合わせて、発表会を開催した。3つの教室に分かれ、事後学習で作成した壁新聞を用い、ポスターセッションを行った。</p> <p>受入企業や、メンターの仕事について、クイズを行うなど、発表の仕方に個性がある内容となっていた。質問も活発に出る中で、メンターからの鋭い質問もあり、非常に盛り上がった発表会であった。</p> <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京第一ホテル ・沖縄市消防本部
職業人講話		<p>学校主催の5、6年生進路指導講演会「未来の仕事を探そう」学校支援地域本部コーディネーターが中心となって実施。事務局は講師1人を紹介した。</p> <p>講師の職業は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・ブライダルシンガー ・記者（琉球新報） ・義肢製作師 ・海上保安官 ・物理学者

	<p>講演会の内容は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この職業に就こうとしたきっかけ ・この職業に就くために必要なこと、大事なこと ・仕事をやっていて大変なこと ・仕事をやっていてよかったこと <p>義肢製作師の講師は義肢製作用の材料の石膏を使い、子ども達の指で型を作った。 海上保安官の講師は、海に捨てたらダメなものとして、「ゴミと命」を強く訴えていた。</p>
保護者・地域	<p>校区が久保田自治会のみとなっており、久保田自治会との連携が密に取られている。 引率サポーター募集は、学校が文書を発送した。修学旅行説明会時に、保護者向けにジョブシャドウイングと引率サポーター募集について説明を行った。 応募状況が芳しくなかったが、学校支援地域本部コーディネーターの協力を得ることで、引率サポーターは9人の協力があった。そのうち2人は昨年もサポーターとして協力をしていた。また、久保田自治会長も引率サポーターとして参加した。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング実施当日の放課後、児童5人が受入企業を訪れ、メンターと交流を深めた。また、後日、児童が再度受入企業を訪れ、仕事のお手伝いを行った。

3. 沖縄県立美里高等学校（継続校）

3	学校情報	校 長：安里 辰洋			
		住 所：〒904-2151 沖縄市松本2丁目5番1号			
		電 話：098-938-5145	FAX：098-938-5419		
実施概略	対象学年	1年生1クラス 30人（内 実施29人）			
	担 当	浜口忠俊（進路指導主任）			
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習	平成25年10月9日 平成25年10月16日 平成25年10月23日		2コマ 2コマ 2コマ	
			2コマ		8コマ
	J S 実施	平成25年11月13日		4コマ	4コマ
事後学習	平成25年11月20日	4コマ			
発表会	平成25年12月6日	2コマ		6コマ	
実施のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな職種・役割を実際の職場でじっくり観察することで「仕事」や「働く」ことについて考える機会とする。 ・ 地域の企業と関わることで企業の求める人材や社会での企業の役割等を知る。 ・ 卒業後の自身の進路先について早期に考え、将来の目標への学習の計画や就職活動に対する準備・取組みへの出発点とする。 				
事前学習内容	<p>事前学習は、担任より人前で発表することが不得意な生徒が多いということで、生徒の主体的な活動と発表の回数を増やし、あいさつなど礼儀作法のマナー講座を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習1（動機づけ） グッジョブ運動について知る ジョブシャドウイングを行う理由を考える 夢発表会 				

	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習2（自己理解） 自己表現（漢字1文字で自分の気持ちを表現） インタビュー（ペアで） 発表会 ・事前学習3（マナー講座） 前半は座学を行った。講師自身が社会に出て複数の仕事に就くことから学んだことをわかりやすく伝えた。内容は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・サービス業のプロフェッショナル ・『自分探し』は、『仕事探し』 = 「生業（なりわい）」 ・接客の基本 おしゃれと身だしなみについて 後半は実践として、特に声出し、笑顔の取り組みに時間をかけていた。 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ（あいさつができない社会人は、社会人にあらず） ・立ち振る舞い ・名刺交換 生徒も次第に声が出てきて、笑顔で取り組むことができていた。
事後学習 内容	事後学習は、学校が中心となって、以下の通り、取組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・お礼状作成 ・壁新聞作成 ・プレゼンテーション資料作成
発表会	ジョブシャドウイングとインターンシップの合同体験発表会で、全校生徒が参加し、1年生のジョブシャドウイング、2年生のインターンシップの取組みの情報共有と仕事についての学習の場として実施した。 ジョブシャドウイングの発表は、プレゼンテーション用ソフトウェアを使用して以下の3企業での取組みについて、発表を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・サンエーメインシティー ・株式会社FMコザ ・川畑自動車学校 そのほかの受入企業については、壁新聞を体育館内に掲示した。 <参加企業> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄市消防本部 ・川畑自動車学校 ・株式会社FMコザ ・沖縄市雇用対策課
職業人 講話	学校単独実施
保護者・ 地域	引率サポーターの募集は、学校から文書を発送し、3人の保護者が引率サポーターとして協力した。 美里高等学校と地域の関わりは、学校評議員に地域代表者（自治会長）が委嘱されており、学校運営に地域の意見を反映させている。 毎年9月にグリーンデイを実施し、生徒が地域の清掃を行っている。また、台風後の地域の清掃活動も実施している。
その他	お礼状は、発表会の案内文書を同封して、学校が受入企業に郵送した。 FM放送局でジョブシャドウイングを行った生徒2人が、実施後、FM放送局にてパーソナリティとして働き始めた。

◆取組みの様子



マナー講座です



社長のお話ですよ



看護師はすごいぞ



サポーターの紹介



しっかり観察しています



お父さんと記念撮影



接遇の姿勢



出発前の記念撮影



送迎よろしくお願ひします



仕事は難しそうだなあ



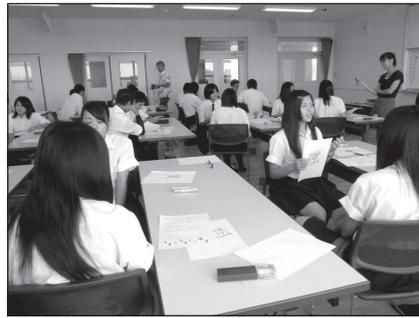
お花がたくさん



お母さんと記念の一枚



手を握り合って



漢字一文字で私を表現



おもてなしができるかな



出発前に気合いを入れて



指先がきれいになります



先生と一緒に



メンター説明会



先生方と意見交換



学校で受入企業交流会



キャリア教育研修会



意見交換実施中



協議会の様子

4 ヒアリング及びアンケート考察

【実施校】

<諸見小学校>

実施後の感想として、事前学習のマナー講座や職業人講話、受入企業数の豊富さや事務局のサポートについて、期待していた以上に満足できる取組みとなったということであった。

児童生徒の変化について特筆すべきこととして、あいさつや返事がしっかりできるようになり、接遇の姿勢を常に意識できるようになったなどの変化がみられた。

学校独自で工夫した点として、ジョブシャドウイングへの理解とキャリア教育の必要性の周知を目的とした校内研修の実施、日曜参観日でのジョブシャドウイング説明会の実施、児童が企画する発表会の開催などが挙げられる。苦労した点として、送迎サポーターの募集が挙げられる。

学校全体の取組みとして、年間指導計画にジョブシャドウイングを加え、キャリア教育担当を中心に取組む体制を構築した。また、パソコン室や図書館などは6年生が優先的に使用できる環境であった。保護者への案内等については、公文書の発送、メーリングリスト、学年便り、HPにて行った。

更に、学校と地域を繋げる学校支援地域本部コーディネーターの協力を得ることができ、ジョブシャドウイングを円滑に実施することができた。

学校が受けたい支援や要望については以下の通りである。

- ・お仕事を体験する機会を設けたい。
- ・保護者向けの講演会を実施したい。

<島袋小学校>

今年度のジョブシャドウイングを受入れた理由として、前年度実施し、ジョブシャドウイングの良さを実感できたという点を挙げ、ジョブシャドウイングを十分理解しての取組みとなった。前年度と比較して、2年目となる今年度は実施方法を把握していたことで、非常に円滑に行うことができ、実施しやすかったということであった。

児童生徒の変化について特筆すべきこととして、寡黙な児童が、ジョブシャドウイングを行うことにより、積極的に話し、自己表現できるようになったという変化がみられた。

学校独自で工夫した点として、授業の中で受入企業の調べ学習、マナーや行動についての指導を行った。学校行事としてジョブシャドウイング実施時期にお仕事講話会を実施し、子ども達のキャリア形成支援を行った。また、ジョブシャドウイングへの理解を深めることを目的として、教職員へ校内研修を行った。その研修会ではキャリア教育とジョブシャドウイングの必要性、沖縄市の若年者の雇用状況、進学率について説明をした。また、保護者向けにも講演会を実施し、保護者への意識を高めることができた。

学校全体の取組みとして、ジョブシャドウイングをキャリア教育の目的の中に明記し、学校全体で取組む環境を整備した。また、保護者への案内として、公文書の発送、ジョブシャドウイング説明会、キャリア教育講演会などを実施した。

また、自治会から特に多くの協力があったことから、学校と自治会が連携して取組みを行うことができた事例と考える。自治会長が引率サポーターとして参加し、自治会の協力のもとパネル展を開催するなど（3月上旬予定）様々な取組みができた。学校支援地域本部コーディネーターから今年度も協力を得られたため、昨年以上に連携したジョブシャドウイングを実施することができた。

学校が受けたい支援や要望については以下の通りである。

- ・受入企業についての情報提供。

<美里高等学校>

2年次のインターンシップの前段階としてジョブシャドウイングに取り組んでいるが、学習面への影響も踏まえて取り組んでいる。

良かった点は、以下の通りである。

- ・生徒の仕事に対する意識の向上
- ・発表会では発表者に選出された生徒が積極的に取り組みを行った。
- ・事前学習、ジョブシャドウイング実施、事後学習、発表会という流れがとても良かった。

学校独自の工夫点は、インターンシップとジョブシャドウイングの実施報告会の開催で、全校生徒が参加しており、体験していない生徒への就業の意識を高め、情報共有の場となっている。

学校の課題としては、時間の確保が挙げられた。

学校が受けたい支援や要望については、以下の通りである。

- ・実施時間は2時間では短く感じるため、もう少し長くすることはできないか。
- ・マナー講座が大変素晴らしく、1回だけではなく、2回以上実施することはできないか。
- ・美容系、情報通信産業系、介護系の就職者が多いため、受入企業を増やして欲しい。
- ・企業の採用担当者の声、採用の基準などを生徒に伝える機会を設けることはできないか。

【児童生徒】

<諸見小学校>

沖縄市では、はじめての100人規模の実施となった。担当教諭との連携を円滑に行うことができ、児童も積極的に発言し、取り組むことができた。

事前アンケートでの「どのような仕事に興味がありますか?」という質問に対し、32人が「おしゃれにまつわる仕事」「スポーツに関わる仕事」、31人が「命を救う、人を助ける仕事」であった。「普段、仕事の事や仕事の話、どんな所から聞いたり話したりしますか?」という質問に対し、62人が「お父さん、お母さん」と答え、24人が「聞いたり、話したりしない」と答えた。半数以上が保護者と仕事についての会話をしている。「仕事をする事、働くことに対してどんなイメージを持っていますか?」という質問に対し、「楽しい」「やりがいがある」「面白そう」が89人で、児童の多くが仕事に対して、ポジティブなイメージを持っていることがわかる。

実施後のアンケートでは、「ジョブシャドウイング学習を行って見て、仕事をする事・働くことへの感じ方、イメージは変わりましたか?」という質問に対し、93人が「良い方向に変わった」と答え、仕事、働くことのイメージが、更に良くなったと言える。メンターを観察して感じたこととして、「疲れを見せず、挨拶と笑顔があった」「働く大人ってカッコいい」「早く大人になってメンターみたいに働きたい」「一秒も無駄にしないのがすごい」などが挙げられた。「大人になったら、仕事をしたいですか?」という質問に対し、全員が仕事をしたいと答えた。「学校での生活と社会での生活では、どんな所が繋がっていると思いますか?」という質問に対し、83人があいさつ、55人が勉強と答え、学校と社会が繋がっていることを認識できたと考えられる。

<将来に向けて、取り組んでみたい・挑戦してみたい・始めてみたいと思ったこと(一部抜粋)>

- ・将来に向けて、勉強・あいさつ・笑顔を取組んでいきたい。
- ・接遇の姿勢は社会のルールなので大人には接遇であいさつをしたい。そして、社会に出たいと思っています。
- ・私は、パティシエになりたいので、勉強やお菓子作りに挑戦してみたいです。
- ・礼儀正しく、誰かがいやな思いをする言葉使いをしないようにする。

- ・ 将来、ダンスの先生になりたいです。なので、今日行った電力さんみたいに、敬語を使い、礼儀正しい先生になりたいと思いました。
- ・ わからないことがあったらすぐに調べる。困っている人がいたらすぐに助ける。今の勉強をしっかりとする。

<鳥袋小学校>

担任がキャリア教育担当ということもあり、挨拶やお辞儀などのマナーが身についていた。事前学習、事後学習、発表会を含めて、積極的に発言し、取り組むことができていた。

事前アンケートでの「どのような仕事に興味がありますか?」という質問に対し、19人が「動物に関わる仕事」、14人が「命を救う、人を助ける仕事」、13人が「芸術にまつわる仕事」であった。「普段、仕事の事や仕事の話、どんな所から聞いたり話したりしますか?」という質問に対し、24人が「お父さん、お母さん」と答え、12人が「聞いたり、話したりしない」と答えた。

「仕事をする事、働くことに対してどんなイメージを持っていますか?」という質問に対し、「楽しい」、「やりがいがある」、「面白そう」が31人おり、仕事に対してポジティブなイメージを持っていることがわかる。

実施後のアンケートでは、「仕事をする事・働くことへの感じ方、イメージは変わりましたか?」という質問に対し、良い方向に変わったが35人、変わらないが5人で、多くの児童が仕事へのイメージが良い方向に変化している。また、メンターを観察して感じたこととして、「忙しそうにしていたけど、楽しそう」、「一生懸命」など、多くの児童が、大人が真剣に、楽しく働く姿を観察したようだ。「大人になったら仕事をしたいですか?」という質問に対し、全員が仕事をしたいと答えた。「学校での生活と社会での生活では、どんな所が繋がっていると思いますか?」という質問に対し、20人が勉強と答え、仕事と勉強の関係について考えることで、学習への意欲が高まることが期待できる。

<将来に向けて、取り組んでみたい・挑戦してみたい・始めてみたいと思ったこと(一部抜粋)>

- ・ 患者さんに優しくできるように、普段からみんなに優しくしたい。
- ・ 花屋さんに向けて挑戦したい。
- ・ 基本が大事だと言っていたので、デッサンやリアルな絵を描いてみたい。
- ・ 将来に向けて今から少しずつ看護師になるための本を読んだり、インターネットでも調べたりして、看護師の勉強をする。
- ・ 獣医になるために、動物や動物の病気について勉強していきたい。
- ・ お客さんに笑顔で挨拶できるように日ごろから取り組んでみたい。
- ・ 将来はシェフになるために、家でもただ作るのではなくて、考えて作りたい。また、社会を良く知るために、生きていくために勉強や本を読みたいと思っています。
- ・ 始めたいことは算数の計算。挑戦してみたいことは、最近の経済を理解する。

<美里高等学校>

生徒の主体的な活動となるべく取り組んだ。多くの生徒が自分のこととして、主体的にジョブシャドウイングに取り組み、将来の夢、目標に向けて、現在取り組むべきことを考える機会となったが、一部では、受動的な取り組みになっていた生徒がみられたため、主体的な活動となるための動機づけについてさらなる工夫の必要性を感じた。

事前アンケートでの「どのような仕事に興味がありますか?」という質問に対し、13人が「先生」、9人が「命を救う、人を助ける仕事」を挙げていた。「普段、仕事のことや仕事の話をごんどこから聞いたり話したりしますか?」という質問に対し、16人が「お父さん、お母さん」と答え、7人が「聞いたり、話したりしない」と答えた。

「仕事をする事、働くことに対してどんなイメージを持っていますか?」という質問に対し、「楽しい」が3人、「やりがいがある」が10人、「面白そう」が4人と半数以上が仕事に対して、働くことに対して、ポジティブなイメージを持っていて、逆に「大変」が11人、「面白くなさそう」が1人とネガティブなイメージを持っている生徒も半数近くいた。

実施後のアンケートでは、仕事をする事・働くことへの感じ方、イメージは良い方向に「変わった」が24人、「変わらない」が3人と、仕事に対して意識の変化が見えた。メンターを観察して感じたこととして、「働くことは簡単ではない」「仕事にミスがないようにしていた」「仕事の大変さを感じた」と働くことの難しさを感じながらも、「得られる達成感が多い」「辛い面だけではなく、楽しい面もある」など、働くことで得られること、仕事の意義なども感じる事ができた。

「大人になったら、仕事をしたいですか?」という質問に対し、25人が「仕事をしたい」、1人が「仕事はしたくない」と答えた。

<将来に向けて、取り組んでみたい、挑戦してみたい、始めたいこと(一部抜粋)>

- ・今までは積極的ではなかったので、積極的になりたい。
- ・やはり困っている人々を助けられる、やりがいがある仕事をしたいと思った。
- ・勉強を頑張って、3年になって後悔したくない。
- ・英語で会話すること、敬語を使うこと。
- ・自分にはどんな職業があるかをしっかり考えていきたい。
- ・仕事は仲間とのコミュニケーションをとりながらするってことを学んだので、友達とたくさんコミュニケーションをとろうと思った。
- ・いろんな資格を取ってみたい。
- ・挨拶することを心がけたい。

【受入企業】

前年度から継続して受入れた企業が多かったため、ジョブシャドウイング前に不安ではなかったというメンターが58%で、不安だったというメンターが38%であった。

実施中の児童生徒の様子については、「観察態度」「挨拶」「言葉使い」など良かったという声が多数あるが、「意欲」については50人が良かったと答えているが、17人がどちらともいえない、2人が良くなかったと答えている。児童生徒の主體的、積極的な取組となるよう動機づけの工夫が必要である。コミュニケーションについては、「上手くいった」が57%、「どちらとも言えない」「上手くいかなかった」が36%で、児童生徒からの質問・会話が少なかったと13人が答えている。

ジョブシャドウイングを受入れての感想は、「自分自身を顧みることができた」が43人、「仕事を再確認できた」39人、「自分の業務への意識が高まった」が39人となっており、メンターにとっても意義がある取組みになっていると考えられる。「退屈させていないかが気になった」が49人おり、メンターの多くが児童生徒を気にかけていることがわかった。

ジョブシャドウイングが勤労観・職業観の一助になるかという質問に対し、「思う」が65%、「どちらとも言えない」が34%、「思わない」が1%であった。「どちらとも言えない」「思わない」の理由として、時間が短すぎる6人、年齢が若すぎる13人、ジョブシャドウイングでは不足が3人だった。

今後も、受入企業の更なる理解と協力を得て、受入の負担軽減に考慮し、円滑な実施に繋げて行きたい。
主な意見や声としては以下の通りである。(抜粋掲載)

<肯定的意見・感想>

- ・ 送り迎えも時間通りにされていて良かったと思います。
- ・ 今回の諸見小の生徒が熱心で頼もしかったです。
- ・ 参加する児童の事前学習がよく行われていたと思います。
- ・ まだ小学生なので、職業意識についてどの程度理解しているかわからないが、継続して取り組むことで理解してもらえと思う。良い取り組みと思われるので頑張りたい。
- ・ 保護者の方が協力的に送迎などをお手伝いしていて、子どもたちのために頑張っていて頭が下がる思いです。
- ・ 挨拶も良くできていた。緊張している中、精一杯頑張っていたと思います。
- ・ まだジョブシャドウイングの認知度が低いので、いろいろな学校に取入れると良いと思います。
- ・ 素直に学ぶ姿勢できてくれたので気持ちよかったです。
- ・ 地域の児童生徒に素晴らしい内容だと思う。
- ・ 事前の説明が良く、受入れも安心しました。
- ・ 自分も子どもの頃にこんな授業を受けたかったです。団体ではなく少人数なのが良いですね。個人それぞれの気持ちが引き締まります。子どもたちには、社会の一員としての自覚の芽生えのきっかけになってくれたらいいな。自分の将来の希望には、どんなアプローチの方法があるのかをおぼろげながらもつかんでくれたらいいなと思いながら話をしました（とても緊張しましたが）。私も子を持つ親として、ジョブシャドウイングはとてもありがたい授業です。
- ・ 学校・企業・行政が一体となり、子ども達に機会を与える、よい取り組みだと思います。ぜひ、今後もジョブシャドウイングの取り組みを継続していただき、ご協力させていただきたいです。ちなみに、自分が将来の夢や進路について初めて考えたのは、今回ジョブシャドウイングに参加した子ども達と同じ小学校6年生でした。卒業式で将来の夢を壇上で発言して卒業証書を頂くという段取りになったことがきっかけで、自分が将来どんな職業に就きたいかをはじめ真剣に考えました。その後、そこで発表した夢を軸に、将来の進路を考え学校での部活や勉強に真剣に向かい合い、今の自分がいます。将来のことを真剣に考える機会は、できるだけ早く経験させたほうが良いと思います。
- ・ 生徒さんとの積極的な質問や発言、一生懸命な姿勢に私たちが教えるというよりも、教えられたことのほうが多かった。改めて、自分自身の仕事に対する姿勢や業務を見直すべきだと感じた。こういう体験をして生徒たちが将来に活かせたらすごくよいと思います。

<改善が必要との意見・感想>

- ・子どもならではのオリジナリティあふれる質問を期待していました。
- ・家庭でのしつけ、あいさつ、態度、返事などができてから企業訪問したほうが良いのでは。

<要望>

- ・ジョブシャドウイングの内容はすごくいいものだと思う。これは、1企業だけなのでは。児童生徒は1か所を見て、1年間に2度、3度とあればより、いい見方ができると思います。
- ・10～20年後に「こんな体験したなー」と当時子どもだった人からの検証も必要かも。少なくともジョブシャドウイングはしないよりはあっていいと思う。今後の成果が楽しみです。
- ・児童から感想を含めたお礼の手紙が届き、会社でも受けて良かったなど意見がありました。今回の児童が中高に進学してもできる場があればよいと思う。
- ・子ども達の感想を報告してほしいです。

5 実施総括（成果と課題）

	事例	課題	今後の取組についての展望・改善点
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸見小学校 PTA総会での説明 校内研修開催 ・ 島袋小学校 校内研修開催 PTA役員会にて説明会 保護者向け説明会開催 保護者向け講演会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美里高等学校での保護者向け、教職員向けの説明会等の未実施 ・ 保護者への更なる働きかけ、特に発表会の参加者が少ない状況がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修等でのジョブシャドウイングの周知とキャリア教育の必要性の周知。 ・ PTAとの連携を図る。 ・ 保護者向け説明会の開催。
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校支援地域本部コーディネーターとの連携 ・ キャリア教育研修会の協同開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に問題なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校支援地域本部コーディネーターとの連携強化 ・ キャリア教育研修会の実施
地域コミュニティー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 久保田自治会 自治会長の送迎サポーターとして参加、バスの提供、公民館でのパネル展実施。 ・ コミュニティーFMにてグッジョブ運動の周知を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に問題なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会でのパネル展の開催 ・ 地域住民へのグッジョブ運動の周知を図る。

行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出発式、引率サポーターとして参加。 ・ 庁内での周知 ・ 広報誌掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に問題なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての実施校のジョブシャドウイングの広報誌掲載を目指す。
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジョブシャドウイングの受入企業紹介依頼 ・ ジョブシャドウイング児童生徒受入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に問題なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジョブシャドウイング及び地域連携についての理解を深め、受入企業数を増やす。
協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年3回の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熟議の場となる工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熟議の場となるよう、年3回の協議会開催を目指す。

6 その他の取組や実績

■サポーター感謝状の贈呈

ジョブシャドウイング実施における送迎を担う送迎サポーターの皆様に、協議会事務局より、子ども達と撮影した写真を加えた感謝状を贈呈した。

■受入企業交流会【平成25年6月27日】

ジョブシャドウイング事業をより効果的に実施するために、受入企業を対象とした勉強会を開催した。企業側が同事業についての理解を深めるため、受入側としての心構えや児童生徒とのコミュニケーションの取り方等を習得し、また同事業に関する質疑応答等、意見交換と学びの場として設けた。内容は以下の通り。※島袋小学校にて開催。授業参観や学校との交流も行った。

- ①ジョブシャドウイングについての学習会
- ②仕事の観察方法について
- ③各企業の取組みに関する意見交換
- ④児童生徒とのコミュニケーション方法について

■キャリア教育研修会【平成25年9月5日】

教育委員会指導課と協議会事務局との共同開催で、市内小中高等学校キャリア教育及び進路担当者、行政、企業、NPOが集い、沖縄市の児童生徒のキャリア教育のあり方について考える場を設けた。内容は、以下の通り。

- ①若年者の失業率、離職率等について 沖縄市グッジョブ連携協議会事務局
- ②沖縄市のキャリア教育施策について 沖縄市教育委員会指導課
- ③社会、企業が求める人材像について 沖縄県中小企業家同友会中部支部
- ④若年者支援事業について 沖縄市雇用対策課
- ⑤グループシェア 「沖縄市におけるキャリア教育の現状と課題」
- ⑥発表

■中学生職場体験学習

通常の職場体験学習にジョブシャドウイングの観察の視点を加えた職場体験学習を2校実施した。職場体験学習で仕事を体験し、仕事のやり方などを学び、観察をすることで仕事の意味ややりがいなどを学んだ。

7 次年度への展開

■実施内容

- ① 児童生徒の興味関心を刺激する良い機会を作り出すことで、夢や希望の芽生えを促し、就業意識の向上に寄与することを目的にジョブシャドウイングを実施する。
- ② キャリア教育研修会等を開催し、教職員の連携を図り、キャリア教育の意見交換及び情報共有の場として活用する。
- ③ 小中高校生や保護者を対象とした就業意識向上支援事業の実施により、沖縄市の就業意識の向上に資するイベント等を実施する。

■ジョブシャドウイング実施

- ・小学校 3校実施（予定）
- ・中学校 2校実施 ※職場体験学習にジョブシャドウイングの観察の視点を取り入れ実施する。
- ・高等学校 1校実施（予定）

■企業

昨年度受入企業数35社、今年度受入企業数が56社、協議会会員の協力のもと受入企業の開拓を行うことができた。次年度以降の実施規模拡充を踏まえ、事業所への更なる理解を得る取組みとジョブシャドウイングの理解がより深まる説明会のあり方を検討していきたい。

■地域連携

平成25年度は学校支援地域本部コーディネーターの協力のもと、地域連携を図り、引率サポーター募集、地域の企業の紹介、自治会への橋渡しなど、多くの成果が得られた。平成26年度も学校支援地域本部コーディネーターをはじめ、自治会、PTAなど地域人材との連携を図り、子ども達の就業意識向上に繋がる取組みを実施していく。

2 北中城地区

平成25年 北中城村グッジョブ地域連携協議会

1 平成24年度 活動概況

(1) 協議会発足の背景

北中城村は村面積の約18%を軍用地が占めており、全体的に丘陵地で平地が少ないため、まとまった住宅地や畑の耕作面積も少ない。産業別人口を見ても第1次産業2.5%、第2次産業17.8%、第3次産業79.6%で第3次産業の割合が非常に高く(平成20年調べ)、完全失業率も13.8%(平成22年国勢調査)と県平均を上回っており、雇用問題について慢性的な課題を抱えている。

平成19年の雇用対策法の改正後、自治体における雇用政策の努力義務が明記されたものの、大きな雇用の受け皿となる主たる産業をもたない本村において、具体的な雇用政策としての取組みはなかなか進んでいなかった。そのような中で沖縄県が推進するグッジョブ運動で、沖縄の高い失業率の問題を教育・産業・行政との連携に活路を見出そうとする取組みが注目され、本村においても導入を検討し、平成23年度の地域支援型グッジョブ推進事業の導入を経て、昨年度準備会を発足させた。

(2) 平成24年度活動スケジュール

月	ジョブシャドウイングモデル実施にかかる活動	準備会 活動
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・実施校の選定 ・地区連携推進員への研修参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・選定決定 ・連携推進員の雇用、配置
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一回連絡調整会の開催 ・企業開拓
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者説明会（ブース） ・校内研修会 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告（報告書）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習（職業人講話を含む） ・メンター説明会 ・ジョブシャドウイング実施 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習 ・発表会 ・お礼 ・アンケート集会 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成 ・北中城まつりブース出展による周知広報
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習（職業人講話） 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長会参加（報告） ・ジョブシャドウイングパネル展
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度実施校の依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度実施校募集、選定 ・報告書作成

(3) 平成25年度への展望

	平成24年度の課題	改善策
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体に対する事業の理解 事業理解と協力要請の体制作り 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体のキャリア教育に対する意識を高める 送迎サポーターを確保する体制・仕組み作り
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> 教育機関内の情報共有と連携体制 日程や時間など実施校との調整補助 ジョブシャドウイング事業に対する理解 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教育機関への情報発信と調整支援の依頼 学校支援地域本部コーディネーターとの連携 事前学習の講師としての協力依頼
地域 コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 講師の発掘 村内への周知 	<ul style="list-style-type: none"> 協力体制作りと周知依頼
行政	<ul style="list-style-type: none"> 関連機関との連携と協力体制作り 広報活動の方法 	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な計画の実行 広報周知と定着
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> 村内受入企業の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 受入企業及び講師の確保と管理の工夫
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 会員が事業に絡むための工夫 情報発信の方法 	<ul style="list-style-type: none"> 受入企業及び講師の確保と管理の工夫 情報の発信（提供） 年間事業計画

2 平成25年度の活動概要

本年度、北中城地区は、昨年実施した島袋小学校に加えて新たに、北中城小学校で実施した。北中城小学校には、ドリームウォールという取組みがあり、年度初めに1年生から6年生までの児童が各自一枚の板に将来の夢や目標を書き、いつでも見ることが出来る校舎の壁に掲示して、常に目標意識を持たせる工夫をしている。今回6年生にはより具体的に自分の将来を考えることができるように、なりたい職業やなりたい人物像を書かせている。さらに教育長が夢や目標に向かうための講話を毎年行うなど、学校全体で子ども達の夢や目標を育てる取組みが盛んな学校である。このような学校独自の取組みとジョブシャドウイングを組合せることで、「将来、なりたい自分になる目標」という学校の取組みと連携した新たなモデルづくりを行うことを期待した。また、本村には公立小学校2校、中学校1校、高等学校1校があることから、小学校2校に通う児童の多くが同じ中学校に進学することもあり、中学入学時に体験学習の差をつけないため両校で同じプログラムを実施することとなった。

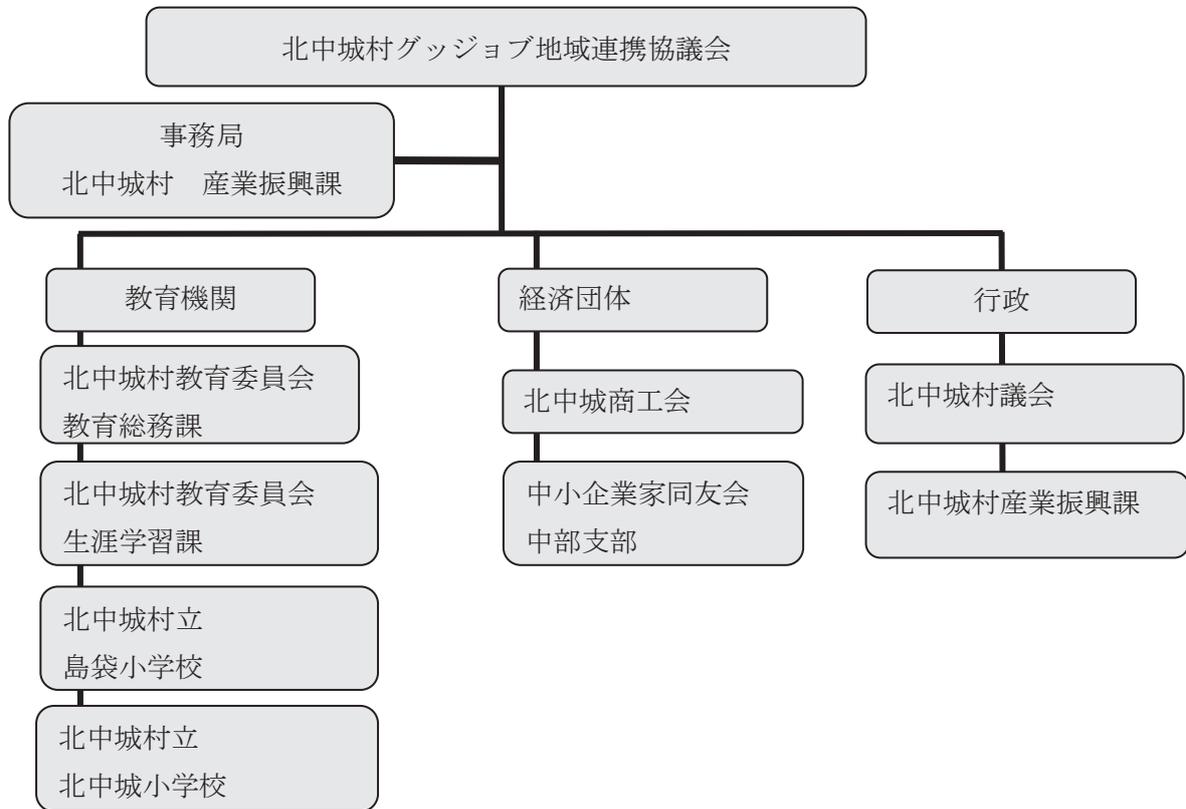
北中城地区において、行政・企業・経済団体や教育機関等を含めた産学官地域連携の場を設けることで、地域におけるキャリア教育の充実と雇用情勢の改善を目的とした協議の場とした。

(1) 協議会について

本年度より、北中城村教育委員会生涯学習課と実施校である北中城小学校が協議会に加わり、教育現場での更なるキャリア教育の推進を図ることを目的に協議会内での連携強化を組むことができた。

協議会名称	北中城村グッジョブ地域連携協議会
所在地	沖縄県中頭郡北中城村字喜舎場426番地2
活動目的(理念)	協議会の活動の理念 本会議は、北中城地区のジョブシャドウイング実施における、実施主体となり、安全でより効果的な実施を担う。北中城地区において、行政・企業・経済団体や教育機関等を含めた産学官地域連携の場をつくり、ジョブシャドウイングを介した産学官地域連携の布石とする。また、北中城地区全体でのキャリア教育の充実に向けた新たな手法の発信体としての機能も併せ持つ。

■構成表



■構成団体名簿

No.	団体名	役職
1	北中城村議会	建設文教委員長
2	北中城村教育委員会 教育総務課	課長
		係長
		指導主事

3	北中城村教育委員会 生涯学習課	課長
4	北中城村立島袋小学校	校長
5	北中城村立北中城小学校	校長
6	北中城村商工会	経営指導員
7	中小企業家同友会 中部支部	支部長
事務局	北中城村 産業振興課	

(2) 事業計画（実績）報告

昨年度実施した島袋小学校に加え、新たに北中城小学校においても実施する運びとなり、村内にある公立全2校の小学校で実施することとなった。村内1校の中学校への進学を控えている児童にとって、どちらの学校でも同様の学びを促すことを狙いとしている。しかし、実施校が1校増えることにより企業への負担が増えることが懸念されたため、体験学習など既存のカリキュラムとの住み分けを考えつつ、構成団体及び地域との協力体制を強化しながら、近隣市町村企業にも受入れの要請を行い実施に取り組んだ。

月	実績	月	実績
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回協議会開催 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・北中城小学校事前学習（第1～3回） ・北中城小学校保護者説明会 ・北中城小学校受入企業開拓 ・北中城小学校事前学習
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・島袋小学校保護者説明会 ・島袋小学校校内パネル展 ・島袋小学校事前学習（第1・2回） ・島袋小学校事前学習（第3回）企業人講話 ・島袋小学校受入企業開拓 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・北中城小学校事前学習（第4回）企業人講話 ・北中城小学校受入メンター説明会 ・北中城小学校ジョブシャドウイング実施 ・北中城小学校事後アンケート実施 ・各企業・事業所ジョブシャドウイング実施後アンケート実施
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・島袋小学校事前学習（第4回） ・島袋小学校事前学習（第5回） ・島袋小学校受入メンター説明会 ・島袋小学校ジョブシャドウイング実施 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・北中城小学校事後アンケート・各企業・事業所ジョブシャドウイング実施後アンケート分析 ・報告書作成 ・北中城小学校事後学習 ・第2回協議会開催
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・島袋小学校事後学習 ・島袋小学校発表会 ・島袋小学校事後アンケート実施 ・島袋小学校パネル展（島袋公民館） 	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター研修 ・北中城小学校受入企業開拓 	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回協議会開催 ・報告書作成
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・北中城小学校受入企業開拓 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書完成

(3) 【受入企業リスト】

昨年度の受入れ実績のある企業に協力要請を行うとともに、協議会構成メンバーより新たな企業の紹介を仰ぎ、開拓を進めた。今年度初の実施となる北中城小学校では実施人数が100人を超えるため、受入企業に関しては村内を中心に近隣の市町村にも開拓先を広げての実施となった。

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	北中城村学校給食共同調理場	学校教育	6	北中城村 教育委員会
2	北中城村立北中城村幼稚園	学校教育	2	
3	北中城村あやかりの杜	その他教育、学習 支援業	5	北中城村 商工会
4	社会福祉法人琉球キリスト教奉仕団 特別養護老人ホーム 愛の村	社会保険・社会福 祉・介護事業	6	
5	株式会社EM研究機構 EMウェルネスリゾートコストビスタ沖縄ホテル&スパ	宿泊業	4	
6	株式会社沖永開発	総合工事業	4	
7	ガレーヂTOMO	機械器具小売業	5	
8	株式会社ココストアイースト ココストア北中城島袋店	飲食料品小売業	5	
9	株式会社佐久本工機	物品賃貸業	6	
10	株式会社チェリーペッパー	その他の卸売業	2	
11	ヘアースタジオ ディード	洗濯・理容・美容・ 浴場業	2	
12	株式会社花時	その他の小売業	4	
13	カフェ&ダイニング ナトゥーラ	飲食店	4	
14	和食 樂	飲食店	4	
15	エイアンドダブリュー沖縄 屋宜原店	飲食店	4	
16	城まんじゅう	食料品製造業	2	
17	普天間自動車学校	その他教育、学習 支援業	4	
18	有限会社ペットクラブ・オーシャン	技術サービス業	2	
19	ローソン北中城安谷屋店	食料品製造業	2	
20	合同会社新里建築設計事務所	総合工事業	6	
21	有限会社向陽技建	総合工事業	1	
22	沖縄環境分析センター	専門サービス業	1	
23	株式会社沖縄エンジニア	総合工事業	1	
24	株式会社サンニン	総合工事業	1	

25	沖縄総合警備保障株式会社	その他の事業 サービス業	3	事務局（北中城 村役場産業振興 課）
26	税理士法人タックスサポート イトカズ	専門サービス業	3	
27	株式会社サニマイト	サービス業	5	
28	株式会社プラザハウス	卸売・小売業	3	
29	沖縄綿久寝具株式会社	洗濯業	3	
30	ゆうな商事	サービス業	1	
31	沖縄県農業協同組合 北中城支店	協同組合	3	
32	中城北中城消防本部	公務	8	
33	中城城跡共同管理協議会	娯楽業	4	
34	社会福祉法人 北中城村社会福祉協議会	社会保険・社会福 祉・介護事業	2	
35	Grace Heart ～グレイスハート～北中城店	洗濯・理容・美容・ 浴場業	1	
36	うらさき鍼灸整骨院	医療業	2	
37	沖縄トヨタ自動車株式会社 コザ店	機械器具小売業	3	
38	社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院	医療業	2	
39	ベーカリーハピネス	食料品製造業	1	
40	沖縄ファミリーマート北中喜舎場店	飲食料品小売業	1	
41	Hair&nail aile	洗濯・理容・美容・ 浴場業	1	
42	特定医療法人アガペ会	医療業	10	
43	株式会社大川（スクエア泡瀬）	その他の小売業	3	
44	喜舎場美容室	洗濯・理容・美容・ 浴場業	1	
45	峠の茶屋	飲食店	当日 児童欠席	
46	ていーだ歯科	医療業	2	
47	ヘアースalonナジーナ	洗濯・理容・美容・ 浴場業	1	
48	株式会社ジローベーカリー	食料品製造業	1	
49	宜野湾スイミングスクール（有限会社ピーコム）	その他教育、学習 支援業	1	
50	北中城村役場	地方公務	5	
51	沖縄県立埋蔵文化センター	その他の教育	2	
52	スズケン沖縄薬品株式会社	その他の小売業	当日 児童欠席	グッズジョブ おきなわ推進 事業局
53	沖縄電力株式会社 うるま支店	電気業	3	
54	NHK沖縄放送局	放送業	3	

55	諸見里利秀税理士事務所	専門サービス業	2	
56	沖縄県立博物館・美術館	その他の教育	2	
57	沖縄県立図書館	その他の教育	1	
58	諸聖徒保育園	学校教育	6	
59	てもみ歓	医療業	2	
60	フラワースタジオ 春らんまん	その他の小売業	1	沖縄市グッジョブ 連携協議会事務局
		合 計	176	

3 実施校 活動報告

※JS：ジョブシャドウイングの略 ※コマ数(1校時)：小学校45分、中学校、高校50分、大学90分を指す

1. 北中城村立島袋小学校 (継続)

1	学校情報	校 長：宇都宮 幸雄				
		住 所：〒901-2301 沖縄県中頭郡北中城村字島袋 1234				
		電 話：098-933-9863		FAX：098-933-9864		
	実施概略	対象学年： 6 年生 2 クラス 53 人 (内 実施 53 人)				
		担 当：富永 政一郎 教諭				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 25 年 5 月 2 日		6 コマ		
		平成 25 年 6 月 20 日			9 コマ	15 コマ
	J S 実施：平成 25 年 6 月 27 日			4 コマ	4 コマ	
	事後学習：平成 25 年 7 月 4 日		5 コマ			
平成 25 年 7 月 9 日						
平成 25 年 7 月 11 日			2 コマ	9 コマ		
実施の ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ●昨年度の実施経験を踏まえ、引き続き地域モデル校として実施を展開。 ●6年生の総合的な学習時間のカリキュラムに組入れ、ジョブシャドウイングの取組みを効果的に行う。 ●地域で働く大人を観察することにより、身近な働く大人に対する誇りや憧れ、感謝の気持ちを育てる。 ●働く人の外見的な部分だけではなく、コミュニケーションを通して人となりを知ること、現在の学校生活と社会との結びつきに気づき、学習意欲を向上させる。 ●挨拶の仕方や名刺交換などのビジネスマナーに触れる機会を与え、社会のルールについて考えさせる。 ●多種多様な企業で働く大人を観察することで様々な働き方があることに気づかせ、子ども達の、職業選択の幅を広げることをねらう。 					
事前学習 内容	< 事前学習① > 動機づけ 平成 25 年 5 月 9 日 (火) 5 校時 内 容：①ジョブシャドウイングって何？					

	<p>②なぜジョブシャドウイングをするの？</p> <p>③ジョブシャドウイング観察のポイント</p> <p>< 事前学習② > ビジネスマナー</p> <p>平成 25 年 5 月 23 日 (木) 5, 6 校時</p> <p>内 容 : ①心がまえとマナーについて</p> <p>②身だしなみについて</p> <p>③正しい立ち方</p> <p>④挨拶とお辞儀の練習</p> <p>⑤名刺交換について</p> <p>< 事前学習③ > これまでの総復習と観察シートの使い方</p> <p>平成 25 年 6 月 20 日 (木) 3, 4 校時</p> <p>内 容 : ジョブシャドウイング計画を作る</p> <p>事前学習のおさらい (総復習)</p> <p>①ジョブシャドウイングとは？</p> <p>何のためにするの？メンターとは？</p> <p>②挨拶やお辞儀、名刺交換の仕方 (再確認)</p> <p>③観察シートの書き方、共通の質問を考える。</p> <p>④総合シミュレーション</p>
<p>事後学習 内容</p>	<p>・ジョブシャドウイングの振返りとお礼状の作成を行った。振返りでは、児童一人ひとりがジョブシャドウイングで学んだこと、事前学習で学んだことなどを発表することで今までの経験を全員で共有することができた。事後学習は全て学校が主体となって取組み、成果発表会までつなげた。</p>
<p>発表会</p>	<p>・ジョブシャドウイングで各自が何を学んだのかをまとめ、全員で共有する。</p> <p>平成 25 年 7 月 11 日 (木) 3, 4 校時</p> <p>内容 : 1 人 1 枚 (B4) 作成した新聞を一人ずつ発表。</p> <p>状況 : 当日は参観日ではないがメンターだけでなく保護者へも案内状を配布し、自由参観とした。受入企業と保護者には事前に発表の順番を示した詳細プログラムを配布することで、仕事の合間を縫っての参加等に配慮した。参加したメンターや保護者から「積極的に質問や観察に取り組んだことや、児童たちの職業選択の幅が広がった様子がよく伝わった。」との声があった。</p>
<p>職業人 講話</p>	<p>平成 25 年 5 月 30 日 (木)</p> <p>講 師 : 株式会社 佐久本工機 比嘉 裕様、仲栄真 盛海様</p> <p>内 容 : 「働くこと」「仕事」「将来」について考える</p> <p>①講師の紹介 (どんな子どもだったのか)</p> <p>②講師の仕事について</p> <p>③ジョブシャドウイングを受入れて</p> <p>④児童生徒達への想い</p>

保護者・地域	<p>本年度の実施にあたり保護者サポーターの協力依頼を家庭訪問時に資料配布を行った。その後、保護者説明会や日曜授業参観の学年懇談会の時間を利用して、沖縄県の雇用情勢や沖縄型ジョブシャドウイングと職場体験との違いを説明した。</p> <p>当日は18台の車両と、20人の引率（保護者）サポーターが集まった。送迎に携わった保護者からは「企業や働く大人を見るととても良い機会で、半日ではもったいないと感じる」との声があった。</p>
その他	<p>ジョブシャドウイング実施にあたって、実施学年（6年生）にキャリア教育担当の先生を配置、年間行事の一つとしてジョブシャドウイングを取入れている。学校全体の教員に対して、職員会議や連絡会にて情報提供を行い、学校全体の取組みとした。</p>

2. 北中城村立北中城小学校（新規校）

2	学校情報	校 長：伊敷 ひろみ			
		住 所：〒901-2311 沖縄県中頭郡北中城村字喜舎場 1			
		電 話：098-935-3980	FAX：098-935-4500		
	実施概略	対象学年： 6年生 4クラス 124人（内 実施 123人）			
		担 当：2組担任 川上 琢哉 先生			
		実施日	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成25年10月1日 平成25年11月12日	9コマ	10コマ	19コマ
		J S実施：平成25年11月21日		4コマ	
		事後学習：平成25年12月17日～	2コマ		2コマ
		発 表 会：平成26年 2月20日～3月2日			
	実施のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ●村内の100名以上大規模校として初めての実施。 ●いろいろな企業で働く大人を観察することで、様々な職業や職種があることに気づき、職業選択の視野を広げると同時に働くことや仕事への関心を高めることができる。 ●働く人の外見的な部分だけではなく、コミュニケーションを通して人となりを知ること、現在の学校生活と将来の社会での結びつきに気づき、学習意欲を向上させる。 ●挨拶の仕方や名刺交換などのビジネスマナーに触れる機会を与え社会のルールについて考えさせる。 ●働く大人に対する誇りや憧れ、感謝の気持ちを育てる。 			
	事前学習内容	<p>< 事前学習① > 動機づけ 平成25年10月9日（水）5校時 内 容：①ジョブシャドウイングって何？ ②なぜジョブシャドウイングをするの？ ③ジョブシャドウイング観察のポイント</p> <p>< 事前学習② > ビジネスマナー</p>			

	<p>平成 25 年 10 月 29 日 (火) 5,6 校時 内 容 : ①心がまえとマナーについて ②身だしなみについて ③正しい立ち方 ④挨拶とお辞儀の練習 ⑤名刺交換について</p> <p>< 事前学習③ > これまでの総復習と観察シートの使い方 平成 25 年 10 月 31 日 (木) 5 校時 内 容 : ①マナーについて総復習 ②名刺交換について ③観察シートの使い方</p>
事後学習 内容	<p>・ジョブシャドウイングを振り返る 平成 25 年 12 月 17 日 (火) 5,6 校時 内 容 : ジョブシャドウイングを振り返る 観察シートなどを資料として発表会用の新聞を作成</p>
発表会	<p>・ジョブシャドウイングで学んだことをクラスの全体で共有する。 平成 26 年 2 月 20 日～3 月 2 日まで各クラスにて実施 内 容 : ジョブシャドウイングで訪問した企業・事業所の紹介を壁新聞で発表。 1人 2～3分の持ち時間の発表。 状 況 : 2 月 27 日 (木) は授業参観日だったため 6 年 1 組と 3 組が多く保護者の参加の中、ポスターセッション方式にて発表。保護者からは「いい取り組みと思う。子どもの考えが見られてよかった。」と感想をもらった。</p>
職業人 講話	<p>< 企業人講話 > 「働く」とは?について 平成 25 年 11 月 5 日 (火) 5 校時 講 師 : 中城北中城消防本部 内 容 : ①「働くこと」「仕事」について ②消防の仕事について ③仕事仲間について ④「夢」について</p>
保護者・ 地域	<p>10 月初めの修学旅行説明会を利用して、本事業の概要説明と実施 (保護者) サポーターの募集を行った。保護者への説明が十分に行えたことで、当日は車両 30 台と 33 人の実施 (保護者) サポーターが集まった。</p>
その他	<p>・実施にあたり、出発式の予行演習や挨拶や身だしなみのチェックを学校が主体となって実施し、当日に臨んだ。 ・当日、送迎車両としてバスを 2 台使用。 ・ジョブシャドウイング実施新規校。</p>

◆取組みの様子

【島袋小学校】



ジョブシャドウイングって何？



名刺交換。挨拶は自分から！



観察シートの使い方



これまでの復習です



質問を考えよう



みんなでグッジョブ!!



JS実施中！ 名刺交換



メンターさんを観察中



質問よろしいでしょうか？



【職業人講話】
児童を代表してあいさつ



成果発表会



保護者説明会の様子

【北中城小学校】



ジョブシャドウイングって何？



人はなぜ働くのか？



ワーク中！
気持ちって伝わりにくいね…



名刺交換



ジョブシャドウイングを振り返る



どんな企業に行きましたか？



職業人講話



JS実施中！
名刺交換練習どおり出来た？



メンターさんを観察中



みんなでグッジョブ！！



成果発表会の様子！しっかり発表できています！



4 ヒアリング及びアンケート考察

【実施校】

島袋小学校からは、事前学習のビジネスマナーや名刺交換の授業内容に高い評価があり、実施後「姿勢を意識する児童が増えた」と声があった。また、学校に保護者から「2時間ではもったいない」との感想もあった。

初めての取り組みとなった北中城小学校からは実施後の感想として、「児童たちはメンターと1対1で観察をするということで緊張していたが、自立に向けての第一歩としていい経験になったのではないか」との声があった。しかし、「地区コーディネーターとの打ち合わせ等の時間調整に苦労した。」との声もあがった。

両校とも、実施後児童たちは「言葉づかい」を意識したり、「ボランティア活動」に自ら進んで取り組む様子が見られるようになった。また、作業の様子や仕事仲間とのやり取りなどを観察して、「身近にいる両親が普段、忙しいと言っている意味が分かった。」と話す児童がいたということで、メンターの働く姿を両親や身近な大人に投影させることで、大変そうな仕事であっても家族のために頑張っていることに気づくことができ、感謝や尊敬の気持ちを持つ機会になったと考えられる。

【児童生徒】

実施前に、児童の関心のある職業についてアンケートを実施したところ、「スポーツに関わる仕事」「命を救う、人を助ける仕事」「動物に関わる仕事」との回答が上位にあがった。それは好きなスポーツや、身近にある職業から選んだり、動物好きなどの興味から選択しているのではないだろうか。また児童が仕事に関する話を聞いたり、話したりするのは主に保護者からという回答が、71%あった。仕事の内容や給料の話などが中心のようだ。仕事や働くことのイメージとしては「楽しい」「やりがいがある」「面白そう」などが多く、仕事の大変さや人との繋がり、コミュニケーションの大切さはあまりイメージできていないように感じる。

実施後のアンケートでは「働くことへの感じ方・イメージが良い方向に変わった」と回答した児童が約98%いた。実際に仕事をしている人を観察し、質問するなどのコミュニケーションをとることによって、仕事に対する責任感や大変さ、そして楽しさ・やりがいを感じたと思われる。児童のアンケートを一部抜粋して次に記す。

〈一部抜粋〉

- ◆ 学校でも、あいさつやマナーなどの態度は口うるさく言われますが、社会に出るとそれは当たり前でこれから当たり前な事が当たり前出来るようになりたいです。発表が少し苦手なのでハッキリと自分の意見が言えるようになりたいです。
- ◆ 仕事はとても面白くてとてもやりがいのあるもの。仕事は、仲間で協力してやる事。責任感が無いと出来ないこと。
- ◆ お話する時は笑顔で、仕事をしている時は真剣で、メリハリがあってかっこよかった。

- ◆ 仕事とは、ただ働いて大変!!ってイメージだったけどこのジョブシャドウイングを通してメンターさんを観察していて、仕事は、仲間と一緒に楽しく!!というイメージに変わりました。
- ◆ 大変そうだったけど真剣な顔がカッコイイと思いました。

【受入企業】

ジョブシャドウイング実施中の児童について約80%のメンターが「観察態度」「あいさつ」「言葉づかい」がよいと回答した。しかし、「意欲」に関しては約70%のメンターが低いと回答している。初めて会う大人と一緒に時間を過ごすことの緊張から、質問や会話が少なくなり、メモや観察シートを書くことに集中してしまう児童が多くなったことが「『意欲』がない」ように見られた原因ではないかと考える。

企業窓口担当の82%は地域貢献として受入れたと答えており、83%が今後も受入れを継続したいと回答した。今回の取組みを通して、受入企業にも本村で行う地域連携の取組みを知らせる機会になったと同時に早期からの人材育成へ参加する意義が伝わったのではないかとと思う。

5 実施総括（成果と課題）

	事例	課題	今後の取組についての 展望・改善点
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者説明会 ・保護者サポーターの呼びかけ ・前年度の新聞展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・学校への事業理解を深める ・保護者サポーター募集 ・学校との報告・連絡・相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を行うための時間調整、保護者向けの講演会の開催 ・ジョブシャドウイング通信の発信 ・学年だよりや学級新聞に保護者サポーター募集の掲載を依頼する
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関への情報発信 ・生涯学習課の協議会加入 ・ワーキングチームの提案 ・新教育長への事業説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会との情報共有 ・連携協力体制の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部コーディネーターへ情報交換等の交流を行い協力体制の強化を図る
地域 コミュニティー	<ul style="list-style-type: none"> ・島袋公民館にてパネル展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区公民館でのパネル展実施 ・地域住民への事業理解と協力要請 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治体へ働きかけ事業説明を行い、周知を図るとともに送迎ボランティアの協力を要請する ・パネル展示にむけた協力を依頼する

行政	<ul style="list-style-type: none"> ・村広報誌「北中城」への掲載 ・欠席児童の後日実施受入 ・予備メンターの確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政からの村民への周知が十分図れていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して広報誌に事業活動掲載 ・村が主催するまつりでのブース出展、各自治区公民館でのポスター等の貼出しやパンフレットの配布
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> ・企業紹介の依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入企業確保のための連携体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・各経済団体会合での事業説明と実施 ・ジョブシャドウイング実施及び実施情報の提供と共有やパンフレットの配置
協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習課の加入 ・ブログ開始 ・ジョブシャドウイング通信の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログのアクセス数を増やす工夫 ・構成メンバーとの情報共有 ・協議会の場以外での議論の場の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に即した情報をブログに掲載する ・各会員に定期的な実施報告を行う ・他地区協議会が工夫し、実践している取り組みやアドバイスを参考

6 その他の取組や実績

【パネル展実施】

日時：平成25年7月24日～7月31日

場所：北中城村島袋自治会（公民館）

ホール入口・ミニギャラリー

内容：沖縄型ジョブシャドウイングでの成果発表として、児童が作成した新聞の展示を行った。

【村広報誌・「北中城」掲載・ブログの開始】

内容：ジョブシャドウイング全体の様子として、事前学習から当日の様子までを広報誌に2分の1ページから1ページのスペースで掲載した。また、協議会独自で開設しているブログでは、広報誌に掲載した情報に加え、受入企業の紹介等を随時行った。

【北中城村教育委員会・生涯学習課加入】

内容：本年度より、北中城村教育委員会・生涯学習課が加入し、その中の取組みとして配置されている学校支援地域本部コーディネーターより職業人講話の講師の紹介を仰いだ。

7 次年度への展望

■学校との連携

今年度ジョブシャドウイングの実施にあたり、2校ともに校内研修会や職員会議等の場で校内の周知を図る機会を設けることができなかった。そのような場で、学校全体に向けて周知を図ることは、教員間の連携や地域連携における学校の位置づけを考えることにつながり、次年度以降も継続した取組みを行うには有効であると考えます。また、事業周知を図ったうえで、本事業が目指すキャリア教育的視点と学校内の教育課程に沿ったプログラムを構築していくことが、子ども達の学びをより深める活動へと繋げるために必要であると考えます。次年度は、校内研修会等を提案し事業概要や沖縄県の雇用情勢について知る機会を設け、より具体的な効果目標を目指し、学校と連携を図りながら取組むことができるよう進めていきたい。

■産学官地域・家庭との連携

本村には、今年度文部科学大臣賞を受賞した教育委員会生涯学習課の「地域による学校支援活動」がある。各学校に配置された学校支援地域本部コーディネーターが学校の様々な活動を支援する仕組みである。今年度、本事業においてもこの学校支援地域本部コーディネーターとの連携を図り、職業人講話の講師選定等に協力を仰いだ。

産学官地域が連携し、地域での人材育成を目指す本事業において、このような連携体制を構築していくことは有意義な取組みであると考えます。次年度はさらに、各業界との意見交換の場や情報共有の場を設け、地域が一丸となって将来の北中城村を支える人材育成について考えていきたい。

また、子ども達の保護者に向けて、沖縄県の雇用情勢や本事業の周知を図る過程において働くことや進路について話し合いが持てるよう、地域でのキャリア教育講演会等を企画していきたい。

■周知広報

本協議会では、事業の周知を図るためブログを開設している。このブログの中では、子ども達の事前学習やジョブシャドウイング当日、事後学習の様子などはもちろんのこと、受入企業の紹介を行っている。また、村役場が発行している広報誌では、『ジョブシャドウイング通信』というコーナーを設け連載を行っている。このような取組みを次年度も引続き行い、受入先となる企業や子ども達の様子を村内外へ広く発信していくことで、事業への理解と地域の輪を広げていきたい。

3 与那原地区

平成25年 与那原町地域雇用推進協議会

1 平成24年度 活動概況

(1) 協議会発足の背景

与那原町における平成24年度の失業率は、15～29歳（平成22年度）の若年者で17.6%と県全体の12.6%と比べ高い数値となっており、人口増加著しい昨今において将来を担う若年者の就業意識の向上及び早期キャリア教育の充実が必要とされていた。今後における地域雇用の問題解決や地域の若年者に対し就業意識向上を図るため、行政・経済団体や教育機関等を含めた地域社会と産学官連携の場をつくり、与那原地域におけるロールモデルを構築・推進するために発足された。

(2) 平成24年度活動概況

与那原町には小学校2校と中学校1校があり、平成24年度は、キャリア教育の充実を推進する目的で、町内全地域が校区である与那原中学校1年生全195名を対象にジョブシャドウイング事業の実施校と選定し、モデル実施を行った。

1. 与那原町において行政・経済団体や教育機関等を含めた地域社会が連携・協働し、地域主体での取組みとして、地域の若年者層における就業意識向上を図り、キャリア教育の充実・推進を図る。
2. 与那原町の企業や事業所を中心に企業開拓を実施し、地域に密接した業種・職種で受入れてもらうことで、若年者層へ身近な職業人を見てもらう。
3. 地域の子供も達が自己の将来に夢と希望を持ち、自立した社会人となれるよう、就業意識の向上に取組み、与那原町内外の企業団体に対し、キャリア教育実施の必要性及び事業の理解を推進する。

(3) 平成25年度への展望

平成24年度は、初めてジョブシャドウイング事業に取組み、受入れた全企業・事業所のアンケート結果から「次回も（ジョブシャドウイングを）受入れたい」との声が多く、事業内容が理解されていると推測されるが、今後の課題・改善点も見えてきた。

	平成24年度の課題	改善策
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な連絡会の開催 ・事業説明会を開催し、PTA へジョブシャドウイング事業の活動内容を周知 ・送迎サポーターについて情報共有の方法と確保 ・講師依頼の調整方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的連絡会の開催で、窓口担当者等との情報共有体制の構築と連携を図る ・PTA へ事業説明会の開催 ・企業情報のデータベース化

教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部コーディネーターとの情報共有と連携体制の確立 ・教育機関内の情報共有と連携体制の確立 ・小中学校連携によるキャリア教育の実施 ・義務教育後の地域教育機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣高校など地域の教育機関と情報共有体制の構築と連携を図る ・小中学校での体系立てたジョブシャドウイングを含む就労体験等の計画の策定
地域 コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の周知方法 ・成果物の発表方法 ・地域内の講師の発掘と依頼方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区の実践内容を参考に事業内容の周知方法の検討、情報共有と連携を図る
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・町広報紙読者の意見や反応が測れない ・情報の周知方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容の周知方法の検討、意見集積方法、情報共有及び連携体制の確立を図る
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な企業の開拓 ・小規模の企業が多いため、受入人数の振分け調整が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い業種・職種で受入れてもらうため、ジョブシャドウイングの事業の周知を図る ・定期的に運営委員会等を開催し、情報共有と連携を図る
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・会員向け事業内容の周知方法 ・情報共有の方法 ・会員からの意見集約取りまとめ方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員団体や受入協力企業に対し、事業内容の周知方法の検討、意見集積方法、情報共有及び連携体制の確立を図る ・各団体連携体制の確立を図るための会議の実施

2 平成25年度の活動概要

平成24年度は第1フェーズとして中学校1校に絞り、事業推進を目的としてモデル的な取り組みを実施した。

今年度は、中学校での継続実施に加え、小学校2校を含めた町内3校の小中学校すべてを対象とした。

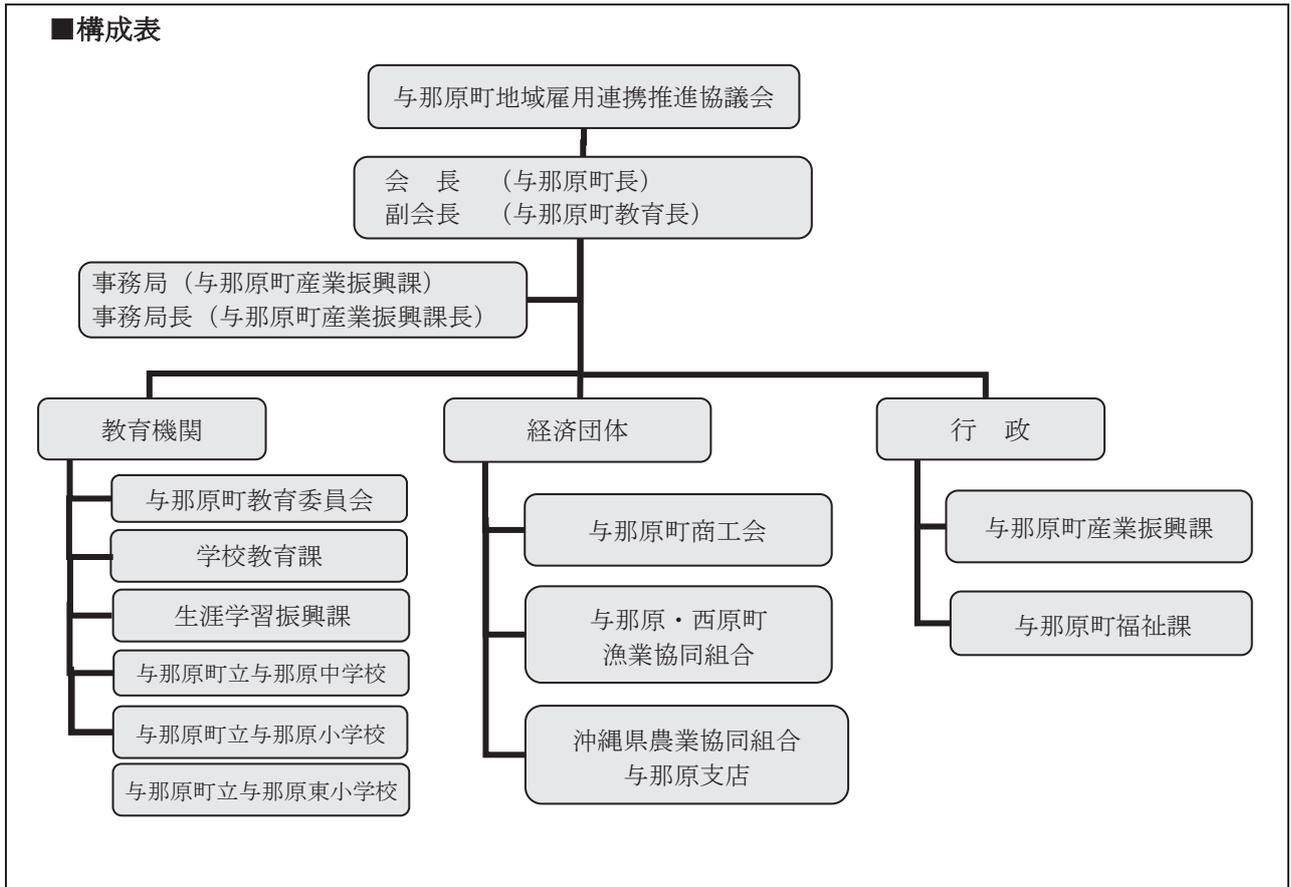
(1) 協議会について

本協議会は、与那原町長を会長とし、教育機関や経済団体等を中心に構成した。運営事務局を与那原町産業振興課内に設置し、課長が本事務局長を担った。

平成25年度は、学校長を会員として加え、継続して地域連携をさらに図るべく、引き続き地域商工業の要でもある経済団体や各協同組合、新たに対象となった2校の小学校長にも参加してもらった。

協議会名称	与那原町地域雇用連携推進協議会
所在地	沖縄県与那原町字上与那原 16 番地（与那原町役場 産業振興課内）
活動目的(理念)	本協議会は、地域雇用の問題解決や地域の就業意識の向上を図るため、与那原地区で実施する「ジョブシャドウイング事業」等の事業実施について、産学官及び地域が一体となった具体的な取り組みを支援することを目的とする。

■構成表



■構成団体名簿

No.	団体名	役職
1	与那原町	町長
2	与那原町産業振興課	課長
3	与那原町福祉課	課長
4	与那原町教育委員会	教育長
5	与那原町学校教育課	課長
6		指導主事
7	与那原町生涯学習振興課	課長
8	与那原町立与那原中学校	校長
9	与那原町立与那原小学校	校長
10	与那原町立与那原東小学校	校長
11	与那原町商工会	会長
12		事務局長
13	与那原・西原町漁業協同組合	組合長
14		参事
15	沖縄県農業協同組合 与那原支店	支店長

(2) 事業計画（実績）報告

今年度は、広く地域連携を図るため早期から事業について周知を図った。学校開拓においては、町内に小学校2校と中学校1校があり、前年度ロールモデルとして中学校で実施した経緯を踏まえ、今年度は町内の公立校全校での実施となった。

月	実績	備考
4月	<ul style="list-style-type: none"> 実施校の選定 コーディネーター研修会への参加 教育委員会へ表敬訪問 与那原中学校、与那原小学校、与那原東小学校へ表敬訪問 与那原中学校日程調整打合せ 区長連絡会にてジョブシャドウイング事業説明 	<ul style="list-style-type: none"> 実施校の選定・決定
5月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回協議会開催（総会） 与那原町第1回キャリア教育担当者等連絡会参加 与那原中学校日程調整・打合せ 与那原東小学校日程調整・打合せ 与那原小学校日程調整・打合せ 与那原中学校職業人講話講師手配 広報誌掲載資料作成 	<ul style="list-style-type: none"> 協議会開催準備 学校調整 講話講師の選定及び調整
6月	<ul style="list-style-type: none"> 与那原中学校事前学習準備、日程調整・打合せ 与那原中学校事前学習カリキュラム作成 与那原中学校職業人講話 3校受入企業開拓開始 広報誌掲載資料作成 	<ul style="list-style-type: none"> 学校調整
7月	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌掲載資料作成 	<ul style="list-style-type: none"> 学校調整 企業開拓
8月	<ul style="list-style-type: none"> 受入企業向け合同事業説明会開催 与那原東小学校事前学習準備、日程調整・打合せ 与那原東小学校事前学習カリキュラム作成 与那原東小学校ジョブシャドウイングオリエンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 学校調整 企業との調整
9月	<ul style="list-style-type: none"> 与那原東小学校事前学習準備、日程調整・打合せ 与那原東小学校事前学習 与那原東小学校保護者向け事業説明会 与那原東小学校職業人講話 与那原中学校事前学習 広報誌掲載資料作成 	<ul style="list-style-type: none"> 学校調整 企業との調整 受入企業との調整 講話講師の選定及び調整

	<ul style="list-style-type: none"> 与那原小学校事前学習カリキュラム作成 与那原小学校事前学習準備、日程調整・打合せ 与那原小学校職業人講話講師手配 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 与那原小学校事前学習 与那原小学校保護者向け事業説明会 与那原小学校職業人講話 与那原東小学校事前学習、マナー学習 与那原東小学校ジョブシャドウイング実施 与那原中学校マナー学習 区長連絡会にてジョブシャドウイング実施協力要請 	<ul style="list-style-type: none"> 学校調整 講話講師の選定及び調整 受入企業との調整
11月	<ul style="list-style-type: none"> 与那原小学校マナー学習 与那原中学校ジョブシャドウイング実施 与那原小学校ジョブシャドウイング実施 与那原東小学校 事後学習発表会 受入先企業へお礼状送付 受入企業用アンケート実施 生徒用アンケート実施・回収・集計 	<ul style="list-style-type: none"> 学校調整 受入企業との調整 アンケート集計 アンケート分析
12月	<ul style="list-style-type: none"> 与那原中学校 事後学習発表会（総合文化発表会） 与那原小学校 事後学習発表会 受入企業用アンケート実施・回収・集計 アンケート分析 学校長・教頭連絡会議へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> 協議会開催準備 事業報告書作成
1月	<ul style="list-style-type: none"> 次年度事業計画 第2回協議会開催 ジョブシャドウイング成果物展示（庁舎ロビー） アンケート分析 	<ul style="list-style-type: none"> 実務者連絡会の開催 事業報告書作成 協議会開催準備
2月	<ul style="list-style-type: none"> 今年度事業報告書作成 実務者連絡会の開催 事務局連絡会の開催 事業報告書作成 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度協議会開催準備
3月	<ul style="list-style-type: none"> 次年度受入企業開拓開始 次年度実施校向け事業説明 実務者連絡会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 事業報告書作成・発刊 学校調整 次年度協議会開催準備

(3) 【受入企業リスト】

町内企業・事業所については、前年度より引続き、協議会員である与那原町商工会やJAおきなわ与那原支店、与那原・西原町漁業協同組合へ受入企業を紹介いただくよう働きかけた。

また、児童生徒に見聞を広めてもらうため、隣接した市町村に所在する町内にはない業種業態の企業・事業所への受入れ開拓を実施した。実績は以下の通り。

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	沖縄県農業協同組合（JA おきなわ） ファーマーズマーケット与那原あがりはま市場	協同組合（他に分類 されないもの）	17	JA おきなわ
2	沖縄県農業協同組合（JA おきなわ） 与那原支店	協同組織金融業	9	JA おきなわ
3	株式会社興洋電子	通信業	9	商工会（商工会）
4	株式会社スズキ自販沖縄 東浜営業所	機械器具小売業	3	事務局
5	琉球ダイハツ販売株式会社 東浜店	機械器具小売業	3	事務局
6	きゃん司法書士事務所	専門サービス業（他に 分類されないもの）	2	商工会（商工会）
7	フラワーショップみやび	その他の小売業	2	商工会（商工会）
8	●株式会社日進沖縄	電気機械器具製造業	15	事務局
9	株式会社次郎工業	自動車整備業	8	商工会（商工会）
10	●有限会社みなと薬品 ヴァインドラッグあがり浜店	その他の小売業	3	事務局
11	株式会社コールアップジャパン ドコモショップ与那原店	通信業	4	事務局
12	●當間学童児童クラブ	その他の教育、 学習支援業	8	事務局
13	与那原町商工会	政治・経済・文化団体	2	商工会
14	●沖縄教育プロダクション株式会社	印刷・同関連業	2	事務局
15	●有限会社アトム印刷	印刷・同関連業	4	事務局
16	株式会社東部電気土木	設備工事業	3	商工会（商工会）
17	●沖縄ホンダ株式会社 HondaCars 沖縄与那原店	機械器具小売業	6	事務局
18	金秀商事株式会社 タウンプラザかねひで与那原店	その他の小売業	5	事務局
19	●沖縄県赤瓦事業協同組合	協同組合（他に分類 されないもの）	7	事務局
20	くに旅行サービス	その他の生活関連 サービス業	2	商工会（商工会）
21	しまんちゅ工房	無店舗小売業	1	商工会（商工会）

22	東部清掃施設組合	廃棄物処理業	3	事務局
23	●ローソン南風原北インター前店	飲食料品小売業	12	事務局
24	●ジェフ沖縄株式会社	飲食店	6	協議会(商工会)
25	●沖縄県労働金庫 与那原支店	協同組織金融業	3	事務局
26	有限会社エルコーポレーション 風風ラーメン与那原店	飲食店	8	協議会(商工会)
27	●有限会社与那原自動車整備センター	自動車整備業	9	協議会(商工会)
28	与那原町立図書館	その他の教育, 学習支援業	2	事務局
29	有限会社日光写真館	技術サービス業(他に 分類されないもの)	7	協議会(商工会)
30	●株式会社光貴 au ショップ与那原	通信業	3	事務局
31	●くるま村	自動車整備業	10	事務局
32	有限会社国際旅行社南部	その他の生活関連 サービス業	6	協議会(商工会)
33	●沖縄県農業協同組合 大里支店	協同組織金融業	14	協議会(JA)
34	●株式会社 JA おきなわ A コープアトール大里店	その他の小売業	6	協議会(JA)
35	●東部消防組合本部	地方公務	20	事務局
36	●生活協同組合コープおきなわ 浦添センター	協同組合(他に分類 されないもの)	11	事務局
37	●生活協同組合コープおきなわ 西原支所	協同組合(他に分類 されないもの)	4	事務局
38	●生活協同組合コープおきなわ 物流センター	協同組合(他に分類 されないもの)	6	事務局
39	●生活協同組合コープおきなわ 組合員 SC	協同組合(他に分類 されないもの)	3	事務局
40	●生活協同組合コープおきなわ コープ首里	協同組合(他に分類 されないもの)	4	事務局
41	●生活協同組合コープおきなわ コープこくば	協同組合(他に分類 されないもの)	8	事務局
42	●株式会社旭堂 工場	印刷・同関連業	6	事務局
43	●沖縄県土地改良事業団体連合会	地方公務	4	雇用政策課
44	●公益財団法人沖縄県農業振興公社	地方公務	4	雇用政策課
45	株式会社コールアップジャパン ドコモ南風原店	通信業	10	事務局
46	●スターバックスコーヒージャパン株式会社 イオン南風原店	飲食店	11	事務局

47	●サムシング・フォー西崎	その他の生活関連 サービス業	8	事務局
48	●株式会社沖縄スイミングスクール GulfWaveZone 前田	娯楽業	5	事務局
49	株式会社 JA おきなわ SS しんかい SS	その他の小売業	3	協議会 (JA)
50	イオン琉球株式会社 イオン南風原店	各種商品小売業	18	事務局
51	●沖縄ホンダ株式会社	機械器具小売業	1	事務局
52	●株式会社比嘉酒造	飲料・たばこ・飼料 製造業	6	事務局
53	●沖縄県南部福祉保健所	地方公務	9	雇用政策課
54	一般社団法人 沖縄観光コンベンションビューロー	政治・経済・文化団体	5	事業局
55	●株式会社 Point グローバルワーク	織物・衣服・身の回 り品小売業	2	事務局
56	●株式会社沖縄バヤリース	飲料・たばこ・飼料 製造業	2	事務局
57	●株式会社フィットネスプロモーション スポーツパレスジスタス浦添	娯楽業	11	事務局
58	●株式会社ミュー プロテニスショップミュー	その他の小売業	8	事務局
59	●株式会社 FM しまじり FM なんじょう	放送業	9	事務局
60	●株式会社エフエム 21	放送業	2	事務局
61	●沖縄森永乳業株式会社	食料品製造業	6	事務局
62	●焼きたてパンとケーキの店 みなもとや	飲食料品小売業	9	事務局
63	●イオン琉球株式会社 マックスバリュ南城大里店	飲食料品小売業	3	事務局
64	●イオン琉球株式会社 マックスバリュ日橋店	飲食料品小売業	9	事務局
65	○株式会社スズケン沖縄薬品	その他の卸売業	1	事業局
66	沖縄経済同友会	政治・経済・文化団体	2	事業局
67	○オリックスコールセンター株式会社	情報サービス業	2	事業局
68	株式会社サンエー 西原シティ店	各種商品小売業	8	事業局
69	与那原町役場 上下水道課	地方公務	1	事業局
70	●手作りパンのお店 ベーカリーセッソー	飲食料品小売業	1	事務局
71	●沖縄アウトレットモールあしびなー	各種商品小売業	2	事務局
		合 計	426	

※事業局：グッジョブおきなわ推進事業局

※協議会：与那原町地域雇用連携推進協議会 ※JA：JA おきなわ与那原支店

※商工会：与那原町商工会 ※雇用政策課：沖縄県商工労働部雇用政策課

※事務局：与那原町地域雇用連携推進協議会事務局

■以下については受入可能であったが、学校との人数調整等で今回は受入れ実績なしの企業団体。

72	●沖縄県企業局 西原浄水管理事務所	地方公務	雇用政策課
73	●沖縄県農業会議	地方公務	雇用政策課
74	●有限会社安谷屋時計メガネ店	その他の小売業	協議会(商工会)
75	株式会社くみき	機械器具卸売業	協議会(商工会)
76	●きらり学童クラブ	その他の教育, 学習支援業	事務局

【コメント】全 76 企業団体のうち、●印が新規受入開拓先 (47 社)、○印が新規事業局一括担当先紹介 (2 社) 新規率 63%

3 実施校 活動報告

小中学校で系統立てた取組みとして検討するため、小学校 6 学年も対象として町立学校すべてでジョブシャドウイングを実施した。その際、受入企業の負担軽減を目的として、各校の実施日程の調整を行う等、対応に配慮した。また、各学校においても学校行事やジョブシャドウイング事前学習開催の日程が重ならないよう調整した。

※ JS：ジョブシャドウイングの略

※ コマ数 (1校時)：小学校45分、中学校、高校50分、大学90分を指す

1. 与那原町立与那原中学校 (継続校)

1	学校情報	校 長：淵田 立身				
		住 所：〒901-1303 与那原町字与那原 57 番地				
		電 話：098-946-2254	FAX：098-946-5549			
	実施概略	対象学年：1 年生 6 クラス 206 人 (内 実施 203 人)				
		担 当：平良朋樹 (1 組担任)、ロドリゲス裕子 (2 組担任)、宮尾藍子 (3 組担任)、蓬原沙矢花 (4 組担任・総合学習担当)、糸数貴之 (5 組担任)、川満安寿香 (6 組担任)、今別府カヨ子 (学年主任)、兼島直美、当真克亨、幸地長和 (各副担任)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：				
		平成 25 年 6 月 3 日 (月)			1 コマ	
		平成 25 年 6 月 10 日 (月)			1 コマ	
		平成 25 年 6 月 17 日 (月)			1 コマ	
		平成 25 年 7 月 1 日 (月)		1 コマ		
		平成 25 年 7 月 8 日 (月)		1 コマ		
		平成 25 年 9 月 9 日 (月)			1 コマ	
		平成 25 年 9 月 19 日 (月)		1 コマ		
		平成 25 年 10 月 17 日 (木)			1 コマ	

	平成 25 年 10 月 29 日 (火) 計	1 コマ		9 コマ
	JS実施： 平成 25 年 11 月 8 日 (金)			4 コマ
	事後学習： 平成 25 年 11 月 8 日 (金) 平成 25 年 11 月 13 日 (水) 平成 25 年 11 月 14 日 (木) 平成 25 年 11 月 15 日 (金) 平成 25 年 11 月 18 日 (月) 平成 25 年 11 月 25 日 (火) 平成 25 年 12 月 2 日 (月) 平成 25 年 12 月 9 日 (月) 平成 25 年 12 月 13 日 (金) その他 計	2 コマ 1 コマ 1 コマ 1 コマ 2 コマ 2 コマ 2 コマ 2 コマ 2 コマ 6 コマ		21 コマ
	成果発表会： 平成 25 年 12 月 14 日 (土) 計	6 コマ		6 コマ
	総計	35 コマ	5 コマ	40 コマ
実施の ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内全体が学校区である本校の生徒全員を対象に実施することで、自分の進路や働くことへの関心を高め、夢や希望を持ち目標に向かって努力する態度を身につけさせる。 ・ 社会で働く大人を見ることで、挨拶や相互協力等の大切さなど学校生活での学習が社会と関連していることを気づかせ、凡事徹底を図り、生き方を考えさせる。 			
事前学習 内容	<p>働くことに関して興味関心を持ってもらうよう、生徒自身に訪問する企業を事前に伝え、色々な職業について企業研究等を実施した。</p> <p>また、今回新しい試みとしてインタビューシートを独自で作成し、これを使ったワークを実施。自分自身を見つめること、さらに、周りにいる大人に対して同じテーマを用いてインタビューを行うことで、振り返りやコミュニケーションの必要性に対して気づきを促す工夫をした。</p> <p>マナー学習においても、県立南部商業高校から指導教諭 1 人と高校生 6 人が講師として来校しての出前講座を初めて開催した。年齢の近い高校生が、社会人としてのマナーを理解して実践していることを学んだ。</p>			
事後学習 内容	<p>事後の振り返りは、学校主導で取組んだ。成果物となる新聞の作成においては、学校生活で励行されている挨拶や感謝する気持ちなど、観察シートを参考にジョブシャドウイング実施から学んだことを各々でまとめること、また、読み手に対して情報伝達することができる表現等を学習した。</p>			
発表会	<p>開催日：平成 25 年 12 月 14 日 (土)</p> <p>時 間：2 校時 ～ 4 校時 (10:00 ～ 12:00)</p>			

	平成 25 年 10 月 7 日 (月) ※台風接近のため中止 平成 25 年 10 月 8 日 (火) 計		2 コマ	15 コマ
	J S 実施 : 平成 25 年 10 月 9 日 (水)		4 コマ	4 コマ
	事後学習 : 平成 25 年 10 月 9 日 (水) 2 コマ 平成 25 年 10 月 10 日 (木) 2 コマ 平成 25 年 10 月 11 日 (金) 2 コマ 平成 25 年 10 月 22 日 (火) 2 コマ その他 5 コマ (放課後や休み時間を利用して、新聞作成) 計			13 コマ
	成果発表会 : 平成 25 年 11 月 22 日 (金) 計	2 コマ		2 コマ
	総計	25 コマ	9 コマ	34 コマ
実施のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内で中学校区の半数の児童が在籍している本校で実施することで、働く大人を通して、挨拶や相互協力等の大切さなど学校生活での学習が社会と関連していることに対して気づきを促す。 ・ ジョブシャドウイングを経験することで、働くことやいろんな職種に対する興味を促し、働くことへの関心を高め、夢に向かって努力する姿勢を身につけさせる。 ・ 地域人材の協力を得て、教育活動の活性化を図る。 			
事前学習内容	<p>働くことに関して興味関心を持ってもらうよう、事前に児童へ訪問する企業を伝え、色々な職業について学習した。また、学校生活で指導している挨拶や整理整頓など、学習している内容がどう社会と関連しているかテキストを通して気づきを促した。全体を通し、3クラス合同で事前学習を実施。コーディネーター1人が講師となり、担任3人が各クラスをフォローする形で緊張感を持たせた授業とした。全体での実施により、個々の意見を共有することができたと思われる。</p>			
事後学習内容	<p>ジョブシャドウイングを振り返り、まとめの成果物として、ひとり1枚ずつ壁新聞の作成を学校主導で実施。</p> <p>ジョブシャドウイング当日に児童がメモした観察シートを参考にし、学校生活で指導している挨拶や感謝する気持ちなど、実施から学んだことを各々でまとめ、読み手に対してうまく伝えられるような表現等を学習した。</p>			
発表会	<p>開催日：平成 25 年 11 月 22 日 (金) 時 間：2 校時 (9 : 30 ~ 10 : 30) 場 所：体育館 (成果物の壁新聞を掲示し、発表) 参加者：学校関係者・職員・6 学年保護者・受入企業 (5 社)</p>			

	<p>【来場者の声】 来校したメンターや企業担当者から「短時間でも、いろいろ観察している」との感想があった。</p>
職業人 講話	<p>実施日時：平成25年9月13日（金） 5校時（14:00～14:45） 講師：5名（警察官、看護師、气象台関係、スポーツ関係、消防士） 実施学年の保護者へ講話講師を依頼し、5名の方の協力を得て、仕事について講話を実施した。講師リストから児童自身の興味がある職業を事前に2つ選択し、20分間の2回に分けて2人の職業人の話を聞く形式で行われた。短い時間ながらも質疑応答を交えてメモを取り、一生懸命に聞き入っていた。</p>
保護者・ 地域	<p>保護者説明会の開催 開催日時：平成25年9月6日（金）19:00～19:30 場 所：地域連携室 保護者約60人が参加し、ジョブシャドウイングについて事業内容と実施当日の送迎ボランティアについて説明及び協力依頼を実施。予め受入先企業の情報を保護者へ周知していたことと、学校運営に対し協力的な姿勢が見られ、保護者からの質問は、当日の乗車児童や送迎先ルート等についてのみで、当初予定していた時間より早く終了した。（実施当日も大きな混乱はなく実施できた）</p>
その他	<p>実施に向け、4月から授業時数等の日程調整を開始し、5月にジョブシャドウイングのカリキュラムを学校年間計画へ組入れた。具体的な打合わせは、学年主任を主担当として夏休み明けの8月末から行った。早めの企業開拓を行ったことで、受入先や送迎の調整は比較的スムーズであった。</p>

3. 与那原町立与那原小学校（新規校）

3	学校情報	校 長：桑江 常勝				
		住 所：〒901-1303 与那原町字与那原 735 番地				
		電 話：098-945-2237	FAX：098-945-2746			
	実施概略	対象学年：6年生4クラス131人（内 実施129人） 全校生徒 771人				
		担 当：知念 麻紀（1組担任・学年主任）、嶺井 龍也（2組担任）、仲間 篤史（3組担任）、天願 博子（4組担任・キャリア教育担当）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：				
		平成25年10月2日（木）		1コマ		
		平成25年10月8日（火）		1コマ		
		平成25年10月10日（木）		1コマ		
		平成25年10月22日（火）	1コマ			
		平成25年10月23日（水）		1コマ		
		平成25年11月5日（火）		1コマ		
		平成25年11月11日（月）～15日（金）	3コマ			

	平成 25 年 11 月 19 日 (火) 計		1 コマ	10 コマ
	J S 実施: 平成 25 年 11 月 20 日 (水)		4 コマ	4 コマ
	事後学習: 平成 25 年 11 月 20 日 (水) 1 コマ 平成 25 年 11 月 21 日 (木) 3 コマ 平成 25 年 11 月 25 日 (月) 1 コマ 平成 25 年 11 月 26 日 (火) ~ 12 月 19 日 (木) 9 コマ ※各クラスにて対応 その他: 新聞作成 (放課後、休み時間) 8 コマ 計			22 コマ
	発表会: 平成 25 年 12 月 20 日 (金) 計	2 コマ		2 コマ
	総計	28 コマ	10 コマ	38 コマ
実施のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内で中学校区の半数の児童が在籍している本校で実施することで、働く大人を通して、挨拶などのマナーや感謝する気持ち、相互協力の大切さなど学校生活における学習が社会と関連していることを気づかせる。 ・ ジョブシャドウイングを経験することで、「仕事」「夢」「好きなこと」との関わりについて考え、自身の将来の夢や希望に向かって努力する姿勢を身に付けさせる。 ・ 地域人材の協力を得て、教育活動の活性化を図る。 			
事前学習内容	<p>働く大人を見ることで、多様な仕事があることの気づきを促す。また、働くことに対する興味関心を持ってもらうよう、児童へ訪問する企業を事前に伝え、色々な職業について学習した。そして、学校生活の中での挨拶や整理整頓など、学校での学びがどう社会と関連づいているかテキストを通して気づきを促した。</p> <p>全体を通しての取組みとして、体育館において4クラス合同にて事前学習を実施。コーディネーター1人が講師となり、担任4人が各クラスをフォローする形で緊張感を持たせた授業とした。全体での実施により、個々の意見を共有することができたと思われる。</p>			
事後学習内容	<p>実施日: 平成 25 年 11 月 20 日 (水) ~ 12 月 19 日 (木)</p> <p>学校主導で、クラスごとに取組んだ。成果物作成や発表形式も実施学年で検討してもらい、A1サイズの壁新聞を一人ずつ各1枚仕上げるまで頑張った。</p>			
発表会	<p>実施日時: 平成 25 年 12 月 20 日 (金) 1・2校時 8:35~10:15</p> <p>学校公開日 (授業参観) に合わせ、ジョブシャドウイング成果発表会をクラスごとに実施。時間が早いため、来校した保護者は少なかったものの、大きな模造紙1枚に上手くまとめた壁新聞を一人ひとりが発表。聞いている児童からは「どこがよかった」などの感想や質問が活発に挙がっていた。</p>			

職業人 講話	<p>実施日時：平成25年10月23日（水）4校時（11:30～12:15）</p> <p>講師：2名（消防士、役場職員）</p> <p>目的：「地域の働く大人の姿を見せる」</p> <p>内容：「仕事・働くこと」について</p> <p>今回の受入れ先である、与那原町に縁のある講師を2人招き、6学年全員を対象に体育館で開催。45分という限られた時間内で、各講師が15分程の講話を行い、児童からの質疑に答える形で進行した。</p> <p>一番盛り上がったのは、消防士が現場で実際に着用する防災服を着用するシーンで、「1分以内に支度を完了しないとイケない。なぜなら、迅速に現場へ向かうため。」との説明に、納得した様子であった。</p>
保護者・ 地域	<p>保護者説明会の開催</p> <p>開催日時：平成25年10月22日（火）6校時（14:55～15:40）</p> <p>場所：体育館</p> <p>ほとんどの保護者が参加する修学旅行説明会に併せ、ジョブシャドウイング事業説明会を開催した。最後の15分程度で児童と一緒にジョブシャドウイングの事業主旨と送迎ボランティアについて説明した。特に質疑応答もなく終了し、当日の送迎ボランティアでは、45名の保護者が協力があつた。</p>
その他	<p>3校のうち実施が一番遅かつたため、授業時数等の日程調整開始は5月以降となつた。学年主任を主担当として、ジョブシャドウイング実施までの打合わせは全担任が参加できるよう調整した。同校についても早めの企業開拓を行ったため、受入先や送迎の調整は比較的スムーズであつた。</p>

◆取組みの様子



与那原中学校体育館で
職業人講話



「働く」をみんなで
ディスカッション



資料と実技で学習します



与那原中 高校生がマナーの先生



名刺交換も練習しました！



メンターをじっくり観察中



JS事業と送迎サポーター説明会



みんなで名刺交換と挨拶の練習



JS中！東部消防本部で名刺交換



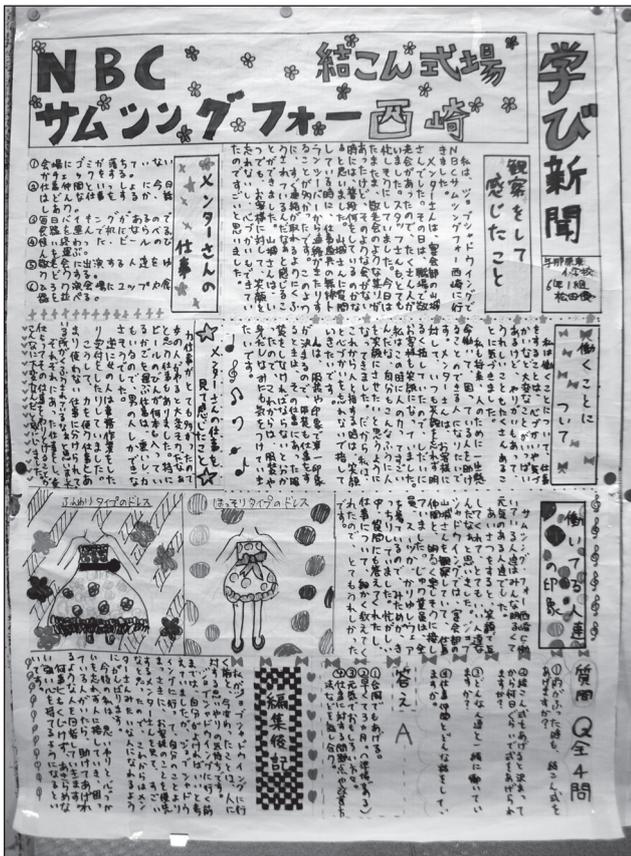
【与那原東小成果発表会】
新聞の内容をプレゼンテーション



【与那原小学校職業人講話】
町を守る消防士さんってスゴイ



【与那原小マナー学習】
挨拶できてるかな？練習…



与那原東小学校 成果物



与那原中学校 成果物



与那原東小学校 成果物



【与那原小学校JS】
「働ってコミュニケーションが大事だ」



【与那原小成果発表会】
「良い発表だったと思う人～」 「はい!!」

4 ヒアリング及びアンケート考察

【実施校】

新規校である小学校2校においては、職場見学と置換えてジョブシャドウイングを導入し、対象を6学年に設定して実施した。対象学年及び実施時間（2時間）は妥当であったが、事前事後学習の時間確保や指導方法に苦慮した。カリキュラムや導入マニュアルの作成が必要などの意見があり、ツールとして整備検討が必要と思われる結果となった。

継続校である中学校においても、事前事後学習の時間確保や日程調整に苦慮したとの意見があり、協議会と連携しての取組みや情報共有に課題が残った。また、本事業と各教科やキャリア教育との関連性を深めていくためには、学校内での認知度を高める必要があり、校内研修会において周知を図る重要性を感じた。

【児童生徒】

アンケートをジョブシャドウイング実施前後で比べると、3校とも表現に変化が見られた。ジョブシャドウイング実施前は、理想の働く大人像として「パティシエ」や「プログラマー」、「スポーツ選手」などが多かった。実施後の「将来に向けて始めたいことはあるか」との設問に対し、「～（し）たい」との表現が目立った。メンターを通し、自己未来像として夢や目標ができたと思われる。

今回のジョブシャドウイング実施を通し「笑顔でのあいさつが大切」「お客様（人）のために何かをしてあげることがやりがいにつながる」など、学校での生活指導や学習が社会とどのようにかかわっているのか気づき、将来に向けて前向きに取り組む姿勢が芽生えたように感じる。

【受入企業】

今回は広範囲で企業開拓を行い、近隣市町村での受入れとなった。ジョブシャドウイング実施について、窓口担当・メンターともに7割は受入れに不安はなかったとの回答であった。このことからジョブシャドウイングの認知度は低いが、実施に際して過去に職場体験等を実施している経緯から対応可能であったと考えられる。だが、受入れに不安があった人のうち約4割の方が「ジョブシャドウイング自体知らなかった／理解できていなかった」と回答していることから、企業開拓を行う際にはわかりやすい資料を用いて説明する等、事業周知を図るための工夫が必要であると考えられる。

しかしながら、今後受入れ可能かとの設問に対して9割が社会貢献等で「受入れる」との回答であった。

5 実施総括（成果と課題）

	事例	課題	今後の取組についての 展望・改善点
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> 保護者向け事業説明会の開催(小学校2校) 送迎ボランティアとして保護者・教師が協力(全実施校) 授業参観日にジョブ 	<ul style="list-style-type: none"> 書面でのみの説明では周知不足となるため、実施学年の他、PTAや学校全体に対し説明会の開催が必要 取組みに係るカリキュ 	<ul style="list-style-type: none"> 役割の明確化 運営委員会等の実務者レベルでマニュアル整備の必要性を検討 実施校において授業時数及び調整時間の捻出につ

	<p>シャドウイング発表会を実施(小学校1校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業人講話の講師として、保護者が協力(小学校2校) ・ 出発式終了後、出発まで時間が空いた ・ 授業時数及び調整時間の調整が難しい 	<p>ラム・マニュアル整備の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施に要した時間が(小学校約30時間、中学校約50時間)実施計画より増加したため、必要時数の見直し ・ 学校内での共通理解を促す取組み方法 ・ 保護者との連携 ・ 小中連携による体系立てたキャリア教育への取組み(取組み目標の設定) 	<p>いて調整・検討してもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施校間での情報共有の方法を検討してもらう ・ 保護者向け事業説明会の開催、送迎ボランティアや講話講師としての協力など、PTAを絡めた学校主体の取組み方の検討を促す ・ 情報共有と実施フォローのため、定期的な訪問を調整・検討 ・ キャリア教育推進を図り、校内研修会においてジョブシャドウイングを含めた講話の実施を検討
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校支援地域本部コーディネーターとの連携 ・ 出発式への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校支援地域本部コーディネーターとの情報共有と連携体制 ・ 教育機関内の情報共有と連携体制 ・ 小中連携による体系立てたキャリア教育の計画 ・ 義務教育後の地域教育機関との連携体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役割の明確化 ・ 学校教育課主催の講演会で事業局へ講師を依頼し、キャリア教育の推進を図る ・ 各機関との情報共有と連携体制の確立を図る ・ 小中学校でのキャリア教育(職場見学、体験、ジョブシャドウイング)を体系立てた計画を促す ・ 知念高校など地域の教育機関との連携により現状の把握を図る
地域コミュニティー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活性化イベント(ちゃんぷるー市・軽便市)へブースを設置し、周知活動を実施 ・ 自治会長の定例会において事業説明会と送迎サポートを依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業及び情報の周知が図れていない ・ 地域内の講師の発掘と依頼方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他地区を参考にし、事業内容の周知方法や連携体制の確立方法を検討 ・ 成果物掲示等の発表場所の開拓 ・ 各イベントへ参加して周知活動を実施

行政	<ul style="list-style-type: none"> 町広報紙へ記事掲載 庁舎内にて事業が周知されてなく協力要請がしづらい 役場庁舎内ロビーへ成果物の新聞展示を行い活動の周知を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙読者の意見等の集約が難しい 庁舎内での情報周知と依頼の方法 	<ul style="list-style-type: none"> 役割の明確化 事業内容の周知方法の検討、意見集積方法、連携体制の確立を検討 町広報紙へ継続して掲載できるように広報担当者と調整
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> 受入企業の紹介 職業人講話の講師を紹介（中学校） 定期的に商工会との情報交換会へ参加 		<ul style="list-style-type: none"> 役割の明確化 事業の主旨を理解してもらうよう戸別訪問を実施し、協力依頼を継続実施
協議会	<ul style="list-style-type: none"> 校区内の企業を中心に受入を依頼 商工会の定例会議へ参加 受入企業へ成果物を提供し、情報共有化を図る 協議会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 実施校や協力団体に対し、アンケート結果等の地域情報を共有化するため必要なデータベースの整備・構築 地域において継続していくには、コーディネーター数に対し事業実施に係る業務量が多く、対応が不十分となるため体制強化が必要 県全体へ事業実施に対する情報共有及び理解の不足 多種多様な企業開拓、町内に小規模企業が多いため受入人数の調整が必要 会員向け事業内容の周知及び情報共有方法 会員からの意見集約と取りまとめ方法 	<ul style="list-style-type: none"> 役割の明確化 受入企業へのフォロー体制を図る 受入れ時の対応マニュアルの必要性を検討 幅広い業種を近隣市町村まで拡大して受入企業を開拓し、町内に無い業種業態を児童生徒に対して情報提供を図る 事務局運営の体制強化 事業内容の周知方法を検討 各団体連携体制の確立を図るための会議の開催 情報のデータベースの構築と活用方法を検討

6 その他の取組や実績

- ・実施校にのぼり旗やグッジョブ運動とジョブシャドウイングのポスターを掲示するなどし、児童生徒の意識をジョブシャドウイングに向けさせると共に、学校全体に事業周知を図った。
- ・情報共有のため、学校教育課主催の市内小中学校キャリア教育担当者連絡会へ参加。
- ・地域への啓発活動として、商工会主催のイベント「綱がるちゃんぶる～市・軽便市」にてグッジョブブースを設置し、ジョブシャドウイング事業やグッジョブ運動の周知広報を行い、地域連携を図った。
- ・各実施校での取組みを町内へ周知するため町広報紙に掲載した。

7 次年度への展望

本協議会は、地域の雇用対策として就業意識の向上を目的に、ジョブシャドウイングを含む地域が連携した取組みを実施する組織として平成24年度から活動してきた。昨年度から実施しているジョブシャドウイングにおいては、キャリア教育プログラムの一つとして学校側が実施の必要性を認識したうえで主体的に取り組むことが前提であるが、次年度以降は、既存で実施しているキャリア教育プログラム（職場見学・職場体験）との融合を目指したプログラムの見直しを行い、「児童生徒が自身の将来や夢、進路について自分で考えるきっかけ」となるよう系統性を重視した目標を明確にしていきたい。

今後は事業の効率化を図るため十分協議し、併せて地域人材の発掘に取り組んでいけるよう多面的な活動も検討していきたい。

沖縄県のグッジョブ運動を通じた雇用対策事業を包括的に実施できるよう学校や地域と協議し、地域の特性を活かした若年者層の就労意識向上に取り組む、各々が自己実現を目指すことのできる環境整備を図っていきたい。

4 石垣地区

平成25年 石垣市グッジョブ連携協議会

1 平成24年度 活動概況

(1) 協議会発足の背景

石垣市は小学校20校、中学校9校（内小中設置校4校）、高等学校3校からなるが、高等学校卒業後の進学先が石垣市内には無いため、沖縄本島、あるいは県外へ出る子ども達がほとんどである。そのため、石垣市内への職業の興味関心は低く、島内企業では若い世代の確保が課題となっている。

今後、継続的に本事業を実施するため行政・企業・経済団体や教育機関等を含めた産学官が連携する機関として、石垣市グッジョブ連携協議会を発足した。

(2) 平成24年度活動概況

石垣市内、小学校における大規模校での実施、北部地域4校合同実施、石垣市内の中学校と複式学級を持つ小学校と竹富町の中学校との合同実施など、石垣市地区は他地区のロールモデルとなる実施が多く、それぞれの特性に合わせた出発式、事前学習、送迎、ジョブシャドウイング実施の工夫が必要となったが、大きなトラブルもなく無事全校実施を終えることができた。ジョブシャドウイングを活用した、産学官、地域連携の構築を図った。

(3) 平成25年度への展望

	平成24年度の課題	改善策
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への事業説明が十分ではなかった 送迎サポーター確保 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者説明会を通して保護者の事業理解を深める
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> 実施校への指導、事業説明 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局として協力体制の強化を図る
地域 コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 自治会、公民館等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 自治定例会などに働きかけ、事業周知から連携を図る
行政	<ul style="list-style-type: none"> 市役所内のメンター及び予備メンターの確保 緊急時の危機管理徹底 周知広報 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局としての緊急時の体制を整える 広報誌などを利用し、市民への事業周知を図る
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> 連絡調整会議の出席率 紹介企業の数 	<ul style="list-style-type: none"> 会議への積極的参加を呼びかけ、事業の共通理解を深める 各経済団体の定例会などに働きかけ、受入企業の開拓を行う
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況の共有理解 出発式、説明会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に会議を実施し、成果及び課題を構成メンバーで共有したうえで、今後の役割の住み分けが必要

2 平成25年度の活動概要

石垣市グッジョブ連携協議会発足にあたり、昨年度以上に協議会としての連携を強化した。

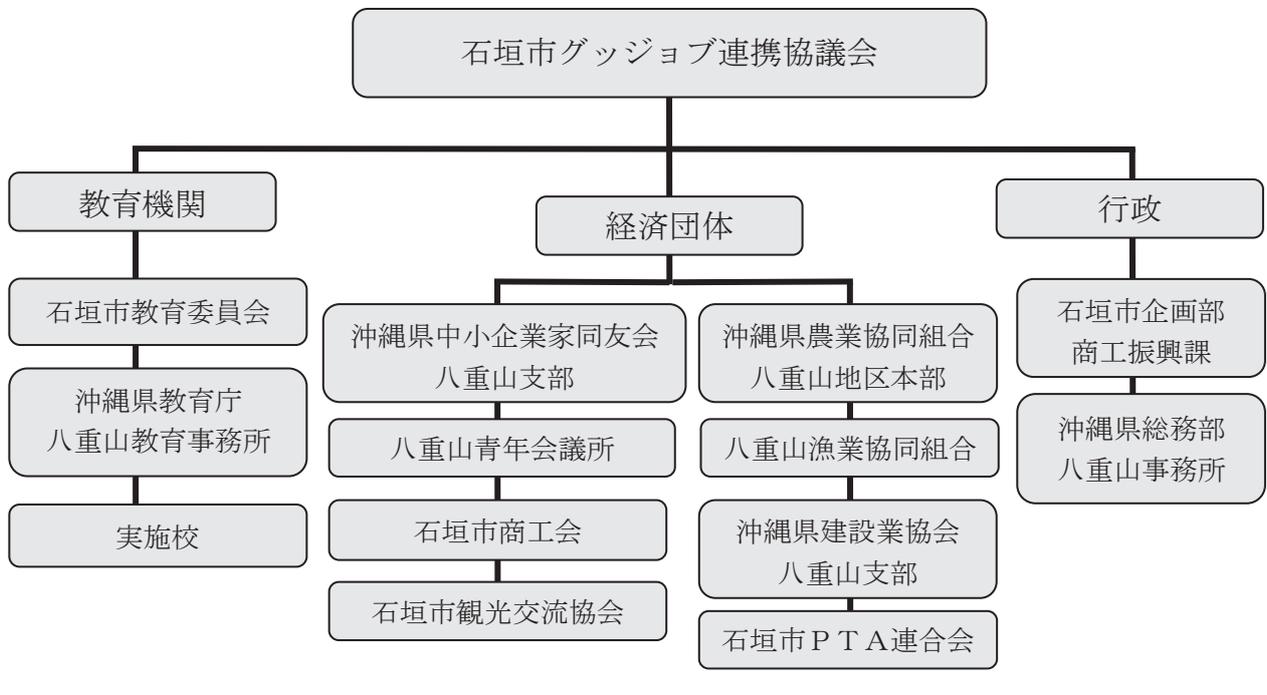
昨年度の課題であった送迎体制については、早めに保護者説明会を行い、本事業の周知と理解を得、送迎サポーターを募ることで解決を図った。また、企業開拓の幅を広げることで、地域の仕事に興味を持ち、働くことへの意欲や関心を高められるよう工夫を行った。

(1) 協議会について

今年度、新たに沖縄県農業協同組合八重山地区本部、八重山漁業協同組合、沖縄県建設業協会八重山支部を加え、幅広い業種業態を網羅できる体制を整えた。また、石垣市PTA連合会を構成メンバーに加え、本事業の周知と、家庭と地域との結びつきを強固にする目的で石垣市グッジョブ連携協議会を立ち上げた。

協議会名称	石垣市グッジョブ連携協議会
所在地	沖縄県石垣市美崎町 14 番地
活動目的(理念)	協議会は、産学官・地域及び家庭が連携し、地域が一体となった具体的な取り組みを実施することにより、将来の石垣市の担い手となる児童生徒の勤労観・職業観の醸成を図るとともに、地域の雇用問題の解決や地域全体の就業意識の向上を図ることを目的とする。

■構成表



■構成団体名簿		
No.	団体名	役職
1	石垣市 企画部商工振興課	課長
2	石垣市教育委員会 学校指導課	課長
3	沖縄県八重山事務所	総務課長
4	沖縄県教育庁 八重山教育事務所	指導主事
5	石垣市商工会	経営指導員
6	沖縄県中小企業家同友会 八重山支部	支部長
7	八重山青年会議所	理事長
8	石垣市観光交流協会	副会長
9	沖縄県農業協同組合 八重山地区本部	本部長
10	八重山漁業協同組合	代表理事組合長
11	沖縄県建設業協会 八重山支部	事務局長
12	石垣市 PTA 連合会	会長
13	石垣市立石垣小学校	校長
14	石垣市立白保中学校	校長
15	石垣市立平久保小学校	校長
16	石垣市立野底小学校	校長
17	石垣市立明石小学校	校長
18	石垣市立伊野田小学校	校長
19	石垣市立富野小学校	校長
20	石垣市立吉原小学校	校長
21	石垣市立崎枝小学校	校長
22	石垣市立大本小学校	校長

(2) 事業計画（実績）報告

今年度の実施校は小学校5・6学年(吉原小学校は5学年が欠学年のため4学年)、中学校1年生を対象にジョブシャドウイングを実施した。実施校については、事務局である石垣市商工振興課と石垣市教育委員会で選定を行った。合同実施においては、実施毎に選定された幹事校が各学校を取りまとめ、日程調整などを行うことでスムーズに行えた。

昨年度のモデル実施で課題となった受入企業開拓については、構成メンバーからの企業紹介や直接開拓でクリアすることが出来た。実施校の担当教員、担任の事業理解といった課題を踏まえ、今年度新たに西部地区を加え、石垣島全域でジョブシャドウイングを実施した。また、送迎についても、保護者説明会を通して保護者に対して本事業の理解を深め、送迎サポーターを募った。

月	実績
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング実施校、実施人数確定 ・地区コーディネーター個別研修 ・【石垣小学校】日程調整
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会 第1回会議開催 ・【石垣小学校】受入企業開拓 ・【白保中学校、北部4校合同、大本小学校、吉原小学校】日程調整 ・【石垣小学校、北部4校合同】校内研修会 ・【石垣小学校、白保中学校、明石小学校、野底小学校】保護者説明会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・【石垣小学校】事前学習、職業人講話 ・【石垣小学校】ジョブシャドウイング実施 ・【石垣小学校】事後学習 ・【大本小学校】保護者説明会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・【石垣小学校】成果発表会 ・【崎枝小学校、富野小学校】保護者説明会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・【白保中学校】受入企業開拓 ・【西部3校+大本小学校合同】キャリア教育講演会
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・【北部4校合同、西部3校+大本小学校合同】受入企業開拓 ・【白保中学校】学習内容調整
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・【白保中学校】事前学習、職業人講話 ・【白保中学校】ジョブシャドウイング実施 ・【白保中学校】事後学習 ・【伊野田小学校】保護者説明会 ・【北部4校合同】第1回事前学習、職業人講話
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・【西部3校+大本小学校合同】第1回事前学習、職業人講話 ・【西部3校+大本小学校合同】第2回事前学習、ビジネスマナー学習 ・【北部4校合同】第2回事前学習、ビジネスマナー学習 ・【北部4校合同】ジョブシャドウイング実施 ・【北部4校合同】事後学習 ・【西部3校+大本小学校合同】ジョブシャドウイング実施 ・【富野小学校、吉原小学校、崎枝小学校、大本小学校】事後学習
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成、各種アンケート集計 ・【崎枝小学校】発表会
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成、各種アンケート集計
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・【白保中学校】発表会 ・【北部4校合同】発表会 ・【富野小学校】発表会 ・【吉原小学校】発表会 ・【大本小学校】発表会
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度ジョブシャドウイング実施校選定

(3) 【受入企業リスト】

昨年度の受入企業を基に、児童生徒の職業選択の幅を広げることを狙い、業種が偏らないようあらゆる分野に開拓・周知を行うことで、受入を募った。

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	株式会社サンエー 石垣シティ	各種商品小売業	2	事業局
2	株式会社石垣市経済振興公社	各種商品小売業	4	商工会
3	石垣市特産品振興協同組合	協同組合 (ほかに分類されないもの)	9	商工会
4	株式会社石垣島かまぼこ	食料品製造業	1	商工会
5	株式会社あぞみ屋	繊維工業	1	事業局
6	株式会社琉球銀行 八重山支店	銀行業	2	市役所
7	株式会社ピースアイランド ホテルピースアイランド石垣イン八島	宿泊業	2	観光協会
8	株式会社ロイヤルマリンパレス	宿泊業	3	青年会議所
9	ANA インターコンチネンタル 石垣リゾート	宿泊業	15	事業局
10	株式会社トータルサポートえん	社会保険・社会福祉・介護事業	1	石垣小学校
11	沖縄電力株式会社 離島カンパニー 八重山支店	電気業	12	事業局
12	沖縄トヨタ自動車株式会社 八重山支店	機械器具卸売業	6	事業局
13	陸運総合株式会社	機械器具卸売業	2	中小企業家同友会
14	JTA サザンスカイサービス株式会社 石垣空港所	航空運輸業	9	ロータリークラブ
15	日本トランスオーシャン航空株式会社 八重山営業所	航空運輸業	2	ロータリークラブ
16	日本郵便株式会社 八重山郵便局	郵便業 (信書便事業を含む)	4	市役所
17	八重山観光フェリー株式会社	水運業	2	事業局
18	石垣島ドリーム観光株式会社	水運業	2	事業局
19	有限会社安栄観光	水運業	1	事業局
20	有限会社八重泉酒造	飲料・たばこ・飼料製造業	2	中小企業家同友会
21	有限会社ディーシーコーポレーション	洗濯・理容・美容・浴場業	2	中小企業家同友会
22	幸地薬局	その他の小売業	1	中小企業家同友会

23	JA おきなわファーマーズマーケットやえやまゆらていく市場	(他に分類されないもの)	4	事業局
24	海上保安庁 石垣海上保安部	国家公務	6	事業局
25	第十一管区 海上保安庁 石垣航空基地	国家公務	4	協議会
26	環境省 九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所 石垣自然保護官事務所	国家公務	6	事業局
27	気象庁 石垣島地方气象台	国家公務	2	事業局
28	沖縄県 土木建築部 八重山土木事務所	地方公務	2	八重山事務所
29	沖縄県 福祉保健部 八重山福祉保健所	地方公務	1	八重山事務所
30	沖縄県 農業研究センター 石垣支所	地方公務	3	八重山事務所
31	沖縄県 八重山農林水産振興センター	地方公務	2	八重山事務所
32	八重山平和祈念館	地方公務	1	八重山事務所
33	石垣市役所 企画部 企画政策課	地方公務	1	市役所
34	石垣市役所 福祉部 福祉総務課	地方公務	1	市役所
35	石垣市役所 農林水産部 農政経済課	地方公務	1	市役所
36	石垣市消防本部	地方公務	4	市役所
37	石垣市立図書館	地方公務	1	教育委員会
38	沖縄県立八重山病院	医療業	2	協議会
		合 計	126	

※事業局：グッジョブおきなわ推進事業局 ※商工会：石垣市商工会 ※青年会議所：八重山青年会議所
 ※中小企業家同友会：沖縄県中小企業家同友会八重山支部 ※市役所：石垣市役所
 ※教育委員会：石垣市教育委員会 ※八重山事務所：沖縄県総務部八重山事務所

3 実施校 活動報告

- ※ JS：ジョブシャドウイングの略
- ※ コマ数（1校時）：小学校 45分、中学校、高校 50分、大学 90分を指す
- ※ 北部地区 4校：平久保小学校・野底小学校・明石小学校・伊野田小学校
- ※ 西部地区 3校：富野小学校・吉原小学校・崎枝小学校

1. 石垣市立石垣小学校（継続）

1	学校情報	校 長：石垣 安夫			
		住 所：〒907 - 0023 石垣市字石垣 204 番地			
		電 話：0980 - 82 - 2107		FAX：0980 - 83 - 6331	
	実施概略	対象学年： 6年生 2クラス 63人（内 実施 63人）			
担 当：新城 史（1組担任）、高木 彩花（2組担任）					
実施日		コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計

	<p>事前学習：平成 25 年 6 月 20 日 平成 25 年 6 月 25 日</p> <p>J S 実施：平成 25 年 6 月 27 日</p> <p>事後学習：平成 25 年 6 月 27 日 平成 25 年 7 月 4 日 平成 25 年 7 月 8 日 平成 25 年 7 月 10 日</p>	2 コマ	3 コマ	5 コマ
			4 コマ	4 コマ
		2 コマ 2 コマ 2 コマ 1 コマ		7 コマ
実施の ねらい	担当教員との調整で、全体で活動するとパワーはあるものの、個々では引っ込み思案になる児童が多いという点と、全体では最上級学年という意識や主体性、自主性をもった委員会活動に至っていないとの声を受け、ジョブシャドウイングで責任を持って仕事を行う大人の姿を見て、学校生活で役立てたい。			
事前学習 内容	<p>2 クラスのため、コーディネーター2 人で担当した。</p> <p>1. 自分自身を見つめ直しながら「仕事」「職業」について考え、幅広い視点を持つ。</p> <p>2. ジョブシャドウイングについての理解を深め、実際に行くときの心構えや意識を高める。</p> <p>3. ジョブシャドウイングに行く際に気をつけることや、社会で必要なマナーについて、あいさつ・名刺交換を通して習得する。</p> <p>質問に対しての発言も活発で、児童も集中して授業に取り組んでいた。</p>			
事後学習 内容	<p>5 人 1 グループを作り、それぞれが感じてきた「仕事」「職業」について、共通している部分を出し合い働くことについて振り返りを行った。</p> <p>「仕事を見てよかったこと」「大変だったこと」「メンターさんのここがすごい」「仕事とは」について、グループで意見をまとめ発表した。</p> <p>仕事や働くことについて互いに共通している部分を共有することで、社会への気づきを深めている様子が伺えた。</p>			
発表会	<p>ジョブシャドウイングを通して学んだことを、保護者や受入企業、メンターをお招きし感謝の意を込めて発表を行うことで、学校での取組みの様子やジョブシャドウイングを経験しての児童の変化を伝え、今後の継続した取組みにつながるよう開催した。</p> <p>当日は、企業ごとに作成した成果新聞を、4 箇所に分けたブースでそれぞれ発表を行い、発表時間は 1 人約 6 分。4 部に分けて全員が発表を行った。</p> <p>成果新聞では、クイズを取り入れ、聞く側を飽きさせない工夫がみられた。</p> <p>また、体育館入口ではプロジェクターを用いて、事前学習・職業人講話・ジョブシャドウイング実施の様子をスライドショーで流した。</p> <p>当日は、保護者 5 人・メンター 9 人・県関係者 2 人が参加した。</p>			
職業人 講話	<p>『テレビを通して石垣市の情報発信』</p> <p>石垣ケーブルテレビ株式会社(記者 砂川孫優氏)</p> <p>職業人講話は、体育館で行い 5 年生も一緒に参加した。</p> <p>コーディネーターがインタビュアーとなり、トーク形式で行った。</p> <p>取材道具の説明や編集作業を実際にスクリーンに映し出し、表の見える仕事と裏の見</p>			

	えない仕事を知ることができた。 また、実際に取材で使用しているカメラを回し、児童に取材の様子を見せるなど、仕事をしているイメージを持つことができた。
保護者・地域	日曜参観日の中で保護者説明会を実施し、ジョブシャドウイングの周知、送迎の協力依頼を行った。 石垣地区実施唯一の大規模校であり、受入企業先への送迎では、学校側より文書を出し送迎サポーターを募った。 ジョブシャドウイング当日は、送迎サポーター17人の協力のもと、円滑に送迎を行うことが出来た。
その他	受入企業29社協力のもと、ジョブシャドウイングを実施した。 出発式では、他人事ではなく自分のこととして意識して実施できるよう6年生全員で児童決意表明を行った。(以下引用) 【私たち6年生はジョブシャドウイングに参加するため、三つの柱をたてました。 一つ 「笑顔」大きな声であいさつ。メンターさんに笑顔で感謝を伝えます。 二つ 「発見」お仕事をしっかり見て、働くことに真剣に向き合います。 三つ 「夢」自分の将来の夢や進路について考え、「働く夢」を広げます。 これら三つの柱を守ることで、働くことの大切さを学んでいきたいと思います。働く夢を広げること。夢への第一歩。スタート】

2. 石垣市立白保中学校（継続校）

2	学校情報	校 長：宜野座 安夫			
		住 所：〒907 - 0242		石垣市字白保 268 - 35 番地	
		電 話：0980 - 86 - 7841		FAX：0980 - 86 - 7841	
実施概略	対象学年 ：1年生 1クラス	17人		(内 実施 17人)	
	担 当 ：瀬名波 綾乃 (1組担任)、波照間 督紀 (1組副担任)				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習 ：平成25年9月4日		1コマ		
	平成25年9月11日		1コマ		
	平成25年10月4日			2コマ	4コマ
	JS実施 ：平成25年10月8日			4コマ	4コマ
	事後学習 ：平成25年10月8日		2コマ		
平成25年10月16日		2コマ			
平成25年10月23日		1コマ			
平成25年11月1日		1コマ			
平成25年11月6日		1コマ			
平成25年11月27日		2コマ			
平成25年12月4日		1コマ			
平成25年12月11日		1コマ			

	平成 25 年 12 月 16 日 平成 26 年 1 月 8 日 平成 26 年 1 月 9 日 平成 26 年 1 月 15 日 平成 26 年 1 月 16 日 平成 26 年 1 月 20 日 平成 26 年 1 月 22 日 平成 26 年 1 月 29 日	1 コマ 1 コマ 1 コマ 1 コマ 1 コマ 1 コマ 1 コマ 1 コマ		19 コマ
実施の ねらい	地域柄、農業関係の仕事は小さい頃から触れて見ている。全く別の業種を見ることで、ジョブシャドウイングを通して石垣島にあるたくさんの業種業態を、体験とは違い観察することで感じ取ってほしい。			
事前学習 内容	<p>1. 「仕事とは」「働くとは」について考え、幅広い視野を持つ。 生徒全員が答えられるよう、仕事についての質問項目を多く取入れ、自分の考えやまわりの友達の考えをみんなで共有できるよう工夫した。ジョブシャドウイングについての理解を深め、実際に行くときの心構えや意識を高める。</p> <p>2. ジョブシャドウイングに行く際に気をつけることや、社会で必要なマナーを、あいさつ・名刺交換を通して習得する。机は使わず、椅子を半円に並べ、あいさつや名刺交換がしやすいようにした。</p>			
事後学習 内容	<p>ジョブシャドウイング実施を振り返り、「企業名」「メンター名」「仕事を見て凄いなと思ったところ」を、観察シートを用いて一人ひとり発表した。</p> <p>情報をみんなで共有することで、幅広い視点を持てた。発表会に向けての流れ、成果物新聞の作成方法について説明（一番記事・二番記事・三番記事・カコミ記事・編集後記）を行い、新聞作成に役立てる。</p>			
発表会	<p>学習発表会の中でパワーポイントを用い、生徒一人ひとり発表を行った。ジョブシャドウイング事業の取り組みや成果を保護者や地域の大人に向けて発表することで、地域全体で働くことに対する認識や意識を高めることに繋げた。体育館後方では生徒が作成した成果物の壁新聞も展示し、また電子黒板を用いてジョブシャドウイング事業の事前学習から実施、事後学習までの流れを生徒の音声付で、画像を流すなど、見ている人に取り組みが伝わるよう工夫がみられた。</p>			
職業人 講話	<p>『仕事とは ～ネバーギブアップ～』 有限会社石垣設計室(代表取締役 石垣三夫氏) 体育館で行い全校生徒参加した。</p> <p>地域の働く大人に興味・関心を持ち、「働くこと」について考えることを目的とし、講師の中学時代の話、今の仕事をするきっかけや苦労話などを通して社会への「気づき」を促した。</p>			
保護者・ 地域	<p>日曜参観の時間を活用し、保護者向けにジョブシャドウイング事業説明並びに送迎サポーターの呼びかけを行った。</p> <p>ジョブシャドウイング当日は、教員 1 人、市関係者 1 人、送迎サポーター 5 人の協力のもと、円滑に送迎を行うことが出来た。</p>			

その他	当初、出発式は市が管理する施設で行う予定だったが、出発式会場までの移動や時間を考慮し、学校で出発式を行った。受入企業先の市街地まで少し距離はあるが、送迎サポーター協力のもと、受入企業 11 社全てスムーズに送迎を行うことができた。
-----	---

【北部地区4校 合同実施】

北部 4 校合同実施は今年で 2 年目の実施となる。また、石垣市立明石小学校は平成 23 年度のモデル校からジョブシャドウイングを行っている。北部地区の平久保小学校、野底小学校、明石小学校、伊野田小学校の 4 校は年に 2 回合同学習を行っており交流があることから、本事業を合同で取入れた。交流学习も目的のひとつとし、事前学習から事後学習まで全て合同で実施することで、他校の児童と刺激し合いながら行うことができた。詳細は下記に記す。

1. 石垣市立平久保小学校（継続）

1	学校情報	校 長：安和 守光				
		住 所：〒907 - 0331 石垣市字平久保 77 番地				
		電 話：0980 - 82 - 2143		FAX：0980 - 89 - 2261		
	実施概略	対象学年：5・6年生 1クラス 5人（内 実施 5人）				
		担 当：多良間 敦子（1組担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 25 年 7 月 28 日		1 コマ		
		平成 25 年 9 月 27 日		1 コマ		
		平成 25 年 10 月 18 日		1 コマ		
		平成 25 年 10 月 24 日			2 コマ	
平成 25 年 11 月 1 日		1 コマ				
平成 25 年 11 月 8 日		1 コマ				
平成 25 年 11 月 12 日			2 コマ	9 コマ		
J S 実施：平成 25 年 11 月 14 日			4 コマ	4 コマ		
事後学習：平成 25 年 11 月 14 日		1 コマ				
平成 26 年 1 月 17 日		1 コマ				
平成 26 年 1 月 24 日		2 コマ		4 コマ		

2. 石垣市立野底小学校（継続）

2	学校情報	校 長：西前津 松市			
		住 所：〒907 - 0333 石垣市字野底 138 番地			
		電 話：0980 - 89 - 2144		FAX：0980 - 89 - 2079	
実施概略	対象学年：5・6年生 1クラス 13人（内 実施 13人）				
	担 当：田中 直晶（1組担任）				

実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
事前学習 ：平成 25 年 10 月 24 日			2 コマ	
平成 25 年 10 月 30 日		1 コマ		
平成 25 年 11 月 6 日		1 コマ		
平成 25 年 11 月 12 日			2 コマ	
平成 25 年 11 月 13 日		1 コマ		7 コマ
J S 実施 ：平成 25 年 11 月 14 日			4 コマ	4 コマ
事後学習 ：平成 25 年 11 月 14 日		2 コマ		
平成 25 年 12 月 2 日		1 コマ		
平成 25 年 12 月 11 日		1 コマ		
平成 25 年 12 月 12 日		1 コマ		
平成 25 年 12 月 18 日		1 コマ		
平成 25 年 12 月 19 日		1 コマ		
平成 25 年 12 月 24 日		1 コマ		
平成 26 年 2 月 5 日		2 コマ		
平成 26 年 2 月 12 日		1 コマ		
平成 26 年 2 月 13 日		2 コマ		
平成 26 年 2 月 19 日		1 コマ		
平成 26 年 2 月 20 日		1 コマ		15 コマ

3. 石垣市立明石小学校（継続）

3	学校情報	校 長：比嘉 政宏			
		住 所：〒907 - 0332 石垣市字伊原間 249 番地			
電 話：0980 - 89 - 2142		FAX：0980 - 84 - 5275			
実施概略	対象学年：5・6年生 1クラス 3人（内 実施 3人）				
	担 当：真鶴 かおり（1組担任）				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習 ：平成 25 年 5 月 20 日		1 コマ		
	平成 25 年 7 月 16 日		1 コマ		
	平成 25 年 9 月 30 日		1 コマ		
	平成 25 年 10 月 24 日			2 コマ	
	平成 25 年 11 月 1 日		1 コマ		
	平成 25 年 11 月 8 日		1 コマ		
平成 25 年 11 月 12 日			2 コマ	9 コマ	
J S 実施 ：平成 25 年 11 月 14 日			4 コマ	4 コマ	
事後学習 ：平成 25 年 11 月 14 日		2 コマ			
平成 26 年 1 月 17 日		2 コマ			
平成 26 年 1 月 20 日		1 コマ		5 コマ	

4. 石垣市立伊野田小学校（継続校）

4	学校情報	校 長：西原 貴和子			
		住 所：〒907 - 0241 石垣市字桃里 168-56			
電 話：0980 - 86 - 850		FAX：0980 - 86 - 7319			
実施概略	対象学年： 5・6年生 1クラス 4人（内 実施 4人）				
	担 当：名嘉眞 功基（1組担任）				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習：平成 25 年 9 月 27 日		1 コマ		
	平成 25 年 10 月 21 日		1 コマ		
	平成 25 年 10 月 22 日		1 コマ		
	平成 25 年 10 月 23 日		1 コマ		
	平成 25 年 10 月 24 日			2 コマ	
	平成 25 年 10 月 28 日		1 コマ		
	平成 25 年 11 月 11 日		1 コマ		
平成 25 年 11 月 12 日			2 コマ	10 コマ	
J S 実施：平成 25 年 11 月 14 日			4 コマ	4 コマ	
事後学習：平成 25 年 11 月 14 日		1 コマ			
平成 25 年 11 月 15 日		1 コマ			
平成 25 年 11 月 28 日		1 コマ			
平成 25 年 12 月 4 日		1 コマ			
平成 25 年 12 月 6 日		1 コマ			
平成 25 年 12 月 13 日		1 コマ		6 コマ	

【北部地区4校合同実施について】

事前学習 内容	<p>他校との交流も兼ねて、合同で事前学習を行った。</p> <p>1. 自分の知っている仕事、ほかの子が知っている仕事を共有し幅広い視野を持つことを目的とした。</p> <p>2. 1枚の写真を見せ、この写真の中にどれだけの仕事があるかを児童に見つけて答えさせた。ひとつの仕事に、いろんな人が関わって仕事していることを理解する。</p> <p>3. 人とのコミュニケーションを学び、ジョブシャドウイングに行く際に気をつけることや、社会で必要なマナーについて、あいさつ・名刺交換を通して習得する。</p>
事後学習 内容	<p>情報の共有を図るため、ジョブシャドウイング実施後に全員で昼食を取り、午後の1時間4校合同で事後学習を行った。</p> <p>振り返りでは(企業名・メンター名・仕事を見て凄と思ったところ)観察シートを用いて発表した。</p> <p>合同で事後学習を行い全員でのディスカッションを通して、より多くの業種業態を知り、各々が感じてきた「仕事」について情報を共有した。</p>

発表会	野底小学校体育館で、5・6校時を利用し北部4校合同ジョブシャドウイング発表会を実施した。交流学习も含め、当日は保護者やメンターを招き、ジョブシャドウイングで学んだことを発表することでフィードバックを行った。3グループ別に分かれ、ポスターセッション形式で1人3分間の持ち時間で3回発表を行う。保護者やメンター、発表を行っていない児童はそれぞれ聞きたいブースへ行き発表を聞く。プログラムの内容も、各学校で役割を担うなど、合同学習における工夫がされていた。
職業人講話	『音楽を通して働くこと』 シンガーソングライター（カワミツサヤカ氏） コーディネーターがインタビュアーとなり、トーク形式で行った。 「歌」を通して、そこに关わる表に見える仕事と裏の见えない仕事を知り「働くこと」について考える。 小学校時代の自身の夢について話し、児童一人ひとりにも夢があるか問いかけた。ギターや三線を用いてミニライブを行い、手拍子や掛け声といった、音楽を通して人とのコミュニケーションの取り方を学んだ。
保護者・地域	授業参観日を利用し、学校毎に保護者説明会を行った。 ジョブシャドウイング実施までの流れ・目的、協議会の活動概要や受入企業先の説明を行い、本事業の理解と周知を促した。
ジョブシャドウイング当日	受入企業13社協力のもと、実施を行った。 受入企業の場所からは、遠隔地であり学校での出発式が行えないため、石垣市が管理する施設で出発式を行った。 出発式では、各学校での割当てがなされ、司会を児童が担当し「はじめの言葉」「グッジョブ掛声」を加える等、学校主体となって行った。 受入企業への送迎は全て教員で補うことができた。巡回ルートについても事前に調整されていたため、円滑に実施の様子を見ることができた。 事前に担当ルートを決めることで、全ての企業を巡回することができ、情報についても教員間で共有できた。
その他	北部4校合同の校内研修会では、校長先生を含む教員19人が参加し、沖縄県の雇用状況やキャリア教育の必要性、教員全体でのジョブシャドウイングに対する共通理解を促したことで、学校全体として取組むことができた。 日程調整や連絡調整事項等は、幹事校を決め、担当の教員が取りまとめを行った。

【4校合同実施】

4校のうち3校は西部地区にある富野小学校、吉原小学校、崎枝小学校、残り1校は石垣島の中心に位置する大本小学校である。

今年度、対象の5・6学年が各校5～6人と少数であるため、合同で実施した。西部地区は交流学习などを活用しての他校との交流も少ない。合同で事前学習やジョブシャドウイングを行うことで、他校との交流を深め、多くの意見を聞くことで、視野を広げ情報の共有を図ることを目的とした。

また、西部地区と大本小学校区は、学校区近隣に企業が少ない。西部地区は石垣市の中ではキャリア教育の取組みが未着手の学校が多く、大本小学校区も近隣に企業が少いため、職場体験や職場見学などのキャリア教育の充実ができずにいた。本事業を行うことで、学校と地域が連携することを期待し、共通する課題を見つけ、合同実施を通して解決に繋げられるよう今年度取組んだ。取組みの詳細は下記に記す。

1. 石垣市立大本小学校（継続）

1	学校情報	校 長：石垣 俊子				
		住 所：〒907 - 0002 石垣市字真栄里 1111 番地				
		電 話：0980 - 82 - 6315		FAX：0980 - 84 - 1860		
	実施概略	対象学年： 5・6年生 1クラス 5人（内 実施 5人）				
		担 当：具志堅 美和（1組担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 25 年 9 月 26 日		2 コマ		
		平成 25 年 10 月 9 日		1 コマ		
		平成 25 年 10 月 10 日		1 コマ		
		平成 25 年 11 月 5 日			2 コマ	
平成 25 年 11 月 7 日			2 コマ	8 コマ		
J S 実施：平成 25 年 11 月 15 日			4 コマ	4 コマ		
事後学習：平成 25 年 11 月 18 日		1 コマ				
平成 25 年 11 月 25 日		1 コマ				
平成 25 年 12 月 2 日		1 コマ				
平成 25 年 12 月 9 日		1 コマ				
平成 25 年 12 月 12 日		1 コマ				
平成 25 年 12 月 16 日		1 コマ				
平成 25 年 12 月 18 日		1 コマ		7 コマ		

2. 石垣市立富野小学校（新規）

2	学校情報	校 長：宜野座 愛子				
		住 所：〒907 - 2143 石垣市字椋海 299-45				
		電 話：0980 - 88 - 2143		FAX：0980 - 84 - 4976		
	実施概略	対象学年： 5・6年生 1クラス 5人（内 実施 5人）				
		担 当：當間 園子（教務）、新城 浩史（1組担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 25 年 9 月 5 日		1 コマ		
		平成 25 年 10 月 11 日		1 コマ		
		平成 25 年 11 月 1 日		1 コマ		
		平成 25 年 11 月 5 日			2 コマ	
平成 25 年 11 月 7 日			2 コマ	7 コマ		
J S 実施：平成 25 年 11 月 15 日			4 コマ	4 コマ		
事後学習：平成 25 年 11 月 15 日		2 コマ				
平成 25 年 11 月 18 日		1 コマ				
平成 26 年 1 月 9 日		2 コマ				
平成 26 年 1 月 15 日		1 コマ				

	平成 26 年 1 月 16 日	2 コマ		
	平成 26 年 1 月 17 日	1 コマ		
	平成 26 年 1 月 21 日	2 コマ		
	平成 26 年 1 月 23 日	2 コマ		13 コマ

3. 石垣市立吉原小学校（新規）

3	学校情報	校 長：榮多 善仁				
		住 所：〒907 - 0453 石垣市字川平 1218 - 137				
		電 話：0980 - 88 - 2144		FAX：0980 - 88 - 2147		
	実施概略	対象学年： 4・5 年生 1 クラス 6 人（内 実施 6 人）				
		担 当：池原 豊（1 組担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 25 年 10 月 22 日		1 コマ		
		平成 25 年 10 月 25 日		1 コマ		
		平成 25 年 10 月 28 日		1 コマ		
		平成 25 年 11 月 1 日		1 コマ		
平成 25 年 11 月 5 日			2 コマ			
平成 25 年 11 月 7 日			2 コマ			
平成 25 年 11 月 11 日		1 コマ		9 コマ		
J S 実施：平成 25 年 11 月 15 日			4 コマ	4 コマ		
事後学習：平成 25 年 11 月 18 日		1 コマ				
平成 25 年 11 月 19 日		1 コマ				
平成 25 年 12 月 9 日		1 コマ				
平成 25 年 12 月 17 日		1 コマ				
平成 25 年 12 月 20 日		1 コマ				
平成 26 年 1 月 14 日		2 コマ				
平成 26 年 1 月 17 日		1 コマ				
平成 26 年 1 月 21 日		1 コマ				
平成 26 年 1 月 22 日		1 コマ				
平成 26 年 2 月 4 日		1 コマ				
平成 26 年 2 月 18 日		1 コマ				
平成 26 年 2 月 21 日		1 コマ				
平成 26 年 2 月 24 日		2 コマ		15 コマ		

4. 石垣市立崎枝小学校（新規）

4	学校情報	校 長：清水 ちか子			
		住 所：〒907 - 0452 石垣市字崎枝 530 - 18			
		電 話：0980 - 88 - 2142		FAX：0980 - 84 - 4558	
実施概略	対象学年： 5・6 年生 1 クラス 5 人（内 実施 5 人）				
	担 当：照屋 徹平（1 組担任）				

実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
事前学習：平成 25 年 10 月 15 日		1 コマ		
平成 25 年 11 月 5 日		1 コマ	2 コマ	
平成 25 年 11 月 7 日			2 コマ	6 コマ
J S 実施：平成 25 年 11 月 15 日			4 コマ	4 コマ
事後学習：平成 25 年 11 月 18 日		2 コマ		
平成 25 年 11 月 19 日		1 コマ		
平成 25 年 11 月 21 日		1 コマ		
平成 25 年 11 月 25 日		2 コマ		
平成 25 年 11 月 26 日		2 コマ		
平成 25 年 11 月 29 日		2 コマ		
平成 25 年 12 月 2 日		2 コマ		
平成 25 年 12 月 6 日		1 コマ		
平成 25 年 12 月 9 日		1 コマ		
平成 25 年 12 月 10 日		1 コマ		
平成 25 年 12 月 11 日		1 コマ		
平成 25 年 12 月 12 日		2 コマ		
平成 25 年 12 月 13 日		1 コマ		19 コマ

【4校合同実施について】

事前学習 内容	<p>4校合同で事前学習を行った。</p> <p>授業の目的のひとつとして、他校との交流を深め目的意識を持って授業を行ってほしいと学校より要望があった。</p> <p>授業中は緊張を和らげるため、アイスブレイクを取入れ、楽しい雰囲気の中でジョブシャドウイング実施の際の意識を高め、相手の話を聞く・相手に伝えることの大切さに気づきを得られるよう心掛けた。</p> <p>マナー学習では、人とのコミュニケーションを学び、ジョブシャドウイングに行く際に気をつけることや、社会で必要なマナーについて、あいさつ・名刺交換を通して習得した。</p> <p>名刺交換の練習の際は、他校の児童と行うことで緊張感を持って取組めた。</p>
事後学習 内容	<p>各学校で事後学習を行った。</p> <p>ジョブシャドウイングでお世話になった企業・メンターへお礼状の作成を行った。企業へお礼状送付の際、各校同じタイミングで発送できるよう事前に調整を行った。</p> <p>事後テキストを用い、振り返りを行い「仕事について」「働くことについて」、学びを深め、各々の感じてきたことを発表することで、共通理解を促した。成果物新聞の作成に向けては、作成方法や発表方法などを工夫しながら各自が作成を進めた。</p>
発表会	<p>各校、学習発表会や授業参観日の中でジョブシャドウイング事業の発表を行った。保護者や地域の大人、招待したメンターに対しフィードバックを行うことで、取組みを深めることができた。</p> <p>・崎枝小学校</p>

	<p>ジョブシャドウイング実施の様子を、パワーポイントを用いて写真を織り交ぜながら発表した。また、受入企業の制服やメンターの格好を児童が再現し、見ている側がイメージしやすいよう発表への工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大本小学校 総合的な学習「プロジェクトX～挑戦者達～」と題し、ジョブシャドウイングの感想を、パワーポイントを用い発表した。体育館入口では成果物新聞の展示もあり、取組みの様子が見てわかるよう工夫していた。発表会に出席したJTA サザンスカイサービス株式会社の課長から、「コミュニケーションの大切さを再認識した」との感想をいただいた。 ・富野小学校 総合発表「働く大人はかっこいい！」と題し、ジョブシャドウイング実施の感想を、事前学習・職業人講話、実施までの一連の流れを説明し、各々がジョブシャドウイングで感じたこと、将来の夢に向けて今後どう取組んでいきたいかを発表した。 ・吉原小学校 授業参観日を利用し、ポスターセッション形式で、保護者向けにジョブシャドウイングで取組んできたことを発表していた。
職業人講話	<p>『働く大人』 光楽園(店長 兼久和菜氏) 吉原小学校音楽室で、4校合同で行った。コーディネーターとインタビュー形式で行い、講話が単調にならないよう工夫した。 自営業で飲食店を開いている講師の具体的な仕事の内容と仕事のやりがいや苦労話等を聞くことで、「仕事」「働く」ことについて考えるきっかけをつくる。</p>
保護者・地域	<p>新規校ということもあり、保護者に対して授業参観日の時間を活用し、事業説明と、ジョブシャドウイングの取組み内容についての説明会を行った。参加した保護者は、児童が自分の好きな仕事を選び、そこでジョブシャドウイングを行えると思う保護者が多かったが、本事業のねらいは、児童の職業に対する視野や情報量を広げる目的もあるとの説明をし、しっかりと理解を得られるよう行った。</p>
ジョブシャドウイング当日	<p>ジョブシャドウイング受入企業の場所からは、遠隔地であり学校での出発式が行えないため、石垣市が管理する施設で出発式を行った。 出発式では、司会、校長挨拶、児童決意表明を各学校で役割を担った。 受入企業9社へは7ルートに分け、教員5人と市関係者1人で送迎を行った。受入企業を隈なく回り、児童の様子を見ることができるよう巡回ルートは各校の教員で担当を決めた。巡回した教員からは、担当ルートが決まっていた全ての企業を巡回し児童の様子を見ることができ、教員間で情報を共有することができたなどの感想があり、教員へも良い効果を生み出した。</p>
その他	<p>西部地区合同でキャリア教育講演会を実施し、校長教頭を含む25人が参加した。沖縄県の雇用状況を知り、キャリア教育の必要性を認識し、教員全体でのジョブシャドウイングに対する周知と理解を得た。 日程調整や連絡調整事項等は、幹事校を決め、担当の教員が取りまとめを行った。</p>

◆取組みの様子



【石垣小事前学習 マナー学習】



【石垣小 職業人講話】



【石垣小 JS実施中】
海上保安庁石垣航空基地



【石垣小 JS実施中】
石垣市立図書館



【石垣小 事後学習】



【石垣 小発表会】
ポスターセッション



【白保中 JS実施中】
あざみ屋



【白保中 JS実施中】
ANAインターコンチネンタル石垣リゾート



【白保中 事後学習】



【白保中事前学習 名刺交換】



【みんなでグッジョブ!】



【白保中 職業人講話】



【北部4校合同 事前学習】



【北部4校合同 職業人講話】



【北部4校合同 JS実施中】
石垣自然保護官事務所



【北部4校合同 JS実施中】
JTAサザンスカイサービス株式会社



【北部4校合同 JS実施中】
石垣島地方気象台



【JS実施中】
農業研究センター



【西部合同事前学習 ワーク中】



【西部合同 職業人講話】



【西部合同 JS実施中】
株式会社サンエー



【西部合同 JS実施中】
沖縄トヨタ自動車株式会社



【西部合同 JS実施中】
石垣市特産品販売センター



【西部合同 JS実施中】
JTAサザンスカイサービス株式会社

4 ヒアリング及びアンケート考察

【実施校】

今年度、ジョブシャドウイング実施を行うにあたり、新規校については個別に学校訪問しジョブシャドウイング事業の理解を深めた。また、校内研修等を実施し、学校全体に事業周知並びに共有を図った。

北部地区や西部地区は、遠隔地であり近隣に企業が少なく、職場体験や職場見学といったキャリア教育が充実できなかつた中でジョブシャドウイングを実施し、高い評価を得ることができた。継続校の中で、複式学級の学校は5年生と6年生で2回ジョブシャドウイングを行うことで比べることができとても良かったとの声があった。実施後は、「働く姿を見たことでリーダーシップができ、下級生に対する伝え方や指示の仕方が良くなった」「化学反応を起こしている段階で言葉や態度ではまだ表れていないが、夢や仕事に対する考え方や想いが変わってきている」と、担任の先生からの声もあった。

合同実施において、「事前に全ての日程が決まっているので、取り組みやすかった。しかし、運動会や他の学校行事と重なり、他校との学校行事を確認しながら日程調整を行うのに苦労した」との声もあがった。

【児童生徒】

ジョブシャドウイングを実施した9割の児童生徒は実施後、仕事に対するイメージが「良い方向に変わった」と答えた。2時間の実施の中で、働く大人を観察することでこれまでの考え方に変化が見られ、学校生活に臨む態度も良い方向に変わったようだ。

北部地区や西部地区においては、事前学習・ジョブシャドウイング実施まで合同で行ったことで、交流を深められお互いを刺激し合い実施できる良い機会となった。事前学習のあいさつや名刺交換の練習でも、緊張感をもって取り組むことができた。

ジョブシャドウイングを通して、学校生活で行うあいさつや係活動が仕事へどう結びつくのかを知るきっかけとなった。

【受入企業】

昨年度のモデル実施を経て、ジョブシャドウイングに対する周知ができており、企業への受入依頼は比較的スムーズに行えた。企業窓口担当者を置くことで、多岐に渡る部署からメンターが選出され、幅広く業種業態を見せることができた。実施後のメンターからは、「働くことの意味、大切さを伝えられれば」「社会貢献の一助になれば」との声もあり、事業に対する理解と協力が得られた。

しかし中には「2時間の実施で伝えることができたか」などの不安の声もあった。選出されたメンターへジョブシャドウイング当日の流れや注意事項等の説明を行ったが、中には説明が不足していたところもあり、ジョブシャドウイング自体がよくわからず不安を抱えたまま当日に臨んだとの声もあった。また、当日になってマスコミからの取材依頼があり、急きょ受入企業へ対応を依頼する場面があった。事前に把握し伝える調整をして、企業負担の軽減に努める。

5 実施総括（成果と課題）

	事例	課題	今後の取組についての展望・改善点
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者説明会の実施 ・校内研修会で全職員の事業共通理解 ・保護者サポーター協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校により参加者のばらつきがある ・ジョブシャドウイング事業周知が不十分で保護者サポーターの確保が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者説明会はジョブシャドウイング実施の周知と送迎において重要となるため、学校と十分な調整を行う
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング児童生徒受入協力及び関連機関への受入紹介 ・送迎の協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関の協力体制 ・情報の共有と連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有と連携の強化 ・学校支援地域本部コーディネーターへの事業説明及び情報の共有
地域コミュニティー	<ul style="list-style-type: none"> ・八重山記者クラブを利用し、各マスコミへの取材依頼 ・職業人講話講師 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への情報周知の方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ機関へジョブシャドウイング受入依頼
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング受入依頼 ・予備メンターの確保 ・送迎車両及びサポーター協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング事業理解と周知 ・児童生徒受入態勢 	<ul style="list-style-type: none"> ・石垣市 Facebook の活用と情報の発信 ・広報いしがきの活用、掲載依頼
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> ・傘下にある会員企業への事業説明及び紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入企業紹介の連携が鈍い 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓の幅を広げる ・各総会でジョブシャドウイング事業説明の場を設けていただく
協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに構成メンバーを加えた 沖縄県農業協同組合八重山地区本部／八重山漁業協同組合／沖縄県建設業協会八重山支部／石垣市PTA 連合会 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに加わった構成メンバーへの事業説明の徹底 ・構成メンバーへのジョブシャドウイング実施報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に協議会を実施し、成果と課題を共有する

6 その他の取組や実績

- 8月 西部地区合同キャリア教育講演会(校長先生含む教職員25名参加)
- 11月 北海道室蘭市 室蘭市議会行政視察研修
(「グッジョブ運動」についての事業説明。産学官、地域及び家庭が連携した取組み、児童生徒の就労観・職業観醸成の取組みについて説明)
- 3月 石垣地区ジョブシャドウイング実施パネル展開催(石垣市役所売店前ロビー)

7 次年度への展望

本年度の石垣地区では、昨年度に引続き大規模校の実施、北部地区と西部地区の2回に及ぶ4校合同実施が行われた。本年度は、昨年度の課題である受入企業への送迎体制や実施校と受入企業の事業理解を深めること、合同実施の日程調整を綿密に行うことを踏まえ実施を行った。その結果、企業開拓の幅も広がり、石垣島にある様々な業種業態を開拓するとともに受入企業への事業理解と協力を得ることができ、無事すべての児童生徒126人がジョブシャドウイングを実施できた。

送迎についても校内説明会を開催することで、教員、保護者の送迎サポーターが集まり、円滑にジョブシャドウイングを実施できた。地域内のキャリア教育を考えていく観点では、遠隔地の学校では、近隣に企業が少なく職場体験や職場見学などのキャリア教育の充実ができずにいたので、ジョブシャドウイングを一つのツールとして学校教育に位置づけることが出来た。児童においては、他校とのコミュニケーションを図れたことで児童が互いに刺激し合い、幅広い考えや意見を知ることで職業選択・就労観について広がりをもてることができた。

実施体制においては、移動時間を考慮し石垣市が管理する施設で出発式を行った。また、幹事校が学校窓口となり日程調整等を行うことで教員の負担を軽減できた。

北部地区は、本年度2年目の取組みとなり、各校との学校調整や日程調整、送迎体制においてスムーズに実施できた。送迎では、児童の数が学校によりばらつきがあるため、児童数が多い学校では負担との声もあったが、教員間の連携によりカバーすることができた。さらに幹事校だけでなく学校毎で役割を担うなど、学校が主体的に取組めるよう体制が構築できた。西部地区では、これまで他校との交流が少なかったため、事前学習から実施までを合同で行うことで交流学习の一助となった。

次年度の展望として、新たに加わった構成メンバーへの事業理解と協力を促し、より幅広い企業開拓を目指せるよう連携の構築を図り構成団体と地域との協力体制を強化していきたい。また、学校側、受入企業側の要望をきちんと加味したうえで、双方の現場負担を軽減したい。学校が行うべきこと、事務局が行うべきことを明確化し住み分けするとともに、作業を簡素化し石垣地区独自のアレンジを加え、より効率よく円滑にジョブシャドウイングが実施できるよう環境を整えたい。

5 久米島地区

平成25年 久米島町グッジョブ連携協議会

1 平成24年度 活動概況

(1) 協議会準備委員会発足の背景

久米島町は少子高齢化と過疎化に歯止めがかからず、その対策としての産業の創出や雇用の確保について大きな課題を抱えている。これらの課題を克服するため、喫緊の経済対策を実施しながら、大所高所かつ中長期スパンでの産業戦略の立案と実行が求められている。

このような背景から、本事業を実施することにより、久米島町が抱えている地域産業への若年層の就業意欲や関心の低さの要因を追求しながら、高校卒業後、就学や就職のため島を離れ、他地域で働く傾向にある子ども達に、幼いうちから「働くこと」への意識づけを行い「故郷に帰って働きたい」「地元の会社で頑張りたい」と、夢の持てる、魅力ある島づくりを考えるため、行政・教育機関・経済団体等を含め産学官連携を図ることはもとより、地域住民を巻き込んだ産学官地域連携の支援体制づくりを強化していくものとする。

(2) 平成24年度活動概況

月	実績
4月	・実施校の選定
5月	・＜久米島小学校、久米島西中学校＞訪問、説明
6月	・＜久米島小学校、久米島西中学校＞訪問、日程調整
7月	・地区連携推進員の雇用、配置 ・第1回久米島町グッジョブ連携協議会準備委員会開催 ・久米島町教育委員会主催 久米島町キャリア教育研修会実施
8月	・受入企業開拓
9月	・＜久米島小学校＞事前学習
10月	・＜久米島小学校＞ジョブシャドウイング実施
11月	・＜久米島小学校＞成果発表会
12月	・平成25年度ジョブシャドウイング実施校公募
1月	・＜久米島西中学校＞事前学習 ・＜久米島西中学校＞ジョブシャドウイング実施
2月	・＜久米島西中学校＞成果発表会
3月	・第2回久米島町グッジョブ連携協議会準備委員会開催 ・平成25年度ジョブシャドウイング受入企業開拓

(3) 平成25年度への展望

	平成24年度の課題	改善策
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体での情報共有 保護者説明会以外でも同一情報を共有する手段の模索 	<ul style="list-style-type: none"> 実施校内での校内研修会を設ける 保護者に向け、学校だよりなどを用いた本事業の周知 他学年の保護者とも連携をとれる仕組み作りの構築
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> 教頭会、学年会での本事業説明 実施担当教員を交えての定期的に情報交換の場を設置 	<ul style="list-style-type: none"> 実施担当教員対象の部会の開催（参加者：教育委員会、教員、事務局） 久米島町内全教員対象の合同校内研修会の開催 実施校ごとへ校内研修会の実施
地域 コミュニティー	<ul style="list-style-type: none"> 青年会への呼びかけ 校区内自治会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 区長会にて周知、自治会との連携を図る 公共機関（改善センター、空港ロビー、兼城港ロビー、公民館など）でのパネル展の実施、周知 青年会への周知、送迎、巡回の協力依頼、講話講師依頼
行政	<ul style="list-style-type: none"> 広報、周知 	<ul style="list-style-type: none"> パネル展の実施 ラジオ放送での年度始、年度末報告 広報誌を利用して島民へ引き続き周知を行う
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> 本事業のさらなる理解 	<ul style="list-style-type: none"> 企業開拓における連携の強化
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 会員の役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な部会の実施 学校を支援する企業のリスト化と整備

2 平成25年度の活動概要

今年度の実施規模は、前年度の実施規模2校54人の約3倍となる7校153人の大規模実施となる。久米島としての産学官・地域連携を目標に、全小学校で実施を行うということは、島内全地域が関わることを意味し、地域連携を図るきっかけづくりになると考えた。また、現小学校6年生が共通のキャリア教育を行っていることにより、次年度中学校へ進学した時に経験の格差を少なくすることも目的とした。

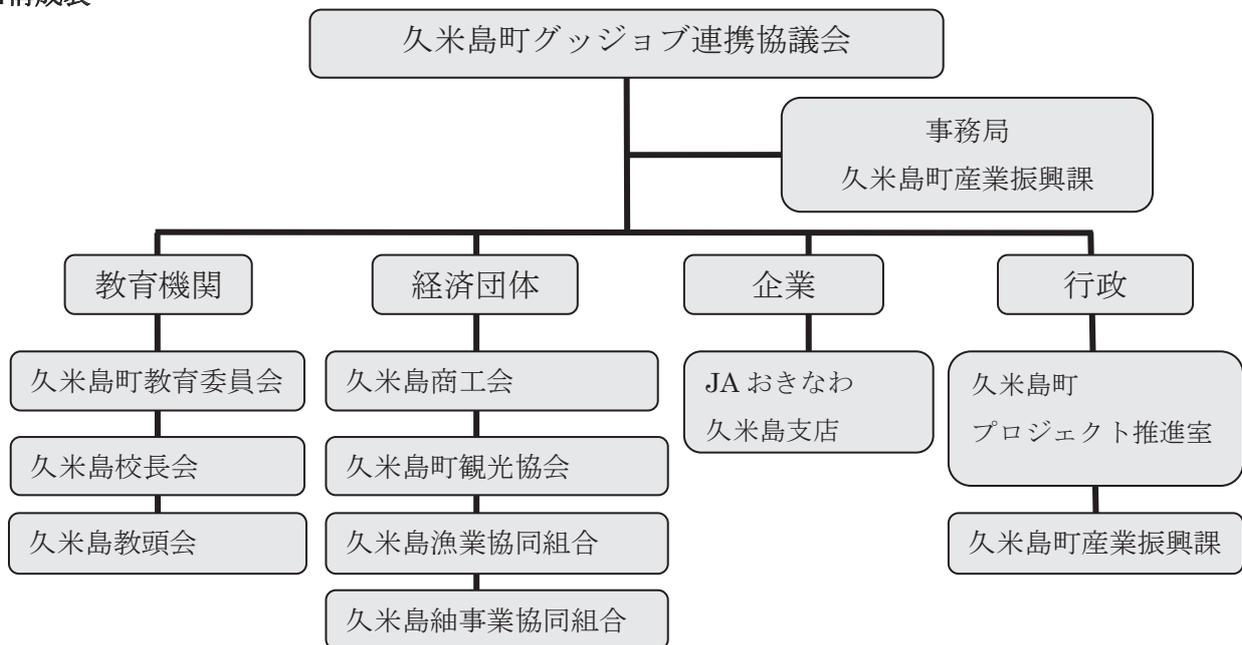
前年度と違い、大規模実施となったため、協議会発足をきっかけに参加団体協力による企業開拓の強化や役割分担など、前年度以上に協議会としての連携を強める必要がある。地域連携を視野に入れ、受入企業からの新規受入企業紹介や、実施サポーターを保護者のみならず地域団体からも募ることで、地域連携の仕組み作りを行う。

(1) 協議会について

今年度の協議会の特徴として、ジョブシャドウイング実施校校長が会員ではなく、毎月行われる校長会、教頭会から各代表を1人ずつ会員とし、協議会内での意見や情報などを校長会、教頭会で共有を図ることにより、ジョブシャドウイングを実施しない学校でも同一情報を得る手段とする。

協議会名称	久米島町グッジョブ連携協議会
所在地	沖縄県島尻郡久米島町字比嘉 2870 番地
活動目的 (理念)	久米島町で教育を受ける児童生徒を対象に沖縄型ジョブシャドウイング事業を取入れ、その実施主体となるものとし、若年者の失業率の高止まりやニート・フリーターの増加が問題になっているなか、幼いうちから「働くこと」への意識づけを行っていく環境を作る役割を担うことを目的とする。

■構成表



■構成団体名簿

No.	団体名	役職
1	久米島町産業振興課	課長
2	久米島町教育委員会	課長
		指導主事
3	久米島商工会	事務局長
4	久米島町観光協会	事務局長
5	久米島校長会	代表 (清水小学校校長)
6	久米島教頭会	代表 (久米島小学校教頭)
7	JA おきなわ 久米島支店	支店長
8	久米島漁業協同組合	参事
9	久米島紬事業協同組合	理事長
10	久米島町プロジェクト推進室	室長

(2) 事業計画（実績）報告

前年度の課題の1つであった地域連携について、今年度の改善策として保護者への周知に力を入れ、各実施校ごとに時間をかけ保護者説明を行った。久米島西中学校に関しては、今年度のジョブシャドウイング実施校の中で最も多い48人実施であり、送迎に対する不安があったため、久米島町青年団協議会へ送迎・巡回の依頼を行った。前年度同様、保護者に対しては個人面談時に、担当教員と連携を図り、保護者一人ひとりに丁寧に説明を行った結果、18人という多くの保護者の協力を得ることができた。

月	実績
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会会員へ挨拶 ・＜清水小学校、仲里小学校＞受入企業開拓、児童事前アンケート集計、事前学習 ・＜清水小学校＞保護者説明会
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・＜清水小学校、仲里小学校＞受入企業開拓、職業人講話講師調整 ・＜清水小学校＞事前学習、校内研修会 ・＜仲里小学校＞保護者説明会、校内研修会、職業人講話 ・＜久米島小学校、比屋定小学校、美崎小学校、大岳小学校＞日程調整
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回久米島町グッジョブ連携協議会開催 ・＜清水小学校＞職業人講話、ビジネスマナー学習 ・＜美崎小学校＞保護者説明会 ・＜仲里中学校＞ビジネスマナー学習（職場体験向け講座） ・＜仲里小学校＞ビジネスマナー学習 ・＜清水小学校＞ジョブシャドウイング実施、事後学習 ・＜仲里小学校＞ジョブシャドウイング実施、事後学習 ・＜久米島小学校、比屋定小学校、美崎小学校、大岳小学校＞受入企業開拓
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・＜久米島小学校、比屋定小学校、美崎小学校、大岳小学校＞受入企業開拓 ・＜清水小学校、仲里小学校＞受入企業へお礼及び実施後アンケート依頼 ・＜仲里小学校＞成果発表会、ヒアリング ・＜清水小学校＞成果発表会 ・＜比屋定小学校＞学習内容調整 ・＜清水小学校、仲里小学校＞児童事後アンケート集計
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・＜久米島小学校、比屋定小学校、美崎小学校、大岳小学校＞受入企業開拓 ・＜清水小学校＞ヒアリング
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・＜久米島小学校、比屋定小学校、美崎小学校、大岳小学校＞受入企業開拓 ・＜久米島小学校、美崎小学校、大岳小学校＞児童事前アンケート集計、学習内容調整 ・＜比屋定小学校、久米島小学校＞保護者説明会 ・＜美崎小学校＞事前学習
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・＜久米島小学校＞事前学習、ビジネスマナー学習 ・＜久米島小学校、比屋定小学校、美崎小学校＞職業人講話講師調整 ・＜比屋定小学校＞事前学習、職業人講話 ・＜久米島小学校＞ジョブシャドウイング実施、事後学習

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ <比屋定小学校>ビジネスマナー学習 ・ <美崎小学校>ビジネスマナー学習、職業人講話 ・ <比屋定小学校><u>ジョブシャドウイング実施</u>、事後学習 ・ <美崎小学校><u>ジョブシャドウイング実施</u>、事後学習 ・ <久米島小学校>職業人講話 ・ <大岳小学校>事前学習 ・ <久米島西中学校>日程調整 ・ <大岳小学校>職業人講話講師調整 ・ <久米島小学校、比屋定小学校、美崎小学校>受入企業へお礼及び実施後アンケート依頼 ・ <美崎小学校>成果発表会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 久米島産業まつりにて、グッジョブブース設置、周知 ・ <大岳小学校>職業人講話、ビジネスマナー学習 ・ <久米島小学校、比屋定小学校>成果発表会 ・ <大岳小学校><u>ジョブシャドウイング実施</u>、事後学習 ・ <大岳小学校>受入企業へお礼及び実施後アンケート依頼 ・ <久米島西中学校>受入企業開拓、生徒事前アンケート集計 ・ <久米島西中学校>保護者説明、職業人講話講師調整 ・ 久米島町青年団協議会へ久米島西中学校ジョブシャドウイング時の送迎、巡回の協力依頼
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ <久米島小学校、比屋定小学校、美崎小学校、大岳小学校>ヒアリング ・ <久米島西中学校>事前学習、職業人講話、ビジネスマナー学習 ・ <久米島西中学校>欠席者対象ビジネスマナー学習 ・ <久米島西中学校><u>ジョブシャドウイング実施</u>、事後学習 ・ 平成26年度ジョブシャドウイング実施公募
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ <久米島西中学校>受入企業へお礼及び実施後アンケート依頼 ・ 第2回久米島町グッジョブ連携協議会開催 ・ <久米島西中学校>成果発表会
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成26年度ジョブシャドウイング新規受入企業開拓 ・ 平成26年度ジョブシャドウイング受入依頼 ・ 平成26年度実施校調整

(3) 【受入企業リスト】

今年度のジョブシャドウイング受入企業については、ジョブシャドウイング実施校教員からの声などを取り入れ、児童生徒の夢や将来就きたい職業、興味のある職業を中心に開拓を行った。

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	久米島町教育委員会	地方公務	6	久米島町 教育委員会
2	久米島博物館	その他の教育業	5	
3	久米島町立学校給食センター	地方公務	1	
4	久米島町立久米島幼稚園	学校教育	1	
5	久米島町立清水幼稚園	学校教育	1	
6	久米島町立大岳幼稚園	学校教育	1	
7	久米島町立比屋定幼稚園	学校教育	1	
8	久米島漁業協同組合	協同組合	5	久米島漁業 協同組合
9	久米島紬事業協同組合	協同組合	8	久米島紬事業 協同組合
10	JA おきなわ 久米島支店	協同組合	5	JA おきなわ 久米島支店
11	サイプレスリゾート久米島	宿泊業	5	久米島町 観光協会
12	民宿久米島 別館	宿泊業	1	
13	株式会社イーストレンタカー	物品賃貸業	2	
14	FM久米島株式会社	放送業	5	久米島商工会
15	久米島ガス株式会社	ガス業	1	
16	株式会社たいよう薬局 本店	その他の小売業	2	
17	株式会社たいよう薬局 東店	その他の小売業	4	
18	美容室アミターバ	美容業	2	
19	株式会社丸吉組	総合工事業	6	
20	合資会社生活 ing デイホーム 家福み一家	介護事業	3	
21	合資会社生活 ing デイホーム 家福み一家 大田事業所	介護事業	4	
22	合資会社生活 ing デイホーム 家福み一家 美崎事業所	介護事業	3	
23	有限会社仲里石油商會	その他の小売業	1	
24	湖城写真館	技術サービス業	3	
25	株式会社久米島の久米仙	飲料製造業	1	
26	米島酒造	飲料製造業	5	
27	久米島赤鶏牧場	農業	1	

28	ニコー株式会社 ベスト電器 久米島店	機械器具小売業	4	事務局	
29	久米島海洋深層水開発株式会社 水産事業部	水産養殖業	1		
30	株式会社ポイントピュール	化学工業	3		
31	郵便局株式会社 久米島郵便局	郵便局	3		
32	JTA サザンスカイサービス株式会社 久米島空港所	航空運輸業	7		
33	久米商船株式会社	水運業	5		
34	純水企画開発	飲料製造業	1		
35	ホームプラザよしなが	その他の小売業	7		
36	東洋食品株式会社	食品製造業	1		
37	有限会社ハマユウキ おろしスーパー	飲食料品小売業	5		
38	沖縄ヤマト運輸株式会社 久米島センター	道路貨物運送業	4		
39	有限会社喜納 AGS カーゴサービス	道路貨物運送業	2		
40	居宅介護支援事業所わかみず	介護事業	2		
41	バーデハウス久米島	浴場業	2		
42	株式会社瀬底土建	総合工事業	2		
43	久米島ホテルドーム施設管理課	地方公務	3		
44	沖縄県 海洋深層水研究所	自然科学研究所	1		
45	航空自衛隊 久米島分屯基地	国家公務	1		
46	沖縄電力株式会社 久米島電業所	電気業	3		
47	久米島リサイクルセンター	廃棄物処理業	1		
48	儀間保育園	社会福祉事業	1		
49	ココストア 久米島仲泊店	飲食料品小売業	1		
		合 計	143		

※事務局：久米島町グッジョブ連携協議会事務局

3 実施校 活動報告

※ JS：ジョブシャドウイングの略

※ コマ数（1校時）：小学校45分、中学校、高校50分、大学90分を指す

1. 久米島町立清水小学校（新規校）

1	学校情報	校 長：吉野 剛				
		住 所：〒901-3125 沖縄県島尻郡久米島町字鳥島 198 番地				
		電 話：098-985-2286		FAX：098-985-4406		
	実施概略	対象学年： 6 学年 1 クラス 37 人 （内 実施 34 人）				
		担 当：宮平 貴司（1 組担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計

	事前学習 ：平成 25 年 4 月 23 日 平成 25 年 4 月 30 日 平成 25 年 5 月 7 日 平成 25 年 5 月 14 日 平成 25 年 5 月 21 日 平成 25 年 5 月 28 日 平成 25 年 6 月 5 日 平成 25 年 6 月 7 日 平成 25 年 6 月 12 日	1 コマ 2 コマ 1 コマ 2 コマ 1 コマ	1 コマ 1 コマ 2 コマ 1 コマ 2 コマ 2 コマ	1 コマ 1 コマ 2 コマ 1 コマ 2 コマ 2 コマ
	J S 実施 ：平成 25 年 6 月 18 日		4 コマ	4 コマ
	事後学習 ：平成 25 年 6 月 18 日 平成 25 年 7 月 10 日 平成 25 年 7 月 11 日 平成 25 年 7 月 12 日 平成 25 年 7 月 16 日	2 コマ 2 コマ 1 コマ 1 コマ	2 コマ 2 コマ 1 コマ 1 コマ	2 コマ 2 コマ 2 コマ 1 コマ 1 コマ
	発表会 ：平成 25 年 7 月 16 日	2 コマ		2 コマ
実施の ねらい	清水小学校ではキャリア教育に関する学習が新学期から始まるため、実施日を同月に設定し、集中的に取り組むことで児童への効果を高める。また、ジョブシャドウイングを経験することで、仕事や職種に関する認識の幅を広げ、働くことへの気づきを促す。			
事前学習 内容	事前学習では、働くことの意義について考え話し合い、働くことは生きていくために必要という答えが多数挙がった。その生きていくための生活費を小分類し、詳細内容を知ることにより、日常生活全てにお金がかかることや、働くことの重要性に気づくと共に、児童の普段の生活を見直すきっかけづくりとした。			
事後学習 内容	ジョブシャドウイング実施後の 5・6 校時を活用し、振返りをを行った。5・6 校時の 2 コマを使用し、一人ひとり発表を行った。内容としては、一番印象に残っているメンターさんの言葉や、働くことについてどう思ったか、今日の感想を A4 の白紙に記入し発表。児童達を感じたことを共有することを目的とした。			
発表会	<p>成果物にクイズなどを取入れることで、ただ発表するのではなく他の児童、メンター、企業担当者とコミュニケーションをとり、聞き手が退屈しないよう工夫をしていた。発表会には 4 企業から窓口担当者やメンター、関係者の計 7 人が参加した。</p> <p>初めてジョブシャドウイングを受入れた担当者は、児童の発表を通して、児童がメンターと過ごした 2 時間で得た様々な気づきを知ること、ジョブシャドウイングの効果と目的を改めて感じ、発表会へ参加したことを喜んでいた。また、将来の人材育成に対する期待感を持ち、「その職業に興味を持ちましたか？」などと児童に質問する様子も見られたことで、受入企業にとっても意義のある発表会となったことが伺えた。</p>			
職業人 講話	<p>「夢（目標）に対する想いをもち続けること」をテーマに、清水小学校の卒業生である、久米島そば処やん小〜 仲宗根直樹氏が講話を行った。</p> <p>内容としては、強い想いをもち行動し続けることが目標達成に繋がると話し、児童たちはしっかりと先輩の話を聞いていた。</p>			

保護者・地域	実施当日は8人の保護者の協力があり、28社の企業・事業所へ送迎を行った。中には、スムーズに送迎できるよう、事前に送迎ルートを下見し当日に臨んでいる保護者もいた。
その他	出発式は体育館で行い、来賓には久米島町グッジョブ連携協議会副会長 仲村渠一男氏（久米島町産業振興課課長）が児童に激励の言葉を述べた。 実施後、受入企業からは、「興味があることをちゃんと質問していたし、積極的に仕事内容を知ろうとしていて素晴らしいと思った」や、「メンターへ良い刺激になるので今後の受入も協力したい」という声が挙がった。

2. 久米島町立仲里小学校（新規校）

2	学校情報	校 長 ：平井 正良				
		住 所 ：〒901-3104 沖縄県島尻郡久米島町字謝名堂 970 番地				
		電 話 ：098-985-8127	FAX ：098-985-7581			
実施概略	対象学年 ： 6 学年 1 クラス 30 人 （内 実施 27 人）					
	担 当 ：本村 良太（1 組担任）					
	実施日		コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習 ：平成 25 年 4 月 19 日			2 コマ		2 コマ
	平成 25 年 4 月 25 日				2 コマ	2 コマ
	平成 25 年 5 月 2 日			2 コマ		2 コマ
	平成 25 年 5 月 16 日			2 コマ		2 コマ
	平成 25 年 5 月 30 日			1 コマ	1 コマ	2 コマ
	平成 25 年 6 月 20 日				2 コマ	2 コマ
	J S 実施 ：平成 25 年 6 月 25 日				4 コマ	4 コマ
事後学習 ：平成 25 年 6 月 25 日			1 コマ	1 コマ	2 コマ	
平成 25 年 6 月 27 日			2 コマ		2 コマ	
平成 25 年 7 月 4 日			2 コマ		2 コマ	
発表会 ：平成 25 年 7 月 11 日			2 コマ		2 コマ	
実施のねらい	ジョブシャドウイングを通して普段出会わない大人と出会うことでコミュニケーションの大切さ、多様な考え方で人が生きていることに気づき、自分自身の興味関心を大切に育てるきっかけを提供する。					
事前学習内容	自分の好きなこと（趣味）から、将来どんな仕事に就けるのかを児童全員で考え、共有することで自分の将来の職業選択肢の幅を広げる。好きなことから就ける職業は 1 つではないことを知り、多角的な視点から好きなことを見ることにより、数多くの就ける職業があることに気づく。					
事後学習内容	ジョブシャドウイング実施後、振り返りでは、担当教員が授業を行い、ジョブシャドウイングを通して学んだこと、分かったこと、新しく知ったことを発表させた。一人ひとり発表することで他の児童が学んだことを認識し共有することができた。					
発表会	パソコンで成果物を作成し、パワーポイントを用いた発表であった。 担当教員がパソコンの操作を行い、児童は覚えた発表原稿を、スクリーンを見ず、聞					

	<p>き手に聞こえやすいよう前を向き発表していた。当日は企業より3名の参加があった。発表会の最後には、参加したメンターから「みなさん素晴らしい発表でした。この学習にメンターとして協力でき、とても嬉しい気持ちです。将来の夢や目標に向かって頑張ってください。」と、全児童に向けてエールが送られた。受入企業や保護者を発表会に招待し、児童の成果を発表することでジョブシャドウイングの取組みが伝わり、地域が連携していく絆作りにつながった。</p>
職業人 講話	<p>「人とのつながりの大切さ」をテーマに、合資会社生活ing 統括管理者 高江洲亮氏が講話を行った。</p> <p>福祉に関する様々な職種や、講師の人生を変えた人とのつながりの大切さについて話した。児童たちは高江洲氏の人柄に魅かれ、授業が終わっても児童たちからの質問は止まらなかった。</p>
保護者・ 地域	<p>実施当日の保護者協力人数は6人と少人数ではあったが、保護者からの新規受入企業紹介など、本事業への深い理解があり、次年度実施に向けてエールの声もあった。</p>
その他	<p>ジョブシャドウイング出発式では、司会、代表決意表明、グッジョブの掛け声などを児童が行うことで、児童の積極性が表れていた。また、来賓には協議会会員である久米島町教育委員会指導主事 我如古忍氏が参加し、児童に対し激励の言葉を述べた。</p>

3. 久米島町立久米島小学校（継続校）

3	学校情報	校 長 ：山里 昌樹				
		住 所 ：〒901-3115 沖縄県島尻郡久米島町字儀間1番地				
		電 話 ：098-985-2007		FAX ：098-985-4120		
実施概略	対象学年 ： 6 学年 1 クラス 13 人 (内 実施 13 人)					
	担 当 ：玉那覇 周作 (1 組担任)					
	実施日		コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習 ：平成 25 年 9 月 24 日			1 コマ		1 コマ
	平成 25 年 10 月 2 日				2 コマ	2 コマ
	平成 25 年 10 月 11 日			1 コマ		1 コマ
	平成 25 年 10 月 17 日			1 コマ		1 コマ
	平成 25 年 10 月 18 日			1 コマ		1 コマ
平成 25 年 10 月 22 日				2 コマ	2 コマ	
平成 25 年 10 月 25 日			1 コマ		1 コマ	
J S 実施 ：平成 25 年 10 月 30 日				4 コマ	4 コマ	
事後学習 ：平成 25 年 10 月 30 日			1 コマ	1 コマ	2 コマ	
平成 25 年 10 月 31 日			1 コマ		1 コマ	
平成 25 年 11 月 5 日			1 コマ		1 コマ	
平成 25 年 11 月 12 日			1 コマ		1 コマ	

	平成 25 年 11 月 13 日	1 コマ	1 コマ
	平成 25 年 11 月 14 日	1 コマ	1 コマ
	平成 25 年 11 月 15 日	1 コマ	1 コマ
	平成 25 年 11 月 22 日	1 コマ	1 コマ
	平成 25 年 11 月 29 日	1 コマ	1 コマ
	発表会 ：平成 25 年 12 月 5 日	2 コマ	2 コマ
実施のねらい	2 年目の継続校。 前年度のモデル実施同様、ジョブシャドウイングを通して自身が住んでいる島にある企業を知ることによって将来への視野を広げ、進路決定に役立てることをねらいとする。また、学んだことを他人へ伝える表現力を養えるよう、前年度よりさらに時数を増やし、成果物作成や発表会などで事後学習の充実を図る。		
事前学習内容	今年度で 2 回目の実施を行う担当教員は、観察はもとより、質問することにも重要性を見出し、児童と企業とのマッチングが終了後、ジョブシャドウイング実施までの期間を活用し、事前に質問事項を考えるよう児童達に促した。		
事後学習内容	ジョブシャドウイング実施後の 5・6 校時を利用し、振返り、お礼状作成を行った。振返りでは、ジョブシャドウイングで学んだことを発表した。仕事はお金の為だけではないということを知ったという発表が多数あり、事前学習で行った内容が、ジョブシャドウイングを実施することによって繋がったと思われる。		
発表会	「調べてきたことを工夫して伝えよう」「発表者の考え（意見）をしっかりと聞きとろう」をテーマに発表会を行った。 「調べてきたことを工夫して伝えよう」では、新聞とは別に発表原稿を 5, 6 枚作成し、参加者に伝わりやすいよう工夫していた。 また、「発表者の考え（意見）をしっかりと聞きとろう」では、発表者一人ひとりに対しての質問や感想を書くワークシートを用意したことで、一生懸命他の児童の発表に耳を傾けていた。		
職業人講話	「仕事とは」をテーマに、久米島町立学校給食センター 副所長 上里宏美氏、合資会社生活 ing 統括管理者 高江洲亮氏の講師 2 人が講話を行った。 ジョブシャドウイング実施後の事後学習で職業人講話を行ったが、改めて働く理由は人それぞれであることなどを、児童たちが再認識している様子がみられた。		
保護者・地域	保護者説明では、全保護者が集まる臨海学校説明会の場を活用し、ジョブシャドウイングや送迎協力の説明を行った。 校区内にある受入企業では、児童がジョブシャドウイングを通して頻繁に足を運ぶようになり、地域とのコミュニケーションをとるきっかけになったと思われる。		
その他	前年度のモデル実施の際は、久米島町内で初めてのジョブシャドウイング実施ということもあり、出発式は体育館で行い、来賓に久米島町町長を招くなど大々的に行ったが、今年度は、今後の継続的な実施を視野に入れ、簡易的な出発式を行った。 また、前年度の実施を踏まえ、成果物の作成、発表準備、発表練習などの事後学習に力を入れ、ジョブシャドウイングに使用する時数を増やして取組んだ。		

4. 久米島町立比屋定小学校（新規校）

4	学校情報	校 長：宇江城 洋一				
		住 所：〒901-3101 沖縄県島尻郡久米島町字宇江城 2220 番地				
		電 話：098-985-3722		FAX：098-985-4083		
	実施概略	対象学年： 5・6 学年 1 クラス 12 人 （内 実施 12 人）				
		担 当：白道 真琴（5・6 学年担任）				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 25 年 10 月 8 日		2 コマ		2 コマ
		平成 25 年 10 月 11 日			1 コマ	1 コマ
		平成 25 年 10 月 15 日			2 コマ	2 コマ
		平成 25 年 10 月 18 日		1 コマ		1 コマ
		平成 25 年 10 月 22 日		2 コマ		2 コマ
		平成 25 年 10 月 25 日			1 コマ	1 コマ
		平成 25 年 11 月 1 日			2 コマ	2 コマ
	J S 実施：平成 25 年 11 月 6 日			4 コマ	4 コマ	
事後学習：平成 25 年 11 月 6 日		1 コマ	1 コマ	2 コマ		
平成 25 年 11 月 8 日		1 コマ		1 コマ		
平成 25 年 11 月 12 日		1 コマ		1 コマ		
平成 25 年 11 月 15 日		1 コマ		1 コマ		
平成 25 年 11 月 19 日		1 コマ		1 コマ		
平成 25 年 11 月 22 日		1 コマ		1 コマ		
平成 25 年 11 月 29 日		1 コマ		1 コマ		
平成 25 年 12 月 3 日		2 コマ		2 コマ		
発 表 会：平成 25 年 12 月 10 日		2 コマ		2 コマ		
実施の ねらい	比屋定小学校校区は島の北部に位置し、ほとんどの児童は校区外へ出る機会が少なく、他の学校児童よりも島内の産業や企業に対しての認知度が低い傾向にある。ジョブシャドウイングを通して、島内にあるたくさんの職種に触れ、視野を広げるきっかけづくりとする。					
事前学習 内容	担当教員が行った事前学習では、事務局実施のオリエンテーションより前に、自分の将来の夢について作文を作成した。事務局実施の事前学習やジョブシャドウイング実施を終えて、児童にどのような変化、または効果が表れるのかを図ることを目的とし行った。 児童の様子として、最初は緊張気味であったが、次第に慣れてきたこともあり、活発に発言していた。					
事後学習 内容	ジョブシャドウイング実施後の振り返りでは、児童一人ひとりが実施を通して学んだことを発表し、発表者に対しては他の児童から質問も挙がった。ジョブシャドウイングで他の企業へ行った児童に対しての興味、関心があり、実施直後の情報共有の場となった。					

発表会	発表会は体育館で行った。成果物の新聞には必ずクイズが盛り込まれ、参加者全員に対し回答を求めることで、参加者が飽きないよう工夫していた。 「自分の言葉で発表する」をテーマに掲げ、児童は新聞を見ながら発表していたが、なるべく自分の言葉で伝えるよう努力しており、新聞には記載していない補足情報なども積極的に発表していた。
職業人講話	「目標に向かって頑張ること」をテーマに、久米島赤鷄牧場 山城昌泉氏が講話を行った。 講師は、フジテレビで放送された番組の企画に出演していたこともあり、児童たちの興味を引き、より講師の言葉を意識づける効果につながった。
保護者・地域	実施当日の送迎スタッフには児童の父母だけでなく、祖母の参加もあった。初めて知る送迎先の企業についても、事前に知人に聞いたり、実際の送迎ルートを下見したりと、とても協力的であった。
その他	受入企業からの声として、「事前学習ができていた様子で、積極的に行動し質問などを受けました。事後報告（お礼状や報告会）なども頂き、受入れてとてもよかったと思います。」などがあり、児童が事前学習でしっかりとジョブシャドウイングの意味や観察する視点などを理解し、ジョブシャドウイングに取組んだことがこのような意見につながったと思われる。

5. 久米島町立美崎小学校（新規校）

5	学校情報	校 長 ：宇江城 淳一				
		住 所 ：〒901-3104 沖縄県島尻郡久米島町字真謝 103 番地				
		電 話 ：098-985-7727		FAX ：098-985-7582		
実施概略	対象学年 ： 5・6 学年 1 クラス 10 人 （内 実施 9 人）					
	担 当 ：比嘉 昭博（5・6 学年担任）					
	実施日		コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習 ：平成 25 年 9 月 26 日				2 コマ	2 コマ
	平成 25 年 10 月 1 日			2 コマ		2 コマ
	平成 25 年 10 月 4 日			2 コマ		2 コマ
	平成 25 年 10 月 17 日			1 コマ		1 コマ
	平成 25 年 10 月 29 日			1 コマ		1 コマ
	平成 25 年 11 月 1 日				1 コマ	1 コマ
	平成 25 年 11 月 5 日				2 コマ	2 コマ
平成 25 年 11 月 8 日			1 コマ		1 コマ	
平成 25 年 11 月 12 日			2 コマ		2 コマ	
J S 実施 ：平成 25 年 11 月 13 日				4 コマ	4 コマ	
事後学習 ：平成 25 年 11 月 13 日			1 コマ	1 コマ	2 コマ	
平成 25 年 11 月 19 日			2 コマ		2 コマ	
平成 25 年 11 月 21 日			1 コマ		1 コマ	

	平成 25 年 11 月 22 日	2 コマ	2 コマ
	平成 25 年 11 月 25 日	2 コマ	2 コマ
	平成 25 年 11 月 26 日	1 コマ	1 コマ
	平成 25 年 11 月 29 日	1 コマ	1 コマ
	発表会 ：平成 25 年 11 月 28 日	2 コマ	2 コマ
実施のねらい	校区内には、沖縄県海洋深層水研究所があり、その周辺には海洋深層水を利用した産業や、久米島紬など地場産業が密集している校区ではあるが、その良さに気づいていない子ども達が多い。ジョブシャドウイングを通して、「仕事」「企業」に目を向け、地元の素晴らしさを気付くきっかけづくりとする。		
事前学習内容	9 月 26 日のオリエンテーション後、11 月 5 日のビジネスマナー学習まで 1 か月以上事務局の授業はなかったが、仕事や職種について担当教員がしっかりと補完することで、ジョブシャドウイング実施の必要性や重要性を児童がしっかりと認知している様子が児童との質疑応答から感じ取れた。		
事後学習内容	ジョブシャドウイング実施後の 5・6 校時には振返りとお礼状作成を行った。振返りでは、児童一人ひとりがジョブシャドウイングで学んだこと、明日から取組んでみたいことを発表した。また、実施後の情報共有を図る為、他の児童の発表を書き取りながら聞くことで、話し手も聞き手も集中している様子だった。		
発表会	図工室で発表会を行った。成果物の新聞は参加者の後ろに掲示され、発表者は原稿を作成し発表していた。また、発表者の隣には大型テレビで発表者のジョブシャドウイング中の様子が映し出され、参加者が目で見て楽しめるよう工夫していた。		
職業人講話	「仕事のやりがい」について、FM 久米島株式会社 宇江城久人氏が講話を行った。講師は喫茶店を経営後、FM くめじま（ラジオ放送）に転職したという話の中で、一見職种的には繋がりはないものの「島民に楽しんでもらいたい、島を活気づけたい」という共通の思いから、職種は違えど同じ思いで一生懸命働いていることを子ども達に伝えた。 児童からは「仕事は違っていても、働く想いは一緒だということがわかった」と、講師の働く想いについて感じ取ることができた様子であった。		
保護者・地域	ジョブシャドウイング実施当日は、多くの保護者協力があった。児童の学習や、ジョブシャドウイングに対する深い理解があつての結果だと思われる。ジョブシャドウイング当日欠席していた児童は、祖父の会社（株式会社儀間建設）で土曜日にジョブシャドウイングを受入れてもらうことで、他の児童同様、成果物の作成と発表を行うことができた。		
その他	事後学習から発表会まで 12 コマという時数を確保してあり、事後学習にも力を入れて児童たちにジョブシャドウイングの経験を落とし込んでいきたいという担当教員の考えから、当日欠席児童に対する学習面での影響を懸念し、学校休日実施を行った。また、この児童を受入れた企業は、前年度の学校実施シャドウ学習にて受入経験があつたため、今回も学校側から説明し、受入依頼を行うことで、学校独自の地域連携を図った。		

6. 久米島町立大岳小学校（新規校）

6	学校情報	校 長：徳村 直美				
		住 所：〒901-3137 沖縄県島尻郡久米島町字山里 177 番地				
		電 話：098-985-2133		FAX：098-985-4405		
	実施概略	対象学年： 6 学年 1 クラス 3 人 (内 実施 3 人)				
		担 当：中玉利 靖 (1 組担任)				
		実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
		事前学習：平成 25 年 11 月 19 日			2 コマ	2 コマ
		平成 25 年 11 月 21 日		1 コマ		1 コマ
		平成 25 年 11 月 25 日		1 コマ		1 コマ
		平成 25 年 11 月 27 日		2 コマ		2 コマ
		平成 25 年 12 月 3 日		2 コマ		2 コマ
		平成 25 年 12 月 4 日			1 コマ	1 コマ
	平成 25 年 12 月 11 日			2 コマ	2 コマ	
	J S 実施：平成 25 年 12 月 17 日			4 コマ	4 コマ	
事後学習：平成 25 年 12 月 17 日		1 コマ	1 コマ	2 コマ		
平成 25 年 12 月 18 日		2 コマ		2 コマ		
平成 25 年 12 月 19 日		1 コマ		1 コマ		
平成 25 年 12 月 20 日		1 コマ		1 コマ		
平成 25 年 12 月 24 日		1 コマ		1 コマ		
実施の ねらい	久米島町内のジョブシャドウイング実施では最も少ない実施人数である。 ジョブシャドウイングを通して、社会人としての規律、礼儀、言葉づかいの大切さを知る機会とする。また、将来の生き方を考え、進路の選択に生かせる機会とする。					
事前学習 内容	毎回授業を終えると、児童一人ひとりが行った授業を通して、感じたことや自分の為になると思ったことなどを発表した。児童人数は 3 人と実施校では最も少ないが、一人ひとりが講師の話をちゃんと聞き、質疑応答もしっかりしていた。					
事後学習 内容	事後学習では、ジョブシャドウイングを振り返り、お礼状の作成を行った。振り返りではメンターとの 2 時間で学んだことや感想をそれぞれが発表した。他校とは違い、情報共有できる児童は 3 人しかいなかったが、他の情報を我が物にしようという思いから、他の児童が学んだことの発表をメモし、聞き逃しがないうま真剣に聞いている様子だった。					
発表会	今年度、発表会の日程を確保することができなかったが、成果物を作成し、成果物のコピーと、成果物を持った児童の写真、お礼状を同封して各受入企業へ送付することで、受入企業へのフィードバックを行った。					
職業人 講話	「チャレンジすることの大切さ」について、久米島そば処 やん小～ 仲宗根直樹氏が講話を行った。 講話は、講師を含む全員で輪になり、児童一人ひとりに語りかけるような形式で行った。児童たちは講師の目を見て、しっかりと話を聞き、講話終了後 1 人ずつ感想を述べていた。					

保護者・地域	ジョブシャドウイング実施後、保護者と話をする機会があった。実施後の児童の様子について嬉しそうに語り、保護者からは「とても良い取組みなのでぜひ継続してほしい」との声が挙がった。児童がメンターとの関わりを通して、将来のことや進路の話をするなど、これからのことについていろいろと考えるきっかけになった様子が見られたことを喜んでいる様子であった。
その他	ジョブシャドウイング実施当日は雨風が強かったため、受入企業では急きょメンターの変更や業務の変更などがあったが、児童たちは悪天候時の仕事内容を実際に見て知ることができたのでとてもよかったと話していた。

7. 久米島町立久米島西中学校（継続校）

7	学校情報	校 長：島村 一司			
		住 所：〒901-3131 沖縄県島尻郡久米島町字西銘 1324 番地			
		電 話：098-985-2006		FAX：098-985-4407	
実施概略	対象学年： 1 学年 2 クラス 48 人 (内 実施 45 人)				
	担 当：與座めぐみ (1 学年主任)、松茂良尚哉 (1 組担任)、吉本桂子 (2 組担任)				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習：平成 26 年 1 月 10 日			1 コマ	1 コマ
	平成 26 年 1 月 17 日			1 コマ	1 コマ
	平成 26 年 1 月 20 日		1 コマ		1 コマ
	平成 26 年 1 月 22 日		1 コマ		1 コマ
	平成 26 年 1 月 24 日			2 コマ	2 コマ
	平成 26 年 1 月 29 日		1 コマ	1 コマ	2 コマ
J S 実施：平成 26 年 1 月 30 日			4 コマ	4 コマ	
事後学習：平成 26 年 1 月 30 日			2 コマ	2 コマ	
平成 26 年 1 月 31 日		1 コマ		1 コマ	
発 表 会：平成 26 年 2 月 28 日		2 コマ		2 コマ	
実施の ねらい	2 年目の継続校。 久米島町内ジョブシャドウイング実施校では、最も多い実施人数である。 前年度同様、職場体験の前にジョブシャドウイングを経験し、「働く大人の想い」を観察し気づくことで、職場体験や従来のキャリア教育との補完力を高め、地域への認知度向上を図っていく。また、久米島町には大学がない為、進学を希望する生徒は高校卒業後島外へ出なければならず、就職する生徒に関しても島外へ出る選択をすることも多く、生徒たちに広い世界があること、自立のためのコミュニケーションの大切さ、必要性に気づかせる。				
事前学習 内容	1 月 10 日に実施したオリエンテーションでは、2 クラス合同で授業を行った。講師と初対面ということもあり緊張している生徒が多いように感じたので、アイスブレイクを取入れた。それにより、緊張感を和らげると共に、講師との距離を縮め、2 クラス合同の大人数対象であったが、スムーズに授業を行うことができた。また、事前学習を				

	<p>行う際には必ず生徒が司会進行を務め、授業終了後には生徒代表で講師を務めたコーディネーターへお礼の言葉として、授業の感想が述べられた。</p>
事後学習内容	<p>事後学習では、観察シートをまとめることから始め、お礼状の下書き、清書を行った後、感想文の作成を行った。感想文に関しては、作文用紙にジョブシャドウイングを通して学んだこと、事前学習、職業人講話の各テーマごとに振り返り、思い出しながら一生懸命作成していた。事前学習からジョブシャドウイングまでを振り返って、自分に必要なこと、今から頑張ること、これから何をすべきかなどの目標を持つことができた生徒もいて、少ないコマ数ではあったが、振り返る時間がジョブシャドウイングを実施した意味を理解する上で重要なことであったと思われる。</p>
発表会	<p>成果物の作成としては、事前学習、職業人講話、ジョブシャドウイングの3つを題材に挙げ、各テーマごとに感想文の作成を行った。</p> <p>発表会は、総合学習で学んだことを各学年代表者によってパワーポイントを使用しての発表であった。他の生徒の成果物は会場に掲示してあり、他学級や他学年、保護者などが自由に閲覧できるようになっていた。13人の保護者が参加し、他学年の保護者も足を止めてジョブシャドウイングの成果物、写真を閲覧していた。</p> <p>また、ジョブシャドウイングを通して学んだこととして、マナー講座で身につけた立ち方、お辞儀、名刺交換を舞台の上で実演、披露した。</p>
職業人講話	<p>「講師に聴く」をテーマに、具志川中学校（現：久米島西中学校）卒業で、生徒の先輩となる久米島町副町長 大田治雄氏が講話を行った。</p> <p>内容として、学生時代の話や職場紹介、仕事に対する想いなどを話した後に、質疑応答を行った。質疑応答では、講師自身に関する質問はもちろん、久米島町の現状やどのように島づくりをしていくかなど、幅広い質問が飛び交い、生徒は講師の仕事に対する想いや久米島町に関する知識を得ることができ、充実した時間となった。</p>
保護者・地域	<p>実施当日は15人の多くの保護者が実施サポーターとして協力した。また、当日は集合時間通りに集まり円滑に説明から出発までのオリエンテーションを行えたことや、自身の子供は欠席しているが保護者は実施サポーターとして協力するなど、自身の用事がありながらも、送迎で参加する様子から、「地域の子どもの為に」という想いを持ってジョブシャドウイングに臨んだ保護者が多く見られた。</p>
その他	<p>実施当日は17の送迎ルートがあり、円滑に送迎を行えるよう実施サポーターに対する説明を30分設け、各ルートのサポーター一人ひとりと確認を行った。</p> <p>久米島西中学校受入企業32社のうち9社が新規受入ということもあったが、受入経験のある企業から受入の話を聞いていて、受入に対しての不安などもなく、スムーズにジョブシャドウイングが行えるなど、企業間の連携が図れた様子があった。</p> <p>地域連携の絆の深さが形となって表れた実施となった。</p>

◆取組みの様子



清水小学校JS実施1



清水小学校JS実施2



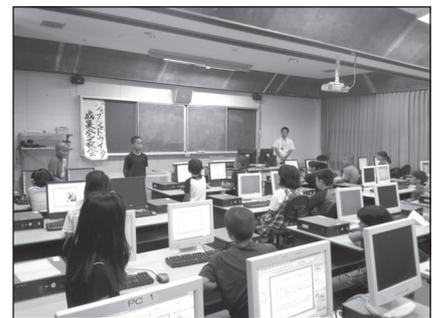
清水小学校発表会



仲里小学校JS実施1



仲里小学校JS実施2



仲里小学校発表会



久米島小学校JS実施1



久米島小学校JS実施2



久米島小学校発表会



比屋定小学校サポーター紹介



比屋定小学校JS実施1



比屋定小学校発表会



美崎小学校事前学習



美崎小学校JS実施



美崎小学校発表会



大岳小学校職業人講話



大岳小学校JS実施1



大岳小学校JS実施2



久米島西中学校職業人講話



久米島西中学校マナー学習



久米島西中学校出発式



久米島西中学校JS実施1



久米島西中学校JS実施2



久米島西中学校JS実施3

4 ヒアリング及びアンケート考察

【実施校】

児童生徒の変化として、挨拶や礼儀、言葉遣いなどを意識して行っている児童生徒が増えたとの声が多く挙がった。自分から積極的に挨拶を行ったり、職員室に入る際の礼儀などの改善や、教員との会話で言葉遣いを意識し必死に敬語を使用しようとしている児童生徒が目立ってきたと話があった。そのことから、ジョブシャドウイング実施においてメンターと関わることで、学校と社会の繋がりを見出し、マナーを学生の時から身につけることが将来役に立つと学んだ児童生徒が多かったと見える。また、事後学習や他の児童との情報交換などを通して、将来就きたい職業のみならず、その他の様々な職種に触れ、たくさんの職種を知り選択肢を広げたのち、将来の夢を決めたいと話している児童もいた。そのことから、シャドウ学習（キャリア教育の一環であり、保護者の働く姿を観察することで、将来の職業選択に結びつける学習）では保護者が務めている職場へ教員が受入依頼を行う開拓方法をとっているが、本事業では経済団体と連携し、幅広い業種業態へ企業開拓を行っていることで、子ども達が多種多様な職種を知るきっかけになり、児童生徒の将来の進路選択に大きく貢献したと思われる。

総合学習におけるジョブシャドウイングについては、久米島小学校で前年度 25 コマでモデル実施を行ったが、事後学習での成果物作成や職業人講話で外部講師を招いての講話を重要視し、今年度の実施では総合学習の時間から 30 コマを本事業に充て、児童の感性を育む取組みとしてジョブシャドウイングを利用した。また、最低実施コマ数は確保していたが、他の総合学習の時数がオーバーしてしまい、確保していたコマ数を削ることとなった大岳小学校、久米島西中学校については「次年度は余裕をもって実施したい。」「学校側の問題であるが、コマ数をきちんと確保し、事前・事後を今年度以上に深め、充実した実施にしたい。また、職業人講話を 2 回行いたいので、次年度に向けて早めの調整を行い必要なコマ数を確保したい。」との意見が挙がり、ジョブシャドウイングへの理解が深まったとみえる。

<実施校担当教員の感想（一部抜粋）>

- ・実施後は夢について具体的に考えるようになった児童が増えていた。作文などを書かせると、実施前より夢がはっきりとしている児童がいたり、具体的な夢を発言するようになった児童が増えた。
- ・お辞儀の仕方や言葉遣いなどに変化があった。マナーに関して凄く勉強になったと思うし、子ども達が意識して行っていた分、とても身につけていると思う。
- ・久米島町は離島である為、3年勤務での交代となることが多い。そのため、担当教員と企業・事業所との繋がりが途切れてしまうことがあるので、この事業（仲介者）はなくなるまいとほしいと思う。

【児童生徒】

ジョブシャドウイング実施後のアンケートから、『学校での生活と社会での生活では、どんな所が繋がっていると思いますか』という問いに対し、挨拶が繋がっていると答えた児童生徒は 75%、勉強と答えた児童生徒は 50%という結果が出た。そのことから、実施校担当教員からもあったように、子ども達はジョブシャドウイングを通して社会において挨拶がとても大事なことであり、学校生活で日ごろから指導されている挨拶は、社会人になったときに必要なことであると、改めて知るきっかけとなったと考えられる。また、勉強が繋がっていると答えた中で、教科別に分けたところ、国語 56%、算数・数学は 50%となっており、文書作成や事務作業など職種は違えど社会に出ると必要な教科であることを認識し、実施後の学習面でも意識して取り組む姿勢になったと思われる。

＜児童生徒の感想（一部抜粋）＞

- ・ お金の為に働いているようには全然見えなくて、本当に園児の為を考えて行動しているように見えた。メンターさんとは初対面でしたが、とても尊敬しました。
- ・ 日ごろから積極的に挨拶を自分からしたり、元気よく返事したりと、まずは基本からしっかりと行っていきたいです。
- ・ 仕事をする上で、一般的な知識や礼儀はとても大切なことだと学んだので、マナーについてちゃんと理解し今のうちから身につけていこうと思いました。
- ・ 私は、将来看護師になることを目標としているので、真剣に勉強を取組んでいこうと思いました。また、相手とのコミュニケーションの取り方も考え、切磋琢磨していきたいと思います。

【受入企業】

メンター向け実施後アンケートから、ジョブシャドウイング実施前に不安だったというメンターが、前年度は26%であったのに対し、今年度は19%と7%減った結果となった。今年度の受入企業は前年度に比べ16社増えているにも関わらず、回答結果が減少した背景として、企業同士それぞれでの情報共有など企業間での独自の連携の在り方があり、受入企業から新規受入企業への実施内容の情報提供などが不安要素を緩和させたものと思われる。

『児童生徒とのコミュニケーションは上手くいきましたか』という問いに対し、29%のメンターがどちらとも言えない、上手くいかなかったと答えており、その理由として、児童生徒からの質問・会話が少なかったとの回答が6割を占めた。この結果を踏まえ、事前学習の中で疑問に思うことの面白さなどのワークを行い、日ごろから気に掛ける、疑問に思うことへの意識づけの定着を図り、ジョブシャドウイング実施時には多角的な視点からの観察や、様々な質問項目を模索することを促し、メンターに数多くの質問をすることでコミュニケーションをとることへと繋げたい。しかし、児童生徒の中には内気な子もいるため、企業側からの児童生徒に対する配慮も必要と思われる。

＜メンター・窓口担当者の感想（一部抜粋）＞

- ・ 興味があることを質問していて、積極的に仕事内容を知ろうとしていたし、窓口社員一人ひとりをよく見ていて観察力がすごいと思った。
- ・ 事前学習ができていた様子で、積極的に行動し質問などを受けました。事後報告（お礼状や発表会）等も頂き、参加させていただき良かったと思いました。
- ・ 初めて担当させていただきましたが、当日、外勤で織子と会う仕事内容だったので、相手に説明が必要で、子どもの勉強する姿勢に先方も喜んで協力してくれていました。
- ・ 今回ジョブシャドウイング実施を受けて、生徒に教える事によって自分自身を顧みることができ、仕事に対する意欲や責任感が湧き、私にとっても良い経験ができたと思います。実施に来てくれた生徒さんの観察態度はとてもよく「5年後の目標は？」の質問には考えさせられました。普段ただ仕事をしていて、目標など考えたこともなかったので私の方も勉強になりました。
- ・ 今回、自分自身の仕事を説明することで、振り返りや再確認することができてとても良かったです。また、生徒さんも元気がよく受け答えもしっかりしていてとても良かったです。夢をもっている島の子ども達に少しでも視野を広げてあげる意味でも、とても良い経験になると思いました。
- ・ 当初は各部署の責任者で担当してもらっていたが、自己紹介文やアンケートを書くのに抵抗を感じていて、今回は担当を決めるのに苦労した。

5 実施総括（成果と課題）

	事例	課題	今後の取組についての展望・改善点
実施校 /保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・引率、送迎（保護者） ・送迎、巡回（教員） ・保護者からの受入企業紹介 ・じんじんメールにて、実施サポーター協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体での情報共有 ・実施校内での校内研修会を設ける ・ジョブシャドウイング当日欠席児童生徒への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・全実施校の校内研修会実施 ・ジョブシャドウイング当日欠席児童生徒への対応の模索 ・久米島PTA連合会への説明、周知
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・島内全小中教員対象の町主催キャリア教育研修会 ・出発式参加、挨拶（教育委員会） ・実施校以外のマナー講座 ・久米島高校就職コーディネーターとの意見交換 ・学年会内での意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な部会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校就職コーディネーターとの連携方法の模索 ・島内全教員対象の合同校内研修会の開催 ・ジョブシャドウイング実施2回目、3回目の児童生徒への事前学習内容模索
地域コミュニティー	<ul style="list-style-type: none"> ・FMくめじまにてジョブシャドウイング周知（6/18、7/1） ・久米島青年団協議会へ巡回スタッフ協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・久米島商工会青年部によるジョブシャドウイング周知 ・校区内自治会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・空港などの、公共機関でのパネル展の実施、周知 ・FMくめじまでの実施報告 ・区長会にて周知、自治会との連携を図る
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・広報くめじま8月号掲載 ・久米島産業まつりにてグッジョブブース設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果物の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果物の掲示 ・広報誌による定期的な周知
経済団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング受入 ・ジョブシャドウイング専用資料作成、雑誌購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンターのジョブシャドウイング理解不足 ・受入企業記入物負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入企業紹介依頼 ・年度始めの再説明、ジョブシャドウイングに対する認識の共通を図る
協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・久米島町グッジョブ連携協議会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業向け説明の強化 ・出発式への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規受入企業開拓の強化 ・学校を支援する企業のリスト化と整備 ・産学官地域連携の模索

6 その他の取組や実績

- 平成25年6月17日 久米島町立仲里中学校(ジョブシャドウイング未実施校)
職場体験前のマナー講座実施
- 平成25年6月18日 FMくめじま
ラジオ出演にてジョブシャドウイング周知
- 平成25年12月8日 久米島町産業まつり
児童成果物掲示、ジョブシャドウイング周知
- 平成26年1月29日 久米島町立久米島西中学校
マナー講座欠席生徒対象のマナー講座実施(参加者8人)

7 次年度への展望

今年度久米島町では、前年度の2校54人と比べ7校143人の実施となり、新規受入企業は16社であった。次年度の実施については、平成26年3月時点で7校141人の予定である。実施規模に関してさほど変動はないが、さらなる業種、幅広い職種の開拓を行い子ども達の進路選択に貢献し、また、安定した受入企業リストを実施校に供給したいと考えている。中でも、地場産業であるが地元職員の少ないホテルや観光関係の開拓に力を入れ、島内の子ども達に地域特有の職種や仕事内容の情報を伝達できるよう協議会内での役割分担、企業紹介、開拓を強化したい。

次年度は、教育委員会や実施校担当教員、事務局を参加者とした部会の開催や、受入企業窓口担当者やメンターを中心とした意見交換会などを行い、様々な分野からの意見を取入れ、離島という特色を活かす産学官地域参加型のプログラムを思索しながら、久米島型ジョブシャドウイングという独特な離島キャリア教育の構築を目指したい。さらに、小学校区ごとに児童の感受性や保護者の協力体制などに差がある為、担当教員との調整や地域連携方法についても念入りな論議を行い、各校区の特徴を活かした地域連携を行っていききたい。

また、島の中で小中高校のある久米島だからこそ、高校との連携も必要である。そのために、久米島高校就職コーディネーターと連携を図りながら、様々な就業体験の支援などで連携を強化し、小中高校との縦の連携構築に向けて、協議会や部会などで、久米島の子ども達のためにジョブシャドウイング以外にも我が島でどのような取組みができるのかを熟議していく必要があると感じる。

今年度の実施を終え、協議会はジョブシャドウイングを行うことで児童生徒が学校と社会の繋がりに気づくことができ、将来の進路選択や就業意識の向上に繋がるプログラムであることを実感、再認識した。次年度は各実施校や受入企業など各分野の狙いを考察し、ジョブシャドウイングをツールとしての産学官地域連携の在り方の模索、更なる人材育成や島の活性化を目指したい。

1

学校法人興南学園興南中学校での取組

1 実施の目的とねらい

(1) ジョブシャドウイング実施の背景と経緯

沖縄県では、平成22年3月の新規大学卒業者の就職後3年以内の離職率(出典:厚生労働省「新規学校卒業就職者の就職離職状況調査結果」)が49.3%と全国平均の18%以上も高くなっている。さらに平成25年3月に大学を卒業した者の無業者率(出典:文部科学省「学校基本調査」)は27.1%と全国平均の約2倍になり、実数では1000人以上にも達している。このように本県では大学卒業者の雇用問題も浮上しており、その背景には明確な目的意識を持たず大学へ進学して学生生活を送り、いざ職業選択の場面で自分自身のやりたいことや進むべき道が分からず躓く学生が多いのではないかと考える。

文部科学省の示す進路指導の指針として「生徒自らが生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力・態度を身に付けることができること」とある。子ども達の多くは中学校から高校へと移行する際に、進路選択を余儀なくされる。その中で自分と向き合い「なりたいたい自分」と「なれる自分」との狭間に揺れながら、自己理解やキャリアプランニング能力の形成が育まれていく。「進路指導はキャリア教育の中核をなすもの」とは、その所以だと思われる。

今回、興南学園興南中学校では、①中高一貫校、②私立学校という2点の特色に対するキャリア教育支援を柱に実施を展開する。

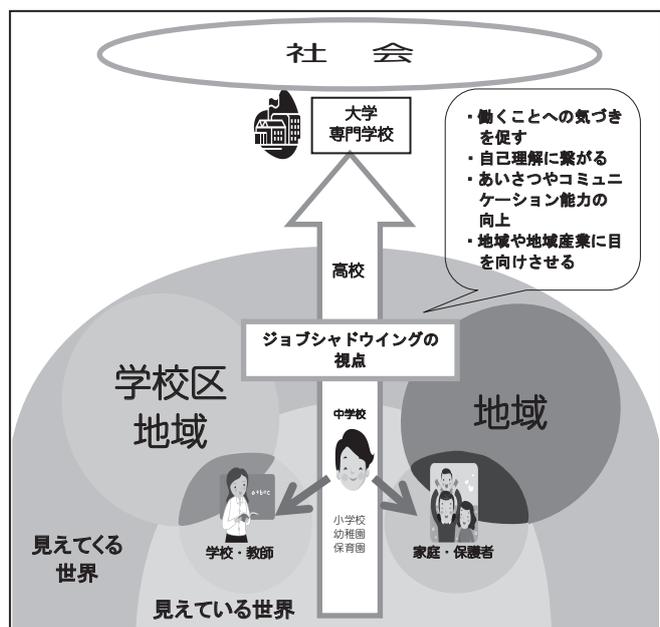
①中高一貫校に対するキャリア教育支援

前述のように、進路選択とは「自らの意志と責任で進路を選択する力」と示されており、その力を培うため、中学校教員は進路指導を学校教育の中で展開している。

中高一貫校では、11～12歳という自己決定能力が形づけられていない時期に進路を決定し、その後は高校卒業後の進路を決めるまで、4年から5年の空白がある。その間に進路を考える機会をより多く、且つ多角的に設定することが、彼らのキャリアプランニング能力の発達に寄与することになると考える。

②私立学校に対するキャリア教育支援

私立学校は、学業やスポーツに関する意欲が一定水準の生徒が在籍しているため、体系的な教育が可能となり、学業やスポーツに秀でる人材を育成するのに適した環境である。一方、公立学校に比べると、地域アイデンティティが育ちにくい傾向にある。生まれ育った地域とは異なる学校に通うことで、地域への関心が低くなり、地域との繋がりが弱い子ども達が触れ合う大人は、親と学校の先生に限られてしまう。また、多くの公立中学校が行っているような職場体験やインターンシップといった体験学習のプログラムが義務づけられてい



＜図 私立校におけるキャリア教育支援＞

ないために、多様な人間関係を学ぶ機会が少ない。そのような環境で育つ彼らに、多くの大人との接点を作ることが、コミュニケーション力や多様な価値観を育むきっかけとなると考え、その支援に取り組んでいく。

(2) 活動スケジュール

月	実績	月	実績
4月		10月	・事前アンケート
5月	・学校調整	11月	・学校調整 ・保護者説明会 ・講話会「夢へのバトンプロジェクト」 ・メンター合同説明会
6月	・企業開拓開始	12月	・事前学習 ・ジョブシャドウイング当日 ・ジョブシャドウイング学習発表会
7月	・学校調整	1月	・事後アンケート
8月		2月	・学校ヒアリング
9月	・企業名簿 メンター名簿の取りまとめ	3月	

2 実施概況

(1) 実施の取組

興南学園興南中学校は、平成19年度文部科学省委託事業の「新教育システム開発プログラム」の一環で行われた、教室と世の中をつなげる授業を目指す、社会科のプログラムネットワーク型授業「よのなか科」を展開し、過去には読売教育賞の最優秀賞に輝いている。更に沖縄県の県民提案型グッジョブ推進事業の指定を受け、仲井眞県知事をはじめとする各界の著名人の働く意義や職業観を、中学生がインタビューする「夢のバトンプロジェクト」を実施し、その成果を書籍化している。学校独自のキャリア教育プログラムが充実している一方で、実践的な体験学習の機会がなく、親や学校の先生以外の「大人」との接点が少ない。今回の取組みでは多くの人との関わりから、人間関係形成能力を高めることを狙った。

また、事前アンケートにおいて、医師や弁護士などの高度な専門性を要求される士業を目指す生徒が多かった。その結果を受け、事前学習では、将来の目標に近づくために何が必要か考えさせると同時に、その目標を叶えるために努力したことが他の職業にも共通する点があることに気づかせ、他の職業にも意識を向けさせることで、職業選択の幅を広げることを目的とした。当日の観察ポイントとして、メンターの中学時代の目標が現在にどう活かされているかや、違う職種でも共通する「働く思い」を知る機会になるよう動機づけを行った。

保護者に対しても、学校のある地域の企業と業種や職種に対する興味関心に繋がるよう実施当日の引率に協力を仰いだ。

(2) 受入企業リスト

学校と地域とのつながりを構築するねらいも踏まえ、受入企業開拓は学校近隣の企業を中心に行い、遠くても車で片道30分圏内の企業に限定して受入れを依頼した。

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	沖縄電力株式会社 本店	電気業	10	事業局
2	株式会社リウボウインダストリー	各種商品小売業	1	
3	沖縄都市モノレール株式会社	鉄道業	8	
4	オリックス・コールセンター株式会社	情報サービス業	3	
5	株式会社スズケン沖縄薬品	その他の卸売業	1	
6	沖縄ガスリビング株式会社	ガス業	2	
7	税理士法人 添石総合会計事務所	専門サービス業	1	
8	株式会社琉球新報社	映像・音声・文字・情報制作業	1	
9	株式会社沖縄タイムス社	映像・音声・文字・情報制作業	2	
10	沖縄県企業局配水管理課	地方公務	1	
11	株式会社琉球 JALJTA セールス	航空運輸業	1	
12	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	その他の生活関連サービス	2	

13	沖縄労働局	国家公務	10
14	ジュンク堂書店那覇店	その他の卸売業	2
15	全国共済農業協同組合連合会沖縄県本部	協同組合	1
16	有限会社のれんずプロ	映像・音声・文字・ 情報制作業	2
17	一般財団法人沖縄美ら島財団首里城公園管理部	学術・開発研究機関	6
18	株式会社ヤブサチ南風原オフィス	飲食店	1
19	海上保安庁那覇海上保安部	国家公務	3
20	琉球治療院本店	社会保険・社会福 祉・介護事業	2
21	沖縄県農林水産部 南部農林土木事務所	地方公務	3
22	医療法人おもと会 大浜第一病院	医療業	1
23	医療法人和楽会 にこにこデイケア	社会保険・社会福 祉・介護事業	2
24	錦屋旗店株式会社	その他の小売業	2
25	ホテル日航那覇 グランドキャッスル	宿泊業	2
26	NHK沖縄放送局	放送業	3
27	株式会社トヨタレンタリース沖縄	その他の生活関連サ ービス業	3
28	諸見里利秀税理士事務所	専門サービス業	1
29	株式会社ファイナンシャルリンク	専門サービス業	1
30	株式会社かりゆし	宿泊業	2
31	日赤安謝福祉複合施設	社会保険・社会福 祉・介護事業	3
32	漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会	学術・開発研究機関	2
33	沖縄県立図書館	その他の教育、学習 支援業	2
34	沖縄県立博物館・美術館	学術・開発研究機関	2
35	株式会社フラックス.	専門サービス業	1
36	公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団	学術・開発研究機関	1
37	公益財団法人沖縄県文化振興会	学術・開発研究機関	3
38	株式会社大京アステージ	不動産賃貸業・管理 業	2
39	デザートラボショコラ	食料品製造業	1
40	株式会社もしもしホットライン	情報サービス業	2
		合 計	100

※事業局：グッジョブおきなわ推進事業局

(3) 実施校活動報告

※ JS：ジョブシャドウイングの略

※ コマ数（1校時）：小学校45分、中学校、高校50分、大学90分を指す

学校情報	校 長：我喜屋 優				
	住 所：〒902-0061 那覇市古島1丁目7番地1				
	電 話：098-887-2727		FAX：098-886-9173		
実施概略	対象学年： 2年生 3クラス 100人（内 実施 100人）				
	担 当：門林 良和教諭（よのなか科）、前泊 優斗教諭（国語科）				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習：平成 25年 10月 26日～		2コマ		8コマ
	平成 25年 12月 9日			2コマ	
	平成 25年 12月 11日			2コマ	
	職業人講話：平成 25年 11月 16日		4コマ		
JS実施：平成 25年 12月 13日			4コマ	4コマ	
事後学習：平成 25年 12月 13日		12コマ			
発表会：平成 25年 12月 19日		1コマ		13コマ	
実施のねらい	<p>◆中高一貫校に通う中学生への将来設計、就業意識改革を図る。</p> <p>◆地域の中で働く大人に触れる機会とし、多様な人間関係の構築と地域とのつながりを深める。</p>				
事前学習内容	<p><第1回 事前学習></p> <p>日 時：平成25年12月9日（月） 9：00-10：30</p> <p>場 所：興南中学校 視聴覚教室</p> <p>担 当：グッジョブおきなわ推進事業局</p> <p>内 容：①ジョブシャドウイングとは？</p> <p>②将来の目標、目指す職業について</p> <p>③ワーク「アイテムを探せ！」</p> <p>④将来身につけるべき要素から考える職業の幅について</p> <p>目 的：①ジョブシャドウイングを理解して、イメージ力を高める</p> <p>②将来の目標に向けて、必要な能力や要素を知ることの可能性を高める</p> <p>③身に付けるべき要素、能力から広がる職業の幅に気づく</p> <p>ワーク「アイテムを探せ！」</p> <p>ねらい：①カードを交換することで、自分が気づかなかった目標達成に為に必要なアイテム（能力、知識、資格等）があることに気づかせる。</p> <p>②自分の目標に必要なアイテムが他の目標にも通じることに気づかせ、他の目標、職業にも目を向けさせる</p> <p>③アイテムが増えれば増えるだけ、様々な可能性も広がることを気づかせて、職業選択の幅を広げる</p>				

内 容：①名刺サイズの3枚のカードに自分の目標を達成するためのアイテムを書く
 ②書いたカードを回収し、バラバラになるようにシャッフルして全員に配る
 ③自分の書いたバラバラになった3枚のカードを早く手元に戻した人の勝ち

<探す時のルール>

- ◆「私は〇〇〇（目標）になりたいです。」だけ伝える
- ◆渡されたカードは「ありがとう」と言って自分の書いたものでなくても必ず受取る
- ◆自分の書いたカードを3枚そろえるまで、繰り返す

<渡す時のルール>

- ◆相手の目標を聞いて、その人に必要だと思うアイテムを渡す。(いくつでも可)
- ◆必要と思うアイテムを持っていない場合は「ありません」と伝える

状 況： ジョブシャドウイングの内容を理解させると共に、将来について考える機会とした。更にワークを通し、生徒達にどのようにすれば、目標に近づくか、また、目標に近づく為に得た様々な知識や経験が他の職業にも共通することに気づかせ、職業選択の幅を広げることも意識した。

<参考資料>ワークシート

2013.12.9

ジョブシャドウイング事前学習

____ 中学校 ____ 年 ____ 組

①人はなぜ働くと思いますか？

②あなたの目指す職業はなんですか？

理由

③あなたの夢をかなえるために必要なアイテムはなんですか？具体的に3つ挙げてみよう！

④他の人から受け取ったアイテムの中で新たに必要だと思ったことを書いてみよう！！

⑤手に入れたアイテムから、他にどんな職業が考えられますか？
思いつくだけ書いてみましょう！

◆今日の学習を通しての感想◆

	<p><第2回 事前学習></p> <p>日 時：平成25年12月11日（水）13：00～14：30</p> <p>場 所：興南中学校 視聴覚教室及び各教室</p> <p>担 当：グッジョブおきなわ推進事業局</p> <p>内 容：①観察のポイント ②ビジネスマナー学習</p> <p>目 的：①観察すべきポイントを意識させる ②社会人としての心構えやマナーの習得</p> <p>状 況： ジョブシャドウイングの基本的な観察の視点に加え、前回の事前学習で伝えた職業選択の幅を広げることも意識させ、メンターの中学時代の目標が、今の職業とどう繋がっているか、共通点はあるかなどを聞き取れるように質問力の向上にも力を入れた。また、マナー学習との繋がりも考え、質問の仕方をロールプレイで実践し、後半は各クラスに分かれて、挨拶やお辞儀の仕方、名刺交換など基礎的なビジネスマナーの指導を行った。</p>																																
<p>JS実施 当日</p>	<p><当日スケジュール></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>場所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8：15</td> <td>生徒集合</td> <td>各教室</td> <td>点呼・身なりの確認・持ち物確認</td> </tr> <tr> <td>8：30</td> <td>送迎サポーター集合・説明会</td> <td>第二体育館</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8：45</td> <td>出発式 1. 校長挨拶 2. 激励の挨拶 3. 生徒代表決意表明 4. 事務連絡</td> <td></td> <td>校長 我喜屋優 PTA 学力対策部部长 仲村直記 2年3組 徳村佳恋</td> </tr> <tr> <td>9：00 ～</td> <td>保護者サポーター説明</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9：20</td> <td>各車両へ乗車 各受入企業へ出発</td> <td></td> <td>送迎サポーターと一緒に移動 生徒の点呼→出発</td> </tr> <tr> <td>9：30</td> <td>各受入企業に到着 ※企業ごとに到着時間は微調整</td> <td>受入企業にて</td> <td>受入企業担当者へ引き渡し</td> </tr> <tr> <td>9：45</td> <td>ご挨拶 オリエンテーション等</td> <td></td> <td>メンターとの顔合わせ、名刺交換 メンター自己紹介シートを生徒へ 本日のスケジュール確認</td> </tr> </tbody> </table>	時間	内容	場所	備考	8：15	生徒集合	各教室	点呼・身なりの確認・持ち物確認	8：30	送迎サポーター集合・説明会	第二体育館		8：45	出発式 1. 校長挨拶 2. 激励の挨拶 3. 生徒代表決意表明 4. 事務連絡		校長 我喜屋優 PTA 学力対策部部长 仲村直記 2年3組 徳村佳恋	9：00 ～	保護者サポーター説明			9：20	各車両へ乗車 各受入企業へ出発		送迎サポーターと一緒に移動 生徒の点呼→出発	9：30	各受入企業に到着 ※企業ごとに到着時間は微調整	受入企業にて	受入企業担当者へ引き渡し	9：45	ご挨拶 オリエンテーション等		メンターとの顔合わせ、名刺交換 メンター自己紹介シートを生徒へ 本日のスケジュール確認
時間	内容	場所	備考																														
8：15	生徒集合	各教室	点呼・身なりの確認・持ち物確認																														
8：30	送迎サポーター集合・説明会	第二体育館																															
8：45	出発式 1. 校長挨拶 2. 激励の挨拶 3. 生徒代表決意表明 4. 事務連絡		校長 我喜屋優 PTA 学力対策部部长 仲村直記 2年3組 徳村佳恋																														
9：00 ～	保護者サポーター説明																																
9：20	各車両へ乗車 各受入企業へ出発		送迎サポーターと一緒に移動 生徒の点呼→出発																														
9：30	各受入企業に到着 ※企業ごとに到着時間は微調整	受入企業にて	受入企業担当者へ引き渡し																														
9：45	ご挨拶 オリエンテーション等		メンターとの顔合わせ、名刺交換 メンター自己紹介シートを生徒へ 本日のスケジュール確認																														

10:00	ジョブシャドウイング開始 (120分程度) ※質疑応答タイムを含む	各部署にて	生徒はメンターの指示に従う 引率担当者は待機
11:50	ジョブシャドウイング終了 終わりの挨拶		学校、事務局スタッフは巡回、 写真撮影
12:00	各企業出発	移動	整列(点呼) 生徒はメンターにお礼の言葉
12:15	学校到着 昼食・休憩	第二体育館	企業担当者より引き取り 乗車点呼→出発
13:00 ～ 14:40	事後学習		降車確認(点呼) 受付で送迎完了報告
			振返り 新聞作成

<出発式>

日 時：平成25年12月13日(金) 8:45-9:00

場 所：興南学園 第二体育館

進 行：興南中学校 教諭 前泊 優斗

校長挨拶・・・・・・・・校長 我喜屋 優

激励の挨拶・・・・・・・・PTA 学力対策部部長 仲村 直記

生徒代表決意表明

事務連絡

参加者：興南中学校教職員(数名)

保護者、PTA 関係者(26名)

グッジョブおきなわ推進事業局(9名)

<生徒引率・配車等>

配 車：34台(マイクロバス3台、緊急車両6台含む)

送迎引率：34人(保護者26人、学校関係者4人、事業局4人)

巡 回：6人(学校関係者4人、事業局3人)

※巡回担当者は緊急時の対応も行う。

※海上保安庁は、軍港への移動があるため、保護者が近隣で待機して対応した。

事後学習 内容	<p>日 時：平成 25 年 12 月 13 日（金）～19 日（木）</p> <p>場 所：興南中学校 視聴覚教室並びに各教室</p> <p>担 当：興南中学校</p> <p>内 容：①お礼状作成 ②成果物（新聞）作成</p> <p>目 的：ジョブシャドウイングで学んだ事を振り返り、まとめる。</p> <p>状 況：ジョブシャドウイング終了後から、成果新聞の作成に取りかかり、感想や学んだ事を各自でまとめた。また、まとめた内容を国語と社会科の授業を使い電子タブレットで、写真などを入れてビジュアル化していく作業を行った。電子タブレットの数が限られているため、同時進行で、お礼状の作成を行った。</p> <p>成果発表会でも、電子タブレットで作成したものをスクリーンに映し出し使用した。</p>
発表会	<p>●修学旅行説明会と保護者会と同日に設定し、実施した。</p> <p>日 時：平成 25 年 12 月 19 日（木）15：00 - 16：00</p> <p>場 所：興南学園 第一体育館</p> <p>担 当：興南中学校</p> <p>内 容：ジョブシャドウイングで学んだことを発表する。</p> <p>目 的：ジョブシャドウイングで学んだことを生徒全員で共有する。</p> <p>保護者に対して学習の成果を伝えるとともに事業への理解を促す。</p> <p>発表を通し、受入企業にフィードバックすると同時に感謝の意を伝える。</p> <p>状 況：受入企業 11 企業 22 名が参加。発表会に参加希望のあったメンターの担当生徒を中心に代表として各クラスから 2～3 名を選出し、一人 5 分程度、電子タブレットで作成した成果物をプロジェクターで映し出しながら発表した。</p> <p>修学旅行説明会と保護者会と併せて行うことで、保護者への取組みの周知の場となった。</p> <p>受付、駐車場係を1年生が担当したことで、次年度への意識づけにも繋がった。</p>
職業人 講話	<p>●興南中学校 PTA 学力対策部主催の職業人講話「夢へのバトン」を活用した。</p> <p>日 時：平成 25 年 11 月 16 日（土）9：00 - 12：00</p> <p>場 所：第一体育館 各教室</p> <p>担 当：興南中学校（PTA 学力対策部）</p> <p>講 師：13 人（中高保護者 9 人、外部講師 4 人）</p> <p>内 容：実際に働いている大人を学校に招き、講話を聞く。</p> <p>目 的：様々な職業観や人生観にふれることで、子ども達のキャリア意識を高める。</p> <p>状 況：例年、話を聞きたい講師の希望を取っているが、今回、生徒の希望は取らず、クラス単位で 40 分程度の講話を 2 回実施し、二人の講師の話聞いた。</p>

	<p>また、内容に関しても中学時代の目標から、現在の仕事の就くきっかけや仕事内容、更にやりがいや働く思いなど、ジョブシャドウイングの視点も盛り込んだ講話になった。</p> <p>また、PTA 学力対策部が主体となって、当日の受付、講師アテンド、司会進行、駐車場の誘導等、全て保護者が行うことで、生徒だけでなく、保護者へも就業意識の啓発に繋がった。</p>
<p>保護者・地域</p>	<p><保護者説明会></p> <p>日 時：平成 25 年 11 月 9 日（土）11：30 - 12：30</p> <p>場 所：興南中学校 視聴覚教室</p> <p>担 当：グッジョブおきなわ推進事業局</p> <p>内 容：①ジョブシャドウイングについて</p> <p>②沖縄県の雇用状況について</p> <p>③興南中学校の取組みと協力について</p> <p>目 的：①ジョブシャドウイングの周知と理解</p> <p>②送迎サポーターの協力依頼</p> <p>参加者：保護者 26 人</p> <p>学校関係者 2 人</p> <p><メンター説明会></p> <p>日 時：平成 25 年 11 月 28 日（土）13：30-17：00</p> <p>場 所：沖縄県立博物館・美術館 美術館講座室</p> <p>担 当：グッジョブおきなわ推進事業局</p> <p>内 容：①ジョブシャドウイングについて</p> <p>②メンターの役割について</p> <p>③当日の流れ、諸注意</p> <p>◆30 分単位の説明会を 3 回実施。</p> <p>目 的：①事業概要の理解を促す。</p> <p>②興南中学校の実施当日の流れ、注意点を伝える</p> <p>参加者：17 企業 34 人</p>
<p>特記事項</p>	<p>●学校、PTA 学力対策部共催として実施</p> <p>●職業人講話は PTA 学力対策部主催の「夢へのバトンプロジェクト」として行う</p>

◆取組みの様子



働くってなんだろう？



目標を叶えるためのワーク



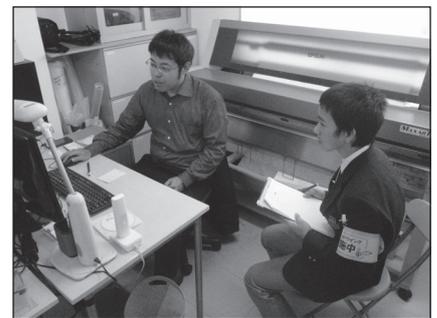
質問する時のポイントは…



講話会の開会式



講師の働く思いを聞こう



ジョブシャドウイングの様子



ジョブシャドウイングの様子



お礼の挨拶



みんなで観察を振り返ろう



タブレットを使って新聞作成



たくさんの方の前で発表



保護者説明会の様子

3 実施総括

(1) 学校ヒアリング考察

今回のジョブシャドウイング実施後は生徒が集中して授業を聞くようになり、職業観やマナーについて後輩に伝えるなど普段の学校生活にも変化がみられようになった。下級生からは「来年は自分達が経験するんだ」と期待の声も上がっており、他学年への波及効果もみられた。

PTA学力対策部と合同で実施することで、保護者への周知につながった。また、修学旅行説明会の日に合わせて発表会を実施したことで、多くの保護者へ成果を伝えることができた点においても、保護者への意識啓発の機会になったと思う。

一方、学校内部の調整に苦慮した部分がある。実施学年に関しては臨機応変な対応が出来たが、他学年との時間割の調整などに時間を費やした面があった。しかし、学校として、学内の人員が確保できれば次年度以降も実施継続したいとの声があがった。

(2) 生徒アンケートの考察

事前アンケートで「普段、仕事や仕事の話をして、どんな所で聞いたりしますか？」という問いに、「お父さん、お母さん」からという生徒が43%いる一方、「聞いたり、話したりしない」という生徒が17%と2番目に多かった。また両親と話をすると言った生徒でも具体的な内容に関しては、愚痴や大変さを話すというネガティブな意見も多く、そのためか、「仕事すること、働くことに対してどんなイメージを持っていますか？」という質問には、「やりがいがある」33%に対して、「大変」が26%と迫っていた。

しかし、事後アンケートでは、今回のジョブシャドウイングを通し、「仕事をする・働くことへの感じ方、イメージが変わりましたか？」の問いに対し、「変わった(良い方向)」との答えが86%に上った。また「大人になったら働きたいですか？」には全員が「はい」と答えている。感想の中にも「大変そうだけど、やりがいや達成感がある」など、働くことへのネガティブなイメージが払拭できたように思う。

「学校での生活と社会での生活では、どんな所が繋がっていると思いますか？」には、「あいさつ」と答えたものが74%と圧倒的に多く、また、「勉強」と答えた36%の中でも「国語」が81%と高い。これは挨拶だけでなく、敬語や言葉遣いを含めたコミュニケーション力が必要だと感じている生徒が多いためではないかと考えられる。

「将来にむけて、取組んでみたい・挑戦してみたい・始めたいと思ったことはありますか？」に対して「たくさんの資格をとりたい」との声が多々見受けられた。また「将来目指す職業以外の勉強も頑張る」などの答えもあり、事前学習で重点を置いた「身に付ける要素が増えれば増えるだけ職業選択の幅が広がる」という点を理解して意識が変わったのではないかとと思う。

(3) 企業アンケートの考察

「ジョブシャドウイング実施前に不安だったことはありましたか？」の質問に対し、「どちらかといえば不安だった」と答えたメンターが34%いる。理由としては、生徒とどのようにコミュニケーションを取っていいかわからず不安なメンターが多かったようだ。しかし、実施後には77%のメンターが生徒との「コミュニケーションが上手くいった」と答えている。

実施中の様子に関してもほとんどのメンターがよかったと答えている一方で、生徒からの質問や会話の少なさを指摘するメンターが53%もいた。挨拶や言葉遣いが出来ていないと指摘するメンターも2割程度いる。これは普段から大人との接点が少ない生徒が、初めて出会う大人とどのように接すればいいか戸惑ったためではないかと考えられる。また、ジョブシャドウイングはコミュニケーションを通して気づきを促すプログラムである為、事前学習では観察の視点を伝えると同時に、質問の仕方やコミュニケーションの取り方の指導を行う必要もあると考えられる。

また、メンター自身も「自分自身を顧みることができた」「仕事を再認識できた」「業務に緊張感が持てた」という人が多く、今回の実施が生徒の変化だけでなく、メンターへも大きく影響を与えたことは間違いない。

ただジョブシャドウイングの効果に関しては、「労働観、職業観を育てる一助になる」との回答が73%に対して「どちらとも言えない」が26%あった。理由として「2時間だけの観察は短い。理解させられたか不安」との意見があった。

一方、企業窓口担当者から「社員教育になった」「社内の志気が高まった」との回答も寄せられており、「未来の人材育成に貢献」「社として社会貢献ができた」などの意見から今後も受入れを引受けてもいいとの回答が9割を超えている。

4 成果

(1) 進路を考える機会を増やす

今回の実施では、中学2年生という発達段階の中で生徒自身が進路について考え、将来の自分を意識する機会になった。今までひとつの職業にしか関心のなかった生徒が、メンターとの触れ合いの中で、メンター自身の中学時代の目標と現在の職業との違いや、目標を目指す上での体験談を知ることや、「なりたい自分」から「なれる自分」に近づけるために努力することや、夢を叶えるためのプロセスを考える機会になった。更に、生徒の事後アンケートに「様々な資格取得を目指したり、興味のない分野でも積極的に情報収集をしたい」との答えがあるように、今回の実施が他の職業にも興味を向けさせ、生徒達の職業選択の視野を広げるきっかけになり、自身の価値観やキャリアプランニング能力の育成に良い変化をもたらしたように感じる。

(2) 保護者への周知と理解

ジョブシャドウイングの実施に際して、広域からの通学者が多いことから、送迎サポーターの確保に苦勞した面もあるが、PTA学力対策部と合同実施にすることで、対象学年以外の保護者にも本事業の周知や送迎サポーターの協力を仰ぐことが出来た。

更に、成果発表会を修学旅行説明会と併せて行ったことで、9割以上の保護者が成果を聞く機会となり、事業に対する理解が広がったと思われる。体験学習などの場合、学校の取組みに保護者が参画できる体制作りが課題となってくることが多い。今回のように、事前説明会にて送迎サポートの依頼を行うなど、保護者が取組める体制ができたと感じている。

また、実施後にはジョブシャドウイングが家庭での共通の話題となったケースがあり、保護者と生徒間でより活発な進路に関する話題や、家族で「働くこと」に関して考える機会に繋がったと思う。

5 今後の課題および改善点

(1) 事前学習から発表会までの一貫性

学校に新たなキャリア教育の手法を導入するという点では、本実施全体に割ける時間数の確保、実施期間に課題が残った。ジョブシャドウイングプログラムの効果を高めるためにも、事後のフォロー学習に重きを置く必要がある。発表会までの準備時間を確保する工夫や、年間を通して事前学習から一貫性を持たせて展開していくために、次年度は年間計画へ組込めるよう、学校との調整を行っていききたい。

また、修学旅行説明会と併せて実施した成果発表会は、保護者への事業理解や取組みの周知という点では成果があったが、成果発表会よりも修学旅行説明会が主であったことから、受入企業やメンターからは「生徒と交流が出来なかった」という声があった。生徒への貢献度が気になる企業やメンターにとっては、発表会が唯一の成果を確認し、ジョブシャドウイングの効果を実感できる場だと考える。その点からも、企業やメンターが参加しやすい発表会の在り方、効果的なプレゼンテーションの方法や成果物の見せ方についても学校と検討していく必要がある。

(2) 体系立てた取組み

学校からは、「中学校から高校への進学時の選択で、自身の興味や得意不得意でコースを選んでいる生徒が多く、将来を見据えて進路選択をしていないのでは」との声がある。中学校だけでなく高校とも連携を取りながら、中高一貫校の特色を活かし、それぞれの発達段階に応じた且つ体系立てた取組みになるようなプログラムを目指していきたい。

(3) 生徒のコミュニケーション力の向上

企業担当者やメンターから、「生徒からの会話や質問が少なかった」という声が挙がっている。初めて出会う大人や、異世代とのコミュニケーションが不得意であることが見えてきた。

コミュニケーション力は、社会に出て信頼関係を築く上で必要不可欠なスキルである。今後は事前学習において、質問力、対話力、傾聴力といった総合的なコミュニケーション力を身につけるような工夫をしていきたい。

(4) 生徒の進路選択を広げるために

生徒の進路決定において、影響力のある保護者と教師が、正確で最新の情報を持っていることが有効である。そのためにも、沖縄県の雇用現状や課題を伝える必要性を感じている。そのための保護者や教職員向けのキャリア教育講話や研修会などの実施を計画していきたい。

2 沖縄県立八重山商工高等学校での取組

1 実施の目的とねらい

(1) ジョブシャドウイング実施の背景と経緯

沖縄県の若年者雇用の問題の一つとして、早期離職者の割合が高いことが挙げられる。平成20年度高卒者の追跡調査では卒業後1年以内の離職率は32.7%、3年以内になると56.0%と全国平均より約20%も高くなっている。離職の理由は給料や待遇面での理想とのギャップ、人間関係のトラブルなど様々である。また県外へ就職した者は仕事だけでなく生活にも馴染めずに、県内に戻ってくる者も多い。その為、親や祖父母世代が安定した職業に就職を望む声が非常に高くなっている。その影響で沖縄県では公的機関への就職を希望する生徒が多い。しかし、安定職というイメージが先行し、働くことへの目的意識が漠然としており、公的機関の様々な職種で何をしたいのかが分からない生徒も多く、結局、就職に結びつかないという現実や公務員試験に受かるまで、親をはじめ周りの大人が経済的に支援する体制を作っていることが、高校卒業後の無業者やニートを生み出す原因の一つとなっている。高校以上の上級学校のない離島はその傾向が更に強く見られる。

今回、沖縄県立八重山商工高等学校をモデル校として選定し、公務員希望の生徒を対象に、公的機関に限定してジョブシャドウイングを行うことで、公務員職の現状を観察し、憧れと現実とのギャップに気づいた上で、自身の夢を叶えるまでの行程を築いていけることを狙い、実施を行った。

また、本取組みに対するサポートと地域に即した取組みにするために石垣市グッジョブ地域連携協議会と協力しながら実施した。

(2) 活動スケジュール

月	実績	月	実績
4月		10月	
5月		11月	・企業アンケート取りまとめ
6月	・学校調整	12月	・報告書作成
7月	・学校調整 ・受入企業開拓 ・職業人講話調整 ・インターンシップ事前学習	1月	・学校ヒアリング ・報告書作成

8月	・企業リスト、メンター名簿の取りまとめ ・事前アンケート、自己紹介シート作成	2月	・報告書作成
9月	・事前学習 ・職業人講話 ・ジョブシャドウイング実施 ・事後学習 ・ジョブシャドウイング報告会	3月	・報告書作成

2 実施概況

(1) 実施の取組

沖縄県立八重山商工高等学校は、昨年度県内で唯一進路決定率が就職、進学ともに100%を記録した。一方で島外へ就職しても仕事や生活に馴染めず、早期に離職してしまう割合も高くなっており、生徒が益々「安定」を求める公務員志向が強くなっている。ただ、明確な目的意識のないことや受験にかかる時期の遅れから、現役での合格につながらず、希望とは全く違う職種に就職してしまう生徒が多い。

今回のジョブシャドウイングでは、公的機関に就職を希望する全学年の希望者を対象に、興味のある公的職種を挙げてもらい、その職種を観察することで公務員という職業に対して持っている漠然としていたイメージを明確化するだけでなく、自身の能力適性を理解した将来計画や情報収集の能力を高めることで、進路選択の幅を広げることを狙った。

事前学習では、公務員と他の職業とを比較することで、給料や勤務体制以外にも、やりがいやリスクなど多方面から公務員の特徴を知ると同時に、「人はなぜ働くのか?」という観点から、どんな職業にも共通する働く思いや、働く人それぞれの違う思いを考える機会とした。

また、参加した2学年に対しては、学校初の取組みとなるインターンシッププログラムの中で、ジョブシャドウイングの視点を取入れた事前学習を行い、更に体験学習で実際に働くことを体感した後、自身の興味のある公務員職でのジョブシャドウイングを行った。このことで、より深い学びを得ると同時に第一希望とする職種に就くことが出来なくても、多様な考えに気づき、自分の人生のイメージを描いていけることを期待した。

(2) 受入企業リスト

生徒たちの希望を考慮した上で、国、県、市の公的機関限定で開拓を行った。また石垣市内の事業所を開拓するにあたり、石垣市グッジョブ連携協議会に協力を仰いだ。

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	石垣市役所	地方公務	1	石垣市
2	海上保安庁第十一管区石垣海上保安部航空基地	国家公務	2	
3	海上保安庁第十一管区石垣海上保安部	国家公務	3	
4	石垣市消防本部	地方公務	3	事業局
5	竹富町役場	地方公務	1	
6	沖縄県立八重山商工高等学校図書館	地方公務	1	

7	自衛隊沖縄地方協力本部石垣出張所	国家公務	2	
		合 計	13	

※事業局：グッジョブおきなわ推進事業局 石垣市：石垣市グッジョブ連携協議会

(3) 実施校 活動報告

※ JS：ジョブシャドウイングの略

※ コマ数（1校時）：小学校45分、中学校、高校50分、大学90分を指す

学校情報	校 長：友利 成寿				
	住 所：〒907 - 0002 石垣市真栄里 180 番地				
	電 話：0980-82-3892/82-4642		FAX: 0980-83-1056		
実施概略	対象学年：全学年希望者（1年1人、2年5人、3年7人） 13人（内 実施13人）				
	担 当：伊集 満枝教諭（進路指導部）				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習：	平成 25年 8月（夏休み中）	2コマ		
		平成 25年 9月 9日		2コマ	
		平成 25年 9月 10日		1コマ	
	職業人講話：	平成 25年 9月 9日		2コマ	7コマ
	JS実施：	平成 25年 9月 11日		4コマ	4コマ
	事後学習：	平成 25年 9月 11日	2コマ		
	発表会：	平成 25年 9月 18日	1コマ		3コマ
実施のねらい	◆公務員への職業理解と就業意識の改革を促す ◆学校及び行政、受入機関の連携を図る				
事前学習内容	<p><インターンシップ事前学習></p> <p>日 時：平成25年7月19日（金）13：00－14：40</p> <p>場 所：八重山商工高等学校 体育館</p> <p>担 当：株式会社ケイオーパートナーズ</p> <p>内 容：①働いている人の一日をイメージする ②ワーク「ペーパータワーを作ろう」</p> <p>目 的： インターンシップに向けて「今の自分が出来ること」と「与えられた業務の役割」を確認・理解できる機会とし、「働くとは何か」を考えるきっかけとする</p> <p>ワーク「ペーパータワーを作ろう」</p> <p>ねらい：①チームワークの大切さや責任感を考える ②働く人の気持ち、働かない人の気持ちを考える</p> <p>内 容：①グループ内に1人働かない人を決める（働かない人は、誰とも話してはならない。グループの隅でみんなを眺める。） ②働く人たちは、全員で協力してミッションを完成させる</p> <p>ルール：紙だけを使用してできるだけ高いタワーを作る</p>				

- ・作戦タイム
- ・タワー作成
- ・測定
- ・振り返り

③働かなかった人の感想を共有して、働かなかった人も加えてミッションを行う

状 況： ワークでは、チームワークや役割を意識させ、創意工夫しながら働くだけでなく、「働かない人」をチーム内に設定することで、働く人を客観的に見たり、他のチームと見比べるなど様々な視点から観察した。後半、働かない役割を経た生徒がチームに加わった際には、積極的に動いたり、適切なアドバイスをするなどチームへ貢献する様子が見られた。

またチームの中で働かないことを体験した生徒の感想に「疎外感を感じた」や「一緒にやりたくて仕方なかった」などがあり、この経験からニートや無業者が感じている、社会の中でやりたいことが出来ない苦しさや、周りからの孤立という、心に抱えている葛藤について考え共通点を探すことで改めて、「働かない」「働けない」状況について考える機会とした。

<第1回 事前学習>

日 時：平成25年9月9日（月）15：10～17：00

場 所：八重山商工高等学校 視聴覚教室

担 当：グッジョブおきなわ推進事業局

内 容：①ジョブシャドウイングとは？

②働くとは？

③ワーク「公務員とその他の職業を比較しよう」

④観察のポイント

目 的：①ジョブシャドウイングの目的や意義を理解する

②人はなぜ働くのかを考える

③公務員の仕事と他の職業の違いを知ると同時に共通項を探すことで、職業の選択の視野を広げる

状 況： 公務員就職志向の強い生徒たちということもあり、前半は職業選択の幅を広げることを意識して授業を進めた。後半はジョブシャドウイングについて説明し、実際に観察するポイントを伝えた。

前半はまず日本には約3万近くの職業があることを伝え、公務員とその他の職業との比較をペアで考えさせた。更にその職業になりきってディスカッションを行い、其々の仕事内容や給料以外に、やりがいやリスクなど多角的に考える機会にした。

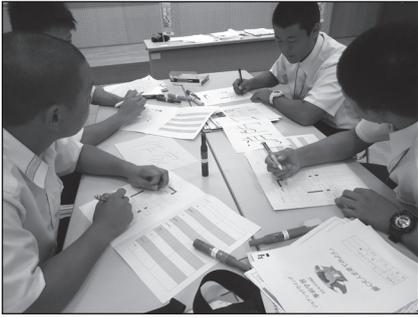
次に仲井眞県知事と漫画家の三田紀房氏のインタビュー記事を紹介し、それぞれの働く思いを記事から拾い出し、更にコーディネーターの働く思いを伝え、全く違う職業の3人から共通する思いがあることに気づくことができるよう促した。

		<p><第2回 事前学習></p> <p>日時：平成25年9月10日（火）16：10～17：10</p> <p>場所：八重山商工高等学校 視聴覚教室</p> <p>担当：グッジョブおきなわ推進事業局</p> <p>内容：①ビジネスマナー学習 ②ワーク「傾聴ワーク」</p> <p>目的：社会人としてのマナーを意識させる。</p> <p>状況：マナーとは何かを考えながら、挨拶や正しい姿勢、お辞儀の仕方、名刺交換のそれぞれのポイントを押さえて出来ることを目指した。また話を聞く姿勢もマナーの一種だと伝え、どのようにすれば相手に良い印象を伝えることができるかワークを通して考えた。最初は戸惑いながら行っていた生徒たちだが、最後は全員がポイントを意識して出来るようになった。</p>																															
	<p>JS実施 当日</p>	<p><当日スケジュール></p> <table border="1" data-bbox="384 779 1437 2027"> <thead> <tr> <th data-bbox="384 779 491 831">時間</th> <th data-bbox="491 779 863 831">内容</th> <th data-bbox="863 779 1034 831">場所</th> <th data-bbox="1034 779 1437 831">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="384 831 491 1099">8：45</td> <td data-bbox="491 831 863 1099">生徒集合</td> <td data-bbox="863 831 1034 1099">八重山商工 高等学校視 聴覚教室</td> <td data-bbox="1034 831 1437 1099">点呼・身なりの確認・バイン ダー配布 持ち物確認（筆記用具・バイ ンダー・ネームホルダー・名 刺など）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 1099 491 1413">9：00</td> <td data-bbox="491 1099 863 1413">出発式 1. 校長挨拶 2. 激励の挨拶 3. 生徒代表決意表明 4. 事務連絡</td> <td data-bbox="863 1099 1034 1413"></td> <td data-bbox="1034 1099 1437 1413"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 1413 491 1547">9：15</td> <td data-bbox="491 1413 863 1547">各受入機関へ出発</td> <td data-bbox="863 1413 1034 1547"></td> <td data-bbox="1034 1413 1437 1547">各自で移動。 但し、海上保安庁航空基地の み送迎</td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 1547 491 1749">9：30</td> <td data-bbox="491 1547 863 1749">各受入企業に到着 ※企業ごとに到着時間は微 調整</td> <td data-bbox="863 1547 1034 1749">受入企業に て</td> <td data-bbox="1034 1547 1437 1749">受入先担当者へ、あいさつ 海上保安庁航空基地は送迎ス タッフが担当者へ引き渡し</td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 1749 491 1984">9：45</td> <td data-bbox="491 1749 863 1984">ごあいさつ オリエンテーション等</td> <td data-bbox="863 1749 1034 1984"></td> <td data-bbox="1034 1749 1437 1984">メンターとの顔合わせ、名刺 交換 メンター自己紹介シートを生 徒へ 本日のスケジュール確認</td> </tr> <tr> <td data-bbox="384 1984 491 2027">10：00</td> <td data-bbox="491 1984 863 2027">ジョブシャドウイング開始</td> <td data-bbox="863 1984 1034 2027">各部署にて</td> <td data-bbox="1034 1984 1437 2027">生徒はメンターの指示に従う</td> </tr> </tbody> </table>				時間	内容	場所	備考	8：45	生徒集合	八重山商工 高等学校視 聴覚教室	点呼・身なりの確認・バイン ダー配布 持ち物確認（筆記用具・バイ ンダー・ネームホルダー・名 刺など）	9：00	出発式 1. 校長挨拶 2. 激励の挨拶 3. 生徒代表決意表明 4. 事務連絡			9：15	各受入機関へ出発		各自で移動。 但し、海上保安庁航空基地の み送迎	9：30	各受入企業に到着 ※企業ごとに到着時間は微 調整	受入企業に て	受入先担当者へ、あいさつ 海上保安庁航空基地は送迎ス タッフが担当者へ引き渡し	9：45	ごあいさつ オリエンテーション等		メンターとの顔合わせ、名刺 交換 メンター自己紹介シートを生 徒へ 本日のスケジュール確認	10：00	ジョブシャドウイング開始	各部署にて	生徒はメンターの指示に従う
時間	内容	場所	備考																														
8：45	生徒集合	八重山商工 高等学校視 聴覚教室	点呼・身なりの確認・バイン ダー配布 持ち物確認（筆記用具・バイ ンダー・ネームホルダー・名 刺など）																														
9：00	出発式 1. 校長挨拶 2. 激励の挨拶 3. 生徒代表決意表明 4. 事務連絡																																
9：15	各受入機関へ出発		各自で移動。 但し、海上保安庁航空基地の み送迎																														
9：30	各受入企業に到着 ※企業ごとに到着時間は微 調整	受入企業に て	受入先担当者へ、あいさつ 海上保安庁航空基地は送迎ス タッフが担当者へ引き渡し																														
9：45	ごあいさつ オリエンテーション等		メンターとの顔合わせ、名刺 交換 メンター自己紹介シートを生 徒へ 本日のスケジュール確認																														
10：00	ジョブシャドウイング開始	各部署にて	生徒はメンターの指示に従う																														

	<p>(120分程度) ※質疑応答タイムを含む</p> <p>11:50 ジョブシャドウイング終了 終わりのあいさつ</p> <p>12:00 各企業出発</p>		<p>学校、事務局スタッフは巡回、 写真撮影</p> <p>各自で移動 航空基地出発。</p>
	<p>12:15 学校到着 昼食・休憩</p> <p>13:00 事後学習</p>	<p>八重山商工 高等学校 小会議室</p>	<p>振返り 事後アンケート・お礼状の作成</p>
	<p><出発式></p> <p>日時：平成25年9月11日（水）9：00－9：15</p> <p>司会：八重山商工高等学校 教員 伊集 満枝 校長挨拶・・・・・・・・校長 友利 成寿 激励の挨拶・・・・・・・・沖縄県商工労働部雇用政策課 課長 又吉 稔 生徒代表決意表明 事務連絡</p> <p>参加者：・八重山商工高等学校 教職員（数名） ・沖縄県商工労働部雇用政策課（2名） ・沖縄県教育庁八重山教育事務所（1名） ・石垣市グッジョブ連携協議会（3名） ・グッジョブおきなわ推進事業局（3名）</p>		
事後学習 内容	<p>日時：平成25年9月11日（水）13：15－15：30</p> <p>場所：八重山商工高等学校 会議室</p> <p>担当：八重山商工高等学校</p> <p>内容：①ジョブシャドウイングの振返り ②アンケートとお礼状の作成</p> <p>目的：ジョブシャドウイングでの気づきを全員で共有する</p> <p>状況：生徒一人ひとりのジョブシャドウイングの率直な感想からキーワードを抜き出し、それぞれが感じた働く思いを皆で共有した。またメンターのすごいと思った部分からこれからの自分に活かせることなどを考える時間とした。</p>		
発表会 保護者・ 地域	<p>日時：平成25年9月18日（水）19：00－19：30</p> <p>場所：八重山商工高等学校 講座室</p> <p>担当：八重山商工高等学校</p>		

	<p>内 容：①グッジョブ運動並びにジョブシャドウイングについて ②石垣市グッジョブ連携協議会の取組みについて ③学生代表の発表</p> <p>目 的：①グッジョブ運動並びにジョブシャドウイングの周知 ②ジョブシャドウイングの成果を伝える</p> <p>状 況： 八重山地区高等学校 PTA 連合会主催の奨学金説明会と併せて行うことで、保護者への周知と理解を狙いとして行った。八重山商工高等学校だけでなく、八重山地区の他校の教職員、保護者にも取組みを知らせる機会になった。保護者、教職員約 50 人が出席する中で、生徒代表 2 人がジョブシャドウイングで学んだことを発表した。成果発表の前にグッジョブ運動やジョブシャドウイング事業、石垣市の取組みについて、石垣市グッジョブ地域連携協議会のコーディネーターより説明を行った。その後、実施中の写真を使って、成果発表を行い、発表後には参加者から実施してどう意識が変わったかなどの質問などもあり、本取組みに対する興味関心が高まっている様子だった。</p>
<p>職業人 講話</p>	<p>日 時：平成 25 年 9 月 9 日（月）13：00－14：30</p> <p>場 所：八重山警察署</p> <p>講 師：八重山警察署 警務課 警務係長</p> <p>内 容：①署内見学 ②警察の仕事 ③働くとは？</p> <p>目 的：①講師の話を聴くことで働くことや仕事でのやりがい等を学ぶ ②講話を聴くことで、将来の自分自身を考える機会にする</p> <p>状 況： 今回の対象生徒の半数が警察でのジョブシャドウイングを希望していた。しかし、業務の関係でジョブシャドウイングの受入れが難しいこともあり、職業人講話という形で協力を仰いだ。</p> <p>まず署内を見学し、複数の部署から成り立っている点や他部署と連携して仕事を行っていること、また武道場などの施設が備え付けられている面から日々訓練に励むなど、警察官が見えない努力をしていることを知る機会になった。</p> <p>講話では、講師が学生時代に別の職業を目指していたことや警察官になった経緯、仕事のやりがいや苦労などを生徒たちに話した。警察官になるために必要なこととして、協調性、精神力、知識や体力などを挙げ、更にチームワークの大切さ、仲間との情報共有や連携しながら仕事は成り立っていると語った。</p> <p>生徒たちからも採用試験の情報や過去の問題集の入手方法などの質問が飛び交うなど、現状を知った上で、さらに意欲が高まった様子だった。</p>
<p>特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●平成 20 年、21 年度沖縄型ジョブシャドウイングモデル事業モデル校（観光コース） ●観光コースでは、島内のホテル 2 ヶ所でジョブシャドウイングを独自継続実施中 ●2 学年全学科を対象に今年度初めてインターンシップを実施

◆取組みの様子



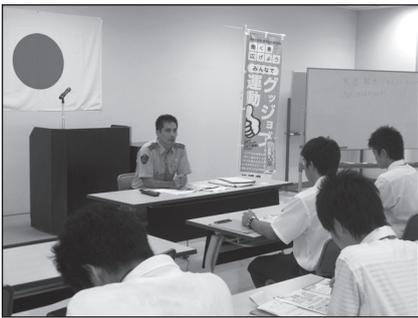
事前学習



名刺交換の練習



八重山警察署見学



職業人講話の様子



グッジョブポーズで出発



実施の様子①



実施の様子②



実施の様子③



一人ずつ感想を発表



気づきの共有タイム



保護者の前で発表



成果発表の様子

3 実施総括

(1) 学校関係者ヒアリング考察

今回は、全学年を対象に希望選択制で実施を行い、授業時間の確保に苦慮したため、事後学習が実施当日の2コマのみとなり、就業意識や職業理解を深めることができなかつたように感じるとの声があった。しかし、インターンシップ後のジョブシャドウイング実施だったということもあってか、生徒の実施後の様子から期待以上の効果を感じており、特に1、2年生が進路室へ進路相談に来るようになったり、進路指導部主催の3年生向け公務員試験対策講座への参加を希望する生徒も現れている。今回の経験で、生徒一人ひとりが就職活動を現実的なことと捉え、自発的に将来に向けて取り組むようになったのではないかと思う。

また、今回参加した3年生に関しては卒業時点で、7人中6人が進路を決定することができた。直接、公務員になる者はいなかったが、専門学校や大学を経て公務員への就職を希望している者もいる。

今回、公的機関に限定し、本人たちに職種を選択させたことで、具体的に将来を意識でき、就職へ向けてのモチベーションを上げることができたのではないかと考えられる。

(2) 実施生徒のアンケート考察

事後アンケートや実施後の感想から、生徒一人ひとりがジョブシャドウイングを通して、働く大人の思いを感じとることが出来たようである。「仕事や働くことへの感じ方、イメージが変わりましたか」という問いに全員が「良い方へ変わった」と答え、「大人になったら働きたいですか」という問いにも全員が「はい」と答えている。

「学校での生活と社会での生活がどう繋がっていますか」という問いに「あいさつ」が85%と高く、次いで「クラブ活動・部活動」の62%となっている。今回、実施した多くの公的機関が、チームで働くことが多い点からも、基本的なあいさつや集団行動の必要性を感じ取ったと考える。また、危険な任務を遂行する業種から基礎体力の重要性を感じ取った生徒も多く見受けられた。

「将来に向けて、取り組みたい、挑戦してみたい、始めてみたいと思ったことはありますか」という問いには、具体的な採用試験や公務員試験に向けた取り組みを始めたいとした生徒が多く見受けられ、より目的意識がはっきりし、公的機関への就業意識が高まったように感じ取れる。また、学校の勉強や部活動などを頑張ると答えている生徒もおり、普段の学習、学校生活と社会との繋がりに気づく機会にもなったと考えられる。

(3) 受入企業アンケート考察

今回は、受入企業7機関の内、半数以上の4機関が過去にジョブシャドウイング受入経験があった。しかし、受入れに際し、「不安だったことはありませんか」という問いに「どちらかといえば不安だった」という方が窓口担当者では67%、メンターは23%であった。窓口担当者からは機密情報を扱う部署も多く、内部調整に苦労したという声が多々聞こえた。またメンターからは見るだけで仕事内容を理解してもらえるのか不安だったという意見もあった。しかし、将来、公的機関への就職を希望している生徒ということで、業界としての広報的側面から受入れた企業も多い。

実施中の生徒の様子や態度は「よかった」との声が圧倒的に多く、8割のメンターが生徒とのコミュニケーションも上手くいったと答えている。その為か「メンターから評判がよかった」という窓口担当者の回答も多い。

また観察されての感想では、「自分自身を顧みることができた」「仕事を再認識できた」というメンターが多く、窓口担当者からも「職員教育の一助になった」「部署内が引き締まった」という意見があり、「引受けて良かったですか」という問いには67%が良かったと答え、また「今後実施する機会があれば引受けますか」の問いには全員が「はい」と答えた。

今回のジョブシャドウイングでは、生徒が就職を希望していたり、興味のある機関で実施したこともあり、受入側も就職前のインターンとして見ているところが多くあるように思えた。その為、実際に業務を体験させたかったという意見があった。3年生も参加していることに関して実施時期には企業の採用試験や願書出願が終了していることから、試験や出願に間に合うような時期を考慮して実施して欲しいとの意見も多かった。

4 成果

(1) 公務員職の実態把握

今回、初の試みとなった公的機関に限定したジョブシャドウイングでは、生徒達にとって地域に多くの公的機関が存在していることを知り、様々な業種業態、勤務体制等があることなど、公務員の仕事について実態を知る機会となった。公的機関は全てが優遇され、安定しているという考えを持っていた多くの生徒が、そこで働く人は様々な勤務体制、更には危険を伴う業務などを行いながらも地域住民の暮らしを守ることの代償として、生活や経済等の安定を得ていることを理解し、憧れと現実の差に気づくことができた。正しく仕事を理解した上で、夢を叶えるためのプロセスを組み立て、希望とする職種になれなくても今後の自分の生き方を描けるきっかけになったのではないかと。また、どんな職種も働くことを通して、やりがいや生きがい生まれることにも気づくことができた。

更に普段から見えている業務以外に、裏方で支える見えない様々な業務にも取り組んでいることや様々な人が関わっていることを知る機会になり、希望する職種しか見えていなかった視野を広げ、業務間の繋がりや職種の多様性を考える機会にもなり、職業選択の幅を広げるきっかけになった。

(2) 目標に向けた主体性や計画性

ジョブシャドウイング実施後、生徒たちは公務員になるという強い決意を表した。その中には、より具体的な目標としてパソコンのスキルや計算力を挙げる生徒もいた。更に採用試験に向けて参考書を購入したり、進路指導部主催の講座を受講したりと、今回のジョブシャドウイングが職種の現状を把握する以外に、生徒たちが自身の将来について考えると同時に主体性を持って目指す進路の実現に向けた課題を理解し、自らの意志で進路選択に向けた具体的な計画を立てる機会になった。

(3) 進路指導、就職支援に向けたネットワークの構築

今回、事前に対象となる生徒に希望職種を調査し、消防士を目指す生徒は消防署など、生徒の希望を考慮して受入機関をマッチングした。そのため、受入機関に対してはどんな生徒が今後就職を希望しているのかを伝える機会となり、また、学校側にも受入機関が求める人材像等の把握や情報の共有が図れ、ネットワークの構築が出来たことで、卒業時に無業者を出さないための学校独自の就職支援体制を構築する一歩となった。さらに今回のジョブシャドウイングを介して、学校と受入機関との情報交換を目的とした交流会の希望もあり、今後、生徒に対する進路指導、就職支援のネットワークの構築に向けた動きがますます活発になると感じている。

5 今後の課題および改善点

(1) 多角的な職業理解

生徒の希望をある程度考慮して受入機関をマッチングした為、興味が先行し、「職業」を見る・知るに焦点化している生徒が多く、ジョブシャドウイングの特徴であるコミュニケーションを通して「働く人」の思いを感じ取り、働くことに対する内面的な気づきが得られたのか、他の職種との違いや共通項を見つけられたか等の課題が残る。

ある受入機関からは、1つの職種でも業務や役割が多岐に渡ることを生徒が知ることで、より職業理解を深めることに繋がるのではないかと、1つの部署（機関）だけでなく、他部署（機関）も見てもらいたいとの意見があったが、全ての受入機関でそのような体制が取れないことも考えられる。そこで、ジョブシャドウイング実施の前後に行う事前・事後学習の内容を工夫していきたい。まず、事前学習では企業研究の時間を設け、他の公的機関や部署だけでなく、他の職業や企業との比較をしたり、他部署や他企業との繋がりを考えたりと、多角的に職業を理解できる力をつけながら、事後学習では、実施の感想を述べるにとどまらず、職業観や就業観も含めた意見交換などを行い、他の生徒との相違点、共通点を探しながら、体験を振り返ることで生徒間の学びを深めるためのプログラムの改善を図っていきたい。

(2) 主体性、計画性の持続

今回のジョブシャドウイングを通して、生徒が自ら将来の目標に向かい、具体的な計画を立て、主体的になって課題に取り組むという成果があった。しかし、この主体性、計画性が大切という生徒の気づきを行動へと移行させ、且つ、持続するような方法を考えなくてはならない。その観点からも、ジョブシャドウイング終了以降に生徒たちがどのような意識で進路選択を行ったのか、目標達成に向けてどのように実行できたのかを追跡していきたい。また、今年度よりインターンシップが開始されたこともあり、学校と連携して生徒の動向を追いたいと思う。

(3) 保護者、地域との連携

実施の背景として、保護者や祖父母世代が安定した職業として、公的機関への就職を望む声が多く、保護者や周りの大人が公務員にこだわるが故に公務員になるまで経済的支援を続ける傾向があった。これは公務員に限らず、他の職種にも見られる現象で、子ども達の働くことへの意識の希薄化の要因のひとつになっている。そのことが就業の遅れに繋がり、ニートやフリーター、就職定着率の低さを生んでいると考えられている。このような沖縄の雇用問題を保護者が認識し、いずれ親元を離れ自立していく子どもの人生を考え、夢を叶えることに向け、保護者ができる支援を考える必要がある。学校や地域、企業が行っている職場体験やジョブシャドウイングだけでなく、家庭で出来るキャリア教育の在り方を考えるための取り組みを行っていきたい。その前段階として、次年度は保護者やPTAとの連携強化を図りつつ、保護者や地域向けのキャリア教育講話会などの充実を図りたい。

3 学校法人嘉数女子学園沖縄女子短期大学の取組

1 実施の目的とねらい

(1) ジョブシャドウイング実施の背景と経緯

平成25年3月に大学を卒業した者の無業者率(出典:文部科学省「学校基本調査」)は全国平均13.6%に対して、沖縄県は27.1%と2倍近い数値となっており、大学生に対する就業意識啓発、就職支援の在り方を考えることも、沖縄県の雇用の課題のひとつになっている。4年制大学に関しては、就職活動開始まで入学から3年近くの期間があり、自分の目標をしっかりと定めて始めることが出来るのに対し、短期大学は2年という短い在学期間で、勉強と就職活動を並行で行い、卒業していかなければならず、大学1年次で自分の将来と向き合うと同時に、社会人基礎力を身につけていく必要がある。

沖縄女子短期大学は、ジョブシャドウイングを大学の履修科目「特殊講義Ⅰ」(以下、「本講義」という)として取入れ、今年度で3年目となる。昨年度行った追跡調査では、本講義を受講した学生はそうでない学生に比べ、進路決定率が高く、就職活動へもたらす本講義の効果が検証された。これは講義を通して、自己理解を促し、情報収集能力や将来設計能力が向上したことで、就職活動を意欲的に取組むことができた結果であると考え。その結果を踏まえて、今年度も進路選択や就職活動に向けての意識啓発を促しながら、社会人基礎力を身につけることを狙った。

更に3年目の取組みとして、大学へのノウハウ移行を目論みながら、大学内部での情報共有、連携強化を促すことも狙った。

(2) 活動スケジュール

月	実績	月	実績
4月		10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目講義(事前アンケート) ・第2回目講義 ・第3回目講義(第1回職業人講話) ・第4回目講義
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校調整 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回目講義 ・第6回目講義 ・職業人講話調整
6月		12月	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回目講義(職業人講話) ・学校調整 ・第8回目講義 ・企業リスト、メンター名簿取りまとめ
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・受入企業開拓 	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回目講義 ・第10回目講義 ・第11～13回目講義(ジョブシャドウイング実施) ・第14回目講義(事後アンケート)

8月	・授業計画、カリキュラム調整	2月	・第15回目講義 ・第16回目講義（成果発表会） ・報告書作成
9月	・カリキュラム調整 ・職業人講話調整	3月	・報告書作成

2 実施概況

(1) 実施の取組

沖縄女子短期大学は、今年度学内での学科編成を行い、実施の対象となる「総合ビジネス学科」に心理学とビジネスを融合させた学問を中心とした「ビジネス心理コース」と、観光関連科目に特化し、沖縄の観光関連産業で活躍するための専門的基礎力を身につける「観光ホスピタリティコース」の2つのコースを設置した。今年度は両コースの学生を実施の対象とし、昨年と同様「特殊講義Ⅰ」として全国の大学で唯一、ジョブシャドウイングを履修科目とした取組みとなっている。

シラバスに関しては、大学の担当教員とともに協議を行い、就職活動を意欲的に取組めるよう意識づけさせると同時に、社会の中で「働く」ということを考える機会にすることを狙い、自己理解や将来設計、課題発見解決能力などの社会人基礎力が、身につけられる講義内容とした。

講義運営に関しては大学側と事業局で役割を決め、分担して講義を行った。大学担当講義では、主担当講師以外にもサポート要員として2人の講師が加わった。学内のサポート体制が構築できたことで、講義の進行だけでなく、実施当日の巡回や発表会の運営などを、大学が中心となって行うことができた。

また、昨年度同様に、前年度の対象者である現2年生の進路決定に本講義がどのような効果をもたらしたか検証する目的でアンケートによる追跡調査を行った。

(2) 受入企業リスト

No.	企業名	業種	受入人数	取りまとめ窓口
1	株式会社リウボウインダストリー	各種商品小売業	1	事業局
2	株式会社スズケン沖縄薬品	その他の卸売業	1	
3	株式会社琉球新報社	映像・音声・文字・情報制作業	1	
4	株式会社沖縄タイムス社	映像・音声・文字・情報制作業	2	
5	日本トランスオーシャン航空株式会社	航空運輸業	1	
6	沖縄経済同友会	政治・経済・文化団体	1	

7	社会福祉法人沖縄偕生会養護・特別養護老人ホーム首里偕生園	社会保険・社会福祉・介護事業	2		
8	株式会社ムービータイム	映像・音声・文字・情報制作業	2		
9	ジュンク堂書店那覇店	各種商品小売業	2		
10	有限会社のれんずプロ	映像・音声・文字・情報制作業	1		
11	一般財団法人沖縄美ら島財団首里城公園管理部	学術・開発研究機関	3		
12	株式会社ヤブサチ南風原オフィス	飲食店	1		
13	アメリカンホーム保険会社	情報サービス業	3		
14	ANA クラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー	宿泊業	2		
15	琉球治療院本店	社会保険・社会福祉・介護事業	1		
16	琉球フットボールクラブ株式会社	技術サービス業	1		
17	株式会社トヨタレンタリース沖縄	その他の生活関連サービス業	2		
18	エース整骨院	社会保険・社会福祉・介護事業	1		
19	諸見里利秀税理士事務所	専門サービス業	1		
20	株式会社ファイナンシャルリンク	専門サービス業	1		
21	沖縄総合警備保障株式会社	その他の事業サービス業	1		
22	株式会社かりゆし	宿泊業	2		
23	税理士法人添石総合会計事務所	専門サービス業	1		
24	株式会社もしもしホットライン沖縄支社	情報サービス業	2		
25	株式会社求人おきなわ	専門サービス業	2		
26	株式会社ケイオーパートナーズ	専門サービス業	1		
27	沖縄県商工労働部雇用政策課	地方公務	1		
28	公益財団法人沖縄県文化振興会	学術・開発研究機関	1		
29	沖縄ガスリビング株式会社	ガス業	1		
30	ダイワロイネットホテル那覇おもろまち	宿泊業	1		
		合 計	43		人

(3) 実施校活動報告

※ JS：ジョブシャドウイングの略

※ コマ数（1校時）：小学校45分、中学校、高校50分、大学90分を指す

大学情報	学 長：福地 孝				
	住 所：〒902 - 0077 那覇市長田2丁目2番地21号				
	電 話：098-833-0716			FAX: 098-833-3308	
実施概略	対象学年：1年生 総合ビジネス学科 43人（内 実施 43人）				
	担 当：福里芝人（総合ビジネス学科 准教授）				
	実施日	コマ数	学校 実施	事務局 実施	合 計
	事前学習：平成 25年 10月 2日			1コマ	10コマ
	平成 25年 10月 9日			1コマ	
	平成 25年 10月 30日		1コマ		
	平成 25年 11月 13日		1コマ		
	平成 25年 11月 27日		1コマ		
	平成 25年 12月 18日		1コマ		
	平成 26年 1月 8日			1コマ	
平成 26年 1月 15日			1コマ		
職業人講話：平成 25年 10月 16日			1コマ		
平成 25年 12月 4日			1コマ		
JS実施：平成 26年 1月 22日			3コマ	3コマ	
事後学習：平成 26年 1月 29日		1コマ		3コマ	
平成 26年 2月 5日		1コマ			
発表会：平成 26年 2月 12日		1コマ			
実施のねらい	<p>◆就職活動に向けた就業、キャリア形成に対する意識啓発並びに社会人基礎力の向上</p> <p>◆大学内での情報共有、連携強化体制作り</p>				
特記事項	<p>●後期授業「特殊講義Ⅰ」として全16コマで実施</p> <p>●今年度は、大学の自立化に向け、大学と事業局で役割分担し運営しながら、学内での連携強化を目指した</p> <p>●職業人講話</p> <p>第1回目 沖縄タイムス社 與那覇里子氏 ねらい：①学生と近い世代の視点から女性が働くとは何かを考える ②新聞記者からインタビューの方法や心がまえを学ぶ</p> <p>第2回目 万国医療津梁協議会 友利直子氏 ねらい：①観光と医療が融合した新分野の事業を知ること、業種や業界に対する考え方や職業選択の視野を広げる ②グループワークを通して、考える力、伝える力を身につける</p>				

(4) カリキュラム (シラバス)

「特殊講義Ⅰ」全16コマの内、事前学習10コマ、実施3コマ、事後学習2コマ、成果発表会1コマで展開し、大学と事業局で協議してカリキュラムを作成し、協働で講義運営に当たった。

回数	内 容	
1回目	●オリエンテーション (授業概要・ジョブシャドウイングについて)	10月2日
2回目	●ジョブシャドウイングへの導入 (「働くことの意義」を見つけるために)	10月9日
3回目	●職業人研究Ⅰ・レポート	10月16日
4回目	○レポート課題の発表と、働くことの意義について検討	10月30日
5回目	○自己分析	11月13日
6回目	○自己分析Ⅱ	11月27日
7回目	●職業人研究Ⅱ・レポート	12月4日
8回目	○これまでの全体的なまとめ (「働く意義を考える」)	12月18日
9回目	●ビジネスマナー基礎編・観察ノートの作成	1月8日
10回目	●ビジネスマナー実践編	1月15日
11回目	●ジョブシャドウイング実践	1月22日
12回目		
13回目		
14回目	○効果的なプレゼンについて (資料の作成)	1月29日
15回目	○効果的なプレゼンについて (リハーサル)	2月5日
16回目	○プレゼンテーション (成果発表)・レポート提出	2月12日

○沖縄女子短期大学の主担当講義 ●グッジョブおきなわ推進事業局の主担当講義

(5) 講義内容

●事前学習

事前学習に関しては、①導入、②自己理解、③職業人講話、④マナー学習の4つの構成に分けて講義を行った。「働く」意義を考え、自分の将来をより具体的にイメージできるように、自己理解を促すことを目的とした。また、職業人講話では、受講生全員が女性であることも念頭に入れ、社会で活躍する女性の話を聞くことで、講師に将来の自分自身を投影させ、働く姿をイメージすることで、将来設計能力や就業意識の向上を狙った。

次では、学生の伝える力を育むことを狙った講義や、実施に向けての実践的な取組みについて触れる。

◇自己理解（講義5回目、6回目、8回目）

自己分析シートを使い、自身の趣味や趣向、行動パターンを内省することで、自己理解能力を促すことを目的とした。また、8回目の講義では、グループでディスカッションを行い、他者との意見の違いに気づき、自分の意見を的確に伝えるためにどうすればいいかを、考えさせる機会とした。

担 当：沖縄女子短期大学

内 容：①自己分析シート記入

目 的：②「働かない自分」を想像する

①自己分析を行い、自分の特徴や志向などを客観的に知る機会とする

②自分のライフプランから、働く意義を考える

③自分の意見を伝えると同時に他者の意見と比較できる

状 況： 自分自身がどういう志向や価値観を持っているのかを「認知、判断、対処法等」「人間関係、コミュニケーション等」「心の在り方、生き方、重要性等」の3つにカテゴリ分けされた質問に答えて分析を行うことで、自分自身を客観的にみて、自己理解を促す機会とした。また、他者と意見交換し、人それぞれ価値観が違うことに気づかせた。

8回目の講義では、考える力、伝える力を身につけることを目的に、グループワークを行った。「もし働かなかったら何をするか」をテーマに、働いていない自分をイメージさせて、ディスカッションを行った。初めは、働かないことで時間に余裕があることから、好きなことや、やりたいことが出来ると思っている学生が多かったが、グループ内で意見を交わす内に、働かないことで、経済的に困窮し、好きなことも、やりたいこともできなくなるということに気づくなど、就業することや働く意義を考える機会となった。



< 自己分析中 >



< 働かなかったら何を？ >

◇職業人研究①（講義第3回）

沖縄タイムス社で、青少年犯罪や若者文化の取材を行っている、20代の女性記者を講師として招き、講話を行った。大学生活から就職活動、現在の仕事内容まで、自身の体験を学生と近い世代の視点で伝えることで、卒業し社会に出て働くことはどういうことか、学生のうちに何をすべきかを考える機会とした。また、両親や親戚などの身近な人の就労観を知り、働く意義を考えると同時に、実施当日の観察や質問のポイントに繋げることを目的に、「身近な人にインタビューする」という課題を学生達に与えた。その課題に向けて、新聞記者という立場からインタビューの仕方やポイントなどを教わる機会とした。

担 当：グッジョブおきなわ推進事業局

講 師：株式会社沖縄タイムス者 與那覇 里子氏

内 容：①実際に働いている人の講話を聞く

②インタビューするためのポイントを知る

目 的：①講話を通して、働く思いや働き方、働くとは何かを考える

②講師に卒業後の自分自身を投影し、将来について考える機会とする

③インタビューする心構えとポイントを理解する

状 況：講話では、與那覇氏が大学時代に、アルバイトで失敗した経験を通し、「新人だから、学生だから」という言い訳は、社会では通用しないこと知り、「与えられた仕事には責任を持つことを学んだ」と話した。また入社内定時には、イベントの企画運営の仕事をやりたいと思っていたが、希望していなかった部署に配属されたことで、「社会に出た1年目はやりたいことに執着せず、与えられたことを着実にこなしていくことが、自分自身の強みを知る機会になり、成長に繋がると感じた」と話した。

最後には、実施当日や事前の課題に活かせるインタビューのポイントを伝え、「相手と信頼関係を築くことが大事」という、インタビューの心構えを通して、学生達は仕事をする上で何よりもコミュニケーションが大切だということにも気づいた様子だった。



< 講話の様子 >



< 学生から質問も >

◇職業人研究②（講義第7回）

沖縄女子短期大学に通う学生は、卒業後、県内で就職を望む傾向があり、その中には、在学中に取得した医療事務などの資格を活かし事務職へ就職する者や、観光関連の仕事へ就職を希望する者が多い。産業構造や職業講座が目まぐるしく変化する中で、限られた職種にしか目が向いていない学生達に、沖縄が力を入れて取り組んでいる、観光と医療を結びつけた医療観光の新たな可能性を紹介することで、職業間の繋がりや広がりを意識させることを目的に、万国医療津梁協議会(※注)のネットワークマネージャー友利直子氏を招いて、講話を行った。

担 当：グッジョブおきなわ推進事業局

講 師：万国医療津梁協議会事務局 友利 直子氏

内 容：①実際に働いている人の講話を聞く

②プレゼン力、集約力を身につけるグループワーク

- 目的：①講話を通して、働く思いや働き方、働くとは何かを考える
 ②講師に卒業後の自分自身を投影し、将来について考える機会とする
 ③働く上でのチームワークの重要性を意識させる

状況：講師が取組んでいる事業や仕事内容を伝えながら、色々な人とコミュニケーションを取り、臨機応変に対応して働いていくことを意識させることを狙った。

講師自身が様々な職歴や経験から学んだことを「これから社会に出る女性へ、私から伝えたいメッセージ 12 のこと」と題し、講話を行った。社会人 1 年目にもらう給料の内、自身の実力は 2 割程度で、残り 8 割は周りに支えられてもらう給料であると話し、上司や先輩に支えられながら、仕事を覚えていくことを伝えた。更に 2 年目で周りを見渡せ、3 年目でやっと自分で考えて動けるようになり、会社や先輩たちに恩返しができることを伝えた。結婚、出産後に復職した際には、入社 3 年目までに培った経験や人間性が信用に繋がりと、「自分らしく生きるためのキャリアが築ける」という言葉が、学生達の心に響いたようだ。

講話の後半は、自分の意見を的確に相手に伝えるために、何が必要かを考えることを目的に、プレゼン力や集約力を身に付けるグループワークを行った。初めは戸惑っていた学生達であったが、話し合いを進める中で、ノートや付箋を使ってまとめる係、進行係など、グループ内で役割が生まれた。自分の役割を理解しつつ、①自分の意見を伝えること、②他者の意見を受入れること、③様々な考えをひとつにまとめること、この 3 つの流れを経験したことで、社会人基礎力を培い、働く上でのチームワークの重要性などを考える機会にもなった。

※注)万国医療津梁協議会

沖縄 21 世紀ビジョン基本計画で示された国際的な沖縄観光ブランドの確立を視野に、政府や沖縄県との施策連携の下、産・医・学・官とのネットワークの構築等により国際社会に向けた沖縄における国際医療交流(万国医療津梁)を推進し、沖縄地域における経済の活性化及び観光の高度化を目指し、平成 23 年に設立された協議会。

国際医療交流を軸に医療分野における人材交流・技術交流を促進しつつ、沖縄への来訪者に対する医療・健康サービスを提供するため、情報・相談の窓口およびネットワーク構築等の活動を行っている。

(参考：万国医療津梁協議会ホームページ)



< 講話の様子 >



< ワークの様子 >

◇マナー学習、コミュニケーションワーク（講義9回目、10回目）

実施当日だけでなく、これから社会へ出るという自覚を促すことを目的に、社会人として必要な基本的ビジネスマナーとコミュニケーションワークを基礎編と応用編に分け、講義を行った。

担当：グッジョブおきなわ推進事業局

講師：株式会社ケイオーパートナーズ(第10回講義)

- 内容：①ビジネスマナー
 ②コミュニケーションワーク
 ③観察のポイント

- 目的：①社会人に必要な基本的マナーを身に付ける。また、TPOに適した服装、言葉遣いを意識させる
 ②将来、社会に出ることを自覚させ、今後の就職活動に活かせるようにする
 ③コミュニケーションの重要性を理解し、実施に向けての志気を高める

状況：基礎編では、コミュニケーション能力の向上を狙った。ペアで傾聴ワークを行い、話の聞き方ひとつで、相手に与える印象が違うことを体感させた。話を聞くこともマナーのひとつであることを伝え、観察中のポイントや質問の仕方を考える機会にした。

応用編では、社会人として身につけるべき基本的なマナーの習得を目指した。挨拶やお辞儀の仕方、名刺交換などの実践的なビジネスマナーだけでなく、学生と社会人の違いは何かを問いかけることで、社会人としての心がまえを考える機会にした。更に、TPOに合った服装の選び方やメイクの仕方など、女性ならではのマナーについても学んだ。



< コミュニケーションワーク >



< 名刺交換の練習 >

●ジョブシャドウイング当日（講義11回目～13回目）

[当日スケジュール]

時間	内容	場所	備考
8:00	学生登校完了	沖縄女子短期大学 本館2階会議室	出席確認 服装検査
8:15	出発式 ・学長あいさつ ・来賓あいさつ		学長 福地 孝 県商工労働部雇用政策課 課長 又吉稔

8:30	・ 学生代表決意表明 各企業へ順次出発		学生代表 各自にて
9:15	各企業に到着	那覇市近隣の企業	実施本部へ到着の電話報告
9:20	始めのご挨拶 ※企業ごとに調整	企業にて	メンターとの顔合わせ ・ 名刺交換 ・ 自己紹介シート メンター⇒学生 ・ 今日のスケジュールの確認
9:30 (遅くても 45分まで に)	ジョブシャドウイング開始 ★質疑応答タイム含む	(各部署にて)	メンターと学生は移動 ・ 学生はメンターの指示に従う事 ・ 引率担当者は待機&巡回
昼食時間・休憩			
16:30	ジョブシャドウイング終了 ・ 終わりのご挨拶		・ 学生のお礼の言葉 ・ 任意：写真撮影
17:00	企業出発	各企業	実施本部へ終了の電話報告 各自にて帰宅

〔出発式〕

日 時：平成26年1月22日(水) 8:15-8:30

場 所：沖縄女子短期大学記念館 教育実践支援センター 1階

次 第：開式の挨拶

学長挨拶

激励の挨拶

学生代表決意表明

事務連絡

参加者：沖縄女子短期大学 教職員(数名)

沖縄県商工労働部雇用政策課(3名)

グッジョブおきなわ推進事業局(5名)



< 出発式 >

〔引率・配車等〕

配 車：29台(緊急車両4台含む)

送迎引率：26人(学生24人、学校関係者1人、事業局1人)

巡 回：5人(学校関係者3人、事業局2人)

〔実施の様子〕



< 仕事の説明中 >



< ホテルのフロント業務 >



< 会議にも参加 >

●成果発表会（講義16回目）

担 当：沖縄女子短期大学

内 容：ジョブシャドウイングを通して学んだこと、気づきを得たことを発表する

- 目 的：①成果を伝えると共に、それぞれの気づきを共有する
 ②発表によるプレゼンテーション能力の向上を図る
 ③学生並びに大学と企業、また企業間の交流の場とする

状 況：発表会に先立ち、午前中はリハーサルを行い、発表内容だけでなく発表する姿勢や心がまえの部分も確認しながら、本番に備えた。

発表会は学生を2グループに分け、進行を大学の講師が行った。観察した企業ごとに一人5分の持ち時間で受入企業やメンターの業務を紹介しながら、気づいたことや学んだことを今後の自分自身にどう活かしていくかなどを発表していた。

また、学生の発表だけでなく、参加した企業担当者やメンターからは「自分だけでなく社内全体の雰囲気引き締まった」「自分の仕事を振返ることができた」「学生からやる気もらった」などの感想をもらった。更に、受入れた学生だけでなく、全員に向けて「色々なことに興味を持つこと」「何に対しても積極的にチャレンジすることが大事」など就職活動のアドバイスもあり、学生たちは一言一言に真剣に耳を傾けていた。

また発表会前後には、お世話になった企業担当者やメンターに感謝の言葉を述べたり、就職活動について語るなどして交流を深めていた。発表会後の感想で「メンターに就職が決まると良い報告できるように頑張る」という決意を語る学生もいた。

参加企業：10企業 20名

- ・社会福祉法人沖縄偕生会 首里偕生園
- ・株式会社ヤブサチ
- ・琉球治療院
- ・株式会社もしもしホットライン
- ・公益財団法人沖縄県文化振興会
- ・株式会社ムービータイム
- ・アメリカンホーム保険会社
- ・琉球フットボールクラブ株式会社
- ・株式会社ケイオーパートナーズ
- ・沖縄県商工労働部雇用政策課



< 企業ごとに発表 >



< 企業の方と記念撮影 >

3 実施総括

(1) 学生アンケート考察

事前にアンケート調査した、「就職したいまたは興味のある職種」では「事務職」が19%でトップだった。これは大学の講義の中で、簿記や医療事務などの資格取得対策を行っていることが影響していると思われる。在学中に資格を取得し、それを活かせる職業を目指しているのではないだろうか。次いで「観光の仕事」が15%となっている。観光ホスピタリティコースができたことで、観光関連産業を希望する学生が増えたように感じる。

「仕事をする事、働くことに対してどんなイメージを持っていますか？」という問いには「やりがいがある」が33%ある中で、「大変」が35%と上回っている。多くの学生がアルバイトを経験しており、実際に働くことで「楽しさ」や、「やりがい」を感じる一方で、業務の「苦労」や、「大変さ」も感じているのではないだろうか。

実施後のアンケートで、「仕事をする事・働くことへの感じ方、イメージは変わりましたか？」という質問には、88%の学生が「良い方向に変わった」と回答している。さらに98%の学生が将来「働きたい」と回答しており、実施前の「仕事」や「働く」ことに対するマイナスのイメージは払拭できたと考える。

また、将来なりたい職業に向けて、既に57%の学生が努力していると回答している。内容としては、「検定試験」や「英会話」など、就職活動に有利であったり、働く上で必要なスキルの習得に努力している学生が多い。また、「企業説明会の参加」や「企業研究を行う」など、就職活動として具体的に取組んでいる答えも多かった。これから取組みたいことにも同じような回答が寄せられている。ジョブシャドウイングで実際に企業を観察することで、職場の雰囲気などを感じ取り、自分に合った企業を考え、探すようになったためと思われる。このことから情報収集能力や将来設計能力の向上に繋がったと考える。

(2) 企業アンケート、評価表考察

今回も企業メンターには受入れのアンケートの他に、学生の単位認定時の参考にするため、実施中の学生の態度を、評価シートを用いて評価してもらった。それも踏まえて考察する。

受入れに対して「不安だった」と回答している窓口担当者は8%のみであった。これは事前の説明で事業理解が十分に得られた結果であると考えられる。一方、「不安だった」と回答しているメンターは37%と窓口担当者より高くなっている。また、メンターが不安だった理由として挙げている内容は、「コミュニケーションの取り方」が29%となっており、実際に一日を一緒に過ごすメンターにとっては、学生とどうコミュニケーションを取ったらいいのか不安だったように思う。しかし、実施後のアンケートでは、91%のメンターが「コミュニケーションが上手くいった」と回答しており、企業やメンターの気遣いにより学生達もリラックスしたことで、会話が生まれ、円滑な交流が図れたのではないだろうか。

しかし、実施前に抱くメンターの不安を解消するために、分かりやすい資料や説明書を作成したり、企業負担にならない形を考えながら、窓口担当者、メンター全員への説明を行いながら、学生とのコミュニケーションの取り方や、事前学習での学生の様子などを伝えていくなど説明内容の改善を図りたい。

「今回のジョブシャドウイングが学生の勤労観、職業観を育てる一助になったと思いますか?」の問いには「思う」が76%に対して、「どちらとも言えない」が24%となっている。「どちらとも言えない」の理由として「1日だけでは足りない」という声が多い。また、「ジョブシャドウイングを定期的に行ったほうが良い」や「職業観の広がりを目指すためにも複数の部署を見せたほうが効果的」などの意見もあり、企業側も本事業の効果を期待していることが伝わった。

メンター自身にとっては、「自分自身を顧みることができた」「仕事を再認識できた」「業務に緊張感がもてた」など、学生だけでなく企業並びにメンターにも相乗効果があったように思う。

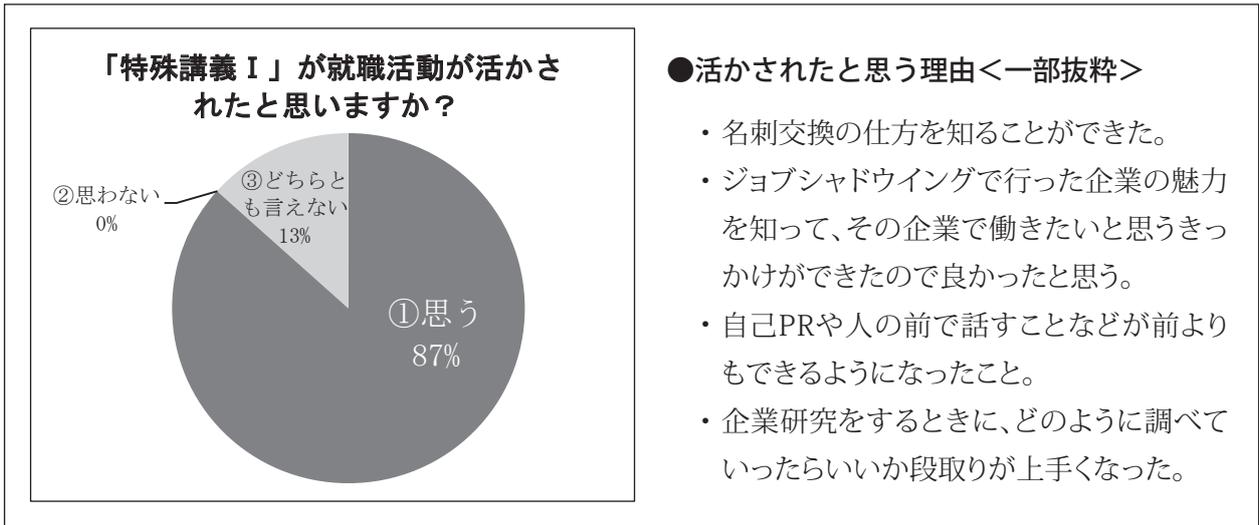
4 追跡調査について

今年度も昨年度同様に、本講義を通して、就職活動にどのような影響を与え、取組んだのかを検証することを目的に平成24年度の受講生を対象にアンケートによる追跡調査を行った。

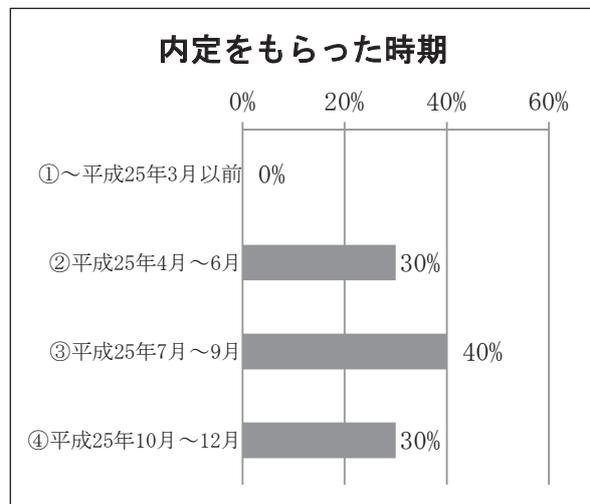
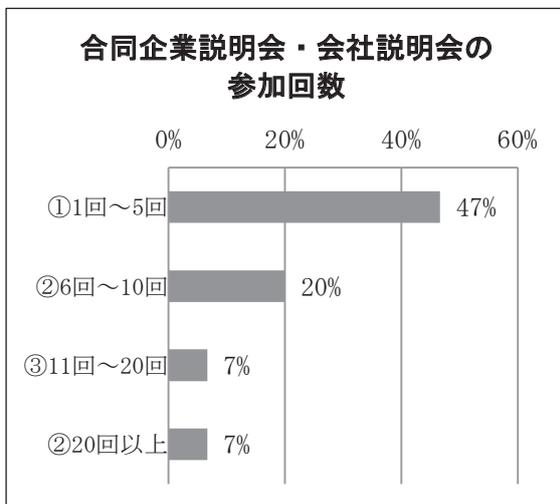
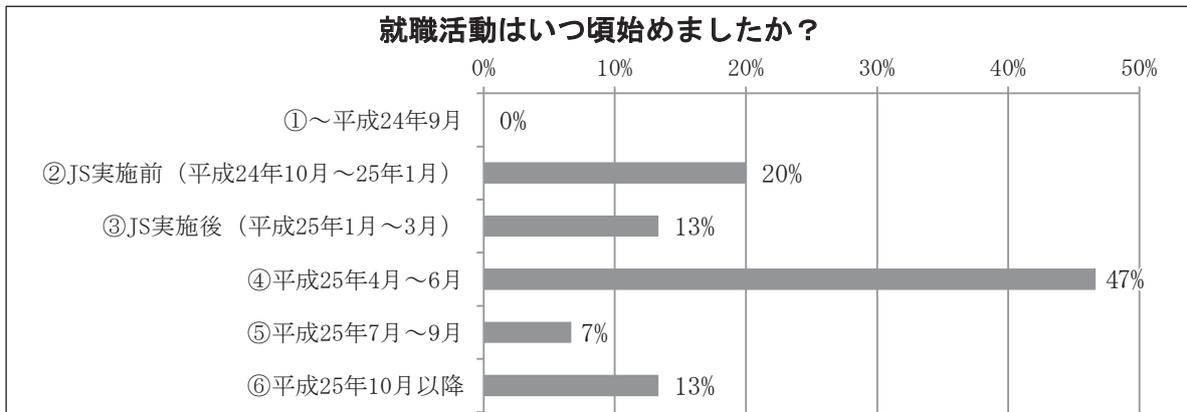
「1年次に体験した特殊講義Ⅰの講義内容は、就職活動に活かされたと思いますか?」という問いには87%の学生が「思う」と答え、「具体的にメモを取る習慣がついた」や「自己分析が出来るようになった」、「企業研究の方法が分かった」など、事前学習で学んだ事が、十分に活かされたようだ。

また、「働いている自分を想像できるようになった」との回答があった。ジョブシャドウイングを通して、メンターの働く姿に自分を投影し、自分の将来を具体的に考えることに繋がり、自己理解能力や将来設計能力が向上したと考える。

更に、「就職活動の会社説明会で、他の会社と比較することができ、その会社の空気を感じられるようになった」という回答から、ジョブシャドウイングの観察の視点で物事を捉えることができ、事後学習での学びの共有で、様々な業種業態があることに気づいたことで、自分に合う職種や企業は何かを考える機会に繋がったのではないだろうか。

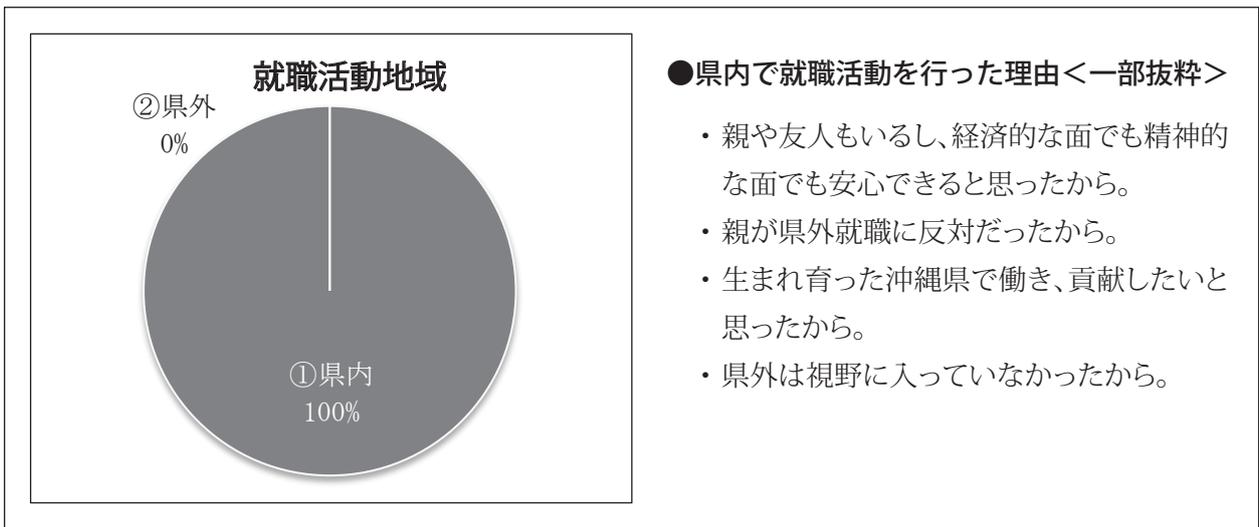


ほとんどの学生が、2年次に上がってすぐに就職活動を開始している。早い人では講義受講中の1年次の10月から始めた学生もいる。本講義を通して働くことを意識するようになり、就職活動に向けて意欲が増したのではないだろうか。また、合同企業説明会や会社説明会への参加率も非常に高く、多い人で20社以上参加した学生もいる。企業説明会に何度も足を運ぶことが、企業側へ意欲として伝わり、面接のアドバイスをもらうなどに繋がった。その結果、就職内定をもらった学生のほとんどが、4月から9月の間で決まっている。



就職活動を行った企業を見てみると県内企業が多く、「地元や地域に貢献したい」と答える学生がいる一方で、「家族や友人がいるから県外は視野に入っていなかった」などの意見もあり、学生自身の可能性を広げるためにも県外にも視野を広げ、様々な企業を知ってもらう必要性を感じた。

また、エントリーシートを書く時に、自己を表現することに苦労したという学生が多い。学生生活の内に、いかに自分と向き合い、自己を知る力を身につけて発信していくかが課題のように思う。



●**平成25年度沖縄女子短期大学 就職決定状況**

平成24年度の大学新卒者就職内定率を見てみると、沖縄県全体が65.4%に対し、沖縄女子短期大学は95.1%と、30%近くも高い。また、今年度の沖縄女子短期大学の就職決定状況を見てみると、本講義を受講した学生は、大学全体より1.4%も高く、総合ビジネス学科内で比較すると11.9%も高くなっている。本講義で働く意義を考えるとともに、情報収集能力や自己理解能力を向上させたことで、就業意識も高まり、就職決定に繋がったと考える。

(提供:沖縄女子短期大学/平成26年3月11日現在)

	卒業	就職希望者	就職決定数	就職率 (%)
大学全体	234	163	136	83.4 %
総合ビジネス学科	44	41	30	73.1 %
特殊講義 I 履修者	23	20	17	85.0 %

◇平成24年度沖縄女子短期大学卒業生就職率 95.1%

◇平成24年度沖縄県新卒者(大学)就職内定率 65.4% (出典:沖縄労働局職業安定部職業安定課)

5 成果

(1) 「働く」ことへのイメージの向上

本講義のスタート前に行ったアンケートで「働く＝大変」というマイナスイメージを持った学生が多かったが、実施後のアンケートでは、働くことに対するイメージが良い方向に変わった学生が多く、メンターの働く姿に感銘を受け、メンターのような働き方がしたいと憧れが強くなった学生もいた。働くことを肯定的に捉え、自身の働く姿を投影することで、就職活動に向けて将来設計を考える機会になったと感じる。

また、今回は1企業につき1人～3人と比較的少人数での実施となり、事後学習で、学びや気づきを共有し合うことで、様々な企業規模や業種業態、働き方があることを考える機会になった。更に、企業や職業選択の幅を広げることにつながり、就職活動で具体的に取組みたいこととして「企業説明会への参加」や「企業研究を行う」などの声が多く聞こえる。

また、2年次の追跡調査から、多くの合同企業説明会や会社説明会に参加していることが分かり、情報収集能力や職業理解能力の向上にも繋がっていると考える。本講義を受講することで、様々な情報を取捨選択、活用しながら、将来設計を考える機会になり、就職活動にも影響を与えたと考える。

6 今後の課題および改善点

(1) 学生の主体性向上に向けて

学生にも役割を与え、主体性を持たせるよう取組んできたが、企業への連絡が遅れたり、事業局への報告漏れなどがあつたりと、自身の役割を十分に理解していない者がいたように感じる。

主体的に取り組むことは、就職活動だけでなく、今後社会に出ていく際にも人間関係の幅を広げたり、課題解決に向け、自発的に行動に移す力が生まれると思う。更に自分の立場や役割を理解することで、自分の存在価値に気づき、他者との関わりや協働する意識が身につくと考える。

そのためにも講義にグループワークなどを増やし、考え抜く力を育むと同時に役割を意識して取組めるようなカリキュラムを検討していく必要があると感じた。また、社会で活躍できる人材を目指し、基本的な挨拶や言葉遣いなどを含めたマナー学習や、他者との関わりを意識させたコミュニケーションワークの充実を図り、次年度は学生一人ひとりが主体的になり、卒業後の人生をしっかりと自分の意思で歩んでいけるような講義内容を、大学と十分に協議していきたい。

(2) 自立化に向けての支援

今年度で3年目の取組みとなり、受講生の数も増えていることから、大学のプログラムとして学生達にも定着してきたように思う。今後、大学が独自で実施できる仕組みを構築するために、今年度は大学へのノウハウ移行を視野に入れ、大学と事業局とで役割を分担し、協働で講義を運営した。

協働で取組んだことから、大学の役割、事業局の役割が見えてきたこともあり、次年度は更なるノウハウの移管を目指し、大学側とディスカッションを重ね、課題や情報の共有を図っていきたい。事業局としては、大学と地域、企業が連携できるような仕組みを模索しながら、大学の単独実施に向けた自立支援の体制を整え、ノウハウの完全移管を目指したい。

SECTION

5

資料
(アンケート集計)



1 児童生徒 アンケート集計

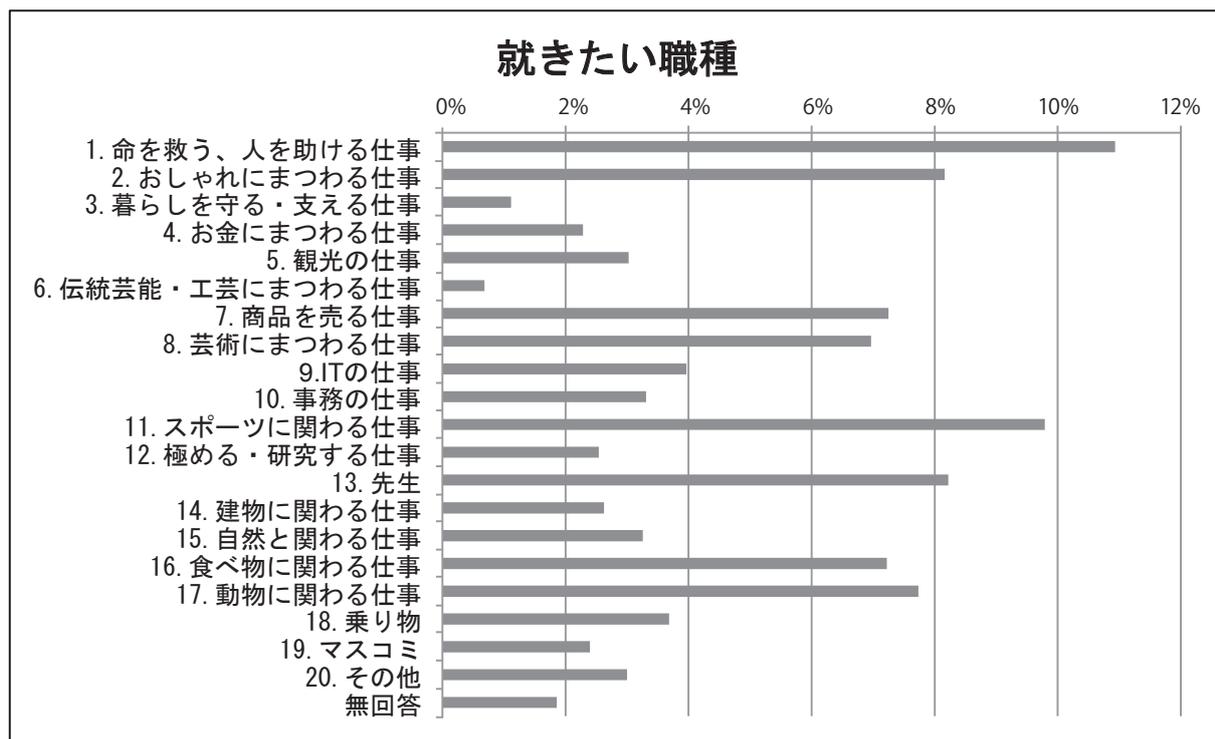
1 ジョブシャドウイング 事前アンケート

【回答人数 1,170人】

Q1. どのような仕事に興味がありますか？3つ選んで、項目にない職業は「20. その他」に書いてください。

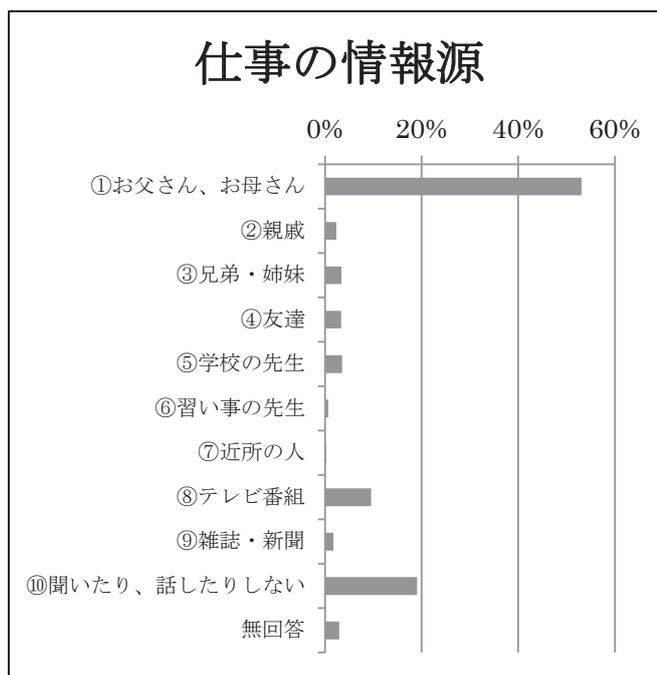
項目	回答実数	構成比率
1.命を救う、人を助ける仕事	383	11%
2.おしゃれにまつわる仕事	286	8%
3.暮らしを守る・支える仕事	39	1%
4.お金にまつわる仕事	80	2%
5.観光の仕事	106	3%
6.伝統芸能・工芸にまつわる仕事	24	1%
7.商品売る仕事	254	7%
8.芸術にまつわる仕事	244	7%
9.ITの仕事	139	4%
10.事務の仕事	116	3%
11.スポーツに関わる仕事	343	10%
12.極める・研究する仕事	89	3%
13.先生	288	8%
14.建物に関わる仕事	92	3%
15.自然に関わる仕事	114	3%
16.食べ物に関わる仕事	253	7%
17.動物に関わる仕事	271	8%
18.乗り物	129	4%
19.マスコミ	84	2%
20.その他	105	3%
無回答	65	2%
合計	3,504	100%

その他の項目(一部抜粋)
通訳(言語、英語関係)
お坊さん
国連総長
ベースでの仕事
図書館司書
グランドスタッフ



Q2. 普段、仕事の事や仕事の話、どんな所から聞いたり話したりしますか？

項目	回答実数	構成比率
①お父さん、お母さん	688	53%
②親戚	30	2%
③兄弟・姉妹	44	3%
④友達	43	3%
⑤学校の先生	46	4%
⑥習い事の先生	9	1%
⑦近所の人	4	0%
⑧テレビ番組	124	10%
⑨雑誌・新聞	23	2%
⑩聞いたり、話したりしない	247	19%
無回答	38	3%
合計	1,296	100%



(具体的にそれはどんな内容ですか?) <一部抜粋>

<仕事の内容について>

- ◆仕事の内容や、職業の種類について
- ◆パンを一日に何個作ったか。お客さんがどれだけ来たか
- ◆台風の時会社で何をしているか
- ◆仕事内容や働く時間など
- ◆姉が公務員をされていて、よくこの職に就くまで学んできたことや仕事の内容などを聞いたりする

<収入などについて>

- ◆給料が高いか安い
- ◆ボーナスの金額を聞いている
- ◆資格の事、給料の事
- ◆お金のことや生きるための話
- ◆こんな仕事は儲かるとか

<仕事や働くことに対する想いについて>

- ◆仕事の大変なことや、楽しいことを聞いたりしている
- ◆働くという事は、その職場につき、いくら給料が安くても頑張れるという事
- ◆仕事のやりがいや難しさ

- ◆愚痴や大変な話
- ◆ゲームプログラマーは、自分で作ったりするととても達成感があると聞いた

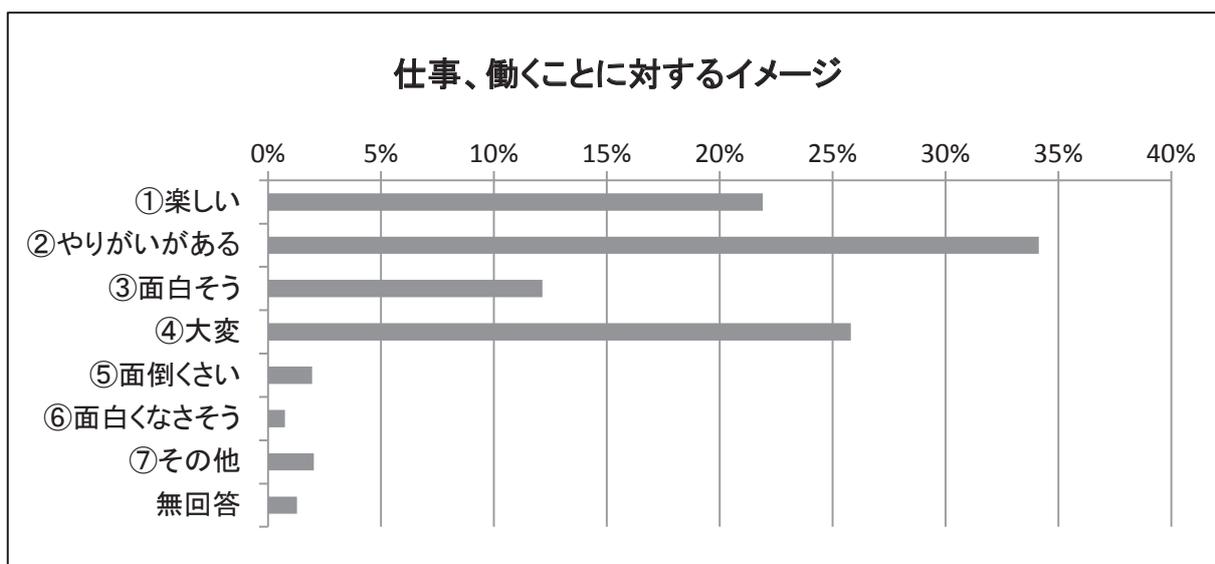
<夢や目標、進路について>

- ◆専門学校はどこに入るのか、たくさん勉強しないといけないなど
- ◆将来どのような職業に勤めたらよいかなど
- ◆医者になりたいなら、もっと勉強しないといけないという話
- ◆今は、ちゃんと大学を出ないと、いい仕事につけないという話
- ◆友達とは少し夢を見たりする（漫画家やデザイナーなど）

Q3. 仕事をする事、働くことに対してどんなイメージを持っていますか？

項目	回答実数	構成比率
①楽しい	292	22%
②やりがいがある	455	34%
③面白そう	162	12%
④大変	344	26%
⑤面倒くさい	26	2%
⑥面白くなさそう	10	1%
⑦その他	27	2%
無回答	17	1%
合計	1,333	100%

その他の項目(一部抜粋)
働かないと生きていけない
当たり外れがはっきりしている
時々辛い
人間的に成長する
お金がもらえる
コミュニケーションを育む場



Q4. どのような「働く大人」になりたいですか？ <一部抜粋>

<人の役に立つ働く大人>

- ◆人が喜んでくれたり、笑顔になってもらえるような働く大人になりたい
- ◆社会をよくしていけるような働く大人になりたい
- ◆一生懸命に働いて、人の為に役立つことができる働く大人になりたい
- ◆人にありがとうと言われる仕事に就きたい
- ◆人を助けたり、自然を大切にできる働く大人になりたい

<まじめで、一生懸命頑張る働く大人>

- ◆仕事をサボらないまじめな働く大人になりたい
- ◆どんなことにもめげず、挑戦をし一生懸命働く大人になりたい
- ◆一生懸命働いて、みんなに感謝される人
- ◆何事もあきらめず、一生懸命働く大人になりたい
- ◆自分の課題をしっかり果たして、一生懸命働ける人になりたい

<テキパキと仕事をこなす、なんでもできる働く大人>

- ◆なんでもできる働く大人になりたいです
- ◆なんにでも対応できる、仕事ができる働く大人になりたい
- ◆なんでも、てきぱきとできるようなはたらく大人になりたい
- ◆何事もなしとげられる大人になりたい
- ◆なんでも出来て、頼りになる人

<楽しく仕事ができる働く大人>

- ◆面倒くさい仕事も楽しくできる働く大人になりたい
- ◆きちんと仕事をこなし、仕事を楽しみと思えるような働く大人になりたい
- ◆大変だけど楽しくバリバリ働くキャリアウーマン
- ◆楽しく、笑顔で周りの人が幸せになってもらえるような大人
- ◆自分の仕事が心から楽しいと思えて、仕事仲間から信頼される働く大人

<責任感のある働く大人>

- ◆責任感があり、しっかりしている働く大人になりたい
- ◆しっかり責任を持ち、礼儀がきちんとしたキャリアウーマンのような働く大人
- ◆任されたことをちゃんと成し遂げるような人
- ◆自分のやるべき事をしっかり、丁寧にやる大人
- ◆責任をもって最後までやりとげてあきらめない大人

<周りから頼られる、信頼されている>

- ◆仕事は大変だとは思いますが、みんなをリードする働く大人になりたい
- ◆人が感動するような、憧れられる働く大人になりたいです
- ◆市民から尊敬される仕事をしたい
- ◆当たり前が当たり前できて、信頼される大人
- ◆誰にでも尊敬されて、一生懸命働く大人になりたい

<何事にも積極的な働く大人>

- ◆何事にも諦めずに、失敗しても頑張る働く大人になりたい
- ◆なんにでも挑戦して、挫けない働く大人になりたい
- ◆何事にも積極的に取り組む働く大人になりたい
- ◆何でも自分からやろうとする働く大人になりたい
- ◆何でもめんどくさがらない大人
- ◆積極的に仕事を引き受けられる大人

<しっかりした働く大人>

- ◆気配りができて、目上の人に対して敬語をしっかり使えるような働く大人になりたい
- ◆自分の意見をしっかり言える大人
- ◆与えられた仕事をきちんとかなす働く大人
- ◆しっかり働いていろいろな体験をしていろいろな事を知れる大人になりたい
- ◆人に迷惑をかけないしっかりとした大人になる

<やりがいをもっている働く大人>

- ◆楽しく、自分の仕事にやりがいがある大人
- ◆大変な仕事の中でもやりがいを見つけ、毎日楽しく充実した日々を送れるような働く大人になりたい
- ◆お客さんに喜んでもらってやりがいのある仕事ができる人
- ◆大変でも自分の仕事にやりがいや誇りを持っていたい
- ◆親と相談して進路を決め、やりがいのある仕事に就き、一生懸命働く大人になりたい

<成功する働く大人>

- ◆良い成績を収め、成功する働く大人になりたい
- ◆自分の仕事で大成功できる人
- ◆世界をかえる人になる
- ◆サッカー選手になって得点王になる
- ◆有名な大人になりたい

<家族のために働く大人>

- ◆ちゃんと家族を支えて、食べていける働く大人になりたい
- ◆しっかり働いて家族をやしなえる大人
- ◆父、母を苦しませない大人になりたいから、プログラマーをやりたい
- ◆毎日、懸命に頑張り、お母さんやおばあちゃん、おじいちゃんやたくさんの方の役に立つ
- ◆子どもに示しがつくようにしっかりした働く大人になりたい

<給料、収入がたくさん貰える働く大人>

- ◆給料がいっぱい貰える仕事に就き、真剣に仕事をしてお金を稼ぎたい
- ◆お金持ちになりたいから働きたい
- ◆マイホームが買えるぐらいの大人になりたい
- ◆お金を年間5兆円かせげる大人になりたい
- ◆何かで特許を取って、生活に困ることのない立派な大人

<就きたい職業について>

- ◆スポーツ選手になりたい
- ◆お菓子やケーキなどを作れる大人になりたい
- ◆イルカの訓練士になって、お客さんに喜んでもらいたいです
- ◆ゲームをつくって売るとなりたい
- ◆僕は歴史研究者、はっくつ家になりたいので、歴史のなぞをとくためにこうけんしたいです

<その他>

- ◆給料も安定していて平凡な生活
- ◆面白そうな仕事を探して、生活費など自分でまかなえるようになりたい
- ◆ちゃんと仕事をして、休みの日はちゃんと休んで無理をしない働く大人になりたい
- ◆時間を守って行動できる人
- ◆休みの日は漁をしたい
- ◆生徒を甲子園に連れて行ってあげたい

2 ジョブシャドウイング 事後アンケート

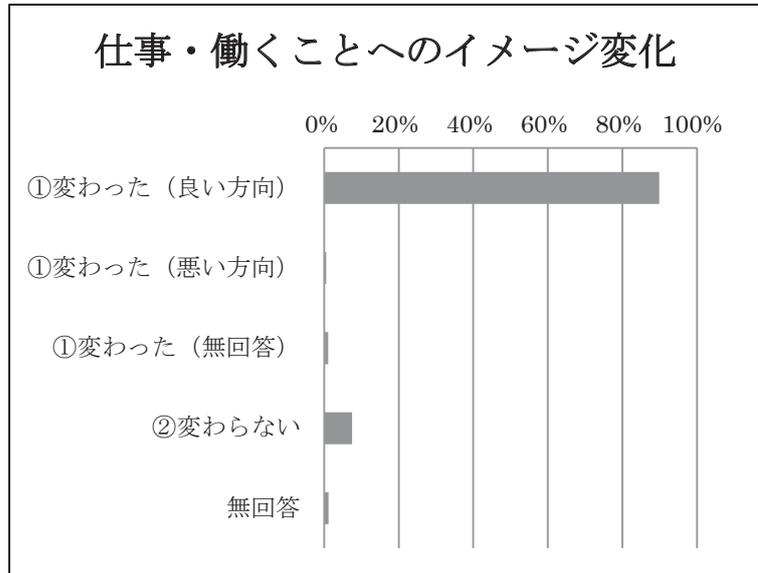
【回答人数 1,154人】

Q1. ジョブシャドウイングした会社名を教えてください。

(省略)

Q2. ジョブシャドウイング学習を行ってみて、仕事をする事・働くことへの感じ方、イメージは変わりましたか？

項目	回答実数	構成比率
①変わった(良い方向)	1,037	90%
①変わった(悪い方向)	6	1%
①変わった(無回答)	12	1%
②変わらない	86	7%
無回答	13	1%
合計	1,154	100%



Q3. メンターさんを観察してどんなことを感じましたか？ <一部抜粋>

<働く人のすごさを実感>

- ◆「一人一人に目を配り安全に気をつけて愛情をささげている」と知ってすごい！と思った
- ◆1秒も無駄にできなかったのがすごい。ぼく達に接してくれる態度がやさしかった
- ◆誰に対しても笑顔で、聞かれた場所もすぐ答える所がすごいなと思った
- ◆重たい荷物を片手で運んだり、食器を分別したりしていたのでスゴイと思った
- ◆メンターさんは人を助けるために飛行機に乗って命がけで仕事をする事がすごいと思った

<働くことの大変さを実感>

- ◆お客さんとの対応だったり、品の整理とかで休みがなく大変だと感じました
- ◆思っていたよりとても大変そうで、目上の人への言葉使いなどがとても難しそうだと感じた
- ◆大人の働く後姿は、責任感などを背負っているような感じがした
- ◆仕事は大変で責任重大なんだなと思いました
- ◆大人の人はこういう仕事を毎日真剣にやって長い時間がんばってそうして家に帰ってくるんだなと思った

<働くことの楽しさを実感>

- ◆仕事は辛くて、厳しいものだと思っていたけれど、メンターさんを見たらいつも笑顔で楽しそうに仕事をしていた
- ◆自分から積極的にやると楽しんでできる。やりがいがあると仕事は楽しい
- ◆とっても楽しそうに自分の仕事に自信を持っていたように感じました
- ◆私はメンターさんを観察して、辛い事もあるけど、その数だけ嬉しい事もあるんだなあと思いました
- ◆忙しそうだったけど、大変な時は生徒や他の職員が手伝ってくれたり、楽しく話をしたりなど、自分から楽しくやろうと工夫をしながら仕事をしてました

<縦横の繋がり、仲間との連携を実感>

- ◆仕事とは、普段自分の見ている表側で働く人と、誰も知らない裏側で働く人の2つが連動してなりたっているんだと思いました
- ◆チームワークが大切な仕事だと感じた。船の上での時間が長くて体力と忍耐力が必要だと思った
- ◆みんな仲がよく、一人一人役目があるように感じました
- ◆仕事をしていく中では、集中力を切らさずに仲間と協力する事が大切ということがわかりました
- ◆社員1人1人を信頼しているのを感じた
- ◆メンターさんは、仕事仲間とコミュニケーションをとりながら、笑顔で仕事をしていたので、すごいなーと思った

<普段の生活・学習と社会の繋がりを実感>

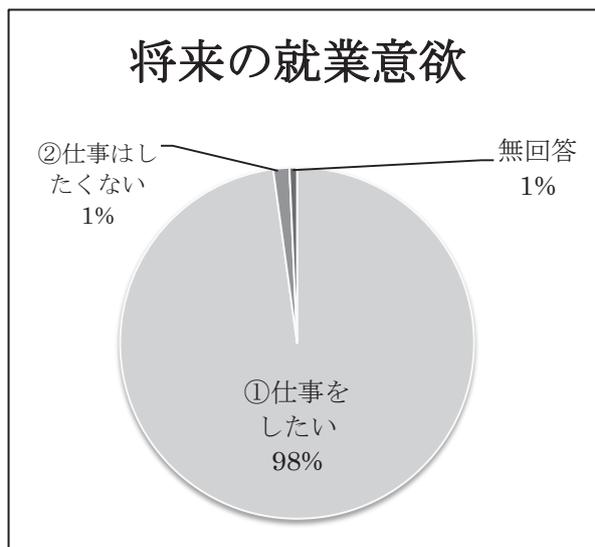
- ◆あいさつ、積極的に発表をしていきたい
- ◆上司や社員との信頼関係がしっかりととれてたので、先生や生徒との信頼関係は大事だと感じた
- ◆人との接し方やマナーやあいさつをしっかりしようと考え直した
- ◆大人になったからと言って勉強は終わりではなくて、日々変わらず勉強だということ
- ◆私達が生活しやすい買い物などの環境をつくっているのは働く人のおかげだなと思いました

<その他>

- ◆いろいろな仕事を素早く丁寧にやっていたので、すごいと思いました。私もこんな風に仕事ができるようになりたいと思いました
- ◆目立たない仕事だけど、とても大切な役目だなと思った
- ◆仕事は自分のためでもあるけど、人のためでもあると思った
- ◆自分も早く将来の夢を見つけたいと思った
- ◆改めて「仕事することはいいことだ」と思いました。また、メンターさんを見ると「仕事」は「人」を良くすることだと思いました

Q4. 大人になったら、仕事をしたいですか？

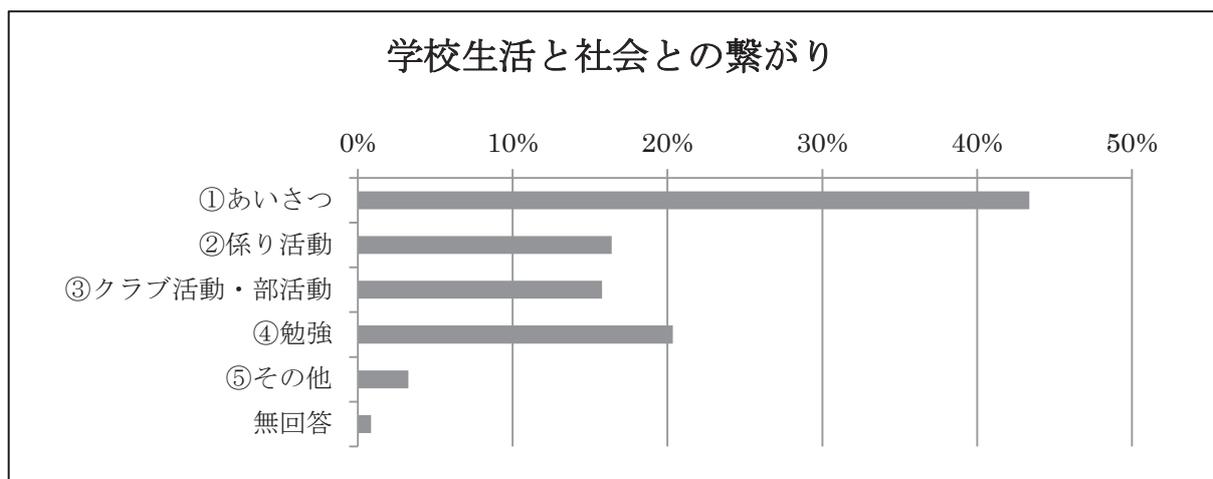
項目	回答実数	構成比率
①仕事をしたい	1,129	98%
②仕事はしたくない	17	1%
無回答	8	1%
合計	1,154	100%



Q5. 学校での生活と社会での生活では、どんな所が繋がっていると思いますか？

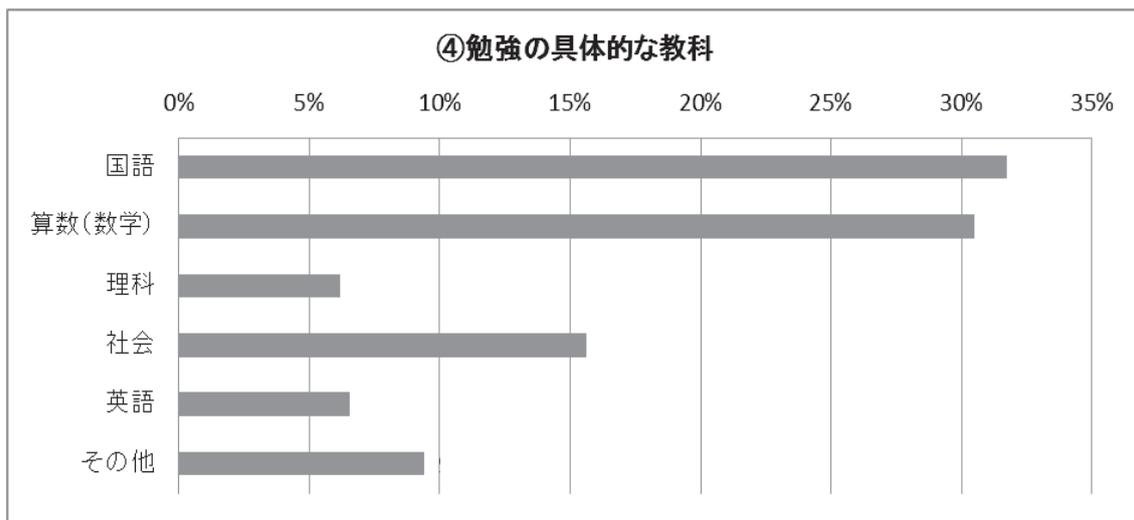
項目	回答実数	構成比率
①あいさつ	759	43%
②係り活動	287	16%
③クラブ活動・部活動	276	16%
④勉強	356	20%
⑤その他	57	3%
無回答	15	1%
合計	1,750	100%

⑤その他の項目(一部抜粋)
パソコン
言葉づかい
感謝の心
読書
防災訓練
笑顔
コミュニケーション
信頼関係
身なり
整理整頓



④勉強の具体的な教科

項目	回答実数	構成比率
国語	179	32%
算数(数学)	172	30%
理科	35	6%
社会	88	16%
英語	37	7%
その他	53	9%
合計	564	100%



Q6. 将来にむけて、取組んでみたい・挑戦してみたい・始めたいと思ったことはありますか？
 <一部抜粋>

<勉強を頑張りたい>

- ◆勉強は将来のために役立つため、もっと五教科を中心に勉強を頑張っていきたい
- ◆国語力を身につけたり、数学等で計算力を身に付けたいと思いました
- ◆理数系の苦手克服。暗記力をつける
- ◆一つでいいから外国語を極めたい
- ◆将来、ペットショップや動物関係の仕事でも今やっている国語の勉強や計算の勉強はひつようだと思うので、ひきつづきやっていこうと思います

<資格取得を頑張りたい>

- ◆英語をたくさん勉強して、英検に挑戦したい
- ◆いろいろな資格をとって人のためになることをしたい
- ◆もっとパソコンの応用ができるように、あと2年の内でパソコンの資格を取りたい
- ◆色々な資格をとりたと思った(エクセル、車の免許、簿記など)
- ◆建築士の資格をとるための勉強

<部活、ボランティア活動を頑張りたい>

- ◆バスケの練習に毎日行って、試合に勝ちたい
- ◆部活でのトレーニングや体力作りを頑張る
- ◆私はバスケとダンスの2つの部活をやっているので、もっとたくさん部活などをしてあいさつのできる大人になりたいと思います
- ◆ボランティア活動で困っている人を助けたい
- ◆ボランティアや人を助ける仕事をしてみたいと思いました

<礼儀、言葉遣い、あいさつを頑張りたい>

- ◆言葉遣いを丁寧にしたいです
- ◆「礼儀」に取り組んでみたいです。そして礼儀正しくなりたいです
- ◆大きな声であいさつが相手に伝わるようにしたいです
- ◆あいさつを心掛けたり、身だしなみに気を付けたり、時間を見ながら行動するようにしたいです
- ◆どの職業においても敬語、マナーは大切だと感じたので、これから敬語、マナーを身につける為、勉強に励みたいと思いました

<就きたい職業へ向けて頑張りたいこと>

- ◆僕の将来の夢は、消防士になることなので、実際に重いホースを持ったりしてみたいです。いろんな体力づくりを試してみたいです
- ◆私は、パティシエになりたいので勉強やおかし作りに挑戦してみたいです
- ◆私は音楽関係の仕事に就きたいと思うので、今、部活や授業を頑張っている。家でもよく音楽を聴いたり、ピアノをひいたりしている
- ◆卒業したら大学に行って、その間に消防の勉強もたくさんやりたいと思った
- ◆獣医になるために、動物や動物の病気について勉強しておきたいです

<その他>

- ◆色々な事に挑戦し、取り組みたい。また、学んだことを生活で活かしたい
- ◆留学してコミュニケーション力を鍛えたい
- ◆将来に向けて、今のうちにどんな職業があるか知っておきたい。色々なバイトを体験してみたい
- ◆私は将来に向けて、仲間と協力し合ったり、話し合ったりしたいです
- ◆ちゃんと意見の言える人になりたい

2 企業アンケート集計

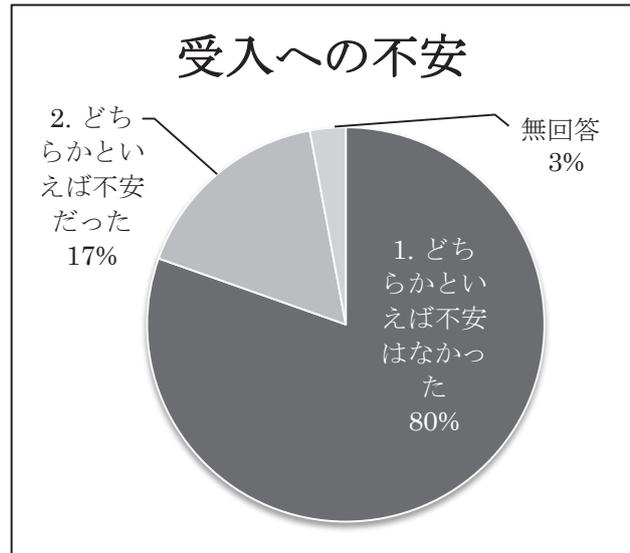
1 企業窓口担当者

【回答人数 138人】

【1. ジョブシャドウイング実施前について】

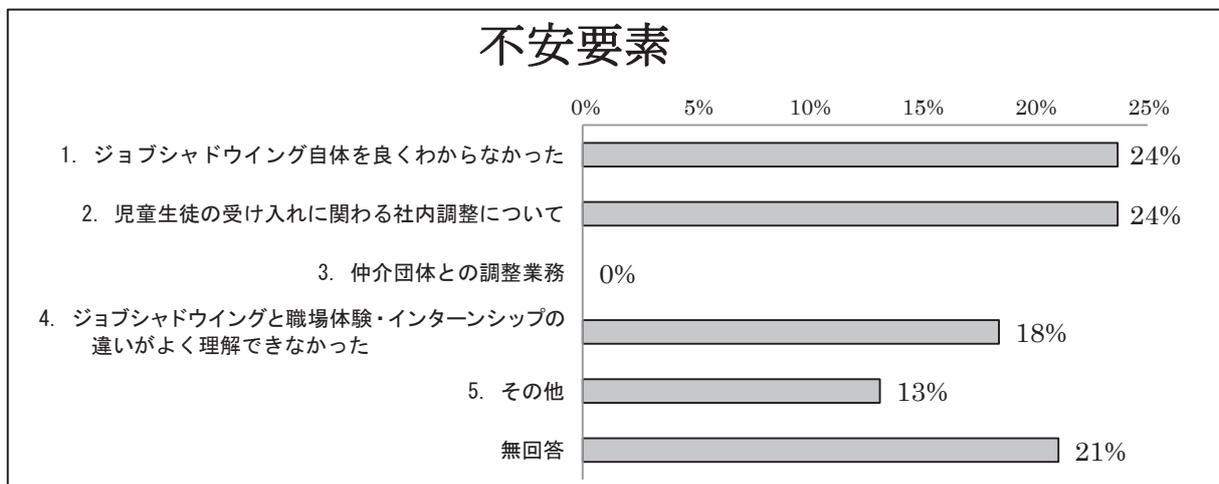
Q1. ジョブシャドウイング実施前に不安だったことはありましたか？

項目	回答実数	構成比率
1. どちらかといえば不安はなかった	111	80%
2. どちらかといえば不安だった	23	17%
無回答	4	3%
合計	138	100%



Q2. Q1で「2. どちらかといえば不安だった」と答えた方におたずねします。
どのようなことに不安がありましたか？

項目	回答実数	構成比率
1. ジョブシャドウイング自体を良くわからなかった	9	24%
2. 児童生徒の受け入れに関わる社内調整について	9	24%
3. 仲介団体との調整業務	0	0%
4. ジョブシャドウイングと職場体験・インターンシップの違いがよく理解できなかった	7	18%
5. その他	5	13%
無回答	8	21%
合計	38	100%



「5. その他」の理由

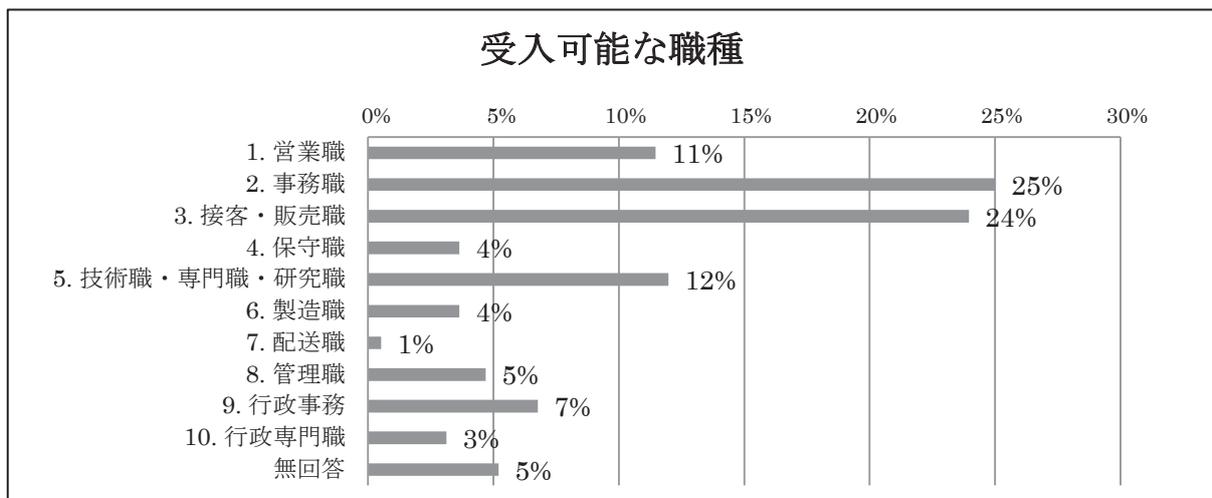
- ◆個人情報の書類が多く、気を使う
- ◆今回が初の試みだったため
- ◆生徒の期待に添えるかなど

Q3. 御社でのジョブシャドウイングで受入可能な職種は何ですか？

項目	回答実数	構成比率
1. 営業職	22	11%
2. 事務職	48	25%
3. 接客・販売職	46	24%
4. 保守職	7	4%
5. 技術職・専門職・研究職	23	12%
6. 製造職	7	4%
7. 配送職	1	1%
8. 管理職	9	5%
9. 行政事務	13	7%
10. 行政専門職	6	3%
無回答	10	5%
合計	192	100%

4. 保守職の詳細
施設管理
電気設備の保守

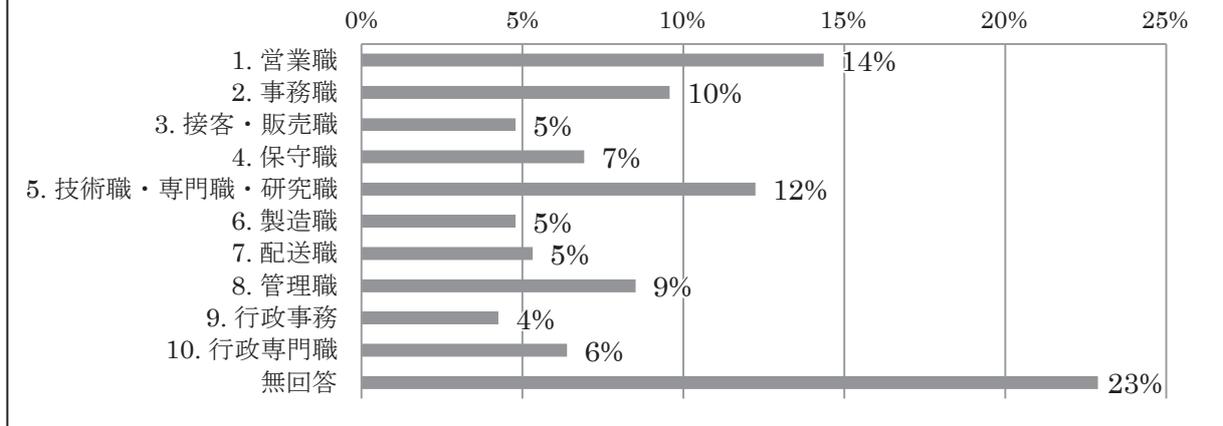
5. 技術職・専門職・研究職の詳細
営農、ガス、共済等
高齢者の介護
一般歯科
建築現場
介護福祉士・機能訓練



Q4. 御社でのジョブシャドウイングで受入が難しい職種は何ですか？

項目	回答実数	構成比率
1. 営業職	27	14%
2. 事務職	18	10%
3. 接客・販売職	9	5%
4. 保守職	13	7%
5. 技術職・専門職・研究職	23	12%
6. 製造職	9	5%
7. 配送職	10	5%
8. 管理職	16	9%
9. 行政事務	8	4%
10. 行政専門職	12	6%
無回答	43	23%
合計	188	100%

受入困難な職種



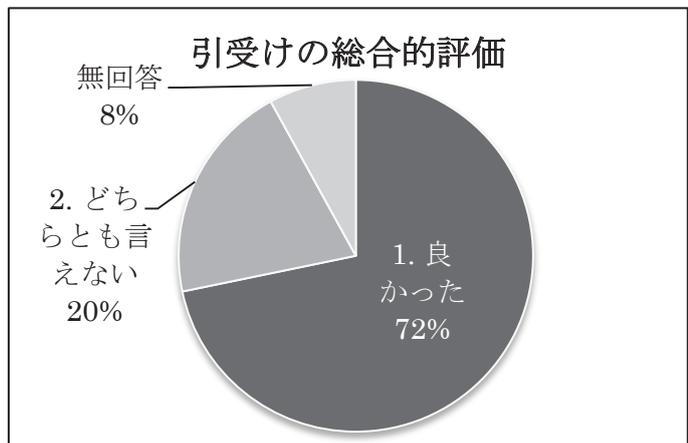
受入が難しい理由を教えてください。 <一部抜粋>

- ◆機密事項が多々あるから
- ◆救急出動、火災出動等は危険が伴うため
- ◆配送は常にスケジュールが変動し、規定の時間に帰社することができないことが想定されるため
- ◆専門職は相談業務にあたりますので、相談時における利用者の個人情報の保護の観点から厳しい
- ◆かまっている時間がない。事務所が狭い。事故が怖いので外には出せない
- ◆小・中学生向けには早いと感じる。少し離れて見学し、別の社員からの説明（営業職スタッフの動き）が良いと思う
- ◆目録作成などは経験知識がないと難しい。但し、それに付随する軽易な業務であれば可能
- ◆食品衛生の清潔管理区域への立ち入り、公共用水等、専門性に係る分析等が多いため
- ◆定期業務に支障をきたすため

【2. ジョブシャドウイング実施中のことについて】

Q5. ジョブシャドウイングを引き受けたことは、御社にとって良かったですか？

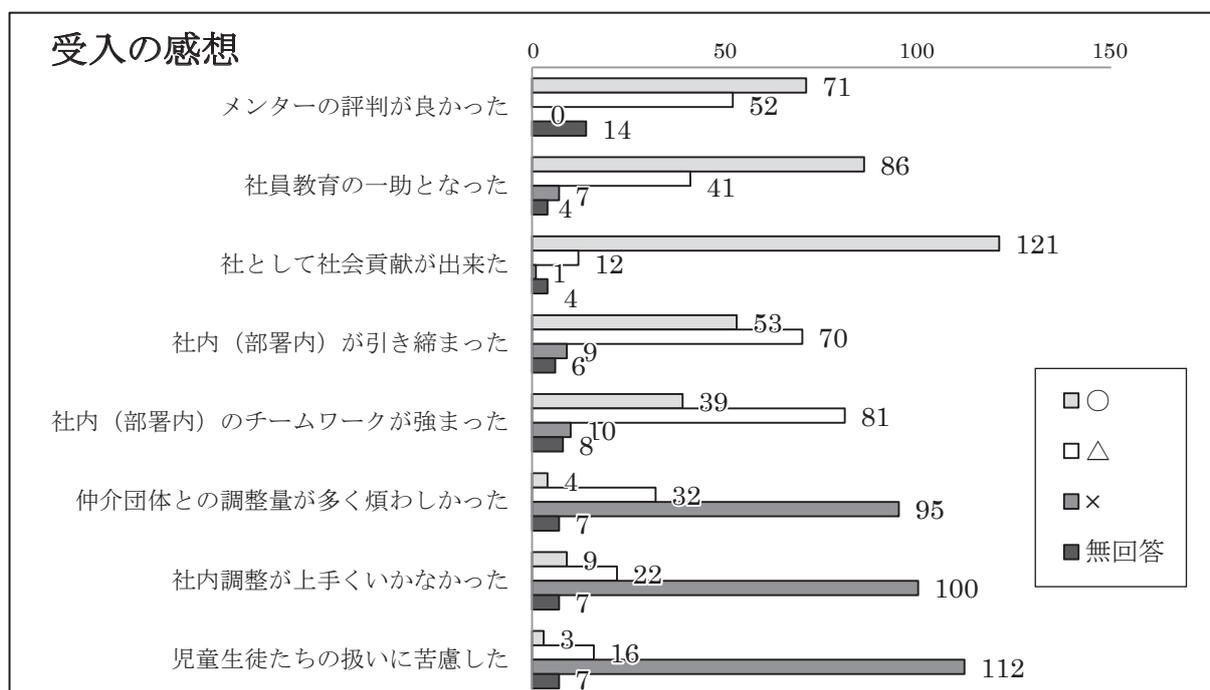
項目	回答実数	構成比率
1. 良かった	99	72%
2. どちらとも言えない	28	20%
3. 良くなかった	0	0%
無回答	11	8%
合計	138	100%



Q6. 御社でジョブシャドウイングを受け入れてみてどのような感想をもちましたか？
次の1～8の項目について、当てはまる記号をつけてください。

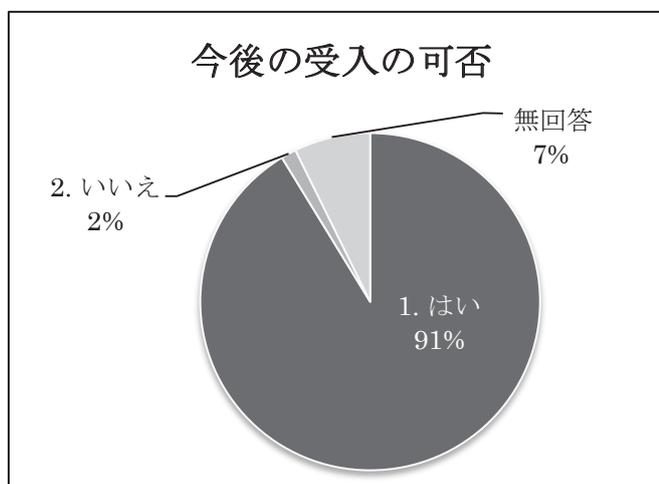
○：そうだった △：どちらとも言えない ×：そうではなかった

	○	△	×	無回答
メンターの評判が良かった	71	52	0	14
社員教育の一助となった	86	41	7	4
社として社会貢献が出来た	121	12	1	4
社内(部署内)が引き締まった	53	70	9	6
社内(部署内)のチームワークが強まった	39	81	10	8
仲介団体との調整量が多く煩わしかった	4	32	95	7
社内調整が上手くいかなかった	9	22	100	7
児童生徒たちの扱いに苦慮した	3	16	112	7



Q7. 今後、ジョブシャドウイングを実施する機会があれば、御社として引き受けていただけますか？

項目	回答実数	構成比率
1. はい	126	91%
2. いいえ	2	2%
無回答	10	7%
合計	138	100%



「1. はい」と回答した方の理由 <一部抜粋>

<児童生徒の学習の場として>

- ◆児童生徒のすこやかな成長の手助けをこれからもやります
- ◆子どもたちの就職の選択肢になればと願っている。これを機会に継続していきたい
- ◆地元の学生さんが「働く」ということについて考える良い機会になっていると思います

<社員教育として>

- ◆社員が自分の仕事を考える機会が出来た
- ◆当社の社員教育にもなり、また社内に適度な緊張感をもたせることができた
- ◆社として、職員が引き締まる。指導、教育、能力の肥やしになる

<企業周知・業務理解として>

- ◆当社の業務内容について理解してもらう機会としてとらえており、今後も協力できる範囲で引き受けたいと考えております
- ◆子ども達に、JAのことを知ってもらい親しんで欲しい
- ◆ジョブシャドウイングを通して、沖縄県企業局では、どんな仕事をしているか具体的に知ってもらえるから

<社会・地域貢献として>

- ◆会社として、社会貢献の一助になればよい
- ◆地域に根付いた企業として貢献していきたい。空港業務をより多くの人に知ってもらいたい
- ◆島の児童生徒を島全体で育てていくという姿勢を大事にしたい

<その他>

- ◆子供の考え方がわかった
- ◆見るだけというスタイルで、受け入れ側の準備など負担が軽ければ対応可能と思われる
- ◆一生懸命学ぼうとしている姿にとっても好感が持てた。お礼状をいただき嬉しかった

「2. いいえ」と回答した方の理由

- ◆保健所生活環境班の業務は許可等、啓発等、多人数に対する物が多く、個々に対応するのは不向きである。

【3.その他】

Q8. 次回のジョブシャドウイングに向けて必要なこと、運営に関することや、今回足りなかったことなどの改善点があればお聞かせ下さい。 <一部抜粋>

①学校に対して

- ◆生徒だけでなく、先生や保護者の人がついてもいいと思った
- ◆児童生徒の集中力には限界があり、興味のある職場・見たい職場ではない場合、注意力が散漫になる傾向があります。できるだけ興味がある職場への配置をお願いしたい。また、職場の方に注意された事を守るという最低限のルールへの厳守については指導をお願いします。危険な場所や物、触れては困るもの等があるため、メンターさんが仕事に集中している際に行動することは、事故につながる恐れがある
- ◆生徒数が多い理由だと思いますが、送迎も含め、学校が関わっている感がない
- ◆仕事は楽しいという事を児童に伝えていただきたい
- ◆事前の最低限のマナー、作法は覚えてほしい
- ◆現場を案内したため、往復時間等を含めると時間が足りず、来られた生徒たちに申し訳ない事をした
- ◆接客業なので、ジョブシャドウイング実施前に身だしなみの指導を行ってくださると助かります
- ◆授業の中でジョブシャドウイング（企業研修）に行く前に、名刺の渡し方、席次など座席の位置関係の理解など、実践的なことを教えてあげてからの方が学生さん自身、自信を持って対応できたのではないかと思います。また企業が決まった時点で、その企業についての下調べをしていただくと、仕事内容と直結し、ジョブシャドウイングがより身近なものになり、効果を発揮すると思います
- ◆整備士に興味がある児童に、資格取得のためには進路先が複数あることを示してほしい
- ◆ジョブシャドウイングの目的をしっかりと伝えることをぜひ継続してほしい

②事務局に対して

- ◆あまり興味の無い職場に来ている子どもがいると思うので、興味を持っている職場に行かせてほしい
- ◆初めての受入れの際に直前まで連絡がなく不安になりました。またメンターの調整後に受け入れなしや人数の変更などもありましたので、学校側との調整がどのような状態になっているか、適宜ご連絡いただけるとありがたいです
- ◆受入企業に対してもっと具体的に指示（要望）していただければ良いと思う
- ◆事前の手続きで、もう少し簡略化して欲しいです。忙しくて資料に目を通す時間が無いため
- ◆調整は運営上の関係で1か月をきらないと具体的な回答ができないので、宜しくおとりはからいをお願いします

- ◆こどもたちの感想を報告してほしいです
- ◆時間が短いため、参考になっているかが気になる。簡単な仕事を与えるのも良いかと思えます
- ◆当社は、何度も児童生徒の受入れを行っている事から、職場内の理解は得られているものと考えています。ただし、メンター等の役割を担う職員は業務の都合上変更があるため、受入れに対する注意事項等については、お手数ですが説明をお願いします。また、事務連絡については早め早めをお願いします。連絡不足での受入れには事故等が懸念される為、お断りをせざるを得ない場合もあるかと思えますので、ご協力ください
- ◆丁寧な事前打ち合わせ助かりました。当日来られない場合は学校側と直接やりとりできるようにお願いしたいです
- ◆子どもたちの受け渡し、引き渡しの時に、サポーターからメンターへの挨拶がなかった

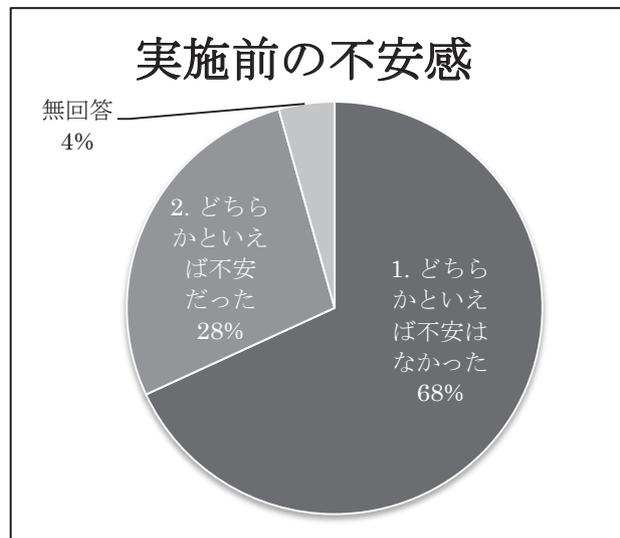
Q9. その他のご感想、ご意見、ご要望を自由にお書き下さい。 <一部抜粋>

- ◆児童生徒を受け入れることで自らの仕事を再確認することができました。これからも受け入れ業社を増やし、島全体で児童生徒を成長させていきましょう
- ◆子どもたちがとても熱心に細かくノートを記入しているのにびっくりした。メンターも自己を見つめ振り返る良い機会になったと思います
- ◆今回、初めて生徒を受け入れましたが、「ジョブシャドウイング事業」を知っている職員は少なかったです。事業を実施した効果や満足度などを含め、事業そのものをもっと広く広報する必要があると思います
- ◆発表会の開催までの期間が長いと思う。生徒が学んだことを忘れないか心配
- ◆過去に一度だけ発表会に参加させていただきましたが、実際に担当したメンターは業務が忙しくこどもたちの参加後の気持ちを聞くことができませんでした。こどもたちの感想をまとめたものを(冊子やブログ等)があればよいと思います
- ◆レストランのオープンが11:30の為、メンターが実際現場で働ける様子を見せることができず、残念でした
- ◆今回、当社にいらした児童の皆様は挨拶やマナー教育もしっかりされていて、児童ひとりひとりが自分なりに目標を持ちジョブシャドウイングに取り組んでいるように感じた
- ◆当初は、各部署の責任者で担当してもらっていたが、自己紹介文やアンケートを書くのに抵抗を感じていて、今回は担当を決めるのに苦労した
- ◆私自身がジョブシャドウイングの内容を理解できていないところがあり、職員に対してうまく説明できなかつたので、できましたら企業向けに勉強会の様なものがあったかなと思います
- ◆特にございません。非常に良い取組みだと思いますので、継続して実施していただければと思います。事務局の皆さまや取り組みに関わった皆さまや取り組みに関わった皆さま、大変お疲れ様でございました

【1. ジョブシャドウイング実施前について】

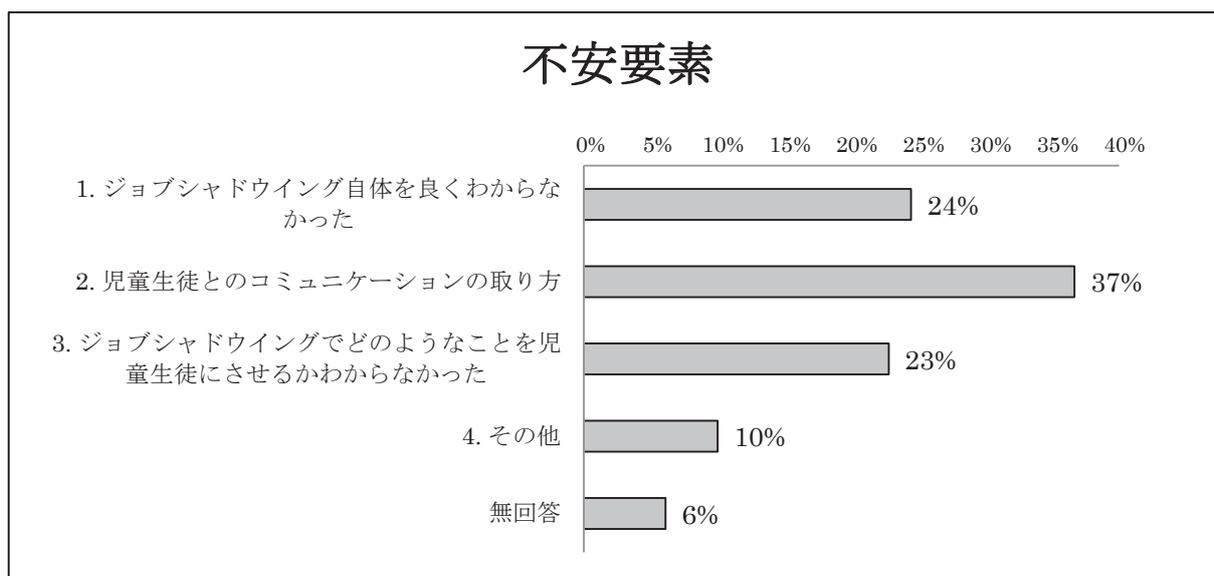
Q1. ジョブシャドウイング実施前に不安だったことはありましたか？

項目	回答実数	構成比率
1. どちらかといえば不安はなかった	378	68%
2. どちらかといえば不安だった	153	28%
無回答	24	4%
合計	555	100%



Q2. Q1で「2. どちらかといえば不安だった」と答えた方におたずねします。
どのようなことに不安がありましたか？

項目	回答実数	構成比率
1. ジョブシャドウイング自体を良くわからなかった	44	24%
2. 児童生徒とのコミュニケーションの取り方	66	37%
3. ジョブシャドウイングでどのようなことを児童生徒にさせるかわからなかった	41	23%
4. その他	18	10%
無回答	11	6%
合計	180	100%



「4. その他」の理由 <一部抜粋>

- ◆観察のみで理解できるか疑問
- ◆生徒にうまく観察してもらえるか（伝える、感じてもらうのか）
- ◆実施する日に業務上の問題が発生しないとは限らないことが不安でした
- ◆初めて受入れるので少し不安もありました
- ◆どんな事をお伝えすれば、有意義になるかを考えていました
- ◆予約でやっているので予約が入っていなかったらどうしようかと思った

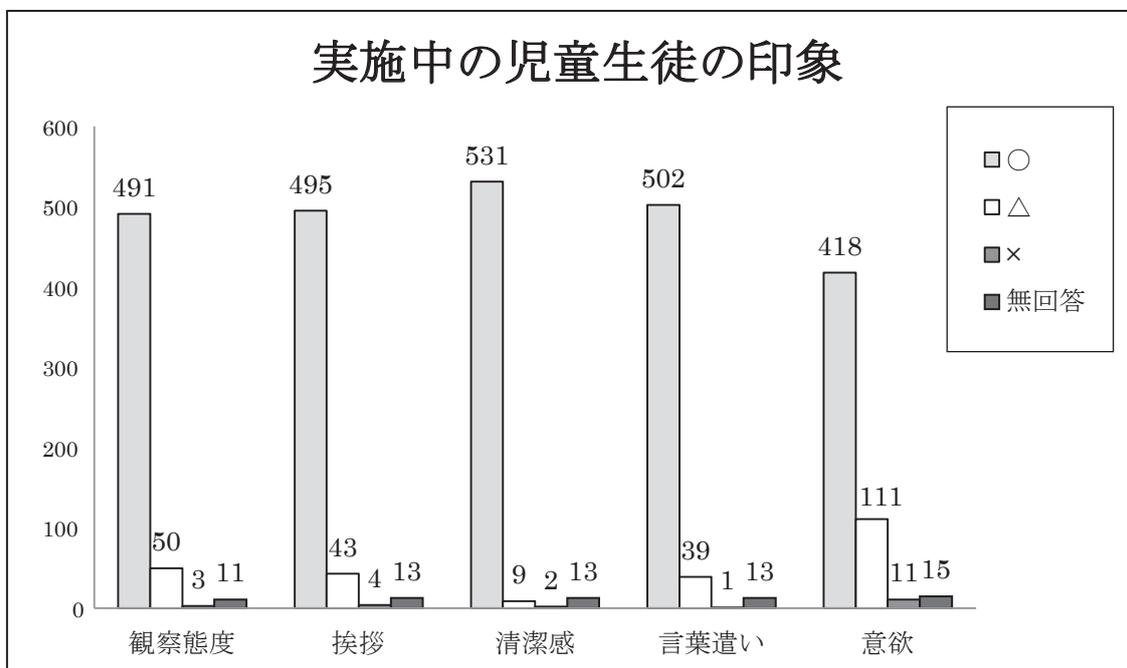
【2. ジョブシャドウイング実施中について】

Q3. ジョブシャドウイング中の児童生徒の様子はどのような感じでしたか？

次の1～5の項目について、当てはまる記号をつけてください。

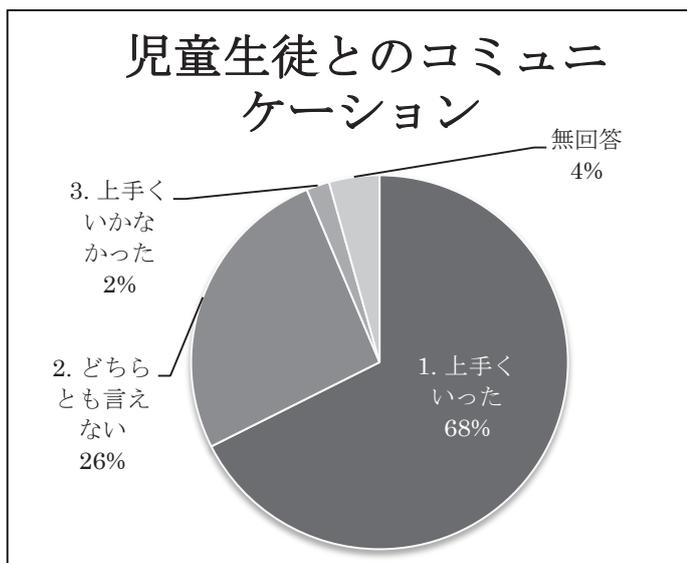
○：よかった △：どちらとも言えない ×：よくなかった

	○	△	×	無回答
観察態度	491	50	3	11
挨拶	495	43	4	13
清潔感	531	9	2	13
言葉遣い	502	39	1	13
意欲	418	111	11	15



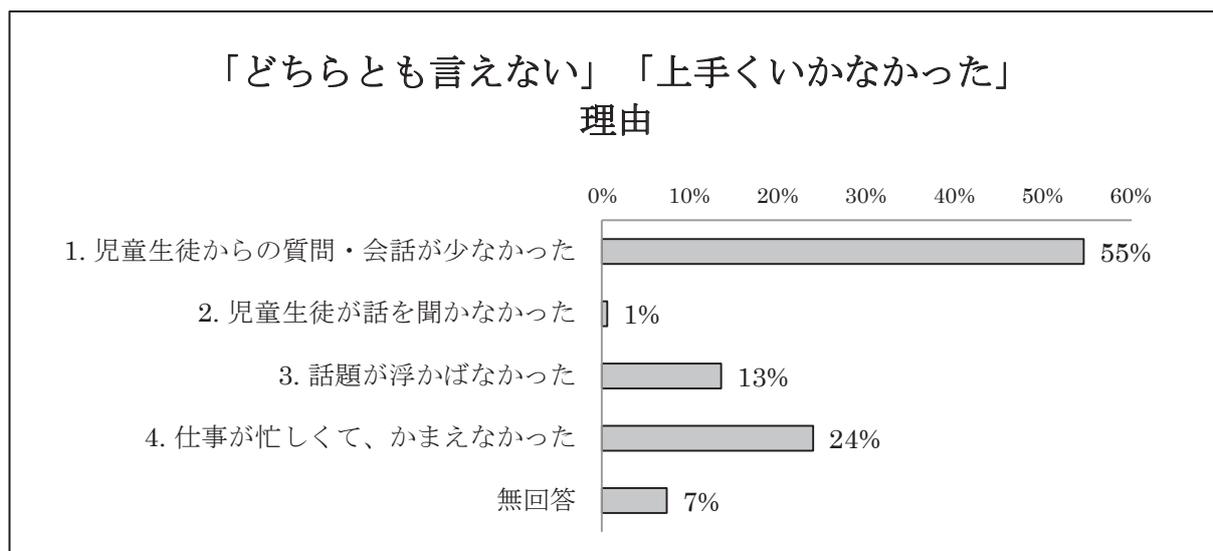
Q4. 児童生徒とのコミュニケーションは上手くいきましたか？

項目	回答実数	構成比率
1. 上手くいった	375	68%
2. どちらとも言えない	145	26%
3. 上手くいかなかった	11	2%
無回答	24	4%
合計	555	100%



Q5. Q4で「2. どちらとも言えない」「3. 上手くいかなかった」と答えた方におたずねします。理由はどのようなことが考えられますか？

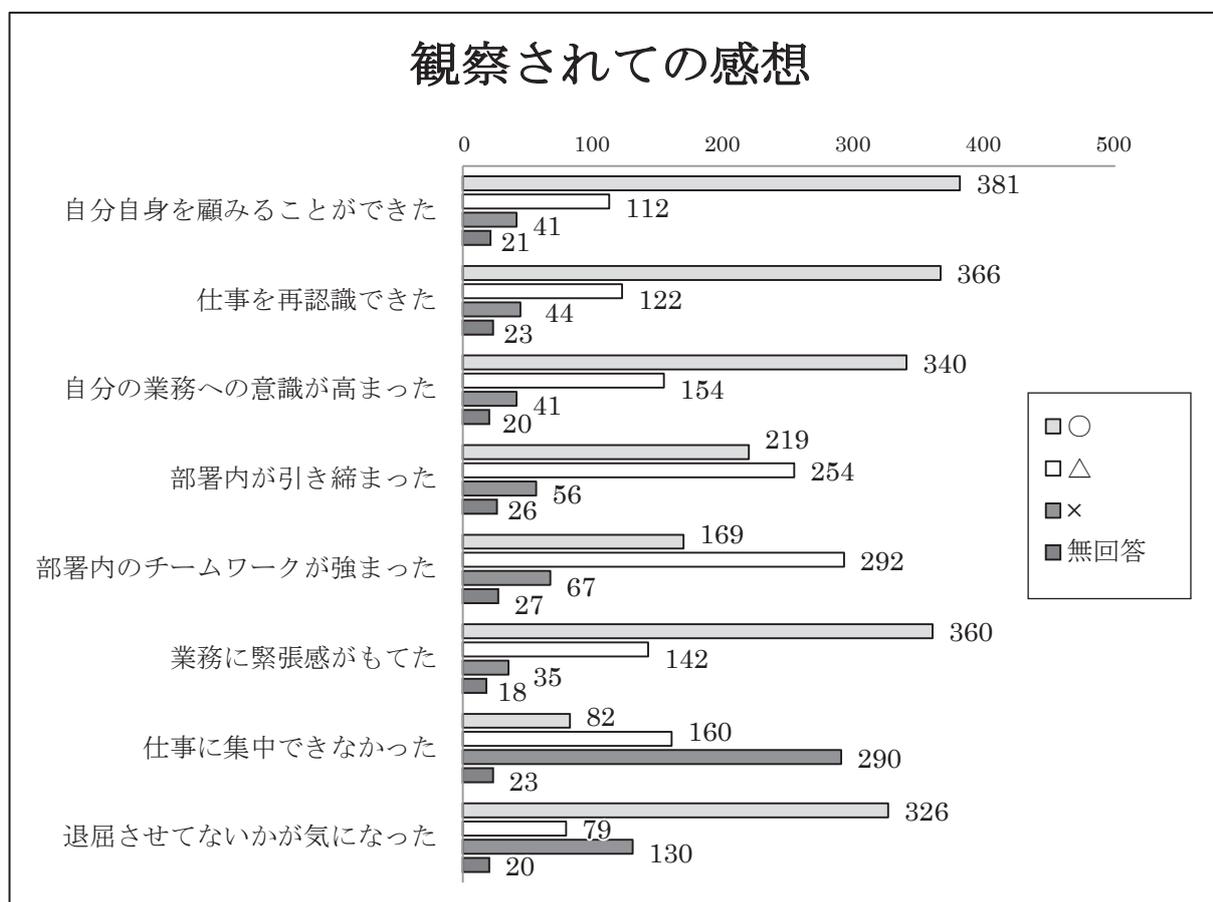
項目	回答実数	構成比率
1. 児童生徒からの質問・会話が少なかった	89	55%
2. 児童生徒が話を聞かなかった	1	1%
3. 話題が浮かばなかった	22	13%
4. 仕事が忙しくて、かまえなかった	39	24%
無回答	12	7%
合計	163	100%



Q6. あなたがジョブシャドウイング（観察）されてみて、どのような感想をもちましたか？
次の1～8の項目について、当てはまる記号をつけてください。

○：そうだった △：どちらとも言えない ×：そうではなかった

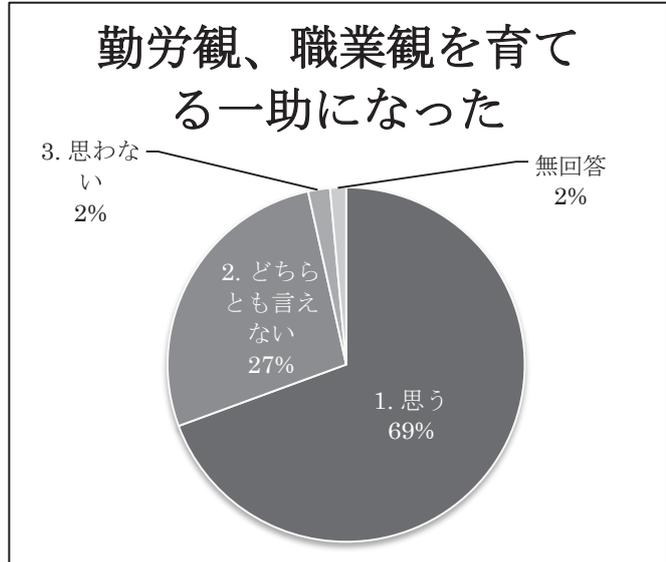
	○	△	×	無回答
自分自身を顧みることができた	381	112	41	21
仕事を再認識できた	366	122	44	23
自分の業務への意識が高まった	340	154	41	20
部署内が引き締まった	219	254	56	26
部署内のチームワークが強まった	169	292	67	27
業務に緊張感をもてた	360	142	35	18
仕事に集中できなかった	82	160	290	23
退屈させてないかが気になった	326	79	130	20



【3. ジョブシャドウイングの効果について】

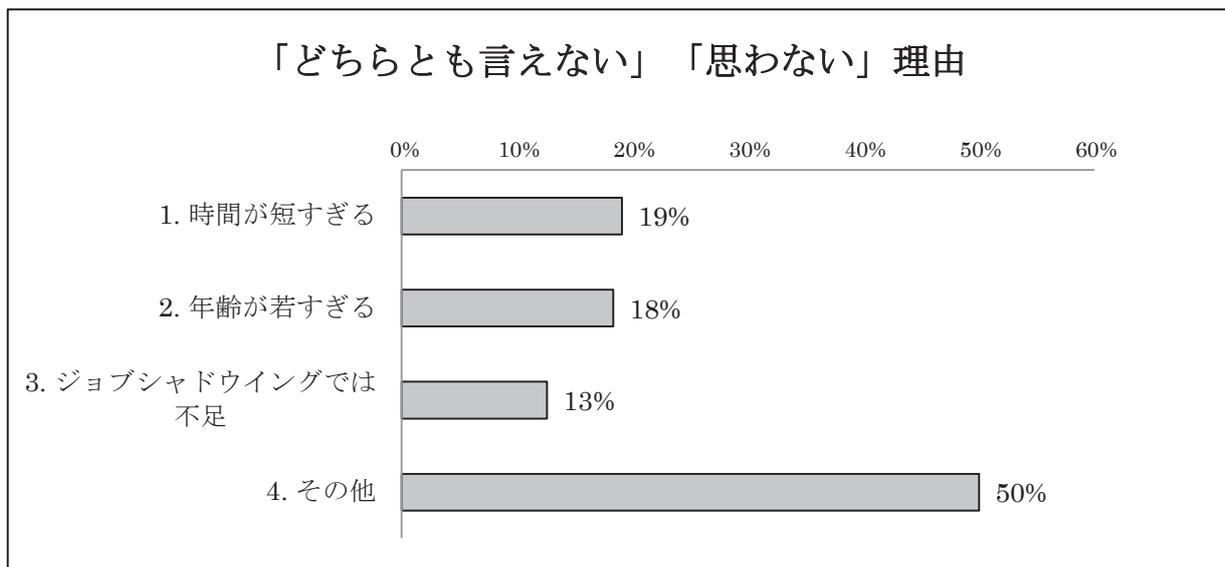
Q7. 今回のジョブシャドウイングが児童生徒の勤労観、職業観を育てる一助になったと思いますか？

項目	回答実数	構成比率
1. 思う	385	69%
2. どちらとも言えない	151	27%
3. 思わない	11	2%
無回答	8	2%
合計	555	100%



Q8. Q7で「2. どちらとも言えない」「3. 思わない」と答えた方におたずねします。その理由としてどのようなことがありますか？

項目	回答実数	構成比率
1. 時間が短すぎる	50	19%
2. 年齢が若すぎる	48	18%
3. ジョブシャドウイングでは不足	33	13%
4. その他	131	50%
合計	262	100%



「4. その他」の理由 <一部抜粋>

- ◆本人の感想を聞いてみないと分からない
- ◆中学生の行きたい、やってみたい興味のある職業だったのか・・・
- ◆観察だけでは物足りなさそうでした
- ◆継続的に行うものであれば、職業観も更に芽生えるのではないかと思う
- ◆本人の希望の企業、職業でない場合、効果がないのでは？
- ◆あまりかまえなかったので、一助になったか不明
- ◆業種によっては、基礎的知識がないと漠然とした時間を過ごしたのみになる気がする。
- ◆目的がよくわからない
- ◆こどもたちもいろんな性格、個性なのでジョブシャドウイングだけでは、引き出せないのでは
- ◆特別なことをしているのではなく、普段通りの業務を行っていたので、逆に物足りなかったのではと、申し訳なく思いました

【4. その他】

Q9. 次回のジョブシャドウイングに向けて必要なこと、運営に関することや、今回足りなかったことなどの改善点があればお聞かせ下さい。 <一部抜粋>

①学校に対して

- ◆観察する項目については、学校側で事前にしっかり指導したり、絞り込ませるようにしてはどうか。(小学生には、職業観察のハードルが高い)
- ◆自己紹介シートを忘れてたり、無くしたとっている子がいたので、ジョブシャドウイングで企業に行くことの意味をこどもたちにちゃんと伝えて欲しい
- ◆生徒のメンターの顔合わせ(受入時)には、先生も同席していただけたら、緊張がほぐれて、スムーズにはじめられたかもしれません
- ◆児童が室内でもずっと帽子を被っていたのが気になっていたが、学校の先生が写真を撮りに来た時も何も言わなかったので、学校でもそうなのかなと思い、こちらも注意できなかった
- ◆先生が実施場所を振り分けたそうですが、生徒自身で企業を選べた方が興味が出て意欲が出ると思う
- ◆航空自衛隊の基地に中学1年生が1人で来隊し、見ず知らずの大人にジョブシャドウイングをみせてもらうのは、かなり緊張するであろうかと感じた。できれば2名、又は3名程度のグループで来ていただいた方が生徒達の緊張もほぐれ、質問なども活発になり、より良い結果が得られると思料する

- ◆学校の年間計画やキャリア教育目標等の資料を頂ければ、それに沿った対話が出来たと思う
- ◆自己紹介シートで「特になし」はなくすよう対応していただきたいです
- ◆生徒より案内をもらったため、発表会へ参加しましたが生徒の発表もなく、本人にも会えずだったので残念に思いました
- ◆送り迎えが大変だとは思いましたが、それ以外に特に接触らしい接触もなかったので、特に何もありませんが、学校によって力の入れ具合が違うことも感じました
- ◆学生からメンターへの質問は、学生が考えたのでしょうか？もしくは先生方が考えたのでしょうか？もし后者であれば今後は自分が聞きたい事を個人に徹底して考えて欲しいと思います。自分の頭で考える人を育てて欲しいと思います

②事務局に対して

- ◆"生徒自身の希望職種との違いがあったので、その辺りのマッチングが出来ればもっと、生徒も興味がわくと思いました
- ◆同一企業だけをお願いするのではなく、バランスを考えて欲しい
- ◆事前の手続きなどももう少し簡略化して欲しいです。忙しくて目を通す時間が無かった
- ◆児童生徒の配置先や自己紹介シート等もっと早めに各事業所へ通知して下さい。時々、地域の事業所を巡回して次回へ備えて下さい
- ◆学生側が「ジョブシャドウイング中です」などと書かれた名札や腕章を付けていると、他のお客様が何をしているのか分かるのももっとスムーズにできると思う
- ◆迎える時間は、決まった時間をお願いします。午後の業務の兼ね合いもあるので、お昼は時間が限られています
- ◆学校関係の見回りが多いように感じた。他校合同実施の場合、代表者のみの見回りがいいと感じた。学校毎に来ると、集中が半減する気がした
- ◆運営自体は大変スムーズだったと思います。ただ、メンターの職種が若干公的な職種に偏りすぎているように感じられます。受け入れを可とする企業体が少ないのかもしれないですが、更に職種の範囲を広げることはできないでしょうか
- ◆「通常通りの業務」ということと、「あまり話しかけなくてよい」というような事前配布の説明資料にあったので、本当にこちらから話しかけなくて、あとで生徒に対してすまないことをしたと感じた
- ◆今回、行事に参加していただいたのですが観察のみという事で作業等のご遠慮いただきました。しかし、折角の機会なので安全な範囲で一緒に参加することも勉強になるのではないかと感じました

Q10. 其他のご感想、ご意見、ご要望を自由にお書き下さい。 <一部抜粋>

- ◆久米島紬は、久米島の風土や自然の恩恵を受け人々の手によって昔から守り伝えられてきたものです。今回身近で見て私の住んでいる島は、すごいぞと感じてもらえたらいいですね
- ◆メンター自己紹介に、もし学生に戻れたら(やりたいことなど)を記入する欄がありましたが、幼い頃の学生に戻った気持ちになれたことが良かった。当時に戻った気持ちで生徒に接し、仕事の様子を観察したり、お話することができて有意義でした
- ◆2時間との時間は短すぎました。また、私たちは日々の日程が決まっている分、別の日のジョブシャドウイングを体験させたかったです。企業の日程に合わせてみると、また、いい経験ができると思いました
- ◆10～20年後に「こんな体験したなー」と当時こどもだった人からの検証も必要かも。少なくともジョブシャドウイングはしないよりはあっていいと思う。今後の成果が楽しみです
- ◆私自身も業務に緊張感を持ち参加していました。中学生の目線から私の日頃の業務内容がどのように映るのか等、意識して行動するように心掛け、とても勉強になる一日となりました
- ◆ジョブシャドウイングを通して、社会全体で地域の子どもの成長をサポートしていき、働くことの意味・大切さを伝えることができればいいなと思います。子ども達にとっても、いい機会になると思うので、今後も継続してほしいと思います。
- ◆基本的にはジョブシャドウイングということなので、生徒さんに話しかけたりすることは控えるようにとのことだったが、生徒さんが退屈していないかがとても気になった。2時間は長い気もした
- ◆私自身、はっきりとした就職先の選択肢がわからず進学したので、就職に対する意識が低かった。そのため、学生時代に具体的にどんな準備すればより良いか、深く考えなかった。この取り組みは、生徒にとっても訪問される組織にとってもメリットが多いので、継続してほしい
- ◆働くことの大切さは家庭や学校で普段から伝えることができ、更に企業が職種の多さやその役割、行程等を見せ、やりがいや意識を伝えることができれば皆さんの選択肢や可能性が大きくなるのだと思います
- ◆「観察」だけでは職種の多さや役割は十分に伝えられないと感じ、後半は館内見学を取り入れましたが、事前学習や終了後の発表など多くの時間を要しているのに、当日が短時間ではもったいないと感じました。今回の実施が皆さんの勤労観、職業観の一助になれば幸いです

- ◆沖縄経済同友会は会員からの会費により活動を企画・運営しておりますが、事前に調べているようでした。就職活動においても、目的先の企業研究は重要という認識はあるようですので、その辺は大学およびグジョブ事務局においても安心できると思います。改めて業務の再認識ができた。今後もこのような機会があれば育成の一助になりたいと思う
- ◆このような体験は、学生にとっても企業にとってもプラスになると思います
- ◆仕事が午前中忙しいので次回から出来れば午後をお願いしたい
- ◆短い時間だったが、集中して仕事ぶりを見せて、なるべくやさしくわかりやすい言葉で伝えるようにしました。「仕事って大変なんだなー。お父さん、お母さんも大人はみんな頑張っているんだなー」と思ってくれたら、このジョブシャドウイングは成功ではないかと思っています
- ◆ジョブシャドウイングのメンターをはじめて体験しました。貴重な体験をありがとうございます。受入れを承諾したのは、インターンシップと比べて職場側の負担が軽いことと自分の職業の理解を広げるいい機会ととらえたからです。その目的は、おおむね達成できました。一方、生徒にとってもいい学びの機会になっているのではないかと半日接して思いました。一見双方にいいことばかりのように見えてますが、そのために生徒が授業を休まざるを得ないこと、関係職員の負担増など、デメリット部分をどうとらえるか。また家庭が担う部分との棲み分けなどはどうなっているのか、また本当にキャリア教育が必要な生徒は他にいないのかなど今後の検討すべき課題が山積していると思いました

平成25年度 沖縄県商工労働部雇用政策課委託事業
沖縄振興特別推進交付金活用事業

沖縄型産学官・地域連携グッジョブ事業
沖縄型ジョブシャドウイング事業 実施報告書 (平成25年度)

編集 グッジョブおきなわ推進事業局
〒900-0005 沖縄県那覇市天久1131番地11 ダイオキビル6階
TEL : 098-860-8300 FAX : 098-861-7775

制作 シィーエスアイ株式会社
〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖3-4-12
TEL : 098-870-8400 FAX : 098-870-8410



沖縄県産業・雇用拡大県民運動